

玉名市文化財調査報告 第17集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ

平成17・18年度の調査

平成20年(2008)3月

玉名市教育委員会

ご 挨拶

玉名市は、縄文時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。近年は、国道208号玉名バイパスや九州新幹線の整備も進み、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会ではさまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなどの体制の充実に努めてまいりました。九州新幹線をはじめとする各事業に対応するため、玉名市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、平成17・18年度に実施した、各種開発に伴う試掘確認調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月31日

玉名市教育委員会

教育長 菊川 茂男

例 言

1. 本書は、旧玉名市教育委員会及び現玉名市教育委員会が平成17年・18年の2カ年に国・県の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、旧玉名市教育委員会社会教育課末永 崇、齧父雅史、古閑敬士及び、現玉名市教育委員会文化課竹田宏司、兵谷有利、田中康雄、中村安宏、末永 崇、齧父雅史、荒木隆宏が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、田中が行い、製図は、田中、早川イツエ、権藤 功が行った。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は田中が行った。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所土木課の地籍図から転記した。座標値は世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同一年度に同遺跡の調査を複数行っている場合には、年度毎に、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9. 出土遺物の整理作業は、田中が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報文をもとに田中が校正・補足した。編集は田中が担当した。

本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

I 調査の概要	1
1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	2
II 平成17年度の調査	7
1 玉名平野条里跡A地点	9
2 高岡原遺跡A地点	10
3 蓮華遺跡	11
4 上小田古屋敷遺跡	12
5 田島遺跡	13
6 築地館跡	18
7 高岡原遺跡B地点	20
8 繁根木遺跡群A地点	25
9 高瀬御茶屋跡	26
10 立願寺廃寺	30
11 立願寺大塚古墳	35
12 伊倉宮の後遺跡	36
13 繁根木遺跡群B地点	38
14 凸版印刷工場予定地	39
15 川部田遺跡	41
16 中土西遺跡A地点	42
17 高岡原遺跡C地点	45
18 玉名平野条里跡B地点	46
19 玉名平野条里跡C地点	47
20 岩崎原遺跡	48
21 山田神社門前遺跡	51
22 亀甲遺跡	53
23 中ん城遺跡	54
24 中土西遺跡B地点	56
25 大塚・惣萩遺跡	57
26 高岡原遺跡D地点	58

27 春出遺跡	60
28 年の神遺跡	61
29 菊池川水運・水制調査	63

III 平成18年度の調査

1 年の神遺跡	69
2 玉名平野条里跡A地点	77
3 京塚遺跡	78
4 玉名平野条里跡B地点	80
5 高瀬本町通遺	81
6 上ノ辻遺跡	83
7 繁根木遺跡群	86
8 蓮華遺跡	88
9 築地東遺跡	90
10 今泉遺跡A地点	92
11 立願寺廃寺	94
12 山田松尾平遺跡	96
13 岩崎原遺跡	97
14 中北アカハゲ古墳	98
15 今泉遺跡B地点	101
16 高岡原遺跡	103
17 五郎丸遺跡A地点	104
18 玉名平野条里跡C地点	105
19 備中遺跡	116
20 吉丸西遺跡	117
21 古閑遺跡	119
22 中道遺跡	129
23 上小田宮の前遺跡	131
24 両迫間日渡遺跡	132
25 寺田久保遺跡	133
26 五郎丸遺跡B地点	134
27 大野下ホームセンター予定地	135
28 山田山口遺跡	136
29 中土西遺跡	137
30 伊倉南方ホームセンター予定地	138
31 玉名高校校庭遺跡	139
32 石貫ナギノ横穴群	140
33 ジュルクン谷製鉄跡	142

挿 図 目 次

平成17年度分

第 1 図	平成17年度調査地位置図……………	3	第 30 図	高岡原遺跡B地点 S-03・04実測図……………	23
第 2 図	平成18年度調査地位置図……………	4	第 31 図	高岡原遺跡B地点 S-05実測図……………	24
第 3 図	玉名平野条里跡A地点位置図……………	9	第 32 図	高岡原遺跡B地点 出土遺物実測図……………	24
第 4 図	玉名平野条里跡A地点トレンチ 配置図……………	9	第 33 図	繁根木遺跡群A地点位置図……………	25
第 5 図	玉名平野条里跡A地点土層図……………	9	第 34 図	繁根木遺跡群A地点トレンチ 配置図……………	25
第 6 図	高岡原遺跡A地点位置図……………	10	第 35 図	繁根木遺跡群A地点トレンチ 実測図……………	25
第 7 図	高岡原遺跡A地点調査区配置図……………	10	第 36 図	高瀬御茶屋跡調査地位置図……………	26
第 8 図	蓮華遺跡調査地位置図……………	11	第 37 図	高瀬御茶屋跡トレンチ 配置図……………	26
第 9 図	蓮華遺跡トレンチ配置図……………	11	第 38 図	高瀬御茶屋跡トレンチ 実測図1……………	27
第10 図	蓮華遺跡土層図……………	11	第 39 図	高瀬御茶屋跡トレンチ 実測図2……………	28
第11 図	上小田古屋敷遺跡調査地位置図……………	12	第40 図	立願寺廃寺調査地位置図……………	30
第12 図	上小田古屋敷遺跡トレンチ 配置図……………	12	第41 図	立願寺廃寺トレンチ配置図……………	30
第13 図	上小田古屋敷遺跡土層図……………	12	第42 図	立願寺廃寺トレンチ実測図……………	31
第14 図	田島遺跡調査地位置図……………	13	第43 図	立願寺廃寺出土遺物 実測図1……………	32
第15 図	田島遺跡トレンチ配置図……………	13	第44 図	立願寺廃寺出土遺物 実測図2……………	33
第16 図	田島遺跡土層図……………	13	第45 図	立願寺廃寺出土遺物 実測図3……………	34
第17 図	田島遺跡調査区配置図……………	14	第46 図	立願寺大塚古墳調査地 位置図……………	35
第18 図	田島遺跡遺構配置図……………	15	第47 図	立願寺大塚古墳トレンチ 配置図……………	35
第19 図	田島遺跡S-01実測図……………	16	第48 図	立願寺大塚古墳トレンチ 実測図……………	35
第20 図	田島遺跡出土遺物実測図……………	16	第49 図	伊倉宮の後遺跡調査地 位置図……………	36
第21 図	築地館跡調査地位置図……………	18	第50 図	伊倉宮の後遺跡調査範囲図……………	36
第22 図	築地館跡トレンチ配置図……………	18			
第23 図	築地館跡トレンチ実測図……………	18			
第24 図	築地館跡出土遺物実測図……………	19			
第25 図	高岡原遺跡B地点位置図……………	20			
第26 図	高岡原遺跡B地点トレンチ 配置図……………	20			
第27 図	高岡原遺跡B地点トレンチ 実測図……………	21			
第28 図	高岡原遺跡B地点2トレンチ内 遺構配置図……………	21			
第29 図	高岡原遺跡B地点 S-01・02実測図……………	22			

第51図	伊倉宮の後遺跡石積・土層断面 実測図……………	37	第74図	岩崎原遺跡トレンチ実測図2……………	50
第52図	繁根木遺跡群B地点位置図……………	38	第75図	岩崎原遺跡出土遺物実測図……………	50
第53図	繁根木遺跡群B地点トレンチ 配置図……………	38	第76図	山田神社門前遺跡調査地 位置図……………	51
第54図	凸版印刷工場予定地調査地 位置図……………	39	第77図	山田神社門前遺跡トレンチ 配置図……………	51
第55図	凸版印刷工場予定地トレンチ 配置図……………	39	第78図	山田神社門前遺跡出土遺物 実測図……………	51
第56図	凸版印刷工場予定地トレンチ 実測図……………	40	第79図	山田神社門前遺跡トレンチ 実測図……………	52
第57図	川部田遺跡調査地位置図……………	41	第80図	亀甲遺跡調査地位置図……………	53
第58図	川部田遺跡トレンチ配置図……………	41	第81図	亀甲遺跡トレンチ配置図……………	53
第59図	川部田遺跡トレンチ実測図……………	41	第82図	亀甲遺跡トレンチ実測図……………	53
第60図	中土西遺跡A地点位置図……………	42	第83図	中ん城遺跡調査地位置図……………	54
第61図	中土西遺跡A地点トレンチ 配置図……………	42	第84図	中ん城遺跡調査区配置図……………	54
第62図	中土西遺跡A地点トレンチ 実測図1……………	43	第85図	中ん城遺跡 遺構配置図・土層断面図……………	55
第63図	中土西遺跡A地点トレンチ 実測図2……………	44	第86図	中ん城遺跡出土遺物実測図……………	55
第64図	高岡原遺跡C地点位置図……………	45	第87図	中土西遺跡B地点位置図……………	56
第65図	高岡原遺跡C地点トレンチ 配置図……………	45	第88図	中土西遺跡B地点トレンチ 配置図……………	56
第66図	玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡 位置図……………	46	第89図	中土西遺跡B地点土層断面図……………	56
第67図	玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡 トレンチ配置図……………	46	第90図	大塚・惣萩遺跡調査地位図……………	57
第68図	玉名平野条里跡C地点 位置図……………	47	第91図	大塚・惣萩遺跡トレンチ 配置図……………	57
第69図	玉名平野条里跡C地点 トレンチ配置図……………	47	第92図	大塚惣萩遺跡土層断面図……………	57
第70図	玉名平野条里跡C地点 トレンチ実測図……………	47	第93図	高岡原遺跡D地点位置図……………	58
第71図	岩崎原遺跡調査地位置図……………	48	第94図	高岡原遺跡D地点トレンチ 配置図……………	58
第72図	岩崎原遺跡トレンチ配置図……………	48	第95図	高岡原遺跡D地点トレンチ 実測図1……………	58
第73図	岩崎原遺跡トレンチ実測図1……………	49	第96図	高岡原遺跡D地点トレンチ 実測図2……………	59
			第97図	春出遺跡調査地位置図……………	60
			第98図	春出遺跡トレンチ配置図……………	60
			第99図	春出遺跡土層断面図……………	60
			第100図	年の神遺跡調査地位置図……………	61

第101図	年の神遺跡トレンチ配置図……………	61	第130図	繁根木遺跡群トレンチ配置図……………	86
第102図	年の神遺跡トレンチ実測図……………	62	第131図	繁根木遺跡群トレンチ実測図……………	87
第103図	菊池川流域港施設・脇 ^{わく} ・ ^{はね} 勿		第132図	蓮華遺跡調査地位置図……………	88
	分布図……………	64	第133図	蓮華遺跡トレンチ配置図……………	88
平成18年度分					
第104図	年の神遺跡調査地位置図……………	69	第134図	蓮華遺跡トレンチ実測図……………	89
第105図	年の神遺跡調査区配置図……………	69	第135図	築地東遺跡調査地位置図……………	90
第106図	年の神遺跡周辺遺跡分布図……………	70	第136図	築地東遺跡トレンチ配置図……………	90
第107図	年の神遺跡遺構配置図		第137図	築地東遺跡トレンチ実測図1……………	90
	土層断面図……………	71	第138図	築地東遺跡トレンチ実測図2……………	91
第108図	年の神遺跡S-01実測図……………	72	第139図	今泉遺跡A地点位置図……………	92
第109図	年の神遺跡S-02・03・05実測図…	73	第140図	今泉遺跡A地点トレンチ配置図……………	92
第110図	年の神遺跡S-04・06・07実測図…	74	第141図	今泉遺跡A地点トレンチ実測図……………	93
第111図	年の神遺跡S-01・07出土遺物		第142図	立願寺廃寺調査地位置図……………	94
	実測図……………	74	第143図	立願寺廃寺トレンチ配置図……………	94
第112図	年の神遺跡S-08・09実測図……………	75	第144図	立願寺廃寺トレンチ実測図……………	95
第113図	年の神遺跡出土遺物実測図……………	75	第145図	山田松尾平遺跡調査地位置図……………	96
第114図	玉名平野条里跡A地点位置図……………	77	第146図	山田松尾平遺跡トレンチ配置図……………	96
第115図	玉名平野条里跡A地点トレンチ		第147図	山田松尾平遺跡土層断面図……………	96
	配置図……………	77	第148図	岩崎原遺跡調査地位置図……………	97
第116図	玉名平野条里跡A地点		第149図	岩崎原遺跡トレンチ配置図……………	97
	土層断面図……………	77	第150図	岩崎原遺跡トレンチ実測図……………	97
第117図	京塚遺跡調査地位置図……………	78	第151図	中北アカハゲ古墳位置図……………	98
第118図	京塚遺跡トレンチ配置図……………	78	第152図	中北アカハゲ古墳トレンチ	
第119図	京塚遺跡土層断面図……………	79		配置図……………	98
第120図	玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡		第153図	中北アカハゲ古墳測量図……………	99
	遺跡A地点位置図……………	80	第154図	中北アカハゲ古墳土層断面図……………	100
第121図	玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡		第155図	今泉遺跡B地点位置図……………	101
	遺跡A地点トレンチ配置図……………	80	第156図	今泉遺跡B地点トレンチ配置図……………	101
第122図	高瀬本町通遺跡調査地位置図……………	81	第157図	今泉遺跡B地点土層断面図1……………	101
第123図	高瀬本町通遺跡石積実測図……………	82	第158図	今泉遺跡B地点土層断面図2……………	102
第124図	上ノ辻遺跡調査地位置図……………	83	第159図	高岡原遺跡調査地位置図……………	103
第125図	上ノ辻遺跡トレンチ配置図……………	83	第160図	高岡原遺跡トレンチ配置図……………	103
第126図	上ノ辻遺跡トレンチ実測図……………	84	第161図	高岡原遺跡土層断面図……………	103
第127図	上ノ辻遺跡出土遺物実測図……………	85	第162図	五郎丸遺跡A地点位置図……………	104
第128図	上ノ辻遺跡周辺縄張図……………	85	第163図	五郎丸遺跡A地点トレンチ	
第129図	繁根木遺跡群調査地位置図……………	86		配置図……………	104

第164図	五郎丸遺跡A地点トレンチ 実測図……………	104	第189図	古閑遺跡出土遺物実測図2……………	123
第165図	玉名平野条里跡C地点位置図……………	106	第190図	古閑遺跡出土遺物実測図3……………	124
第166図	玉名平野条里跡C地点トレンチ 配置図……………	106	第191図	古閑遺跡出土遺物実測図4……………	125
第167図	玉名平野条里跡C地点トレンチ 土層断面図……………	107	第192図	古閑遺跡出土遺物実測図5……………	126
第168図	玉名平野条里跡C地点調査Ⅰ区 平面図・土層断面図……………	108	第193図	古閑遺跡出土遺物実測図6……………	127
第169図	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 平面図・土層断面図……………	108	第194図	古閑遺跡出土遺物実測図7……………	128
第170図	玉名平野条里跡C地点調査Ⅲ区 平面図・土層断面図……………	108	第195図	中道遺跡調査地位置図……………	129
第171図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図……………	109	第196図	中道遺跡トレンチ配置図……………	129
第172図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図2……………	110	第197図	中道遺跡土層断面図1……………	129
第173図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図3……………	111	第198図	中道遺跡土層断面図2……………	130
第174図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図4……………	112	第199図	上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡 調査地位置図……………	131
第175図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図5……………	113	第200図	両迫間日渡遺跡B地点位置図……………	132
第176図	玉名平野条里跡C地点 出土遺物実測図6……………	114	第201図	両迫間日渡遺跡B地点トレンチ 配置図……………	132
第177図	備中遺跡調査地位置図……………	116	第202図	両迫間日渡遺跡B地点 土層断面図……………	132
第178図	備中遺跡トレンチ配置図……………	116	第203図	寺田久保遺跡調査地位置図……………	133
第179図	備中遺跡土層断面図……………	116	第204図	寺田久保遺跡トレンチ配置図……………	133
第180図	吉丸西遺跡調査地位置図……………	117	第205図	第寺田久保遺跡土層断面図……………	133
第181図	吉丸西遺跡トレンチ配置図……………	117	第206図	五郎丸遺跡B地点位置図……………	134
第182図	吉丸西遺跡トレンチ実測図1……………	117	第207図	五郎丸遺跡B地点トレンチ 配置図……………	134
第183図	吉丸西遺跡トレンチ実測図2……………	118	第208図	五郎丸遺跡B地点土層断面図……………	134
第184図	古閑遺跡調査地位置図……………	119	第209図	大野下ホームセンター予定地 位置図……………	135
第185図	古閑遺跡トレンチ配置図……………	119	第210図	大野下ホームセンター予定地 トレンチ配置図……………	135
第186図	古閑遺跡トレンチ実測図1……………	120	第211図	大野下ホームセンター予定地 土層断面図……………	135
第187図	古閑遺跡トレンチ実測図2……………	121	第212図	山田山口遺跡調査地位置図……………	136
第188図	古閑遺跡出土遺物実測図1……………	122	第213図	山田山口遺跡トレンチ配置図……………	136
			第214図	山田山口遺跡土層断面図……………	136
			第215図	中土西遺跡調査地位置図……………	137
			第216図	中土西遺跡トレンチ配置図……………	137
			第217図	中土西遺跡土層断面図……………	137

第218図	伊倉南方ホームセンター予定地 位置図	138
第219図	伊倉南方ホームセンター予定地 トレンチ配置図	138
第220図	伊倉南方ホームセンター予定地 土層断面図	138
第221図	玉名高校校庭遺跡調査地 位置図	139
第222図	玉名高校校庭遺跡トレンチ 配置図	139
第223図	玉名高校校庭遺跡土層断面図	139
第224図	石貫ナギノ横穴群位置図	140
第225図	石貫ナギノ横穴群測量図	141
第226図	ジュルクン谷製鉄跡調査地 位置図	142
第227図	ジュルクン谷製鉄跡測量図	143

写真目次

平成17年度分

写真 1	調査風景1	2
写真 2	調査風景2	2
写真 3	調査風景3	2
写真 4	高岡原遺跡A地点全景1	10
写真 5	高岡原遺跡A地点全景2	10
写真 6	上小田古屋敷遺跡調査地全景	12
写真 7	田島遺跡全景	17
写真 8	田島遺跡S-01検出状況	17
写真 9	高岡原遺跡B地点2T全景	20
写真10	高瀬御茶屋跡調査地全景	29
写真11	高瀬御茶屋跡17T遺構検出状況	29
写真12	立願寺廃寺調査地全景	30
写真13	立願寺廃寺4T遺構検出状況	30
写真14	伊倉宮の後遺跡調査地全景	36
写真15	伊倉宮の後遺跡調査地近景	36
写真16	伊倉宮の後遺跡1T土層	37
写真17	伊倉宮の後遺跡2T土層	37
写真18	繁根木遺跡群B地点調査地全景	38

写真19	繁根木遺跡群B地点1T全景	38
写真20	繁根木遺跡群B地点2T全景	38
写真21	凸版印刷工場予定地全景	39
写真22	凸版印刷工場予定地7T土層	39
写真23	中土西遺跡A地点全景	42
写真24	高岡原遺跡C地点全景	45
写真25	高岡原遺跡C地点遺構検出状況	45
写真26	岩崎原遺跡調査地全景	48
写真27	岩崎原遺跡1T遺構検出状況	48
写真28	山田神社門前遺跡調査地全景	51
写真29	中ん城遺跡調査地遠景	54
写真30	中ん城遺跡調査地全景	54
写真31	中土西遺跡B地点全景	56
写真32	中土西遺跡B地点2T全景	56
写真33	年の神遺跡調査地全景1	61
写真34	年の神遺跡調査地全景2	61
写真35	菊池川流域港施設	63
写真36	菊池川流域脇施設	63
写真37	菊池川流域刎施設	63

平成18年度分

写真38	年の神遺跡S-01検出状況	76
写真39	年の神遺跡調査区全景	76
写真40	玉名平野条里跡A地点全景	77
写真41	玉名平野条里跡A地点1T全景	77
写真42	高瀬本町通遺跡遺構検出状況1	81
写真43	高瀬本町通遺跡遺構検出状況2	81
写真44	上ノ辻遺跡調査地全景1	83
写真45	上ノ辻遺跡調査地全景2	83
写真46	上ノ辻遺跡5T遺構検出状況	85
写真47	上ノ辻遺跡6T遺物出土状況1	85
写真48	上ノ辻遺跡6T遺物出土状況2	85
写真49	繁根木遺跡群調査地全景	86
写真50	蓮華遺跡調査地全景	88
写真51	蓮華遺跡4T遺構検出状況	88
写真52	築地東遺跡調査地全景	91
写真53	築地東遺跡2T遺構検出状況	91
写真54	築地東遺跡3T遺構検出状況	91

写真55	築地東遺跡5T遺構検出状況	91
写真56	今泉遺跡A地点全景1	92
写真57	今泉遺跡A地点全景2	92
写真58	立願寺廃寺調査地全景	94
写真59	立願寺廃寺4T遺構検出状況	94
写真60	中北アカハゲ古墳全景1	98
写真61	中北アカハゲ古墳全景2	98
写真62	玉名平野条里跡C地点全景	105
写真63	玉名平野条里跡C地点 調査Ⅰ区全景	105
写真64	玉名平野条里跡C地点 調査Ⅱ全景	105
写真65	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01北側遺物出土状況1	114
写真66	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01北側遺物出土状況2	114
写真67	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01北側遺物出土状況近影	115
写真68	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01南側遺物出土状況	115
写真69	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01南側遺物出土状況近影	115
写真70	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01南側炭化物検出状況	115
写真71	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01完掘状況1	115
写真72	玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区 S-01完掘状況2	115
写真73	備中遺跡調査地全景	116
写真74	古閑遺跡調査地全景	119
写真75	古閑遺跡住居跡検出状況	128
写真76	古閑遺跡住居跡炉跡検出状況	128
写真77	古閑遺跡住居跡遺物出土状況1	128
写真78	古閑遺跡住居跡遺物出土状況2	128
写真79	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡 調査地全景	131

写真80	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡 遺構検出状況	131
写真81	両迫間日渡遺跡B地点 1T土層断面	132
写真82	五郎丸遺跡B地点3T全景	134
写真83	五郎丸遺跡B地点3T土層断面	134
写真84	伊倉南方ホームセンター予定地 全景	138
写真85	玉名高校校庭遺跡調査地全景	139
写真86	石貫ナギノ横穴群所在地遠景	140
写真87	ジュルクン谷製鉄跡近影	142
写真88	ジュルクン谷製鉄跡遠景	143
写真89	ジュルクン谷製鉄跡 遺物散布状況	143
写真90	ジュルクン谷製鉄跡表採遺物	143
写真91	ジュルクン谷製鉄跡表採フイゴ羽口	143

表 目 次

第1表	平成17年度市内遺跡調査一覧	5
第2表	平成18年度市内遺跡調査一覧	6
第3表	平成17年度出土遺物観察表	65
第4表	平成18年度出土遺物観察表	144

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成17年度

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 森 義臣 (11月29日まで)
 教育長 菊川茂男 (11月30日から)
 調査総括 教育次長 久多見澄夫
 (10月2日まで)
 教育次長 杉本末敏 (10月3日から)
 社会教育課長 西田道尅

(10月2日まで)

文化課長 西田道尅 (10月3日から)
 文化係長 竹田宏司 (10月2日まで)
 文化財係長 竹田宏司

(10月3日から)

庶務担当 主事 清田静香
 調査担当 主任 兵谷有利
 主任 田中康雄
 主任 中村安宏
 主任 末永 崇
 主任 齋父雅史
 調査員 古閑敬士

平成18年度

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 菊川茂男
 調査総括 教育次長 杉本末敏
 文化課長 西田道尅
 文化財係長 竹田宏司
 庶務担当 主事 清田静香
 調査担当 文化財係長 竹田宏司
 主任 兵谷有利
 主任 田中康雄

主任 中村安宏
 主任 末永 崇
 主任 齋父雅史
 主任 荒木隆宏

平成19年度 (報告書作成)

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 菊川茂男
 調査総括 教育次長 杉本末敏
 文化課長 西田道尅
 課長補佐 内田秀昭
 庶務担当 文化財係長 安田信孝
 主事 清田静香
 報告書担当 主任 田中康雄

2 調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7~1m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準等定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及び光波測距儀を使用して、1/100スケールもしくは1/200スケールで作成している。

写真は、通常は35mmカラーネガを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度より、国・県の補助を受け、各種開発に伴う埋蔵文化財試掘確認調査等を行っている。

平成17年度は、事前審査298件中、文化財保護法第93・94条による届出・通知件数が112件で、うち試掘確認調査27件、発掘調査3件（内1件は平成18年度へ継続）を行い、その他分布調査1件を行った。平成18年度は、事前審査289件中、届出・通知件数が119件で、うち試掘確認調査29件、発掘調査1件を行い、それ以外に測量調査2件を行った。平成17年10月3日に旧玉名市、岱明町、天水町、横島町の1市3町が合併したことにより、届出・通知件数及び試掘確認調査件数が倍増し、また市町合併及び九州新幹線建設の影響により、開発が加速化しているようにも思われる。平成17、18年度に関しては、旧玉名市、岱明町においてのみの調査であったが、今後天水町、横島町における調査も増加するものと想定される。調査件数は、住宅集中地域である玉名町校区、築山校区が最も多く、旧岱明町でも多くの調査を行った。調査原因は、専用住宅、共同住宅建設に伴う小規模なものが大部分であるが、大・中規模店舗建設及び、大型公共事業に伴う確認調査も数件行った。玉名校区では、新幹線新玉名駅周辺整備事業に伴い、約40,000㎡を対象とし、平成17・18年度の2カ年にわたって確認調査を行った。小田校区では、平成18年度に、事業用地造成計画に伴い、約216,000㎡を対象とした確認調査を実施し、平成19年度も調査を継続して行っている。岱明町においては、大規模店舗建設計画に伴い、約87,000㎡を対象として確認調査を実施した。その他、中規模店舗建設、市道拡幅、都市計画街路建設、学校施設建設等の事業に伴い確認調査を実施した。各試掘確認調査及び発掘調査の詳細については後述にゆずる。



写真1 調査風景1

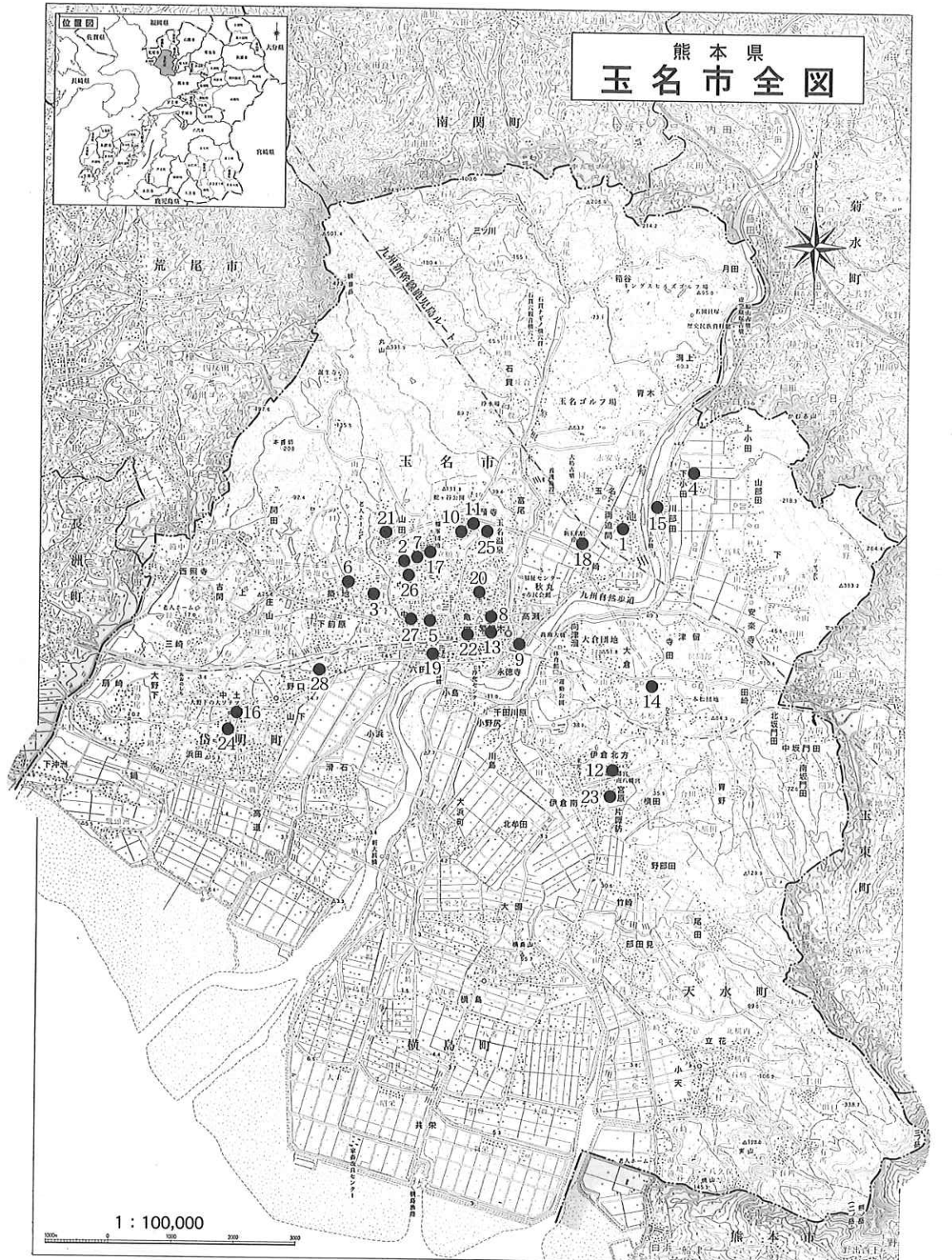


写真2 調査風景2



写真3 調査風景3

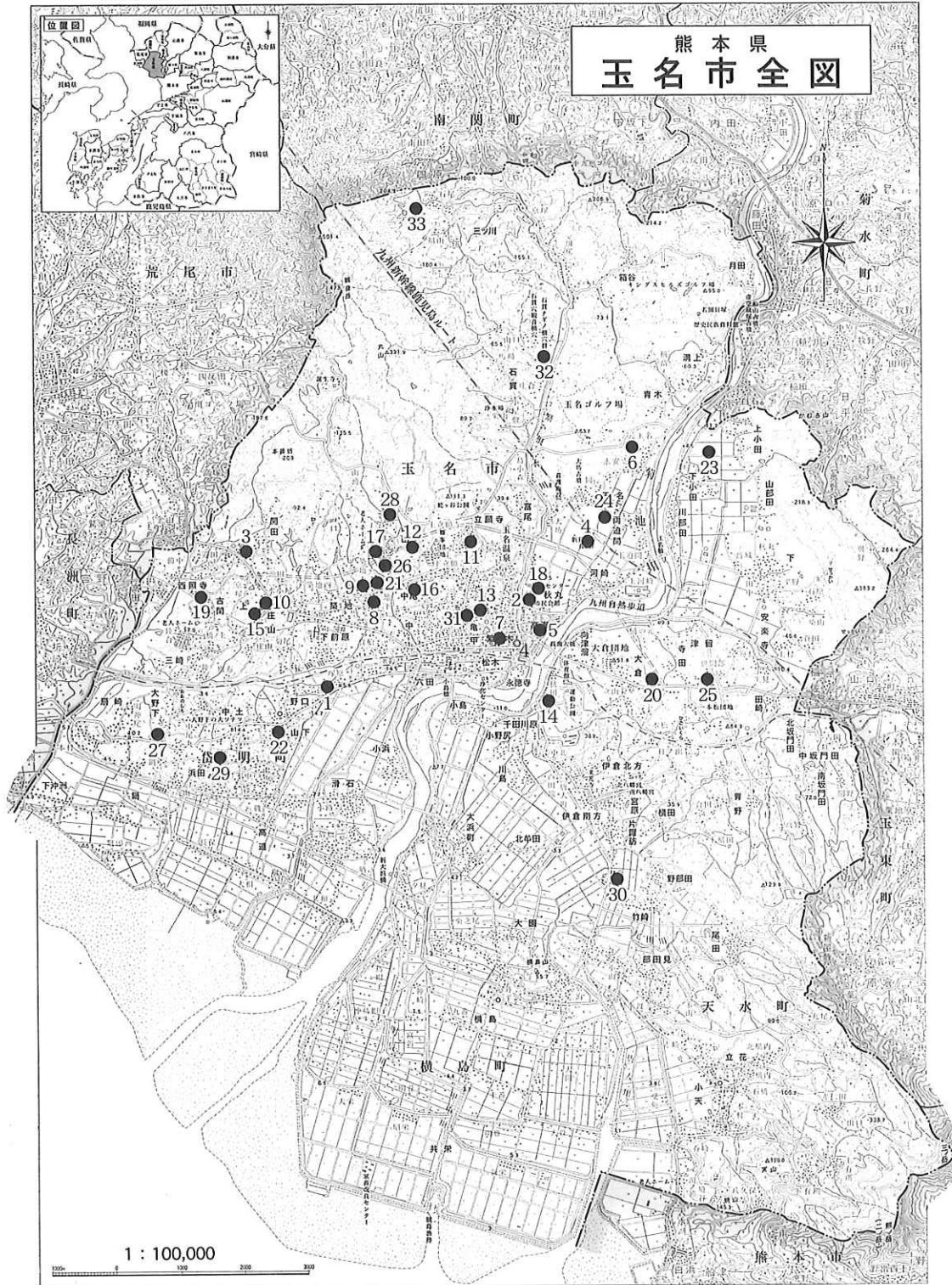
I 調査の概要



- | | | | | |
|--------------|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 1 玉名平野条里跡A地点 | 7 高岡原遺跡B地点 | 13 繁根木遺跡群B地点 | 19 玉名平野条里跡C地点 | 25 大塚・惣萩遺跡 |
| 2 高岡原遺跡A地点 | 8 繁根木遺跡群A地点 | 14 凸版印刷工場予定地 | 20 岩崎原遺跡 | 26 高岡原遺跡D地点 |
| 3 蓮華遺跡 | 9 高瀬御茶屋跡 | 15 川部田遺跡 | 21 山田神社門前遺跡 | 27 春出遺跡 |
| 4 上小田古屋敷遺跡 | 10 立願寺麁寺 | 16 中土西遺跡A地点 | 22 亀甲遺跡 | 28 年の神遺跡 |
| 5 田島遺跡 | 11 立願寺大塚古墳 | 17 高岡原遺跡C地点 | 23 中ん城遺跡 | 29 菊池川水運・水制調査 |
| 6 築地館跡 | 12 伊倉宮の後遺跡 | 18 玉名平野条里跡B地点 | 24 中土西遺跡B地点 | |

第1図 平成17年度調査地位置図

I 調査の概要



- | | | | | |
|--------------|-------------|---------------|------------------|-------------------|
| 1 年の神遺跡 | 8 蓮華遺跡 | 15 今泉遺跡B地点 | 22 中道遺跡 | 29 中土西遺跡 |
| 2 玉名平野条里跡A地点 | 9 築地東遺跡 | 16 高岡原遺跡 | 23 上小田宮の前遺跡 | 30 伊倉南方ホームセンター予定地 |
| 3 京塚遺跡 | 10 今泉遺跡A地点 | 17 五郎丸遺跡A地点 | 24 両迫間日渡遺跡 | 31 玉名高校校庭遺跡 |
| 4 玉名平野条里跡B地点 | 11 立願寺廃寺 | 18 玉名平野条里跡C地点 | 25 寺田久保遺跡 | 32 石貫ナギノ横穴群 |
| 5 高瀬本町通遺跡 | 12 山田松尾平遺跡 | 19 備中遺跡 | 26 五郎丸遺跡B地点 | 33 ジュルクン谷製鉄跡 |
| 6 上ノ辻遺跡 | 13 岩崎原遺跡 | 20 吉丸西遺跡 | 27 大野下ホームセンター予定地 | |
| 7 繁根木遺跡群 | 14 中北アカハゲ古墳 | 21 古閑遺跡 | 28 山田山口遺跡 | |

第2図 平成18年度調査地位置図

I 調査の概要

第1表 平成17年度市内遺跡調査一覧

年度	番号	遺跡名	所在地	面積(m ²)	種別	略号	調査原因	調査期日	担当者	措置	備考
17	1	玉名平野条里跡A地点	玉名900外	1,345.00	確認調査	THJ	屋内運動場	17年4月14日	未永 崇	慎重工事	16年度から継続
17	2	高岡原遺跡A地点	山田2050-1	1,007.00	発掘調査	TOB	店舗	17年4月26日～7月4日	藪父雅史	—	16年度B地点
17	3	蓮華遺跡	築地2070	1,097.57	確認調査	RNG	共同住宅	17年5月12日	未永 崇	慎重工事	
17	4	上小田古屋敷遺跡	山部田90-10外	1,800.14	確認調査	KFY	専用住宅	17年5月12日	未永 崇	慎重工事	
17	5	田島遺跡	中1582-5,1606-2,1606-4	769.28	確認・発掘調査	TJM	共同住宅	17年5月19日～6月24日	古岡敏士	発掘調査	
17	6	築地館跡	築地111-1	2,673.90	確認調査	TJY	寺院	17年6月9日	未永 崇	慎重工事	
17	7	高岡原遺跡B地点	山田2047-1	787.50	確認調査	TOB	専用住宅	17年8月9日～8月19日	未永・藪父	慎重工事	
17	8	繁根木遺跡群A地点	繁根木64	1,270.53	確認調査	HNG	宅地造成	17年8月26日～8月29日	未永 崇	工事立会	
17	9	高瀬御茶屋跡	永徳寺414-4	3,476.77	確認調査	TOC	倉庫	17年9月13日～9月30日	藪父雅史	慎重工事	
17	10	立願寺庵寺	立願寺1210-4	143.50	確認調査	RGH	車庫	17年10月6日～10月7日	未永 崇	慎重工事	
17	11	立願寺大塚古墳	立願寺字大塚1087	703.00	確認調査	ROK	鉄塔	17年10月13日～10月14日	未永 崇	慎重工事	
17	12	伊倉宮の後遺跡	伊倉北方字本村屋敷2915	57.00	確認調査	IMA	擁壁工事	17年10月20日～18年1月12日	未永 崇	慎重工事	
17	13	繁根木遺跡群B地点	繁根木54-11	256.44	確認調査	HNG	専用住宅	17年10月26日～10月27日	未永 崇	慎重工事	
17	14	凸版印刷工場予定地	大倉山ノ後452-1	2,438.00	試掘調査	—	工場	17年11月1日～11月2日	藪父雅史	慎重工事	
17	15	川部田遺跡	川部田字東屋敷439,441-1	1,714.00	確認調査	KWB	宅地造成	17年11月14日～11月15日	藪父雅史	慎重工事	
17	16	中土西遺跡A地点	岱明町中土974-2	3,097.15	確認調査	NDN	公民館	17年11月15日～12月21日	中村安宏	慎重工事	
17	17	高岡原遺跡C地点	山田2041-3	291.00	確認調査	TOB	鉄塔	17年11月17日	田中康雄	発掘調査	
17	18	玉名平野条里跡B地点	両迫間317外	40,000.00	確認調査	THJ	新幹線駅周辺整備	17年11月21日～3月31日	未永・藪父・中村	—	18年度へ継続
17	19	玉名平野条里跡C地点	六田7-1	6,031.83	確認調査	THJ	事務所	17年12月21日～12月26日	田中康雄	慎重工事	
17	20	岩崎原遺跡	岩崎1317,1319	2,537.00	確認調査	ISH	運動場	18年1月10日～1月25日	中村安宏	慎重工事	
17	21	山田神社門前遺跡	山田字上馬場162-1	832.00	確認調査	YJM	共同住宅	18年2月22日～2月23日	藪父雅史	慎重工事	
17	22	亀甲遺跡	亀甲200-1,201-1,164-4	269.29	確認調査	KMK	事務所	18年2月27日	未永 崇	慎重工事	
17	23	中ん城遺跡	方諏訪字中城22-1	659.00	確認調査	NNJ	農地造成	18年2月28日～3月8日	兵谷有利	慎重工事	
17	24	中土西遺跡B地点	岱明町山下字池平14-1	448.88	確認調査	NDN	車庫	18年2月28日	中村安宏	慎重工事	
17	25	大塚・総校遺跡	立願寺字大塚1049	602.00	確認調査	OTH	調査依頼	18年3月3日	藪父雅史	—	
17	26	高岡原遺跡D地点	山田字高岡2049-1	430.88	確認調査	TOB	専用住宅	18年3月7日～3月10日	藪父雅史	慎重工事	
17	27	春出遺跡	中字陣内I452-9	247.40	確認調査	HRD	専用住宅	18年3月8日～3月9日	中村安宏	慎重工事	
17	28	年の神遺跡	岱明町野口字早馬2823-3	408.87	確認調査	TNK	専用住宅	18年3月14日～3月15日	藪父雅史	発掘調査	
17	29	菊池川水運・水制調査	菊池川流域一帯	—	分布調査	—	—	17年7月1日～18年3月31日	兵谷有利	—	

I 調査の概要

第2表 平成18年度市内遺跡調査一覧

年度	番号	遺跡名	所在地	面積(m ²)	種別	略号	調査原因	調査期日	担当者	措置	備考
18	1	年の神遺跡	岱明町野口字早馬2823-3	409.87	発掘調査	TNK	専用住宅	18年3月27日～5月12日	齋父雅史	—	17年度から継続
18	2	玉名平野桑里跡A地点	岩崎140	1,875.84	確認調査	THJ	市民会館	18年4月12日	中村安宏	慎重工事	
18	3	京塚遺跡	岱明町開田381-1外5筆	86,504.78	確認調査	KYZ	調査依頼	18年4月25日～4月28日	中村安宏	—	
18	4	玉名平野桑里跡B地点	両迫間317外	40,000.00	確認調査	THJ	新幹線駅周辺整備	18年4月27日～12月6日	未永 崇	発掘調査	17年度から継続
18	5	高瀬本町通遺跡	高瀬224	280.00	工事立会	THT	石垣改修	18年4月25日～5月8日	田中康雄	—	
18	6	上ノ辻遺跡	玉名字上ノ辻3613外4筆	761.00	試掘調査	JNT	調査依頼	18年5月22日～6月6日	兵谷有利	—	
18	7	繁根木遺跡群	繁根木195-9	148.34	確認調査	HNG	専用住宅	18年5月22日～5月29日	中村安宏	慎重工事	
18	8	築地東遺跡	築地南大門2059-6外4筆	683.73	確認調査	RNG	共同住宅	18年6月6日～6月9日	未永 崇	工事立会	
18	9	今泉遺跡A地点	築地2351-2外4筆	1,833.84	確認調査	TJH	共同住宅	18年6月7日～6月8日	齋父雅史	慎重工事	
18	10	立願寺院寺	岱明町上字塚浦	2,988.40	確認調査	IMZ	道路	18年6月21日	齋父雅史	慎重工事	
18	11	山田松尾平遺跡	立願寺塔の尾1169	853.00	確認調査	RGH	調査依頼	18年7月4日～7月14日	齋父雅史	慎重工事	
18	12	岩崎原遺跡	山田字松尾原1351-1外	1,111.00	確認調査	YMH	宅地造成	18年8月29日～8月30日	中村安宏	慎重工事	
18	13	中北アカハゲ古墳	岩崎字南岩原1135-3	270.02	確認調査	ISH	専用住宅	18年9月22日	齋父雅史	慎重工事	
18	14	今泉遺跡B地点	伊倉北方549-1	1,900.52	確認調査	NAK	調査依頼	18年11月1日～11月22日	齋父雅史	—	
18	15	高岡原遺跡	岱明町上433-2外34筆	19,383.39	確認調査	IMZ	牛舎	18年12月4日～12月5日	中村安宏	慎重工事	
18	16	五郎丸遺跡A地点	中尾字西原53外1筆	882.71	確認調査	TOB	共同住宅	18年12月20日～12月21日	齋父雅史	慎重工事	
18	17	備中遺跡	山田538-1	497.00	確認調査	GLM	宅地造成	19年1月16日	未永 崇	慎重工事	
18	18	吉丸西遺跡	岩崎344-10外20筆	5,427.40	確認調査	THJ	道路	19年1月18日～2月28日	齋父・田中	慎重工事	
18	19	古閑遺跡	岱明町西照寺259-8	348.06	確認調査	BTY	専用住宅	19年1月19日	竹田宏司	慎重工事	
18	20	中道遺跡	寺田字大堂7外4筆	6,367.31	試掘調査	YMN	調査依頼	19年1月23日～2月25日	竹田宏司	—	
18	21	上小田宮の前遺跡	築地字古閑1904	1,518.75	確認調査	KOG	専用住宅	19年2月1日～2月23日	未永 崇	工事立会	
18	22	寺田久保遺跡	岱明町山下235-1	1,940.00	確認調査	NAM	調査依頼	19年2月6日～2月8日	兵谷有利	—	
18	23	高瀬本町通遺跡	上小田708-1外	216,345.00	確認調査	KOM	工業団地	19年2月6日～3月30日	荒木隆宏	—	19年度へ継続
18	24	山田山口遺跡	玉名字御琴1186外2筆	1,089.00	確認調査	RSH	調査依頼	19年2月21日	兵谷有利	—	
18	25	大野下ホームセンター予定地	寺田409-1	378.00	確認調査	TKB	調査依頼	19年2月28日	田中康雄	—	
18	26	山田山口遺跡	山田416	881.00	確認調査	GLM	調査依頼	19年2月28日	兵谷有利	—	
18	27	伊倉南方ホームセンター予定地	岱明町大野下1088外2筆	4,318.00	試掘調査	—	調査依頼	19年3月1日～3月2日	田中康雄	—	
18	28	中土西遺跡	山田1048-1,1049-1	1,062.00	確認調査	YYG	調査依頼	19年3月1日～3月2日	未永 崇	—	
18	29	伊倉南方ホームセンター予定地	岱明町浜田120	1,272.00	確認調査	NDN	調査依頼	19年3月14日～3月15日	齋父雅史	—	
18	30	玉名高枝校庭遺跡	伊倉南方247-1,256-1	4,913.44	試掘調査	—	調査依頼	19年3月22日	齋父雅史	—	
18	31	石貫ナギノ横穴群	中1908-8外2筆	224.00	確認調査	TKK	店舗兼住宅	19年3月29日～3月30日	中村安宏	慎重工事	
18	32	ジュルクン谷製鉄跡	石貫2951外	1,500.00	測量調査	INY	—	19年3月8日～3月30日	未永 崇	—	
18	33		三ツ川字宮田4323	2,100.00	測量調査	JKD	—	18年9月1日～10月11日	荒木隆宏	—	

II 平成17年度の調査

玉名平野条里跡A地点

高岡原遺跡A地点

蓮華遺跡

上小田古屋敷遺跡

田島遺跡

築地館跡

高岡原遺跡B地点

繁根木遺跡群A地点

高瀬御茶屋跡

立願寺廃寺

立願寺大塚古墳

伊倉宮の後遺跡

繁根木遺跡群B地点

凸版印刷工場予定地

川部田遺跡

中土西遺跡A地点

高岡原遺跡C地点

玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡遺跡

玉名平野条里跡C地点

岩崎原遺跡

山田神社門前遺跡

亀甲遺跡

中ん城遺跡

中土西遺跡B地点

大塚・惣萩遺跡

高岡原遺跡D地点

春出遺跡

年の神遺跡

菊池川水運・水制調査

1 玉名平野条里跡A地点

所在地：玉名900

調査原因：学校施設建設（屋内運動場）

対象面積：1,345㎡

調査期間：17年3月30日・4月14日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川右岸の平野部北側に位置する標高約6.4mの地点である。周辺は、県道玉名立花線の改修工事に伴い、熊本県教育庁文化課により発掘調査が実施されており、中世や弥生時代の土器片が出土している。

調査では、工事予定地内の既存建物が未解体であったため、掘削可能な部分に2ヶ所トレンチを設定した。

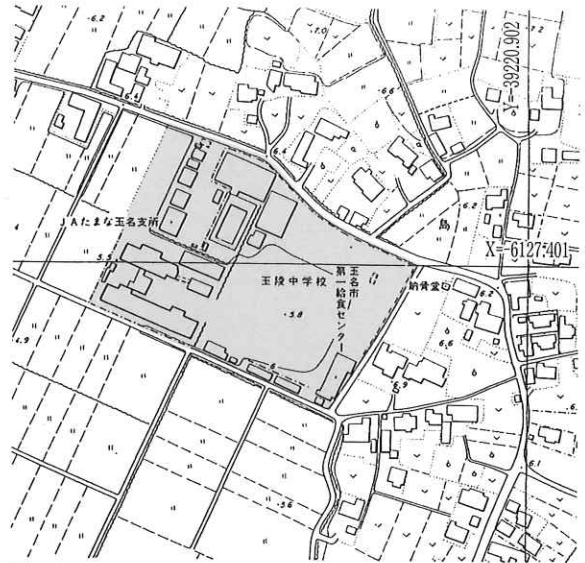
両トレンチとも、I層は駐車場の砕石、II層は山砂による盛土層であった。その下層については、1トレンチでⅢ～Ⅸ層、2トレンチでⅢ～Ⅶ層を確認した。

1トレンチⅢ層は、旧水田耕作土であり、土師皿や染付の細片を数点検出した。Ⅳ層は、灰オリーブ色を呈する砂質土で、土師質の土器細片を1点検出した。Ⅴ層以下は、全体的に酸化鉄、二酸化マンガンを含む砂質土及び粘性土が堆積しており、遺構、遺物は検出されなかった。

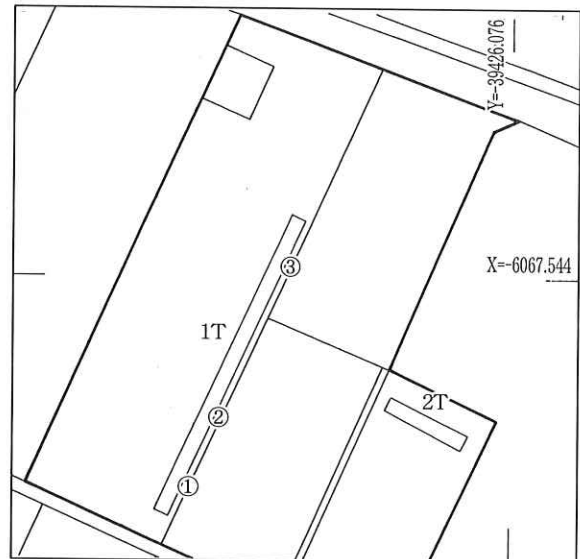
2トレンチⅢ層は、暗褐色を呈する砂質土で、近世～中世の土器細片を数点検出した。Ⅳ層は褐色を呈する粘性土、Ⅴ層は褐色を呈する砂質土で、両層とも中世の土器片を数点検出したが、いずれもローリングを受けており、両層に含まれる石も角がなく丸い。Ⅵ層以下は、1トレンチと同じ様相を呈する。

このような状況から、本調査地点は、旧河道かその縁辺部であったことが考えられる。

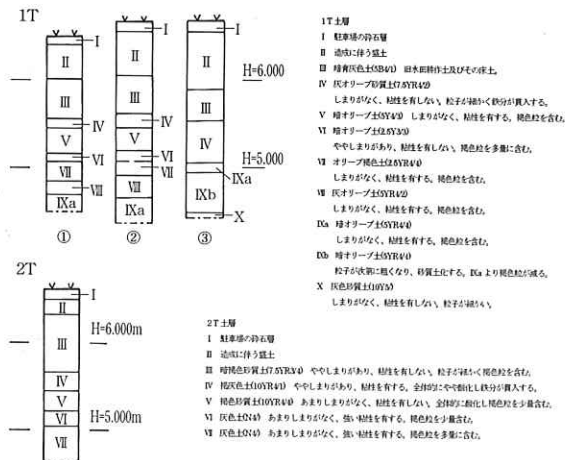
調査後の措置は、慎重工事である。



第3図 玉名平野条里跡A地点位置図 S=1/5,000



第4図 玉名平野条里跡A地点トレンチ位置図 S=1/1,000



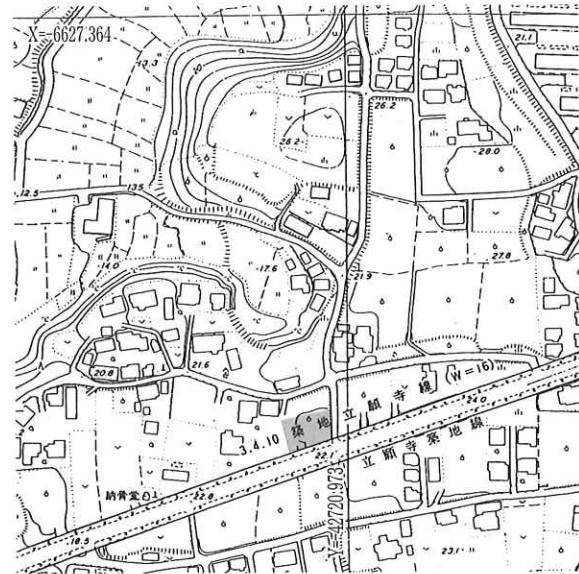
第5図 玉名平野条里跡A地点土層図

2 高岡原遺跡A地点

(1) 調査に至る経緯

玉名市山田2050-1において店舗の建設が計画された。当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である高岡原遺跡の範囲内であったため、平成16年11月9日付けで埋蔵文化財発掘の届出がなされ、平成16年11月24日から26日にかけて確認調査を実施した。その結果、住居跡等の埋蔵文化財が確認されたため、施主及び関係者と協議を行い、敷地1,007㎡のうち、埋蔵文化財が確認された600㎡について発掘調査を実施することになった。

平成17年4月26日から7月4日にかけて発掘調査を実施し、その結果、弥生時代後期の住居跡8基、土坑6基、古代の掘立柱建物跡と想定される遺構1基、土坑・ピット数基、中世の土坑1基、中世から近世にかけての溝状遺構1基、その他時期不明のピット・土坑等多数を確認した。調査の詳細については、平成20年度に刊行予定の玉名市内遺跡調査報告書Vに掲載予定である。



第6図 高岡原遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第7図 高岡原遺跡A地点調査区位置図 S=1/1,000



写真4 高岡原遺跡A地点全景1 南から



写真5 高岡原遺跡A地点全景2 東から

3 蓮華遺跡

所在地：築地字南大門2070

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,097.5㎡

調査期間：17年5月12日

担当者：末永 崇

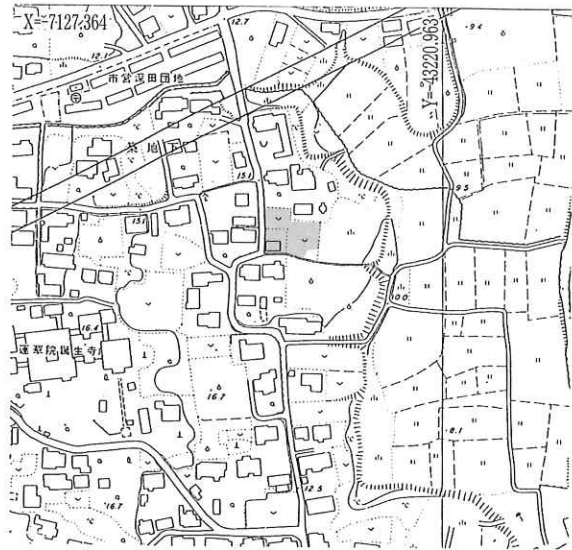
調査地は、境川右岸の低段丘上に位置する標高15m程の地点である。調査時の現状は畑地で耕作が行われていた。

敷地の東側隣接地では、昭和62年に浄光寺跡寺域確認調査が行われており、その際に中世の竪穴状遺構が確認されている。

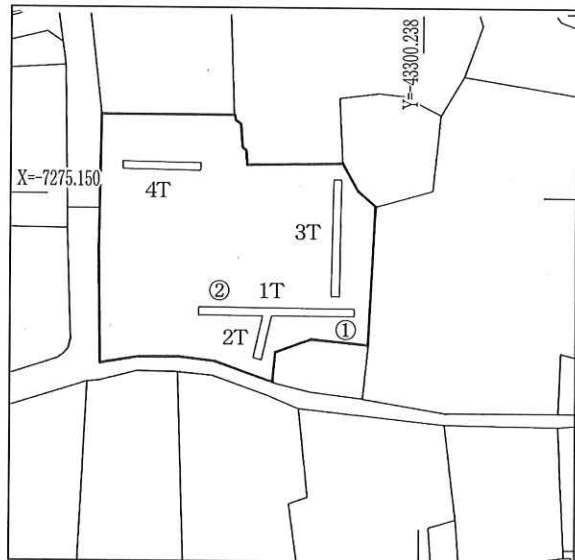
調査では、敷地内の掘削可能な部分4ヶ所にトレンチを設定した。

各トレンチとも、表土は30～40cm程の耕作土（Ⅰ層）で、その下層に一部で明褐色粘性土と黒褐色土の混合土（Ⅱ層）、その下層ににぶい黄褐色および黄褐色土（Ⅲ層）を確認した。1、2トレンチで遺構、遺物は確認されなかったが、3トレンチのⅢ層上面で中世の土器片を含む溝状遺構を検出した。検出状況から、東西方向に延びるものと考えられる。

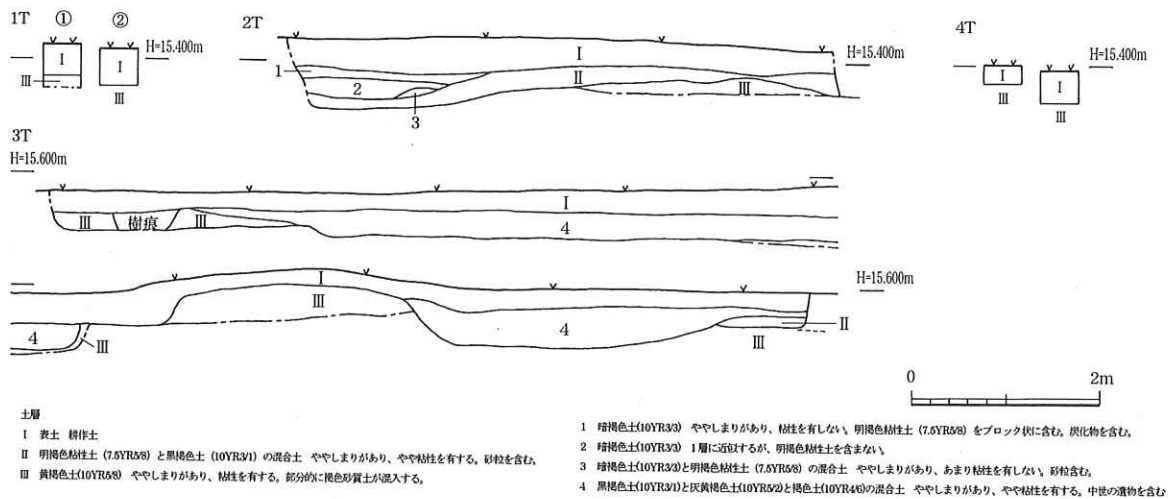
調査の結果を受け、施主側と協議を行った結果、埋蔵文化財に影響を与えないよう設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。



第8図 蓮華遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第9図 蓮華遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000



第10図 蓮華遺跡土層図

4 上小田古屋敷遺跡

所在地：山部田字境目90-10外4筆

調査原因：専用住宅建設

対象面積：1,800.1㎡

調査期間：17年5月17日

担当者：末永 崇

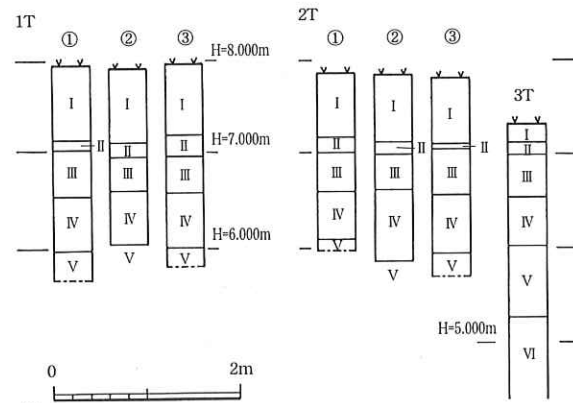
調査地は、玉名平野北部、菊池川左岸堤防際の標高7.3m程の地点である。調査時の状況は、隣接する水田面から約1mの盛土が行われた宅地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも盛土下にI～V層を確認した。I層は盛土前の表土で旧水田耕作土である。II層は砂質土で、下位は粘性が強く色調も明るくなる。III層からV層にかけては、暗褐色から褐色を呈する層である。このうち、1トレンチIII層より、土師器坯の細片1点を検出したが、それ以外に遺物は確認されず、遺構も確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

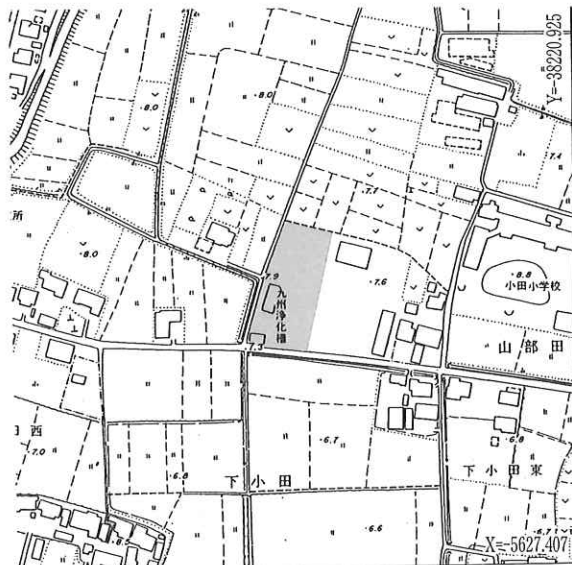


第12図 上小田古屋敷遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



- 土層
- I 表土 造成に伴う盛土
 - II 暗褐色砂質土(5BG3V) ややしりがあり、粘性を有しない。粒子が細かくサラサラしている。
 - III 暗褐色土(10YR3/4) ややしりがあり、粘性を有しない。粒子が細かくサラサラしている。上位に褐色粒をわずかに含む。
 - IV 暗褐色土(10YR3/4) ややしりがあり、わずかに粘性を有する。II層とほぼ同層であるが、若干粘性が強い。
 - V 暗褐色土(10YR4/3) しりがあり、やや粘性有する。下位になるにつれ、粘性が強くなる。
 - VI 褐色土(10YR4/3) しりがあり、粘性を有する。下位になるにつれ、色調がしたいに明るくなる。

第13図 上小田古屋敷遺跡土層図



第11図 上小田古屋敷遺跡調査地位置図 S=1/5,000



写真6 上小田古屋敷遺跡調査地全景 南から

5 田島遺跡

(1) 確認調査

所在地：中字寺畑1582-5外2筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：769.28m²

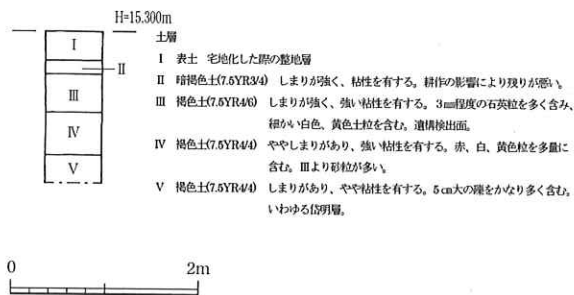
調査期間：17年5月19日

担当者：古閑敬士

調査地は、境川左岸に面した玉名台地南西部の標高15m程の地点である。春日神社の北側隣接地で、調査時の状況は、既存建物解体後の更地であった。

調査では、建設予定地に3ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、宅地化時の整地層（I層）下に褐色土（II層）を確認した。II層は、宅地化前の畑の畝により削平を受けていた。II層以下については、3トレンチでのみ確認を行った。III層は褐色のローム層、IV層は5cm大の礫を多量に含む褐色土（岱明層）である。遺構、遺物については、1、2トレンチII層上面でピット、土坑を確認し、ピット内から中世の土器、瓦器が出土した。土坑は無遺物のため時期の特定ができなかった。3トレンチで遺構、遺物は確認されなかった。

調査の結果を受け、施主側と協議を行い、埋蔵文化財に影響を与える基礎掘削部について発掘調査を行うことになった。



第16図 田島遺跡土層図

(2) 調査体制

発掘調査（平成17年度）

調査期間 平成17年6月13日～6月24日

調査担当 調査員 古閑敬士

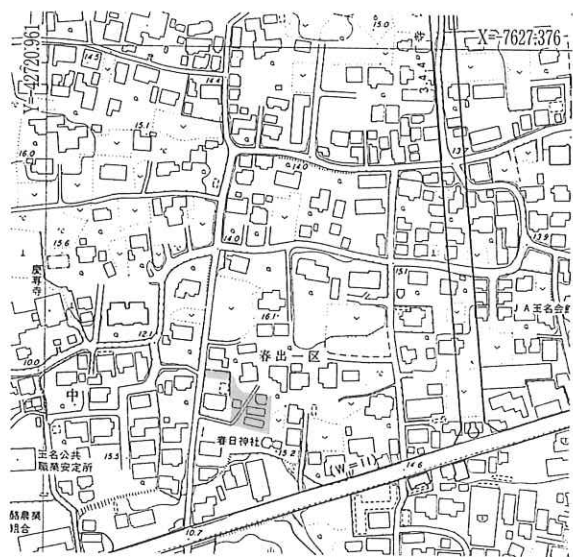
発掘作業員 竹内伴英 西田宣道

整理作業（平成19年度）

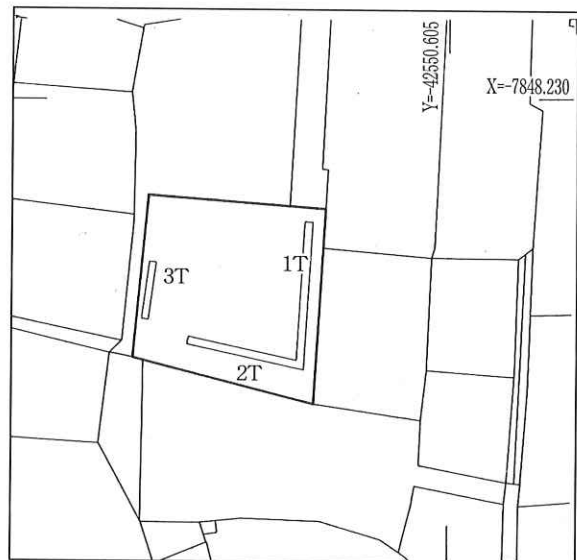
整理・報告書担当 主任 田中康雄

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

早川イツエ 権藤 功



第14図 田島遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第15図 田島遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

II 平成17年度の調査

(3) 遺跡の概要

田島遺跡は、玉名市のほぼ中央部、小代山南側丘陵部に接する玉名台地南西部の標高約13～17mの部分に位置する。西側には、小代山南東部を源流とする境川が南流し、その開析により形成された谷底平野が広がる。遺跡が所在する台地上及び、境川対岸の低位段丘上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が密集しており、試掘・確認調査や発掘調査が頻繁に実施されている。

(4) 調査の方法

調査では、基礎掘削部にA～Dの調査区を設定した。表土のみ重機で掘削し、それ以下は人力で作業を行った。調査の結果、A・B区でのみ遺構、遺物を検出した。検出された遺構は、種別ごとに番号を付けて掘り下げた。実測は、遺構配置図を1/100、それ以外を1/20スケールで行い、撮影は35mmカラーリバーサル及び

モノクロフィルムにより行った。

(5) 遺構・遺物

①弥生時代の遺構・遺物

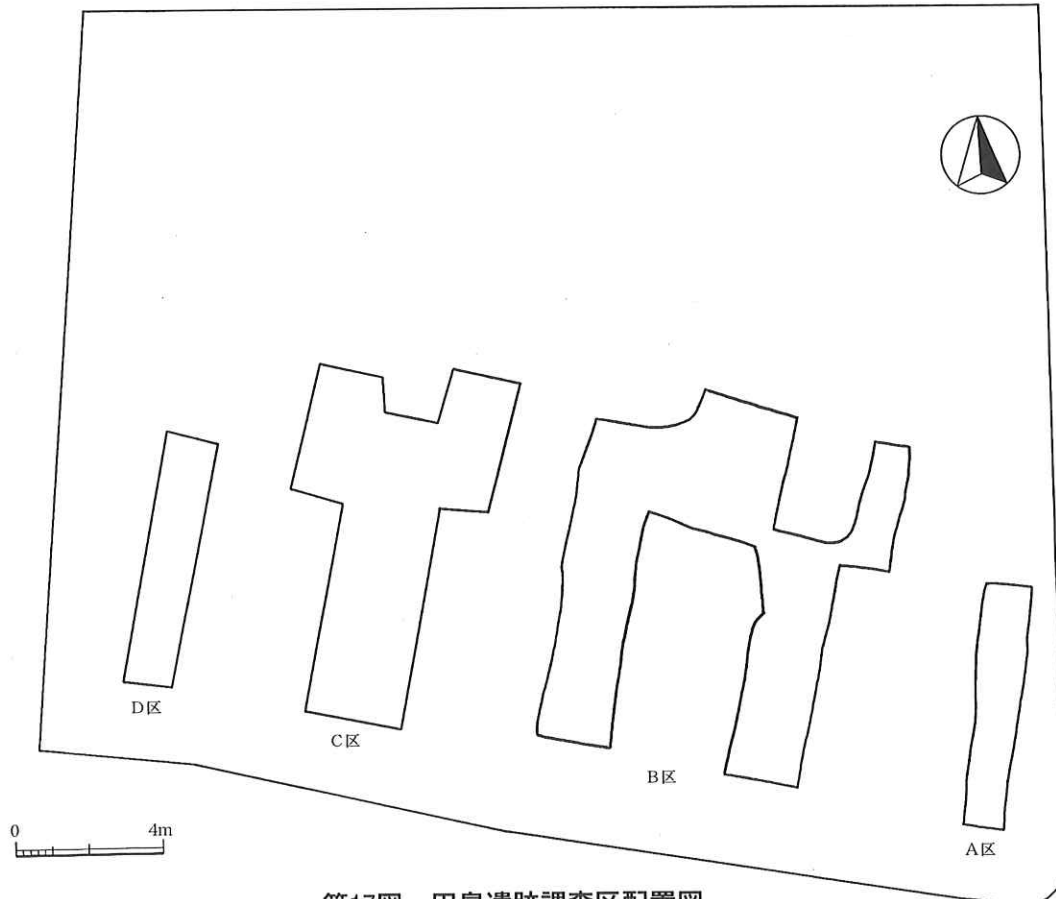
・1号住居跡(S-01)

調査B区北側のⅡ層上面で検出した。全体に調査が及んでいないが、検出状況から想定して、一辺3.5m程の正方形に近い形状と想定される。しかし、上部を大きく削平され、部分的な調査であるため、ベッド状遺構を有する可能性も否定できず、そうなれば、規模はやや大きくなる。中央部北側に炉を有し、それを北端として、硬化面が遺構中央西側に見られる。硬化面を挟んで東西に2基のピットを有しており、これを柱穴と想定している。

遺物は弥生土器、石鏃が出土している。

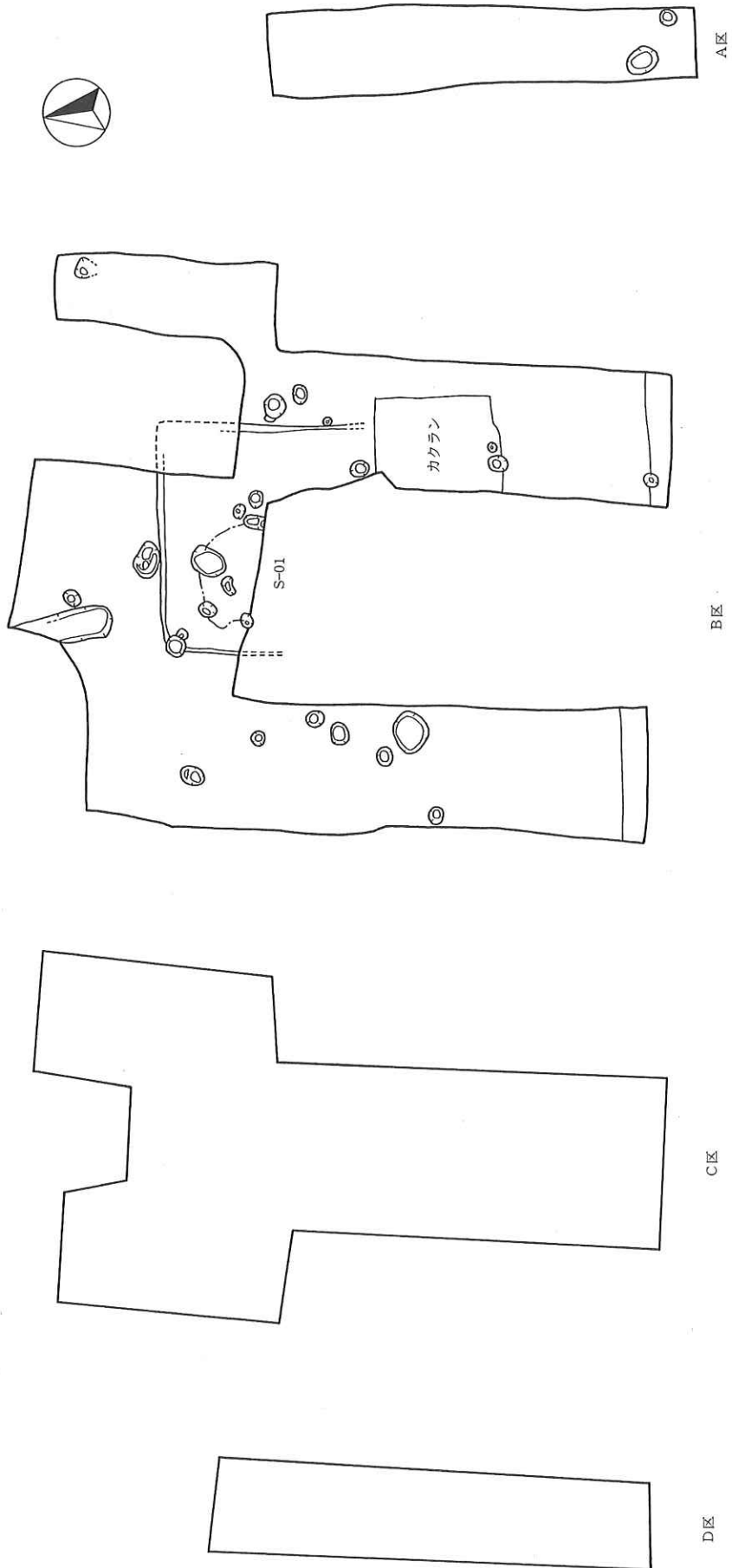
②中世の遺構・遺物

中世の遺構として溝、ピットを検出した。遺物は土師器の坏、皿が出土している。



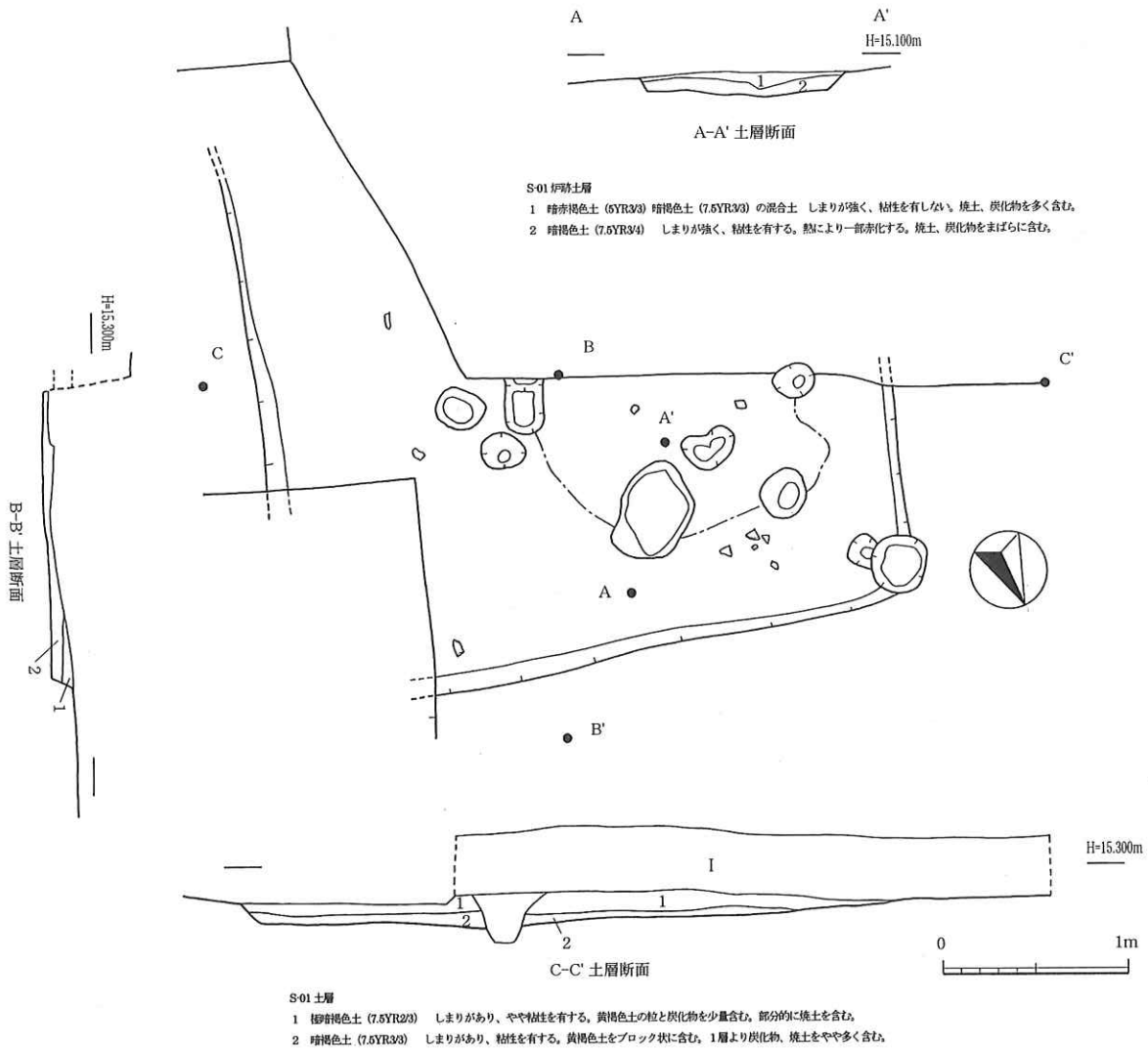
第17図 田島遺跡調査区配置図

II 平成17年度の調査

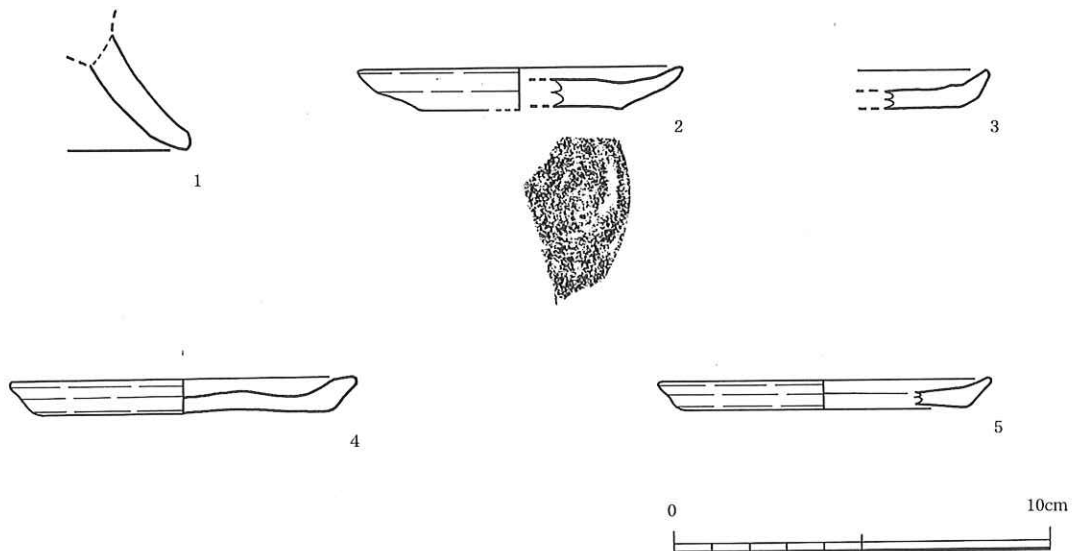


第18図 田島遺跡遺構配置図

II 平成17年度の調査



第19図 田島遺跡 S-01 実測図



第20図 田島遺跡出土遺物実測図

Ⅱ 平成17年度の調査



写真7 田島遺跡全景 西から

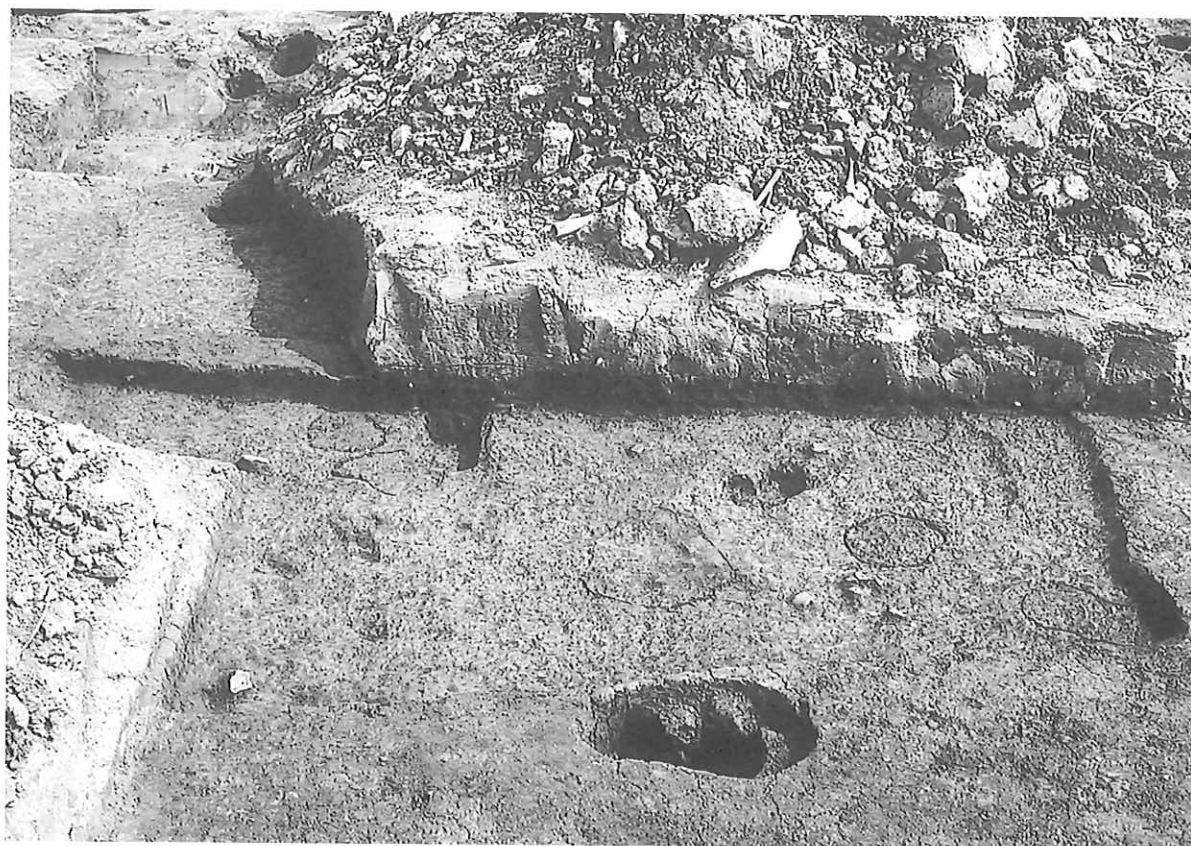


写真8 田島遺跡S-01検出状況 南から

6 築地館跡

所在地：築地111-1

調査原因：寺院建設

対象面積：2,673.9㎡

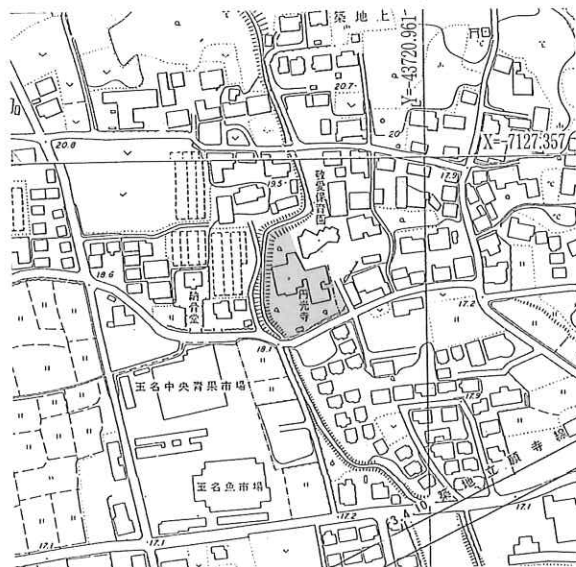
調査期間：17年6月9日

担当者：末永 崇

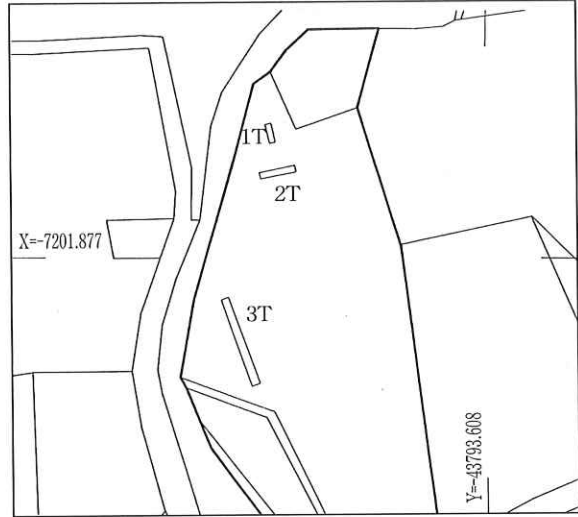
調査地は、玉名市の中西部、境川右岸の小代山南側丘陵部に接する、玉名台地上の標高18m程の地点で、中世城館跡推定範囲の西側に位置する。

今回の調査では、工事予定地内の既存建物が未解体であったため、周辺の掘削可能な3ヶ所にトレンチを設定した。これらのうち、3トレンチで、遺構の一部と考えられる弥生土器を多量に含む層（S-01）を確認したが、近現代の攪乱が敷地全体に及んでおり、その他に遺構、遺物は確認できなかった。

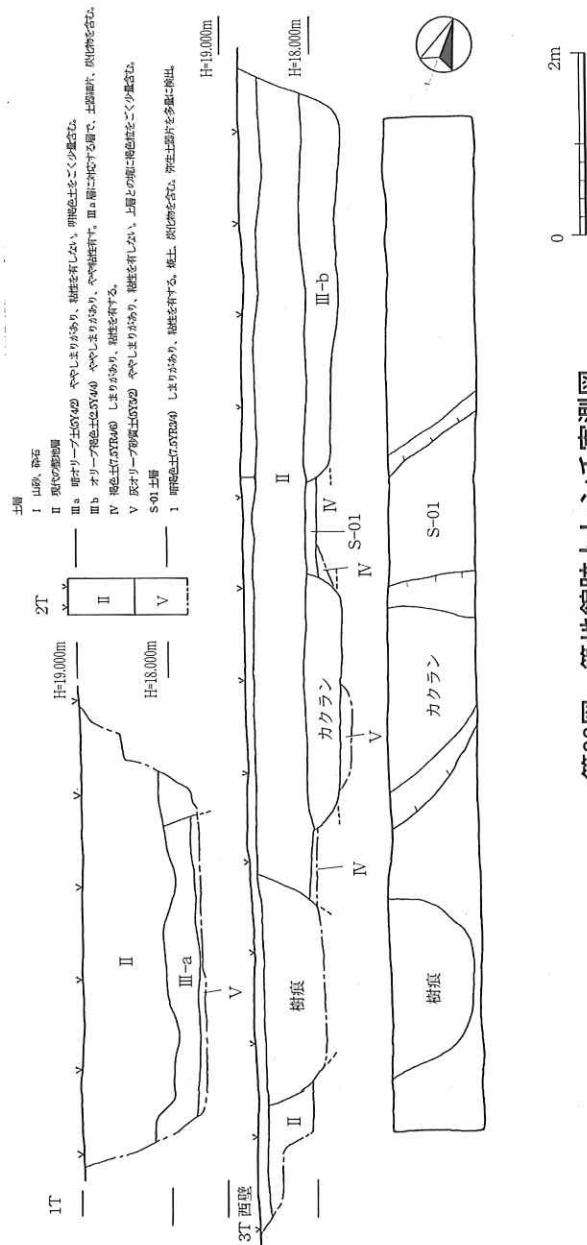
調査の結果、敷地全体が近現代の攪乱を受けており、遺構がほとんど残存していないと判断されたが、遺構の一部と考えられる箇所がわずかに確認されたため、調査後の措置は、工事立会となった。



第21図 築地館跡調査地位置図 S=1/5,000

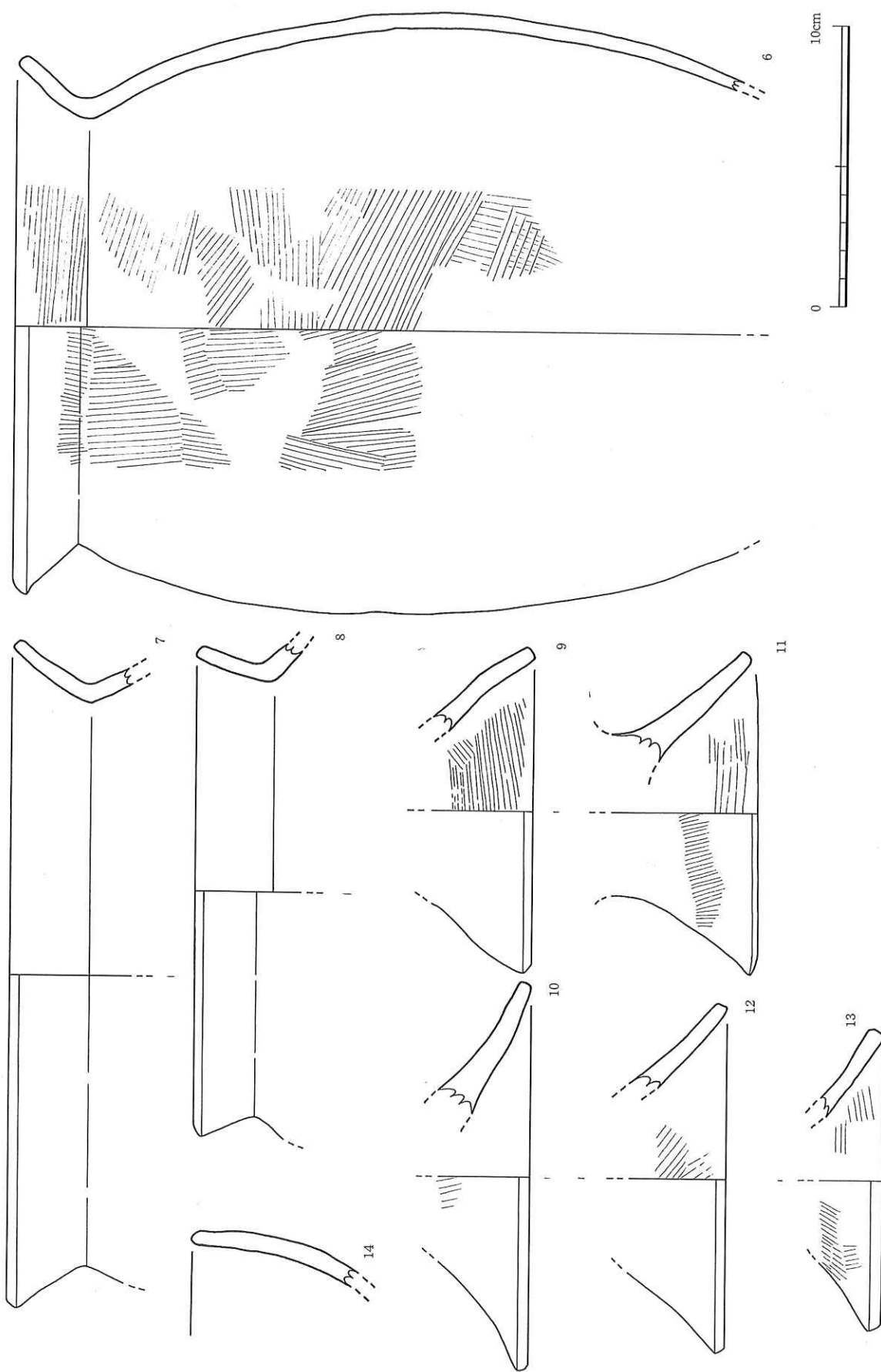


第22図 築地館跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第23図 築地館跡トレンチ実測図

II 平成17年度の調査



第24図 築地館跡出土遺物実測図

7 高岡原遺跡B地点

所在地：山田字高岡原2047-1

調査原因：専用住宅建設

対象面積：499.99m²

調査期間：17年8月9日～8月19日

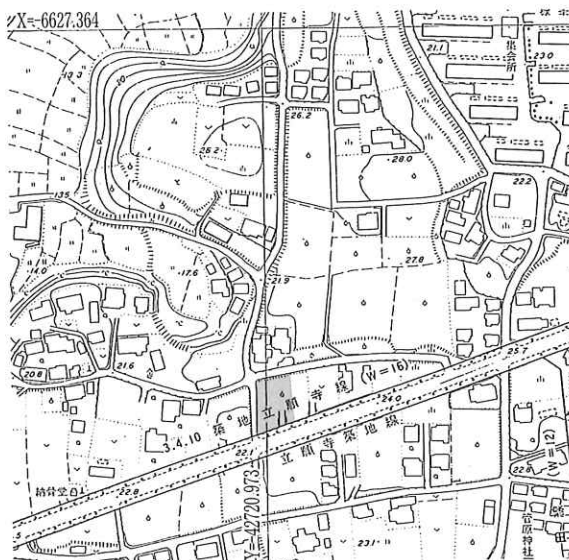
担当者：末永 崇

調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高24m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる高岡原遺跡の中央部南側に位置する。

調査では、建設予定地内に4ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、I、II層は表土及び耕作に伴う攪乱層である。1～3トレンチでは、II層直下の暗褐色土（III層）上面で、4トレンチでは、III層が確認されず、その下の褐色土（IV層）上面で、古代及び弥生時代のものと思われる遺構を確認した。

このように、敷地のほぼ全域に古代及び弥生時代の遺構が所在する状況であったが、専用住宅建設部については、基礎掘削がI、II層内で収まることから、埋蔵文化財に対する影響は発生しないとの結論にいたった。しかし、進入路設置部については、切土により埋蔵文化財に対する影響が発生するため、その箇所にあたる2トレンチ内の遺構については、継続して調査を行った。

2トレンチ内の遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡2基、土坑2基、古代の竪穴遺構1基、時期不明のピット多数である。各遺構の詳細は以下の通りである。



第25図 高岡原遺跡B地点位置図 S=1/5,000

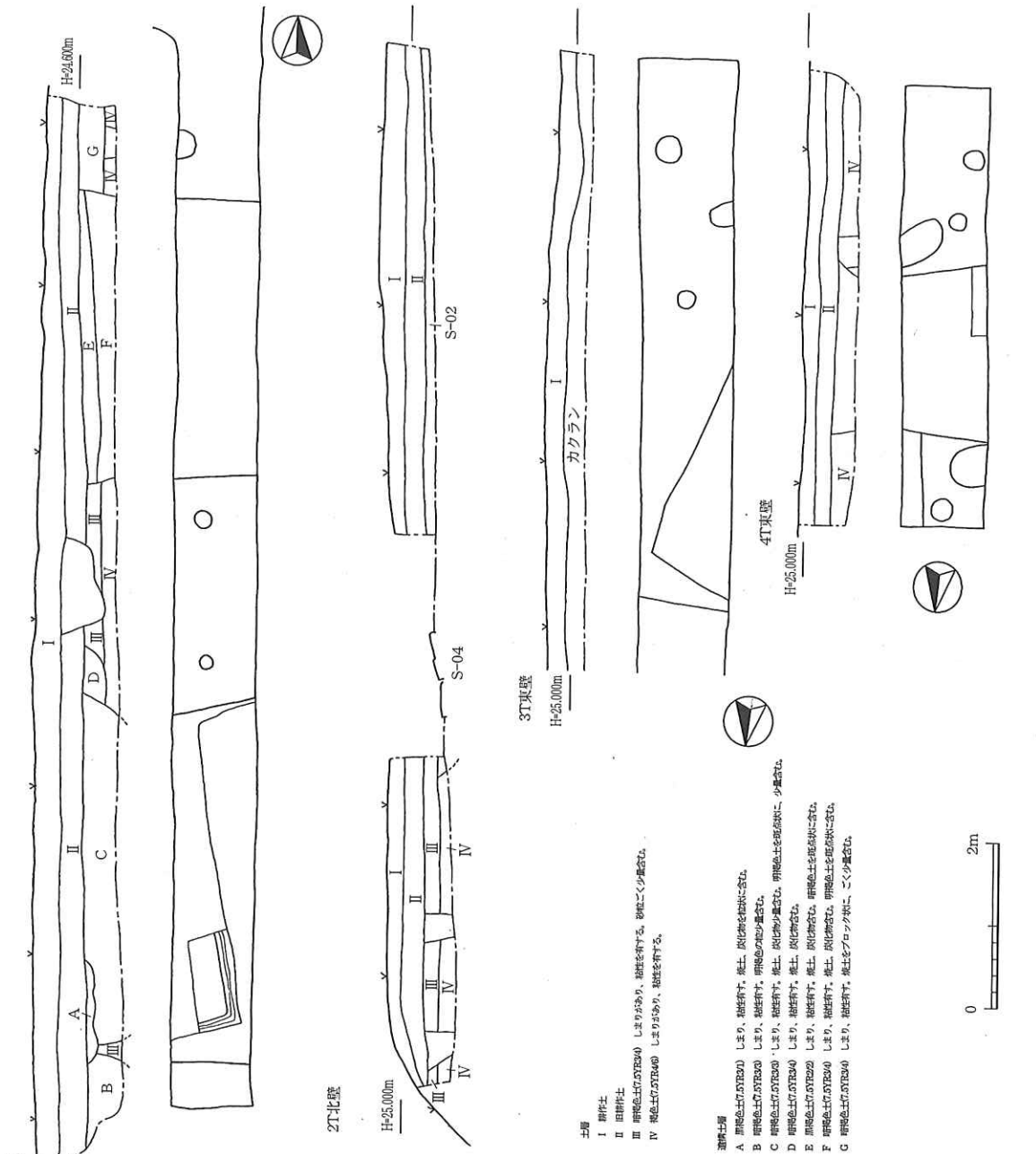


第26図 高岡原遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000

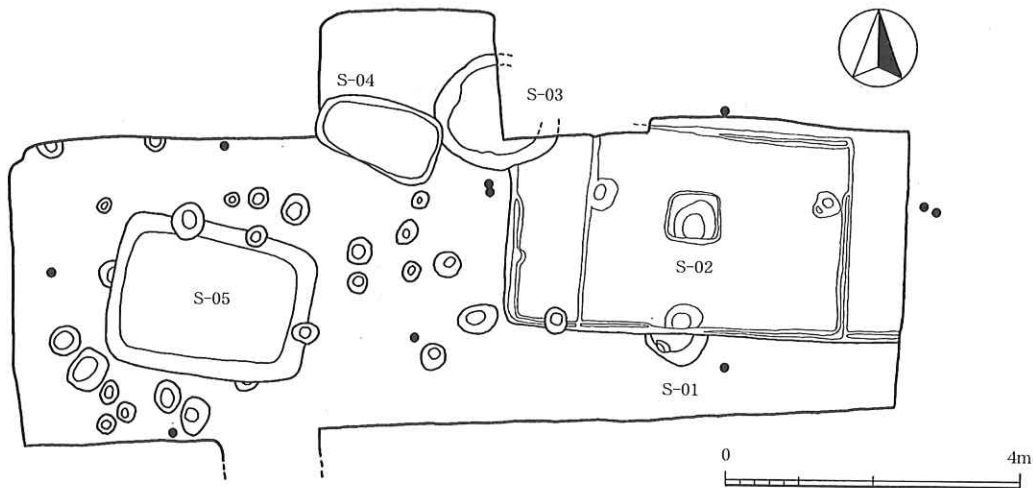


写真9 高岡原遺跡B地点2T全景 東から

II 平成17年度の調査



第27図 高岡原遺跡B地点トレンチ実測図



第28図 高岡原遺跡B地点2トレンチ内遺構配置図

II 平成17年度の調査

・弥生時代の遺構・遺物

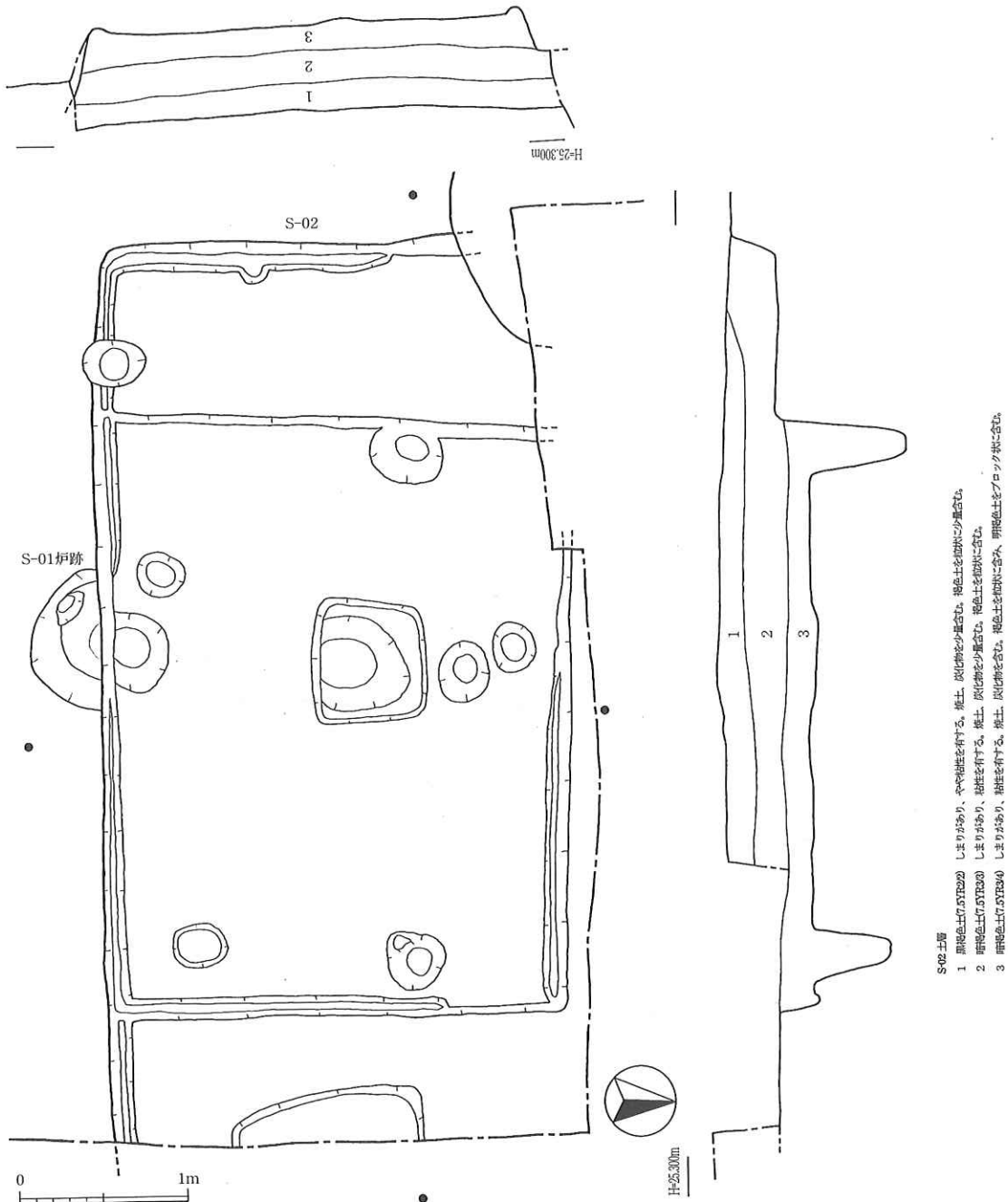
1号住居跡 (S-01)

2トレンチ東側Ⅲ層上面で検出した。2号住居跡に切られ、床面まで耕作による攪乱を受けていたため、炉の一部のみを検出するに止まった。このため、形状、規模ともに不明である。

2号住居跡 (S-02)

1号住居跡と同様に、2トレンチ東側のⅢ層上面で検出した。遺構がトレンチ外に及んでい

るため全体形は不明だが、検出状況から長辺5.6m、短辺3.7m程度の隅丸長方形の住居跡と想定される。遺構の北及び東西に、コの字形のベッド状遺構を有する2本柱の住居跡である。炉はほぼ正方形で、遺構中央やや北寄りに位置する。弥生時代後期の土器が出土している。1号住居跡を切っており、これに後出する住居跡である。



第29図 高岡原遺跡B地点S-01・02実測図

II 平成17年度の調査

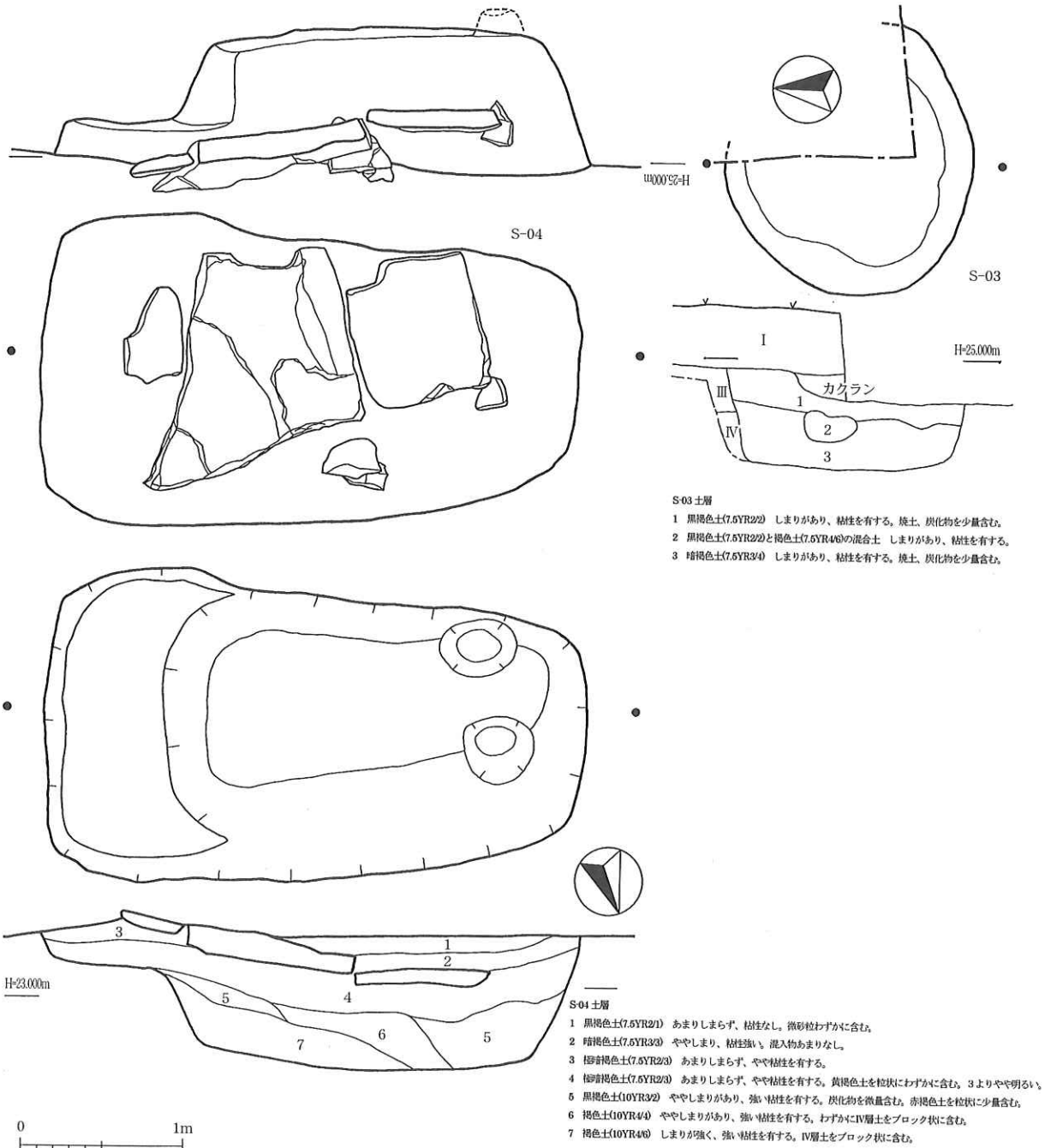
1号土坑 (S-03)

2トレンチ北側のⅢ層上面で検出した。遺構の一部がトレンチ外に及んでいるが、東西1.7m、南北1.5m、深さ0.58mのほぼ円形の土坑と考えられる。土器細片4点と石器1点が出土している。2号住居跡を切っており、これに後出する遺構である。

3.47m、南北1.83m、深さ0.82mの隅丸長方形の土坑である。東側にテラス、西側の底部にピットを2基有する。土坑上面に蓋石状の板石が確認されており、そのうちの1枚は内側を赤彩（おそらくベンガラ）してあった。このことから、石蓋土坑墓ではないかと考えられる。土坑内からは、弥生時代後期のものと思われる土器細片が出土している。

2号土坑 (S-04)

2トレンチ北側のⅢ層上面で検出した。東西



第30図 高岡原遺跡B地点S-03・04実測図

II 平成17年度の調査

・古代の遺構・遺物

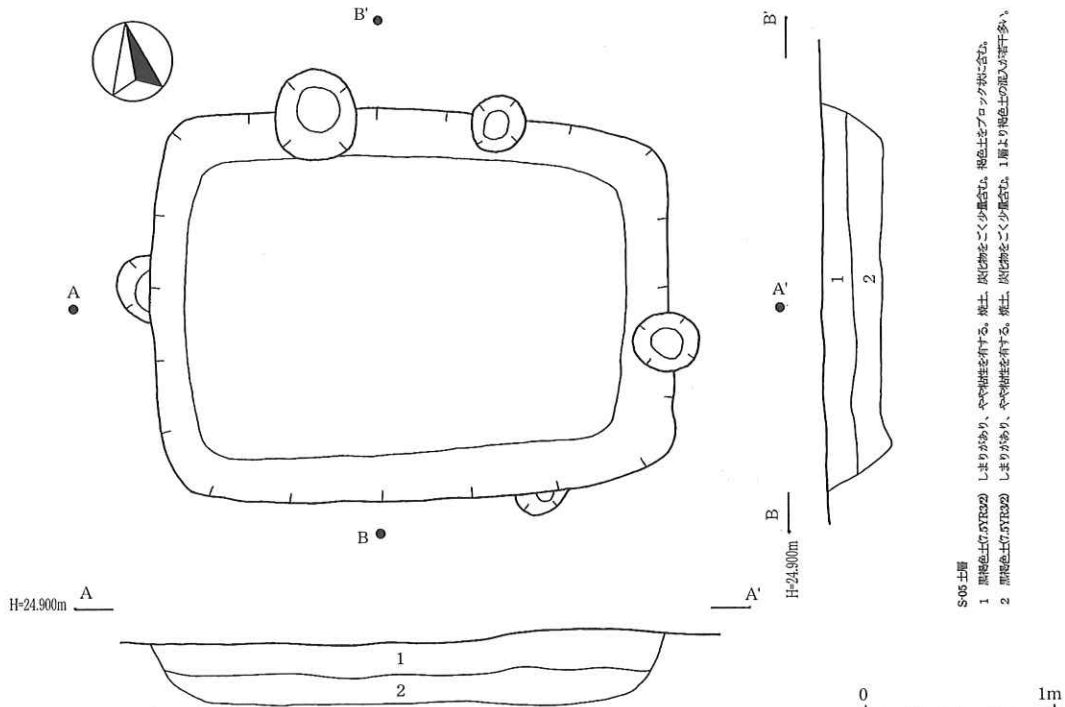
竪穴遺構 (S-05)

2トレンチ西側のⅢ層上面で検出した。東西2.0m、南北2.75m、深さ0.33mの竪穴遺構で、須恵器高坏、坏、坏蓋及び弥生後期の土器細片が出土している。遺構の性格は不明である。

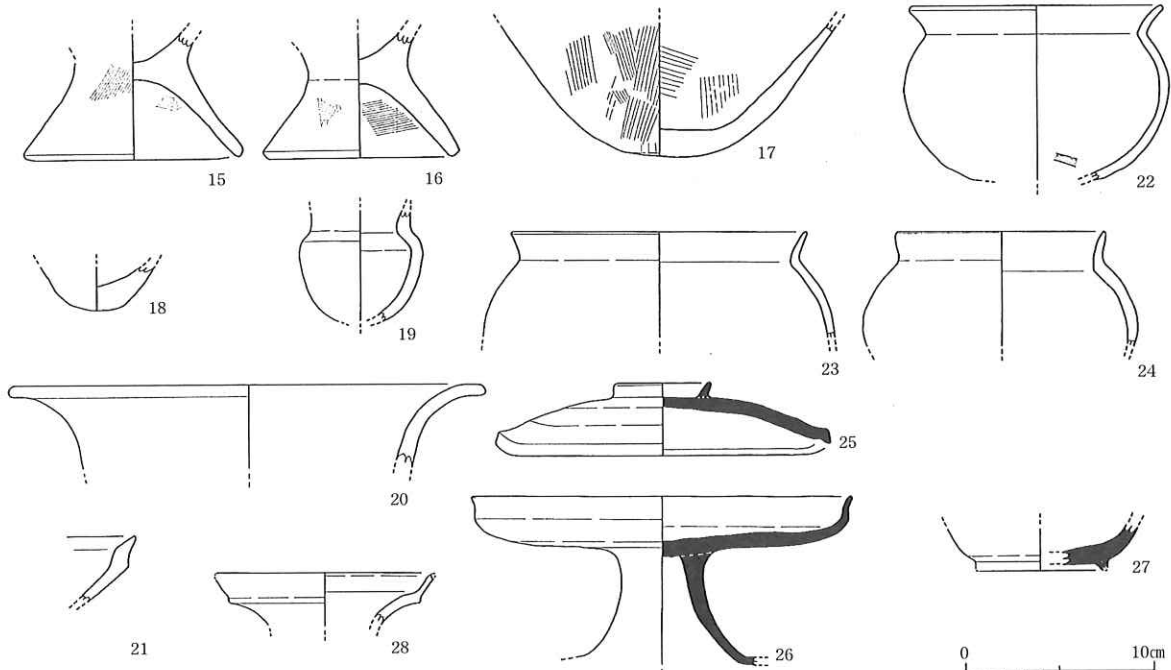
・時期不明の遺構

ピット群

その他の遺構として、ピット群が確認されているが、多くは無遺物あるいは土器細片のみの出土であり、大部分で時期の特定が不可能であった。おそらく弥生時代後期もしくは古代の遺構と考えられる。



第31図 高岡原遺跡B地点 S-05実測図



第32図 高岡原遺跡B地点出土遺物実測図

8 繁根木遺跡群A地点

所在地：繁根木64

調査原因：宅地造成

対象面積：1,270.5㎡

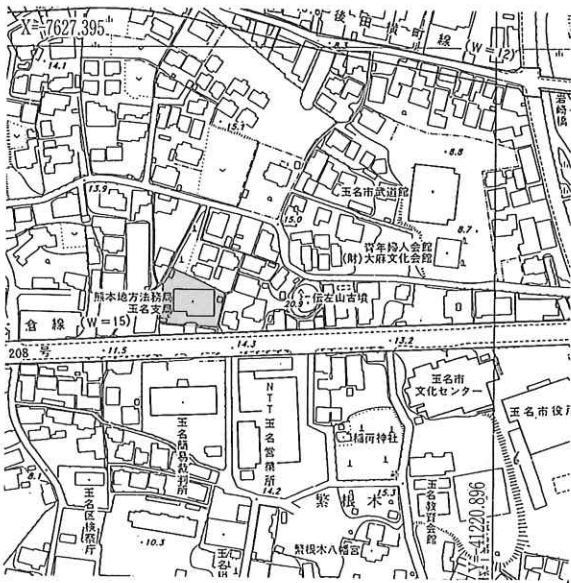
調査期間：17年8月25日～8月29日

担当者：末永 崇

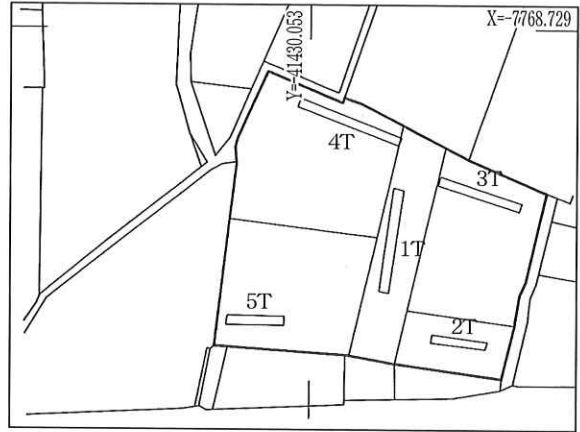
調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中央南端部の標高16m程の地点に位置する。熊本法務局玉名支局跡地で、東側約50mには、伝左山古墳が所在する。

調査では、造成予定地内に5ヶ所のトレンチを設定した。このうち、1トレンチを除いた各トレンチでは、耕作等による攪乱層（I、II層）下に、暗褐色粘性土（III層）、その下に礫を多く含む褐色土（IV層）を確認した。旧建物所在部にあたる1トレンチでは、建物基礎等の攪乱により、大部分がIII層又はIV層まで削平されていた。各トレンチとも遺構は確認されず、遺物も、1トレンチ攪乱層より土器細片を数点確認したのみである。

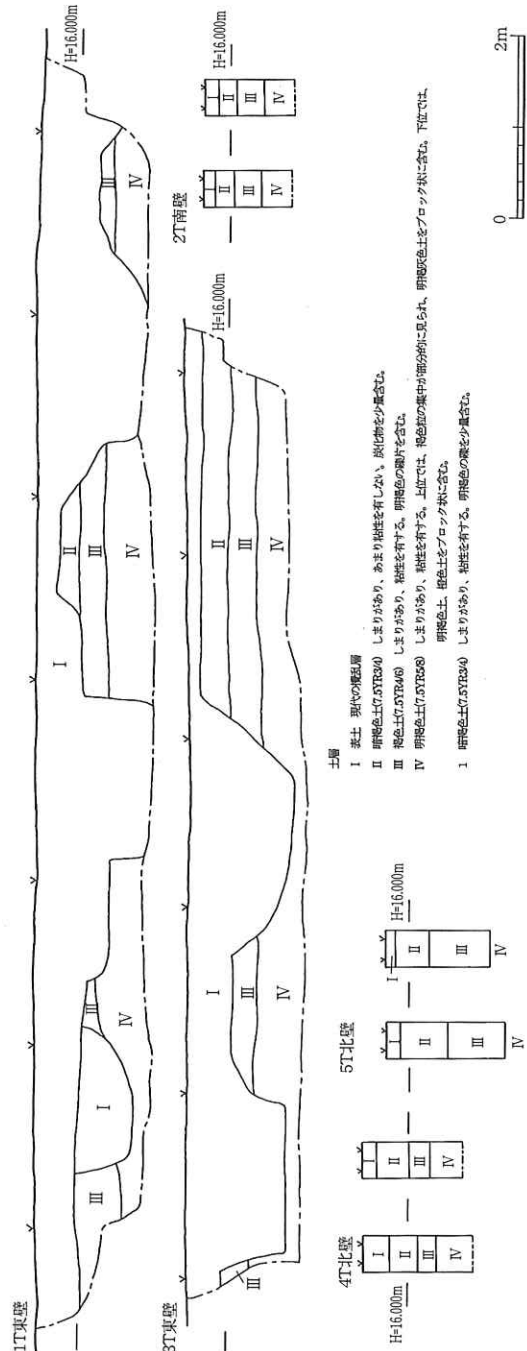
調査の結果、埋蔵文化財への影響は発生しないものと考えられたが、伝左山古墳近接地であることから、調査後の措置は、工事立会となった。



第33図 繁根木遺跡群A地点位置図 S=1/5,000



第34図 繁根木遺跡群A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第35図 繁根木遺跡群A地点トレンチ実測図

9 高瀬御茶屋跡

所在地：永徳寺414-4外2筆

調査原因：倉庫建設

対象面積：3,476.7㎡

調査期間：17年9月13日～9月30日

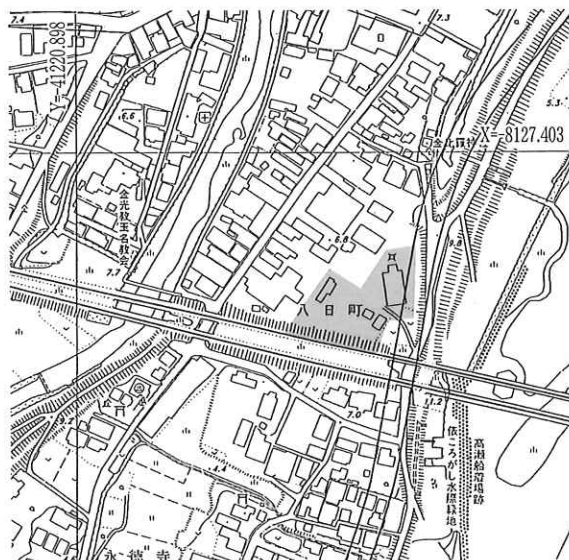
担当者：齋父雅史

調査地は、菊池川右岸堤防際の標高7m程の地点で、支流繁根木川との合流点よりやや北側に位置する。調査時の状況は、盛土による造成地及び畑地で、高瀬御茶屋跡の痕跡は、敷地内に残る1基の井戸のみであった。

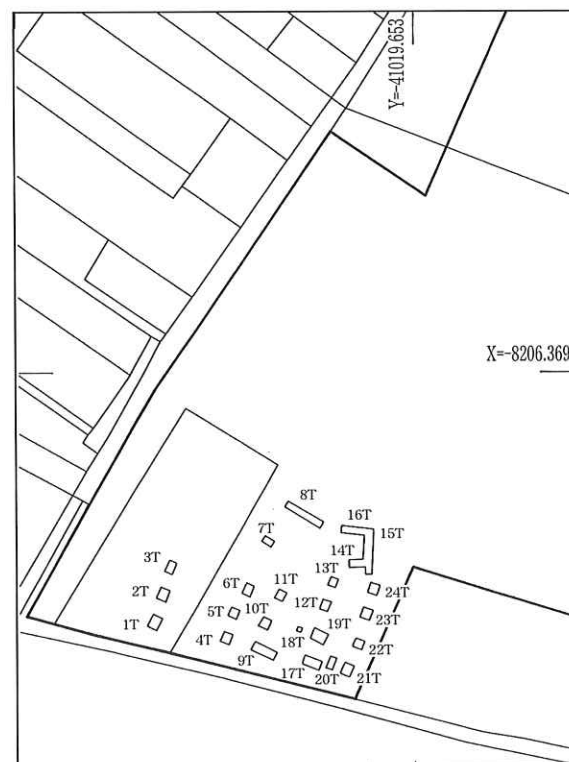
調査では、倉庫基礎部分を中心に24ヶ所のトレンチを設定した。1～3、7トレンチ及び4～6、8トレンチの西側は、現代の整地部、4、5トレンチの大部分及び6トレンチの一部は、近代の瓦や礫の廃棄部、6トレンチの大部分及び、8～13トレンチは、明治10年の西南戦争以降の整地部と考えられ、各トレンチとも、それ以前の遺構、遺物は確認されなかった。敷地南東側の17～24トレンチでは、近世初頭から近世末にかけての遺構、遺物が確認された。各トレンチとも、IV層上面で遺構を確認し、大部分が石列であるが、23トレンチでは、丸瓦を転用した樋管遺構を確認した。

遺物は、I層（表土）及びII層からは確認されず、III層上面から、近世末の陶磁器、IV層上面から近世初頭の染付が確認された。IV層以下には、中世の遺物小片が摩耗した状態で混入する。IV層上面で確認された遺物から、これらの遺構は、残存する絵図から、近世初頭～近世末にかけて構築された、高瀬御茶屋に関連する施設であると考えられるが、III層とIV層の間で、幾度か建替えが行われている可能性もあり、検出した遺構が、御茶屋造営当初のものかは不明である。このことから、敷地の南東側一帯は、残存している井戸も含めて、御茶屋の遺構が残存している可能性が高いと考えられる。

調査の結果を受け協議を行った結果、埋蔵文化財に影響を与えないよう基礎部分の設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。

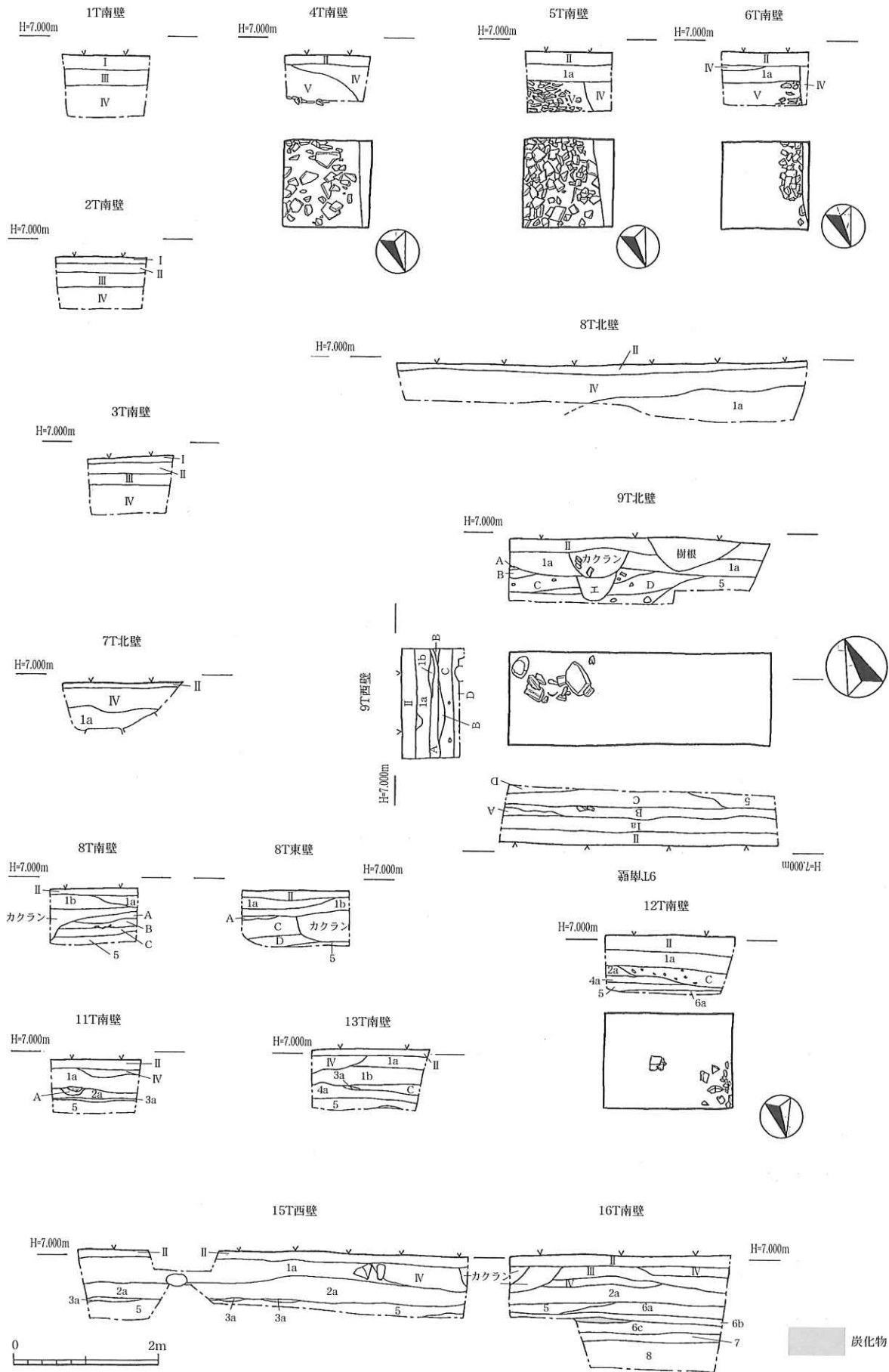


第36図 高瀬御茶屋跡調査地位置図 S=1/5,000



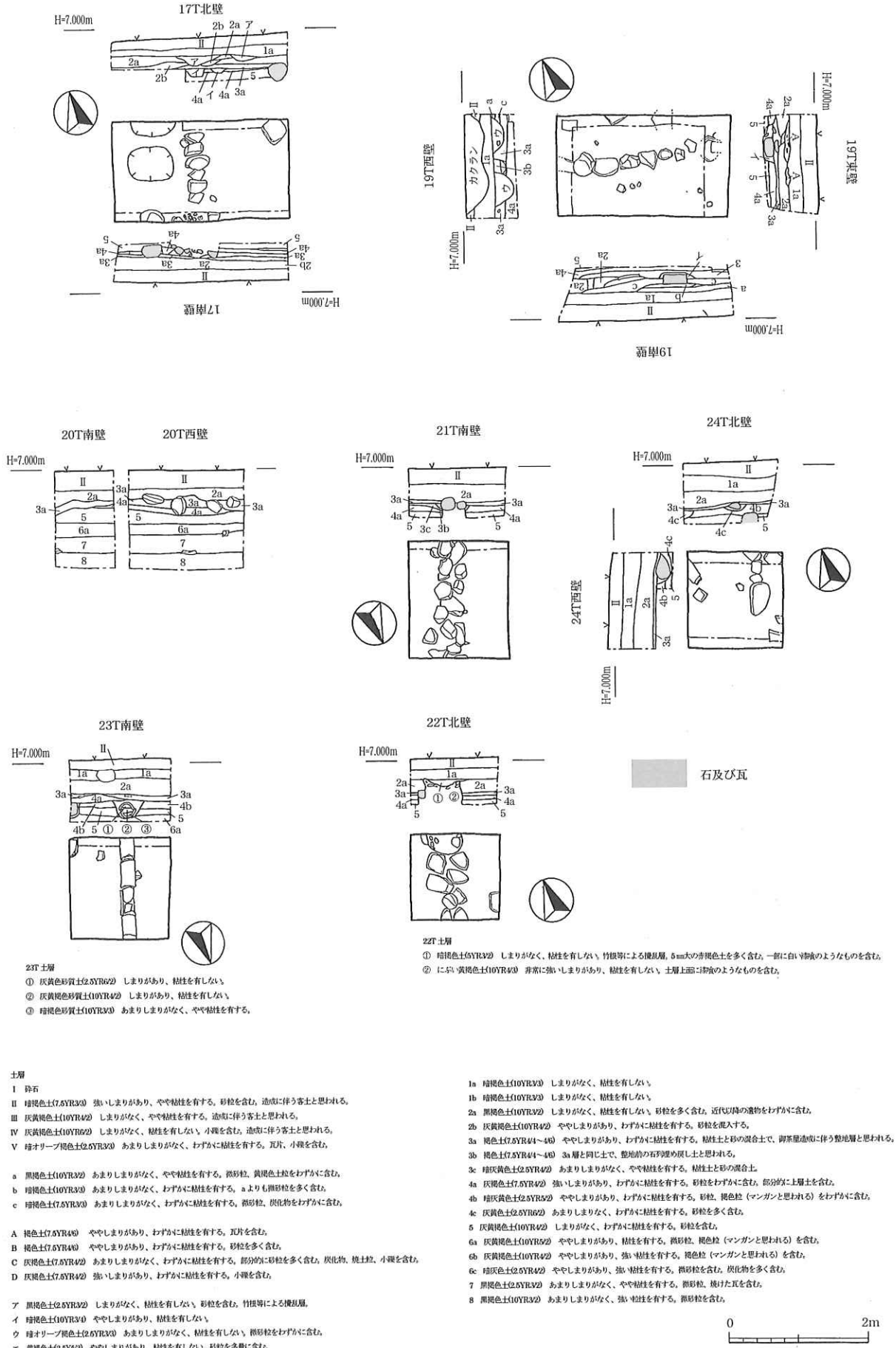
第37図 高瀬御茶屋跡トレンチ配置図 S=1/1,000

II 平成17年度の調査



第38図 高瀬御茶屋跡トレンチ実測図1

II 平成17年度の調査



- 23T土層
- ① 灰黄色砂質土(10YR6/2) しまりが有り、粘性を有しない。
 - ② 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) しまりが有り、粘性を有しない。
 - ③ 暗褐色砂質土(10YR3/3) あまりしまりがなく、やや粘性を有する。

- 土層
- I 砕石
- II 暗褐色土(7.5YR3/3) 強いしまりが有り、やや粘性を有する。砂粒を含む、造りに伴う客土と思われる。
 - III 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりがなく、やや粘性を有する。造りに伴う客土と思われる。
 - IV 灰黄褐色土(10YR6/2) しまりがなく、粘性を有しない。小礫を含む、造りに伴う客土と思われる。
 - V 暗オリーブ褐色土(2.5YR3/3) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。瓦片、小礫を含む。
- a 黒褐色土(10YR3/2) あまりしまりがなく、やや粘性を有する。微砂粒、黄褐色土粒をわずかに含む。
 - b 暗褐色土(10YR3/2) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。aよりも微砂粒を多く含む。
 - c 暗褐色土(7.5YR3/3) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。微砂粒、炭化物をわずかに含む。
- A 褐色土(7.5YR4/6) ややしまりが有り、わずかに粘性を有する。瓦片を含む。
 - B 褐色土(7.5YR4/6) ややしまりが有り、わずかに粘性を有する。砂粒を多く含む。
 - C 灰褐色土(7.5YR4/2) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。部分的に砂粒を多く含む。炭化物、焼土粒、小礫を含む。
 - D 灰褐色土(7.5YR4/2) 強いしまりが有り、わずかに粘性を有する。小礫を含む。
- ア 黒褐色土(2.5YR3/2) しまりがなく、粘性を有しない。砂粒を含む。竹根等による擾乱層。
 - イ 暗褐色土(10YR3/0) ややしまりが有り、粘性を有しない。
 - ウ 暗オリーブ褐色土(2.5YR3/3) あまりしまりがなく、粘性を有しない。微砂粒をわずかに含む。
 - エ 黄褐色土(2.5Y/3) ややしまりが有り、粘性を有しない。砂粒を多量に含む。

- 22T土層
- ① 暗褐色土(6YR3/2) しまりがなく、粘性を有しない。竹根等による擾乱層。5mm大の赤褐色土を多く含む。一部に白い砂粒のようなものを含む。
 - ② に①より黄褐色土(10YR4/3) 非常に強いしまりが有り、粘性を有しない。土層上面に砂粒のようなものを含む。
- 1a 暗褐色土(10YR3/3) しまりがなく、粘性を有しない。
 - 1b 暗褐色土(10YR3/2) しまりがなく、粘性を有しない。
 - 2a 黒褐色土(10YR3/2) しまりがなく、粘性を有しない。砂粒を多く含む。近代以降の遺物をわずかに含む。
 - 2b 黒褐色土(10YR4/2) ややしまりが有り、わずかに粘性を有する。砂粒を混入する。
 - 3a 褐色土(7.5YR4/4~4/6) ややしまりが有り、わずかに粘性を有する。粘土と砂の混合土で、御茶屋造りに伴う整地層と思われる。
 - 3b 褐色土(7.5YR4/4~4/6) 3a層と同じ土で、整地時の石列埋め戻し土と思われる。
 - 3c 暗灰褐色土(2.5YR4/2) あまりしまりがなく、やや粘性を有する。粘土と砂の混合土。
 - 4a 暗褐色土(7.5YR4/2) 強いしまりが有り、わずかに粘性を有する。砂粒をわずかに含む。部分的に上層土を含む。
 - 4b 暗灰褐色土(2.5YR5/2) ややしまりが有り、わずかに粘性を有する。砂粒、褐色粒(マンガンと思われる)をわずかに含む。
 - 4c 灰黄褐色土(2.5YR6/2) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。砂粒を多く含む。
 - 5 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりがなく、わずかに粘性を有する。砂粒を含む。
 - 6a 灰黄褐色土(10YR5/2) ややしまりが有り、粘性を有する。微砂粒、褐色粒(マンガンと思われる)を含む。
 - 6b 灰黄褐色土(10YR4/2) ややしまりが有り、強い粘性を有する。褐色粒(マンガンと思われる)を含む。
 - 6c 暗灰褐色土(2.5YR4/2) ややしまりが有り、強い粘性を有する。微砂粒を含む。炭化物を多く含む。
 - 7 黒褐色土(2.5YR3/2) あまりしまりがなく、やや粘性を有する。微砂粒、焼けた瓦を含む。
 - 8 黒褐色土(10YR3/2) あまりしまりがなく、強い粘性を有する。微砂粒を含む。

第39図 高瀬御茶屋跡トレンチ実測図2

Ⅱ 平成17年度の調査

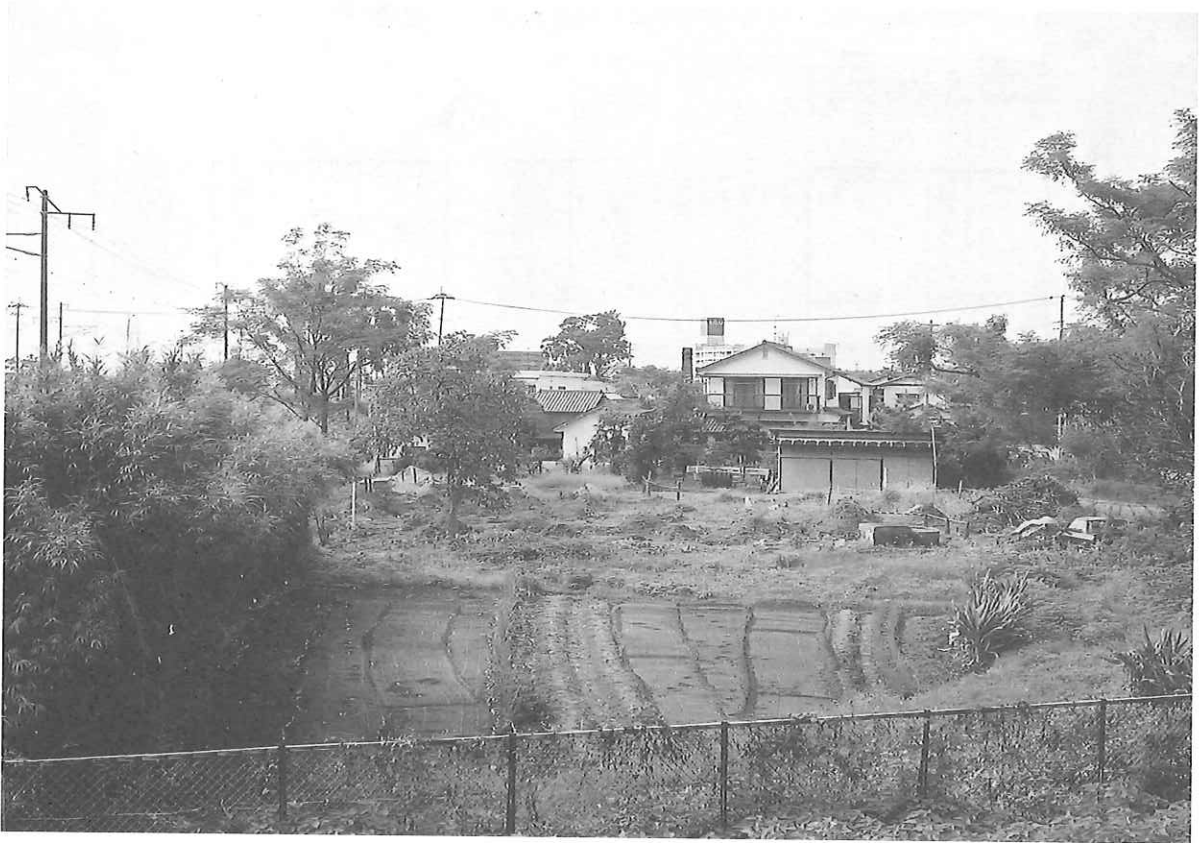


写真10 高瀬御茶屋跡調査地全景 東から



写真11 高瀬御茶屋跡17T遺構検出状況 東から

10 立願寺廃寺

所在地：立願寺字塔ノ尾1210-4

調査原因：車庫建設

対象面積：143.5㎡

調査期間：17年10月6日～10月7日

担当者：末永 崇

調査地は、玉名市の中西部、小代山南側丘陵部に接する玉名台地北端部の標高34m程の地点である。近年まで畑地であったが、調査時は、砂利敷きの駐車場として利用されていた。古代寺院の推定地で、過去数回の確認調査では、大量の古代瓦等が出土している。

調査では、車庫基礎部7ヶ所にトレンチを設定した。このうち、1・4・5・6・7トレンチで古代の遺物（瓦・須恵器）を含む遺構を確認した。しかし、調査範囲が狭小であり、トレンチごとに土層の堆積状況が異なることから、他遺構の存在や、整地の可能性も考えられる。これらは、遺物の内容から古代寺院に伴うものである可能性が高いと考えられる。

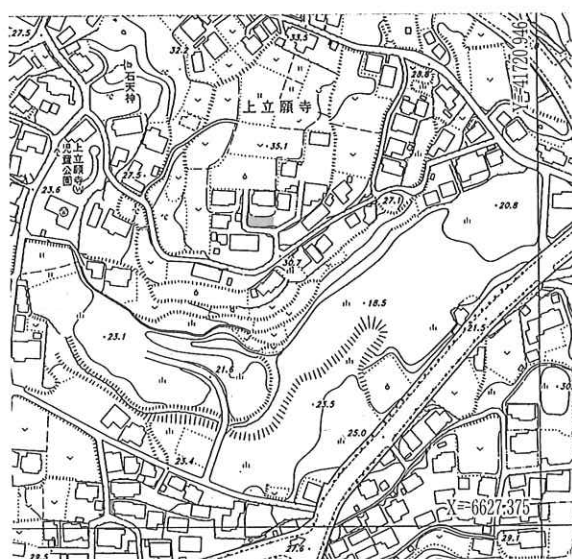
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、今回調査を行った範囲以外は掘削が行われなため、調査後の措置は慎重工事となった。



第41図 立願寺廃寺トレンチ配置図 S=1/1,000



写真12 立願寺廃寺調査地全景 西から

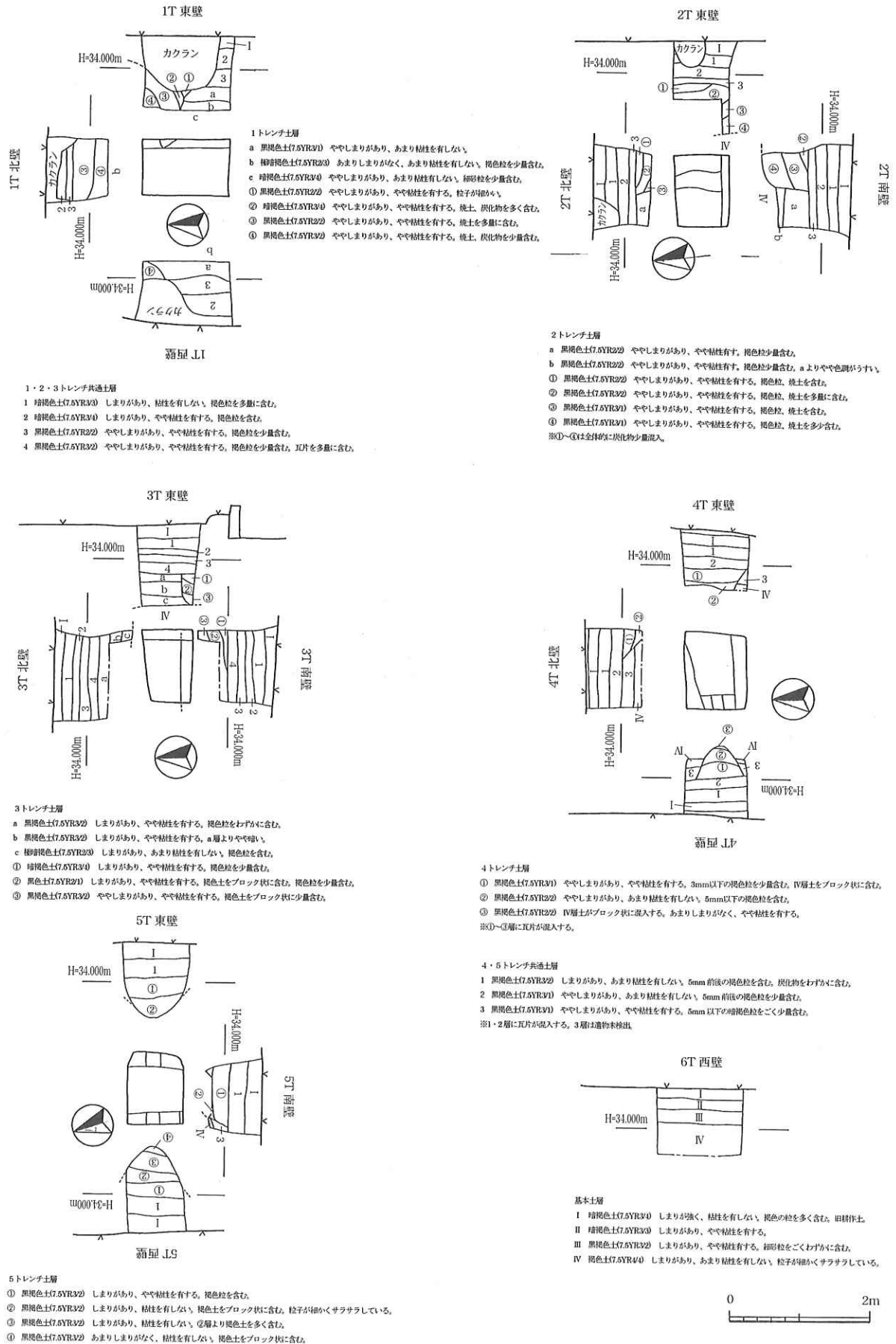


第40図 立願寺廃寺調査地位置図 S=1/5,000



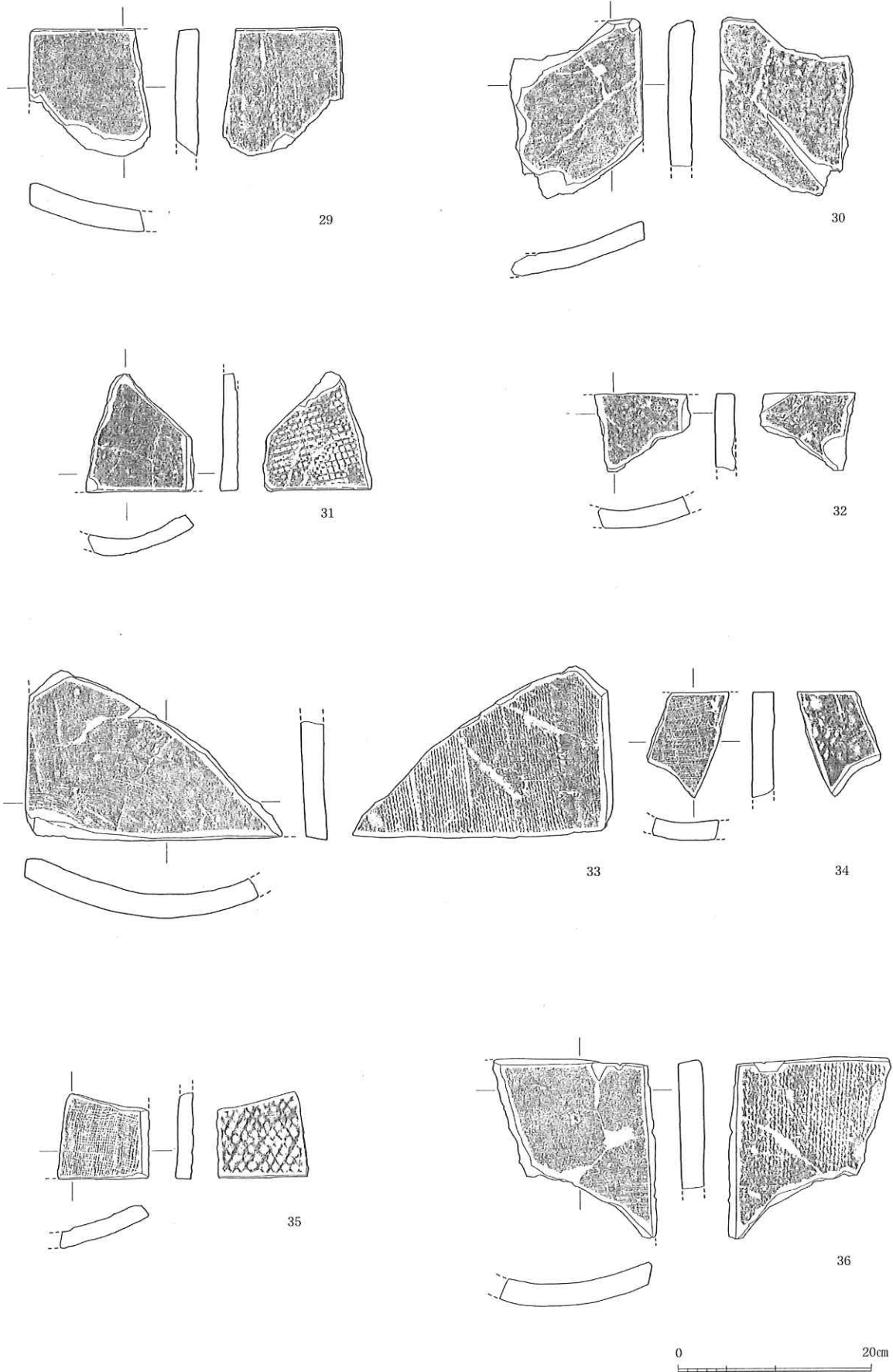
写真13 立願寺廃寺4T遺構検出状況 東から

Ⅱ 平成17年度の調査



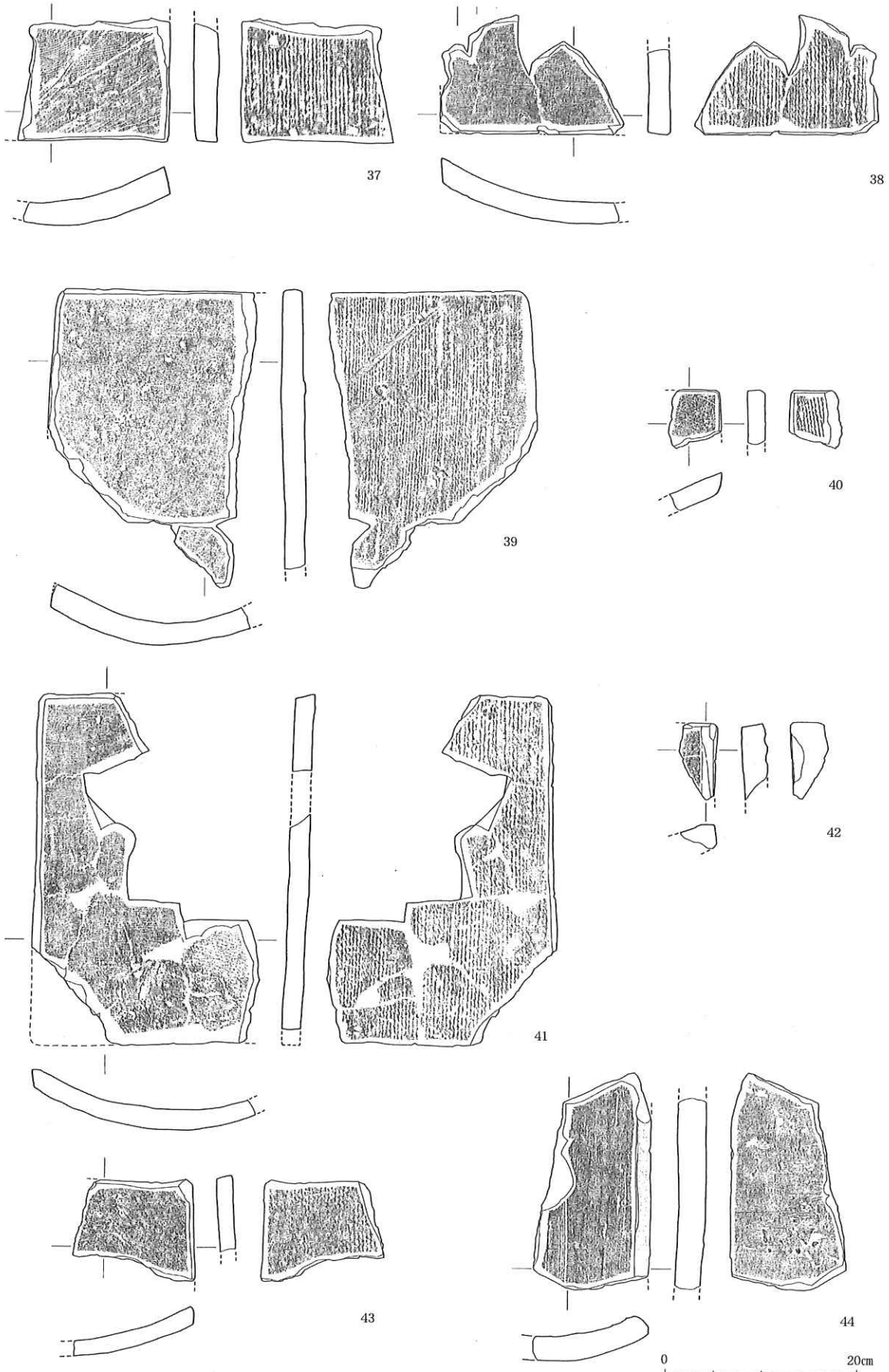
第42図 立願寺廃寺トレンチ実測図

II 平成17年度の調査



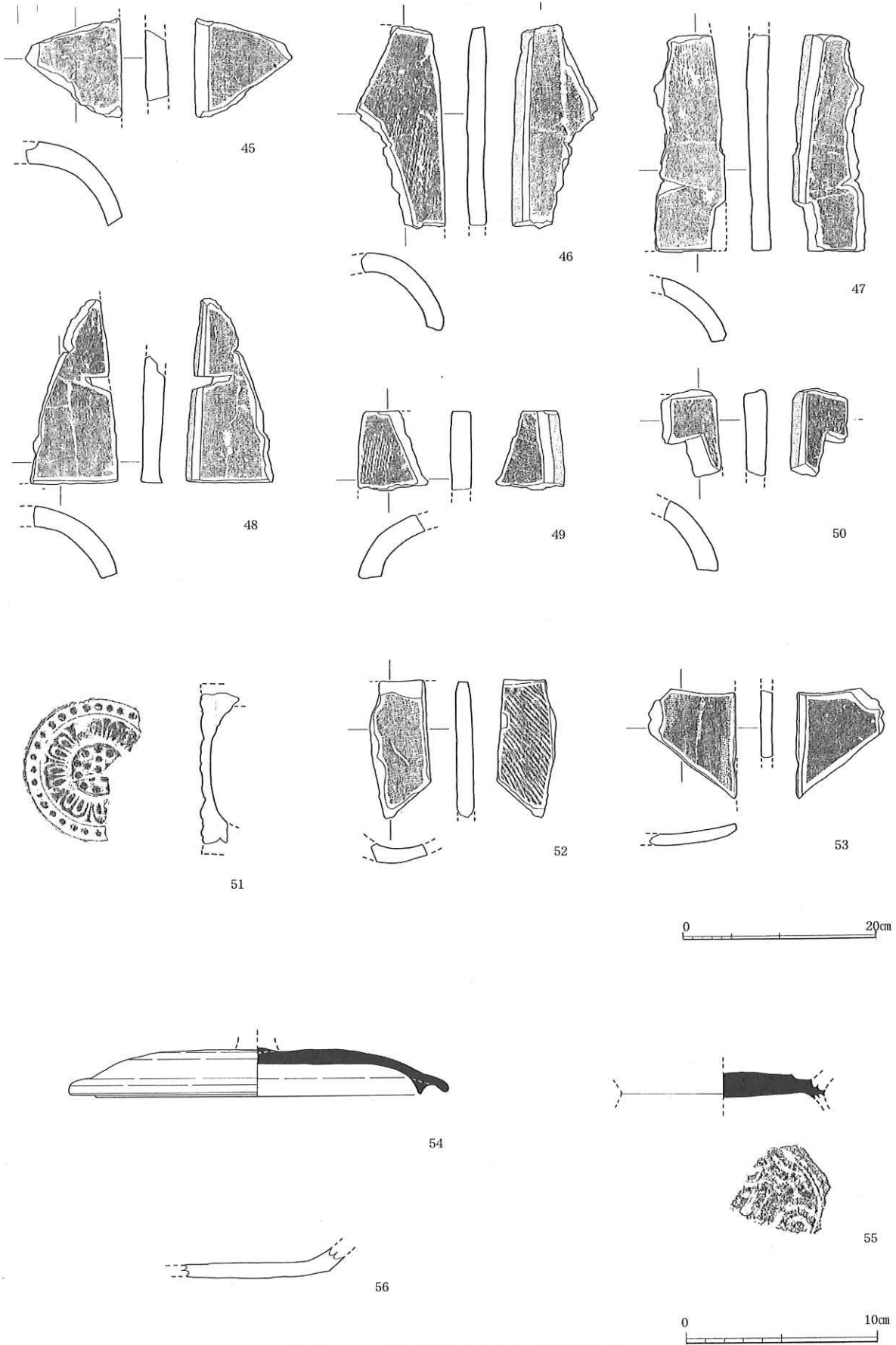
第43図 立願寺廃寺出土遺物実測図1

II 平成17年度の調査



第44図 立願寺廃寺出土遺物実測図2

II 平成17年度の調査



第45図 立願寺廃寺出土遺物実測図3

1 1 立願寺大塚古墳

所在地：立願寺字大塚1087

調査原因：鉄塔建設

対象面積：703m²

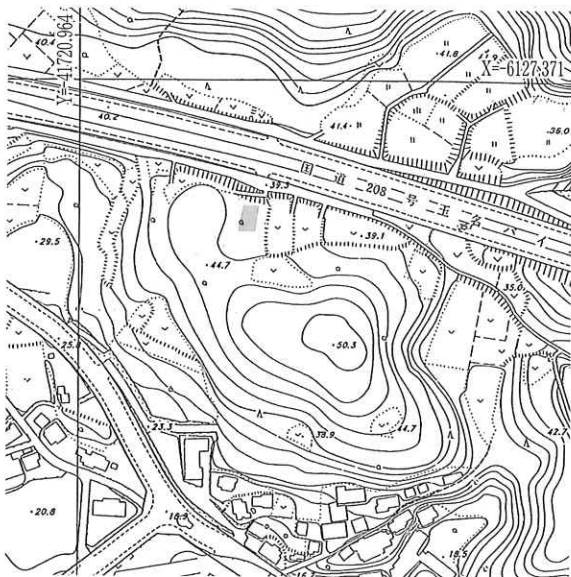
調査期間：17年10月13日～10月14日

担当者：末永 崇

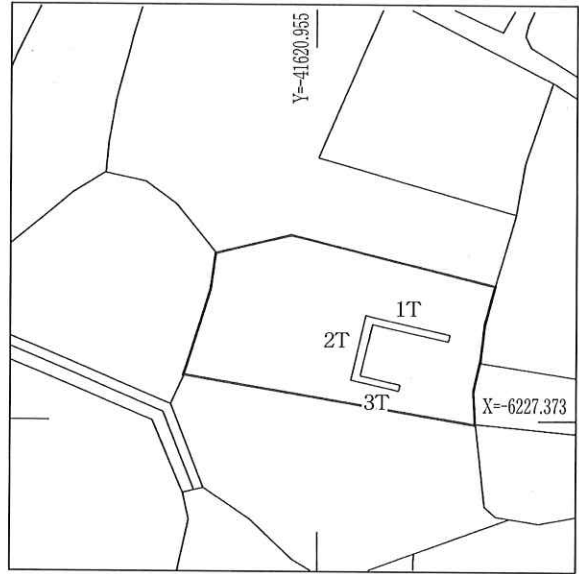
調査地は、小代山南側丘陵部に接する、玉名台地北端部の標高34m程の地点である。施工予定地は、残存している墳丘の20m程東側で、東側への傾斜地を造成し、畑地とした箇所である。

調査では、施工に伴い掘削される範囲に、コの字形に1～3トレンチを設定した。各トレンチとも、I層は表土、II～V層は暗褐色を呈する層、VI層以下は明褐色のローム層である。II～V層中より、土師質の土器細片を数点確認し、1トレンチではIV層上面からの落ち込みを2ヶ所で確認した。しかし、層の堆積状況や周辺の地形から、II～V層は、畑地造成に伴う盛土と考えられ、2ヶ所の落ち込みもその形状から倒木痕と判断した。その他青磁細片1点を表採したのみで、遺構は確認されなかった。

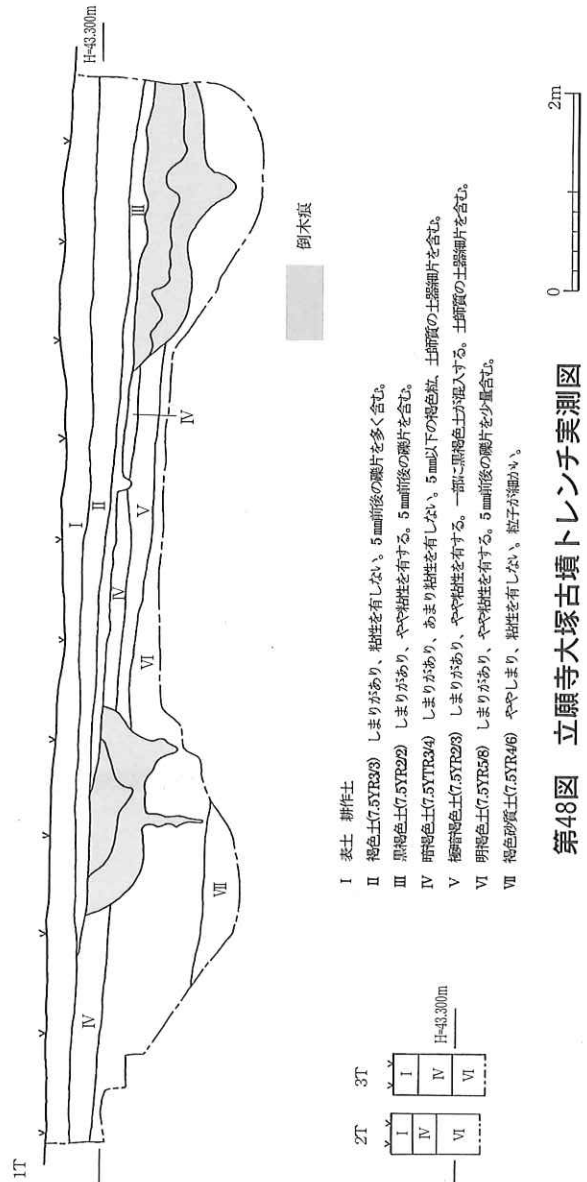
調査後の措置は、慎重工事である。



第46図 立願寺大塚古墳調査地位置図 S=1/5,000



第47図 立願寺大塚古墳トレンチ配置図 S=1/1,000



第48図 立願寺大塚古墳トレンチ実測図

12 伊倉宮の後遺跡

所在地：伊倉北方字本村屋敷2915地先

調査原因：擁壁建設

対象面積：57㎡

調査期間：17年10月20日～18年1月12日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川左岸に面した伊倉丘陵性台地南西部の標高36m程の地点である。伊倉北八幡宮の北側隣接地で、伊倉保育所の敷地西側に、南北約35mにわたって所在する高さ約1.5mの石垣である。

調査では、現況で観察可能な北から約23mを実測し、2カ所にトレンチを設定した。石垣は、野面石を乱積みしているが、全体的に崩落しかけており、部分的に修理が繰り返されていた。2カ所のトレンチでは、石垣の裏込めに多量に混入した、近世及び近代の陶磁器片、瓦片を確認した。このことから、この石垣は、近代以降に造られたと考えられる。

調査後の措置は、慎重工事である。



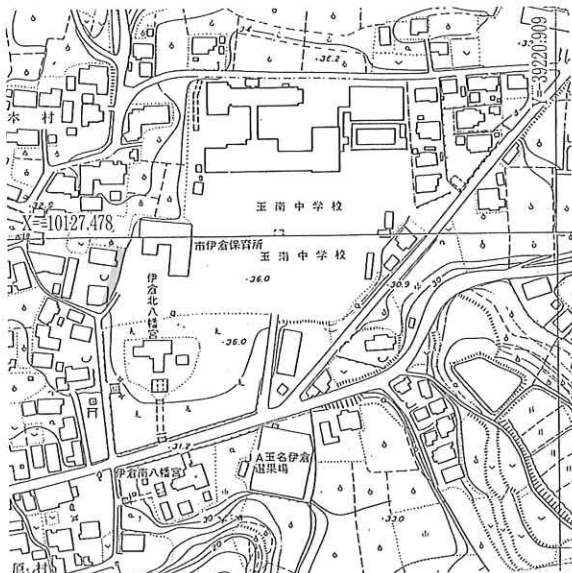
第50図 伊倉宮の後遺跡調査範囲図 S=1/1,000



写真14 伊倉宮の後遺跡調査地全景 西から



写真15 伊倉宮の後遺跡調査地近景 南から



第49図 伊倉宮の後遺跡調査地位置図 S=1/5,000

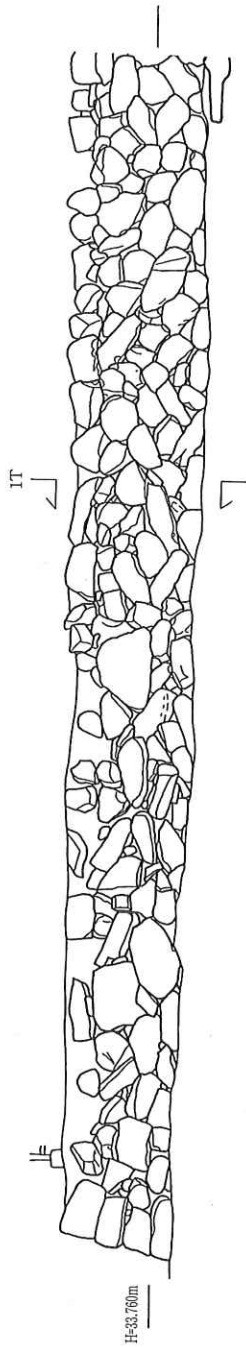
II 平成17年度の調査



写真16 伊倉宮の後遺跡1T土層



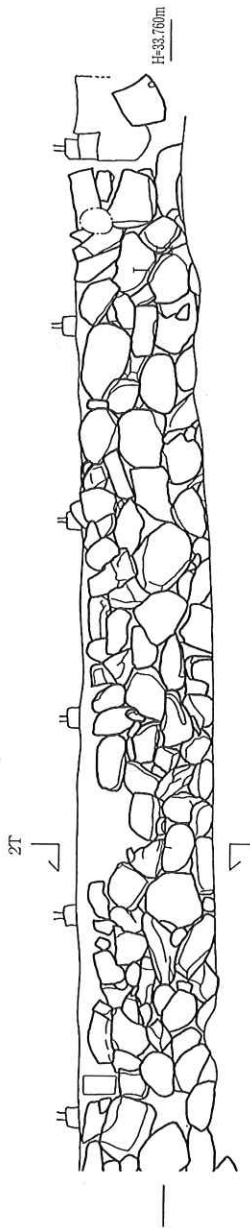
写真17 伊倉宮の後遺跡2T土層



1T土層

- I 表土
- II 暗褐色土(OYTR20) あまりしまりがなく、粘性を有しない。
- III 暗褐色土(OYTR20) ややしまりがあり、粘性を有しない。赤褐色の粒を含む。
- IV 暗褐色土(OYTR20) ややしまりがあり、粘性を有しない。炭化物を少量含む。
- V 暗褐色土、赤褐色土、褐色土の混成土 ややしまりがあり、粘性を有しない。
- VI 暗褐色土と褐色土の混成土 ややしまりがあり、粘性を有しない。赤褐色土を粒状に少量含む。
- VII 暗褐色土と暗褐色土の混成土 あまりしまりがなく、粘性を有しない。褐色土を粒状に少量含む。
- VIII 暗褐色土と暗褐色土の混成土 あまりしまりがなく、粘性を有しない。
- IX 灰褐色土(OYTR20) あまりしまりがなく、粘性を有しない。暗褐色土を少量含む。
- X 暗褐色土(OYTR20) しまりがなく、粘性を有しない。

- 1 におよぶ暗褐色土(OYTR40) しまりがあり、粘性を有しない。トタンなどの埋物の建築残存を含む。
- 2 灰褐色土(OYTR60) ややしまりが、粘性を有しない。暗褐色土がブロック状に混入する。



2T土層

- I 表土
- II 暗褐色土(OYTR30) しまりがなく、粘性を有しない。
- III 暗褐色土(OYTR30) しまりがなく、粘性を有しない。赤褐色土をブロック状に少量含む。
- IV 暗褐色土、暗褐色土、暗褐色土の混成土 ややしまりがあり、粘性を有しない。
- V 灰褐色土(OYTR60) ややしまりがあり、粘性を有しない。赤褐色土を少量含む。
- VI におよぶ暗褐色土(OYTR40) ややしまりがあり、粘性を有しない。暗褐色土(OYTR60)を少量含む。
- Ⅶ~Ⅺ 暗褐色土、灰褐色土、赤褐色土の混成土 ややしまりがあり、粘性を有しない。
- XII 暗褐色土(OYTR20) しまりがなく、粘性を有しない。

- 1 暗褐色土(OYTR30) ややしまりがあり、粘性を有しない。現地の混成土。
- 2 灰褐色土(OYTR60) ややしまりがあり、粘性を有しない。炭化物をわずかに含む。

- A 暗褐色土(OYTR20) しまりがなく、粘性を有しない。
 - B 暗褐色土(OYTR20) Aよりややしまりがあり、粘性を有しない。
- ※A・Bは石積の隙間により掘込みの間に生じた隙間に泥み込んだものと思われる。



第51図 伊倉宮の後遺跡石積・土層断面実測図

13 繁根木遺跡群B地点

所在地：繁根木54-11

調査原因：専用住宅建設

対象面積：256.44㎡

調査期間：17年10月26日～10月27日

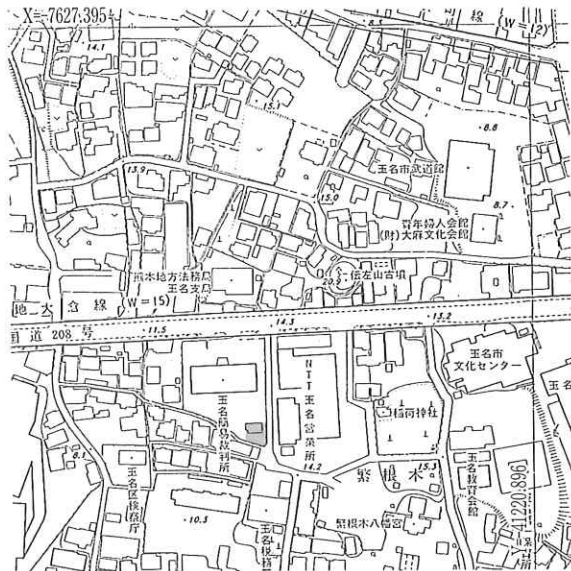
担当者：末永 崇

調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中央南端部の標高14.2m程の地点に位置する。

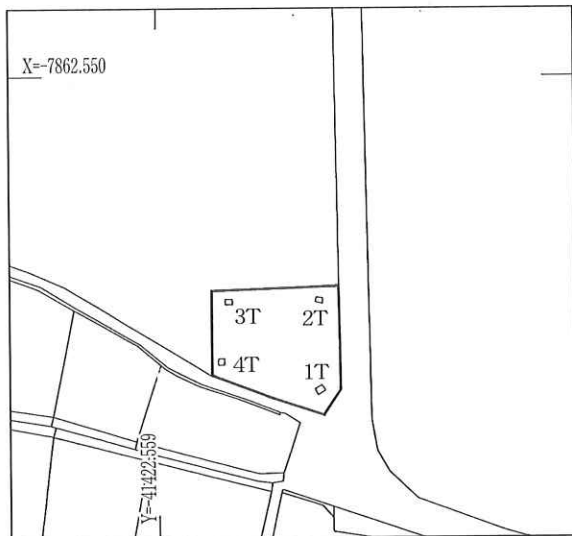
調査時の状況は、建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内の四隅にトレンチを設定した。調査の結果、遺構は確認されず、遺物は、土器細片が数点確認されたのみであった。

調査後の措置は、慎重工事である。



第52図 繁根木遺跡群B地点位置図 S=1/5,000



第53図 繁根木遺跡群B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真18 繁根木遺跡群B地点調査地全景 南から



写真19 繁根木遺跡群B地点1T全景 東から



写真20 繁根木遺跡群B地点2T全景 南から

14 凸版印刷工場予定地

所在地：大倉山ノ後152-1

調査原因：工場建設

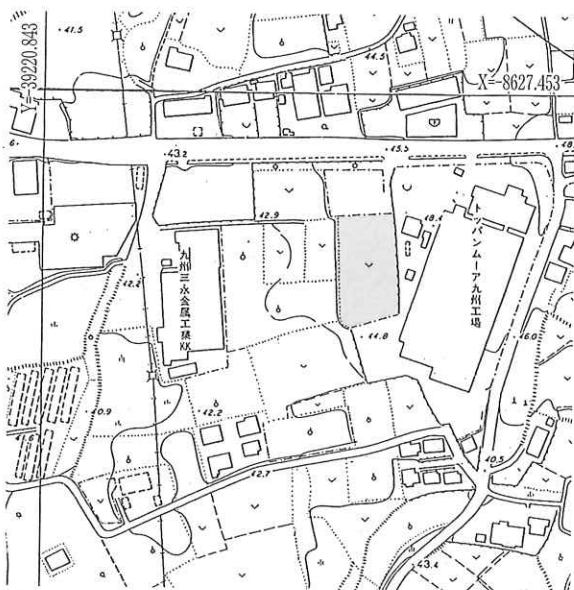
対象面積：2,438m²

調査期間：17年11月1日～11月2日

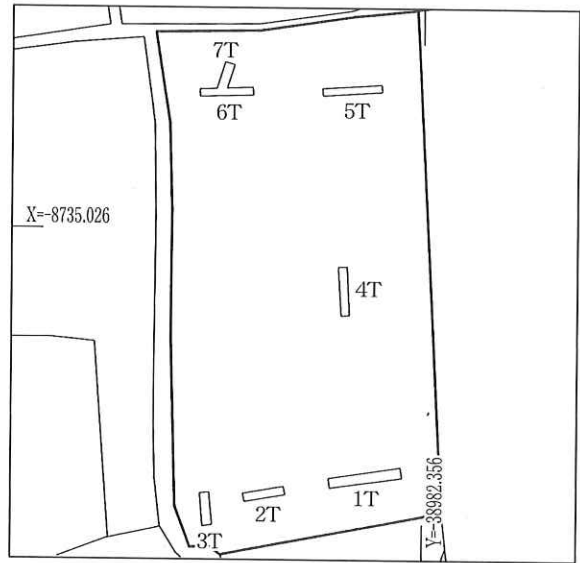
担当者：蜷父雅史

調査地は、菊池川左岸に面した伊倉丘陵性台地北側の標高44m程の地点である。国道208号線南側沿いの敷地で、調査時の状況は耕作の行われていない畑地であった。

調査では、工場予定地内に7カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、Ⅰ～Ⅲ層は近世～現代の耕作土、Ⅳ～Ⅸ層は、しまりのない黒褐色、暗褐色、褐色を呈する層、Ⅹ層は明褐色土であった。堆積状況から、調査地の南西に向かって谷状に落ち込んでいると考えられる。Ⅳ～Ⅸ層には、土器細片が少量含まれるが、北側に隣接する吉丸西遺跡の影響によるものと考えられる。遺構は、1・3トレンチで溝及び畑の畝と思われるものを確認したが、ともに時期は不明である。また、6・7トレンチで国道建設以前の旧道跡の一部と考えられる落ち込みを確認した。しかし、その他文化財保護の対象となるような明確な遺構、遺物は確認されなかった。



第54図 凸版印刷工場予定地調査地位置図 S=1/5,000



第55図 凸版印刷工場予定地トレンチ配置図 S=1/1,000

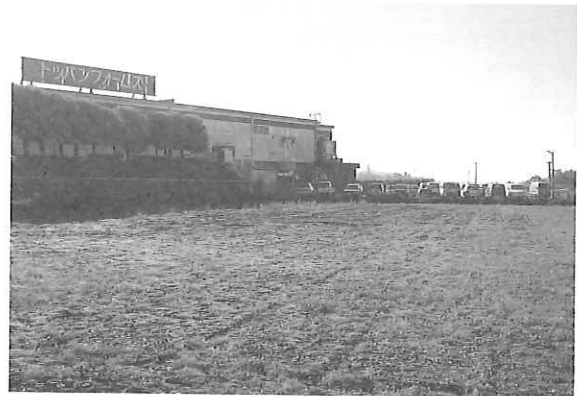
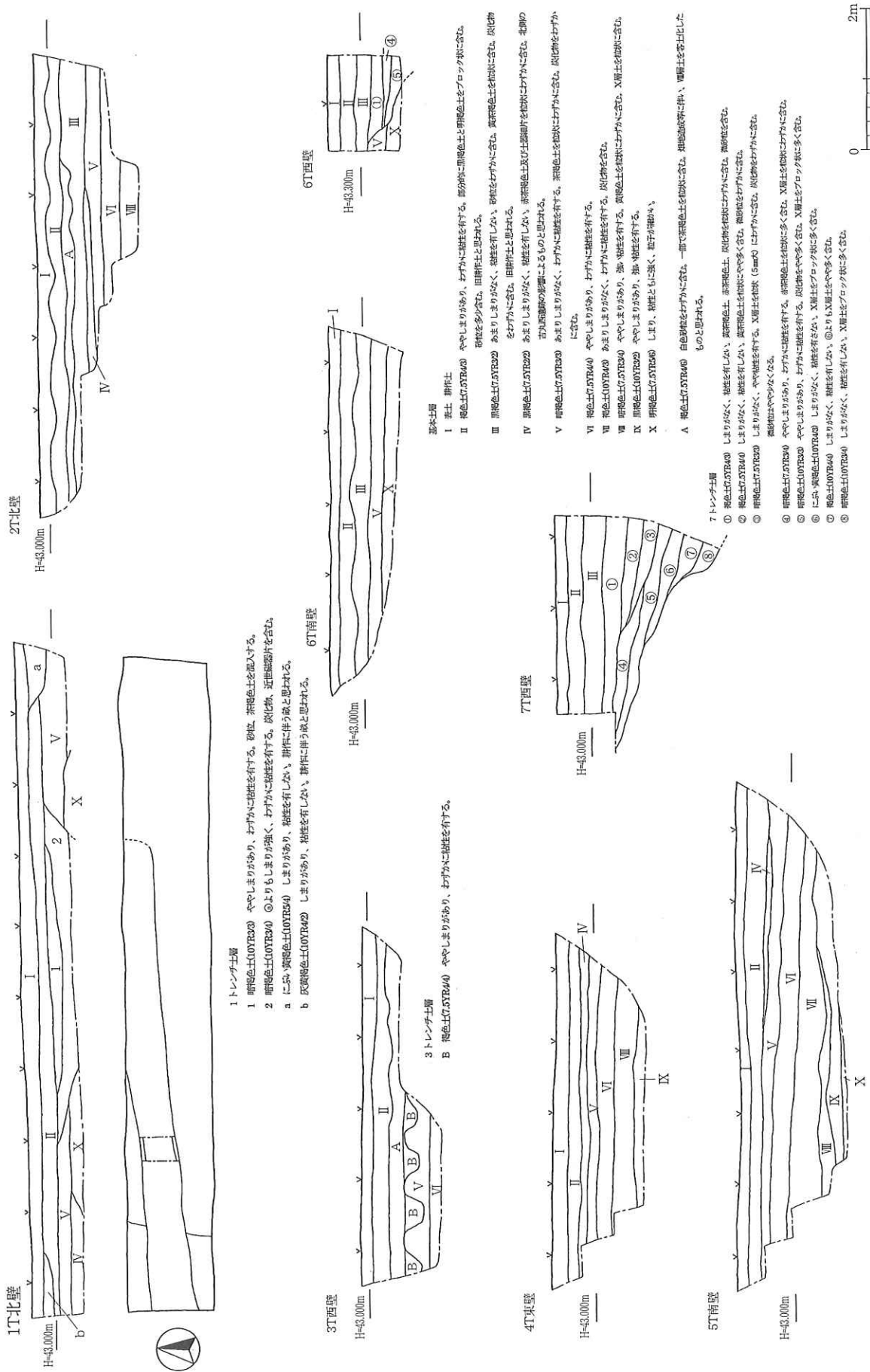


写真21 凸版印刷工場予定地全景 北から



写真22 凸版印刷工場予定地7T土層 東から

II 平成17年度の調査



第56図 凸版印刷工場予定地トレンチ実測図

15 川部田遺跡

所在地：川部田字東屋敷439、441-1

調査原因：宅地造成

対象面積：1,714m²

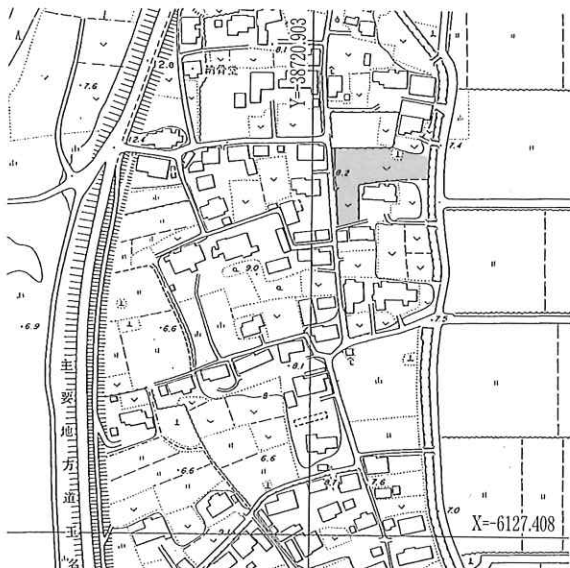
調査期間：17年11月14日

担当者：齋父雅史

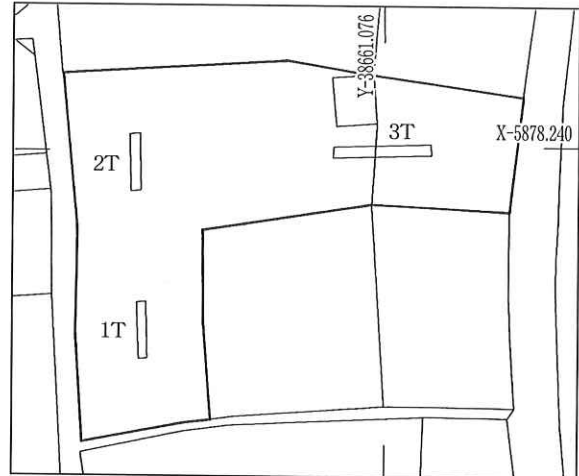
調査地は、菊池川左岸の玉名平野西端部に接する自然堤防上に位置する、標高8.2m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に3カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、現況面から1.2~1.4mの深さまで畑、水田の耕作土が堆積しており、その下層は河川氾濫に伴う砂の堆積層であった。畑、水田の時期については、遺物が確認されていないため不明であるが、近現代のものではないかと思われる。その他遺構は確認されなかった。

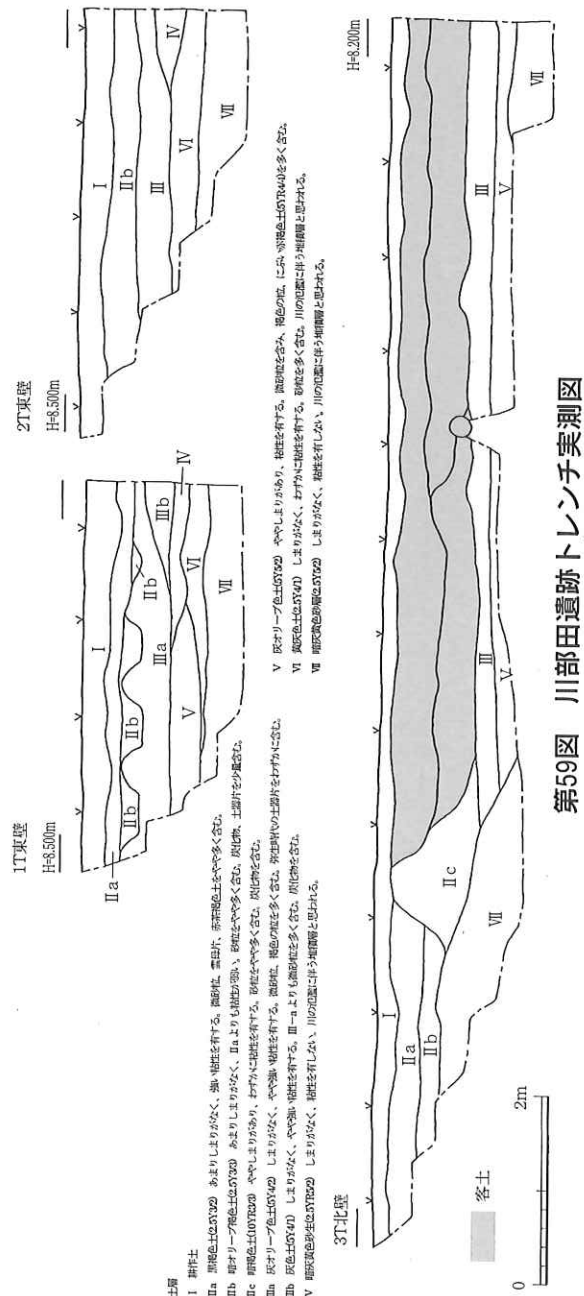
調査後の措置は、慎重工事である。



第57図 川部田遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第58図 川部田遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第59図 川部田遺跡トレンチ実測図

16 中土西遺跡A地点

所在地：岱明町中土974-2

調査原因：岱明町文化センター建設

対象面積：2,500m²

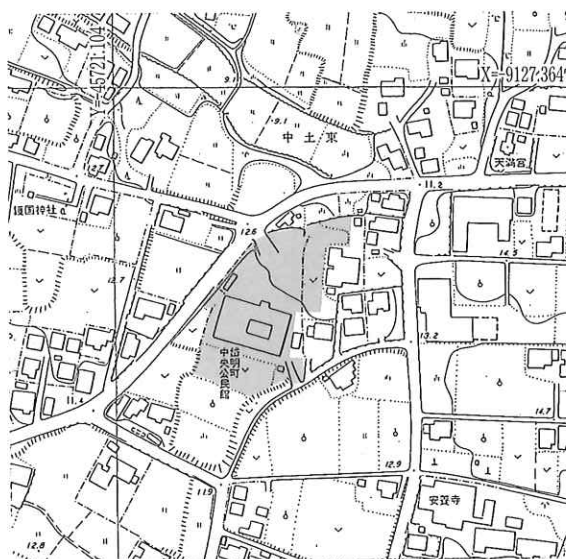
調査期間：17年11月15日～12月21日

担当者：中村安宏

調査地は、玉名市の西部、小代山南部を源流とする境川と行末川の間には北から張り出した玉名台地南側の標高14m程の地点である。調査時の状況は、現岱明町中央公民館とアスファルト舗装による駐車場であった。

調査では、事業予定地内に6ヶ所のトレンチを設定した。I層は表土で、アスファルト、碎石、耕作土等である。II a・b層は1～10mm大の小礫を多量に混入し、厚さが1m前後に及ぶ。おそらく耕作地造成に伴う客土と考えられる。III層は黒褐色土で、1トレンチで弥生土器小片が微量出土した。IV a・b層は極暗褐色土及び暗褐色土で、1～5トレンチでIV a層より弥生土器小片が微量出土した。また、2トレンチIV a層上面で時期不明の南北方向に延びる溝、1・3トレンチIV b層上面で不定形の浅いピットを検出したが、いずれも時期は不明である。V a・b層は黒褐色土、VI層は褐色土であった。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、遺構、遺物ともに低密度で散漫な状況だった。このため発掘調査の必要はないものと考えられたが、その後計画が中断されており、建設は行われていない。



第60図 中土西遺跡A地点位置図 S=1/5,000

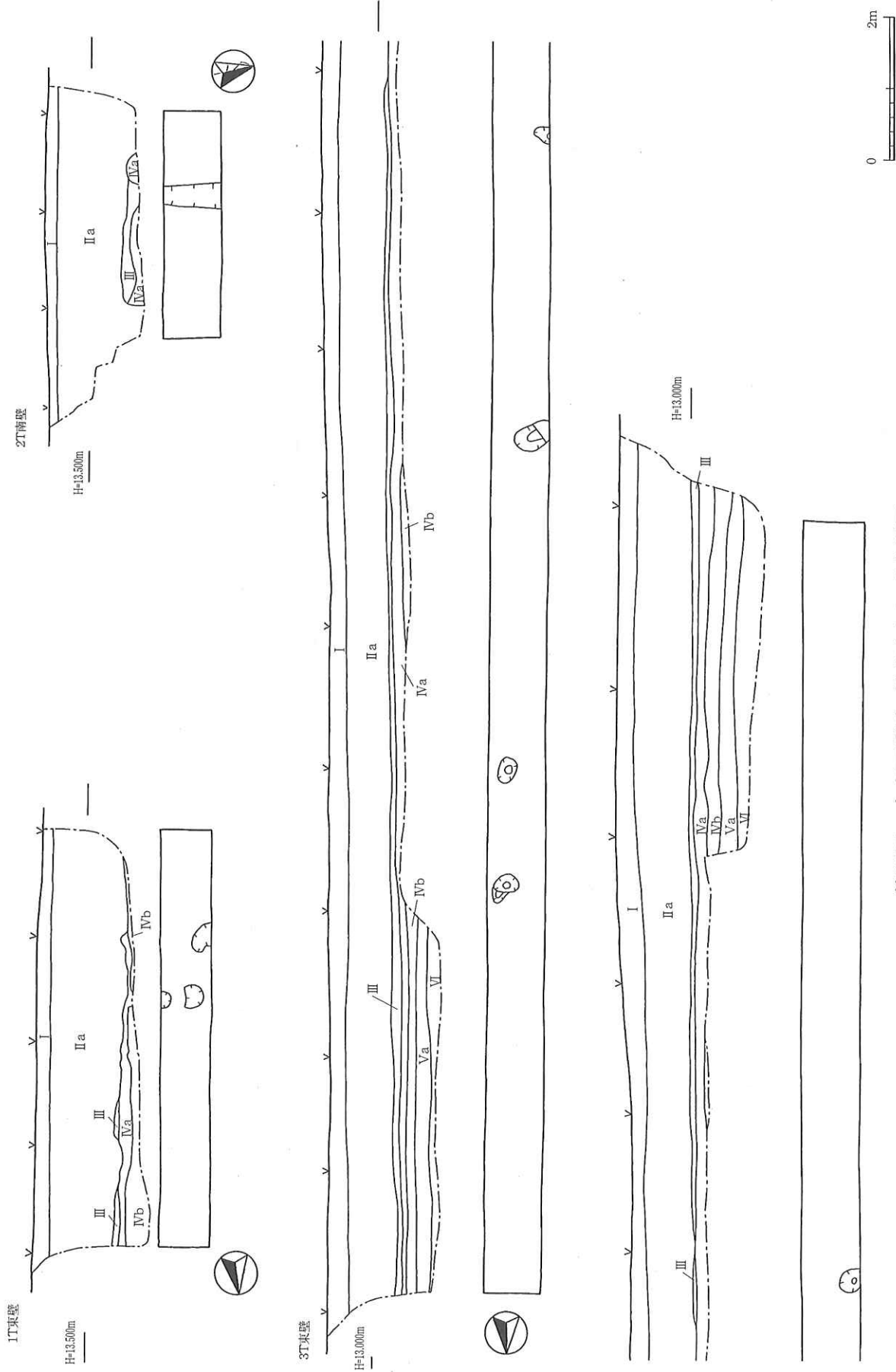


第61図 中土西遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/2,000



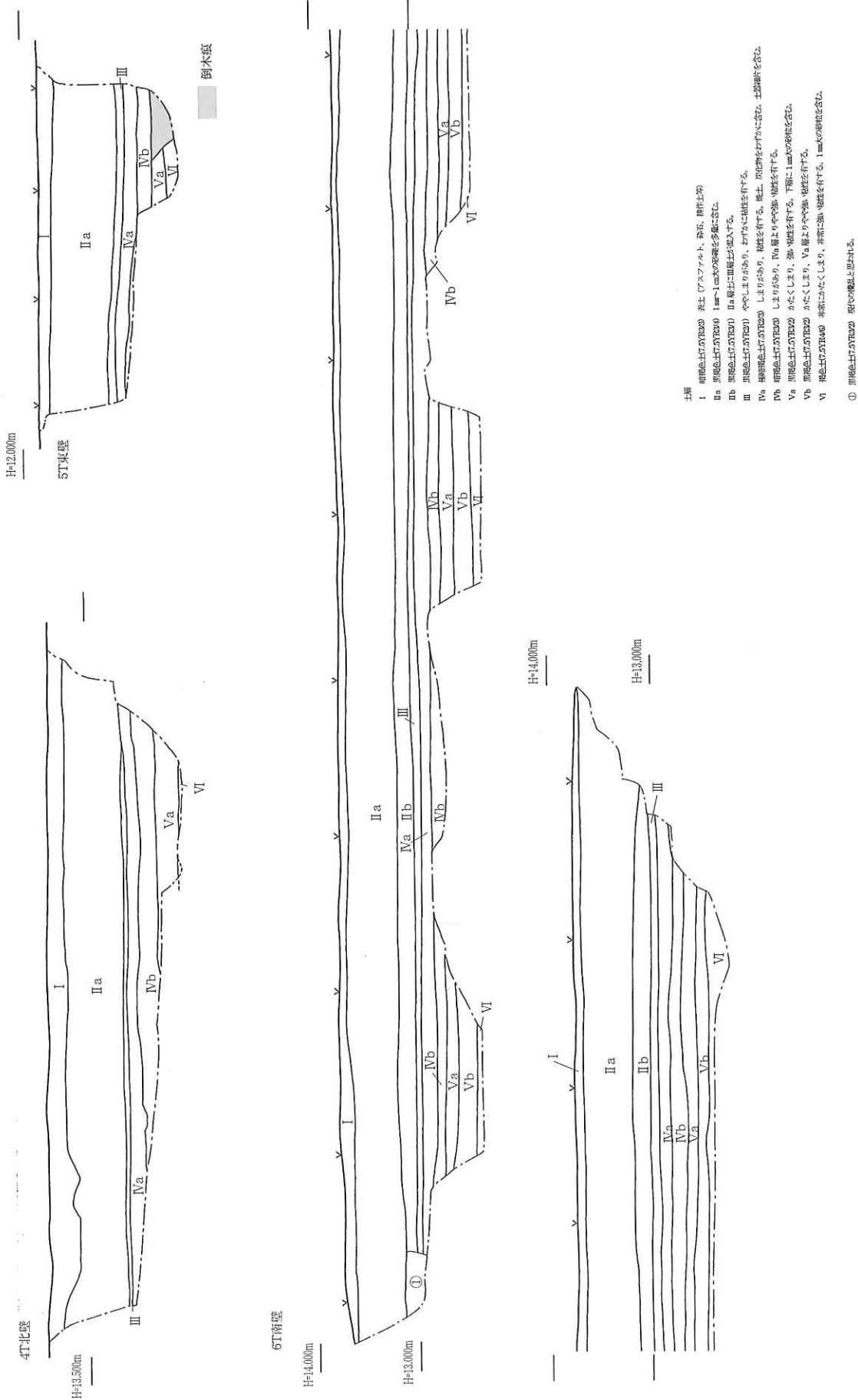
写真23 中土西遺跡A地点全景 北から

II 平成17年度の調査



第62図 中土西遺跡A地点トレンチ実測図1

II 平成17年度の調査



第63図 中土西遺跡A地点トレンチ実測図2



17 高岡原遺跡C地点

所在地：山田字高岡原2041-3

調査原因：鉄塔建設

対象面積：291m²

調査期間：17年11月17日

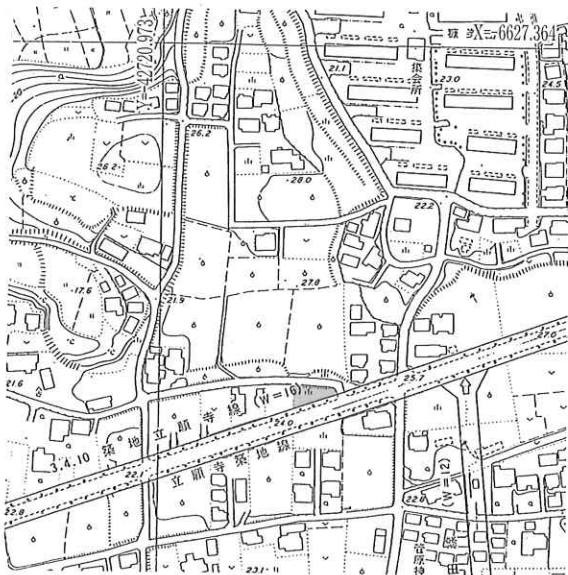
担当者：田中康雄

調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高25m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる、高岡原遺跡の中央部北側に位置する。

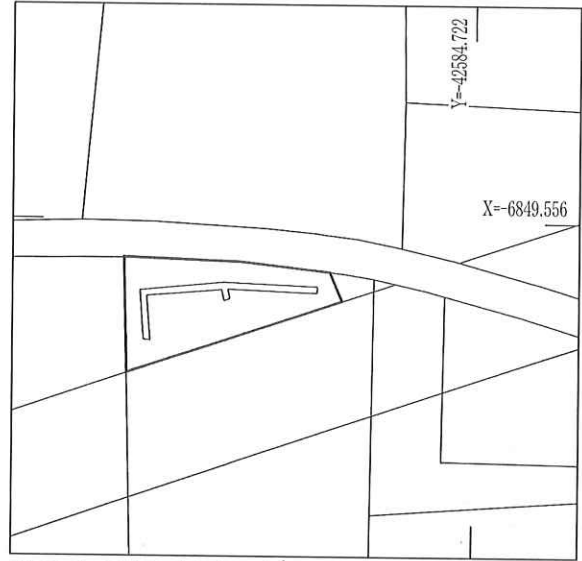
調査では、敷地東側から西側に向かってL字形のトレンチを設定した。トレンチのほぼ全体にわたって、表土直下のⅡ層上面で、弥生時代のものと考えられる遺構を確認した。

調査の結果を受け、施主側と協議を行い、埋蔵文化財に影響を与える範囲について発掘調査を行うことになった。

発掘調査の詳細については、別途刊行予定の報告書に掲載する。



第64図 高岡原遺跡C地点地位置図 S=1/5,000



第65図 高岡原遺跡C地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真24 高岡原遺跡C地点全景 東から



写真25 高岡原遺跡C地点遺構検出状況 南から

18 玉名平野条里跡B地点 両迫間日渡遺跡

所在地：玉名御琴1218-2外15筆

調査原因：新幹線新玉名駅周辺整備事業

対象面積：30,699m²

調査期間：17年11月21日～18年3月31日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川右岸の玉名平野中央部に位置する標高6m程の地点である。玉名平野条里跡と両迫間日渡遺跡の重複箇所、調査時の状況は水田及び水路である。

調査では、事業用地内に41カ所のトレンチを設定し、弥生時代から古墳時代にかけての遺物及び、古代から中世にかけての遺物を検出した。詳細については、発掘調査の報告書に掲載する予定である。



第66図 玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡位置図 S=1/5,000



第67図 玉名平野条里跡・両迫間日渡遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000

19 玉名平野条里跡C地点

所在地：六田7-1

調査原因：事務所建設

対象面積：6,031.8㎡

調査期間：17年12月21日～12月26日

担当者：田中康雄

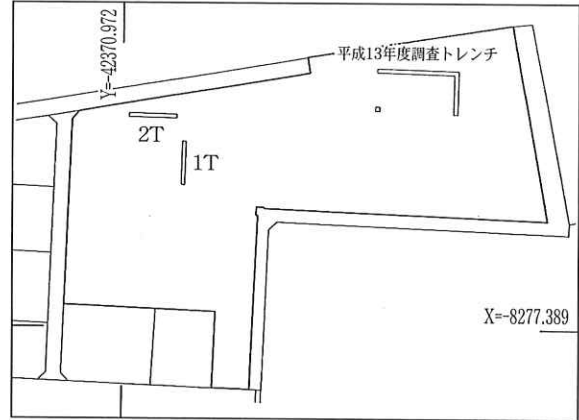
調査地は、JR玉名駅の南側、菊池川右岸平野部に位置する標高4m程の地点で、現況は砂利敷きの駐車場である。平成13年度に、同敷地内の事務所建設に伴う確認調査を実施し、その際の処置は慎重工事であった。

調査では、建物の北側と東側の基礎部分にトレンチを設定した。両トレンチとも、現代の水田耕作面と思われるものは確認されたが、古代条里跡に伴う水田面や畦、溝等は確認されなかった。

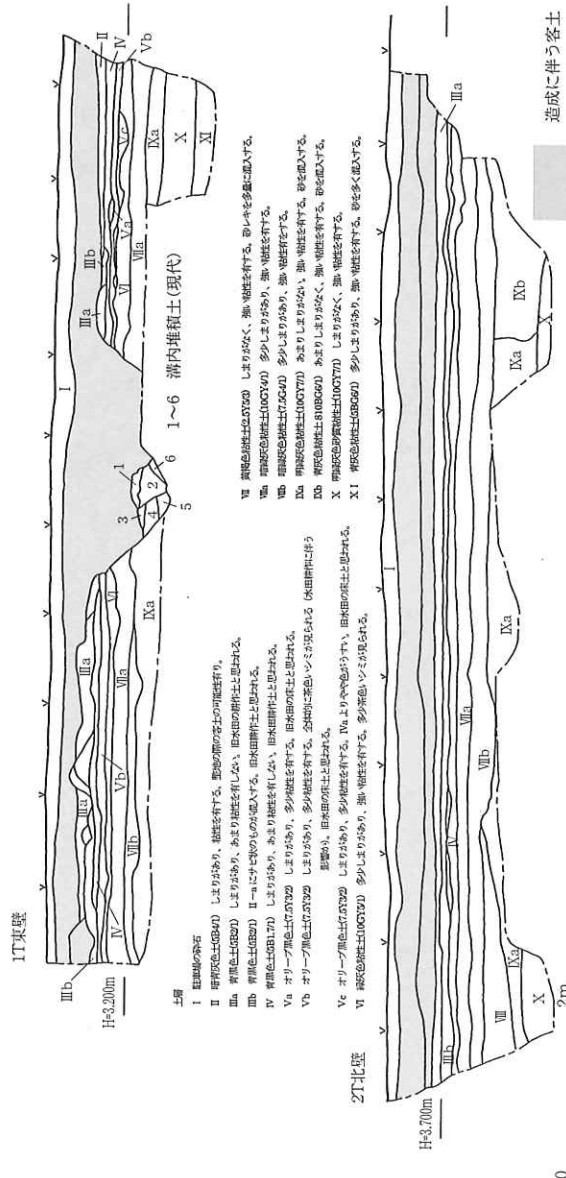
調査後の措置は、慎重工事である。



第68図 玉名平野条里跡C地点位置図 S=1/5,000



第69図 玉名平野条里跡C地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第70図 玉名平野条里跡C地点トレンチ実測図

20 岩崎原遺跡

所在地：岩崎字北岩原1317、1319

調査原因：運動場建設

対象面積：2,537㎡

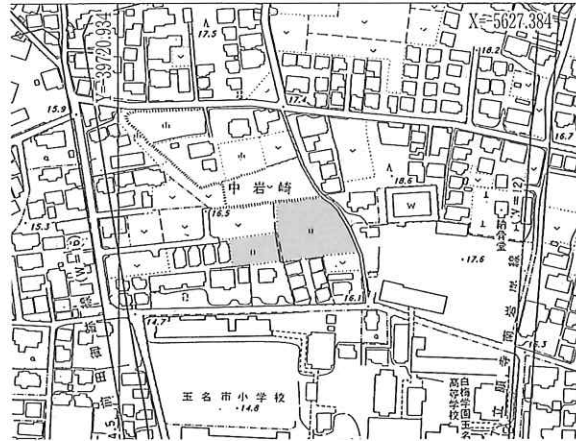
調査期間：18年1月10日～1月25日

担当者：中村安宏

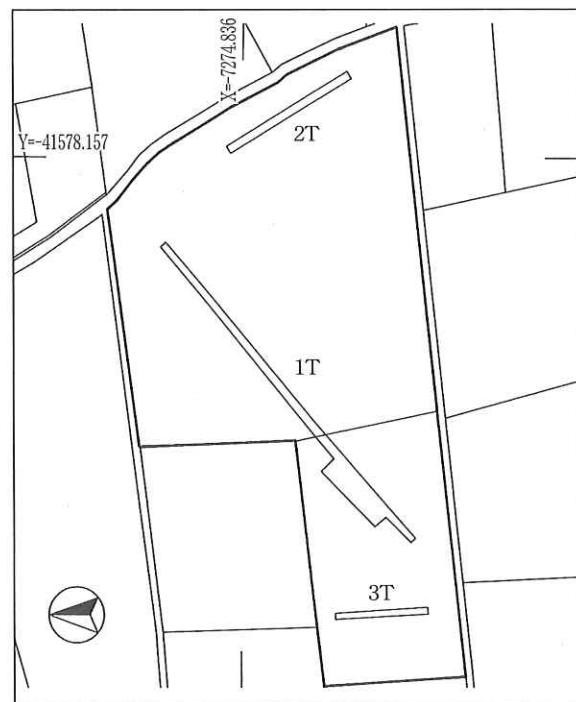
調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中西部に位置する標高17m程の地点である。近世末期高瀬藩陣屋跡の範囲にも含まれ、北西隣接地には、古代道路跡推定地も所在する。

調査では、造成予定地の東側に2トレンチ、西側に3トレンチ、隣接する古代道路跡推定地の延長線上に直交するように1トレンチを設定した。これらのうち、1トレンチでは、明確な遺物包含層は確認されなかったが、古代道路跡推定地の延長線上に、大型の溝状遺構が確認された。遺構内からは、中世から近世にかけての挿鉢片、瓦質土器片、陶磁器片、瓦片が出土したが、硬化面等の道路跡と想定されるものは確認されなかった。2・3トレンチでは、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、掘削が埋蔵文化財に影響を与えないため、調査後の措置は、慎重工事となった。



第71図 岩崎原遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第72図 岩崎原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真26 岩崎原遺跡調査地全景 東から

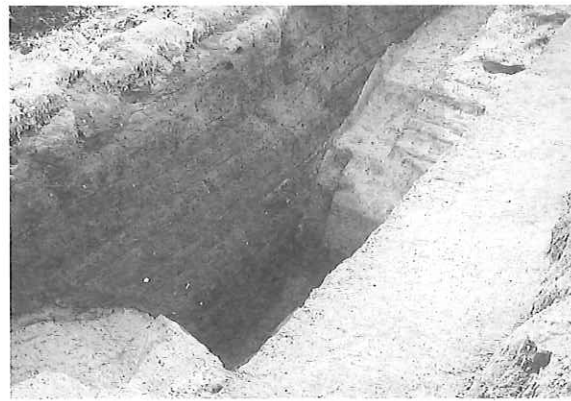
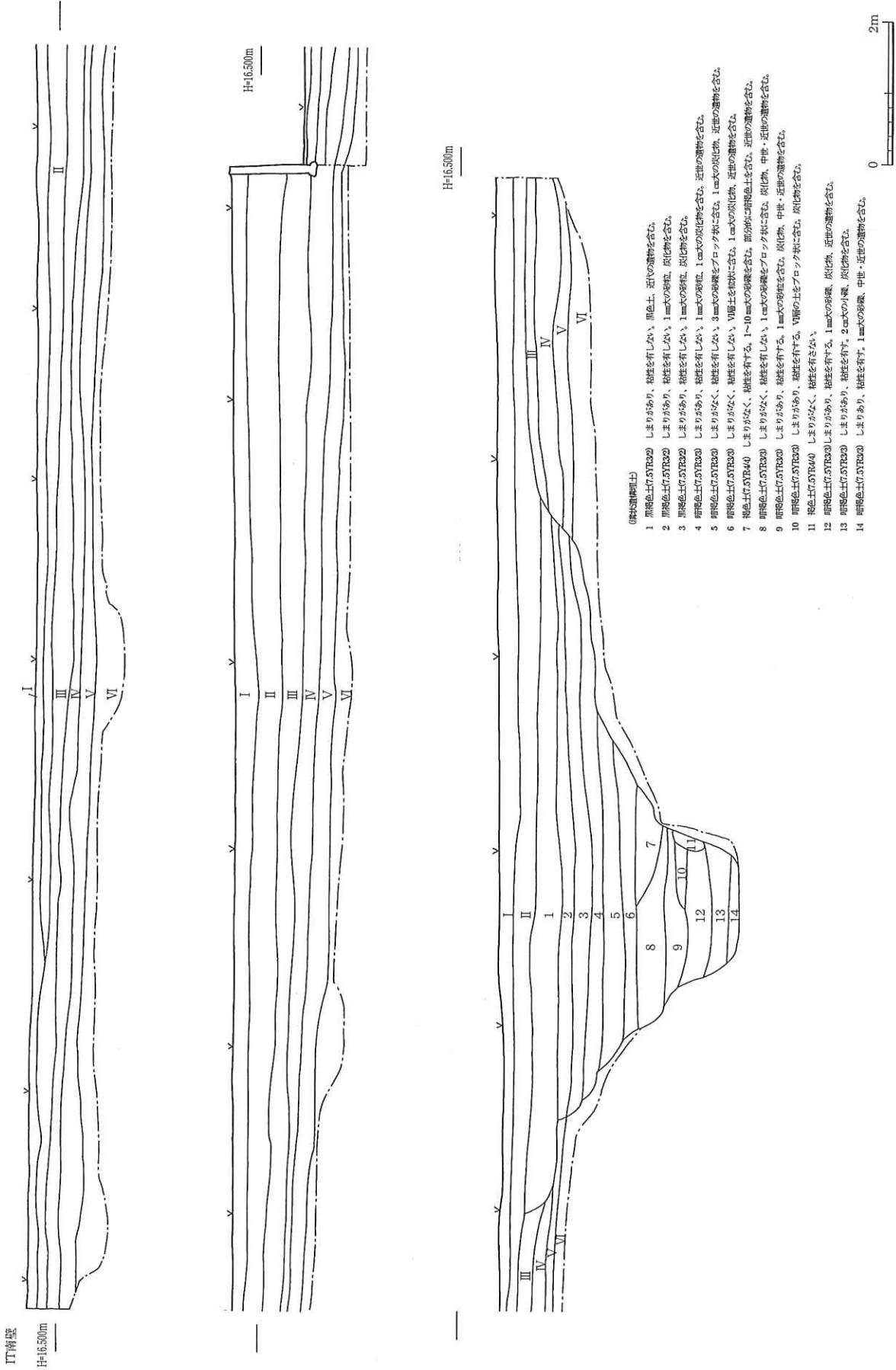
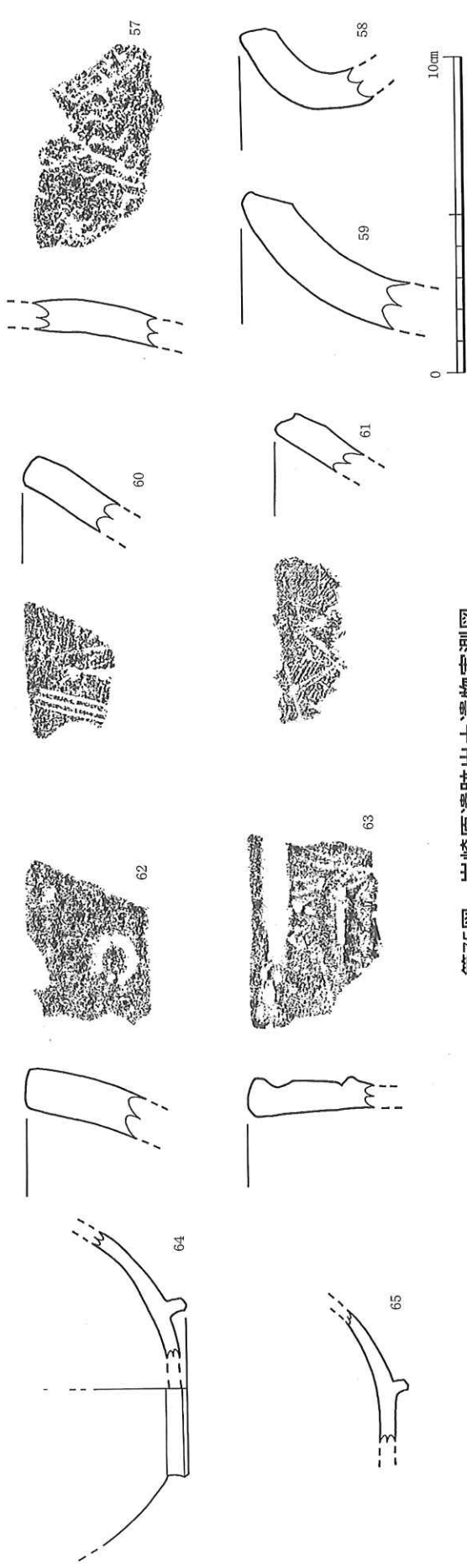
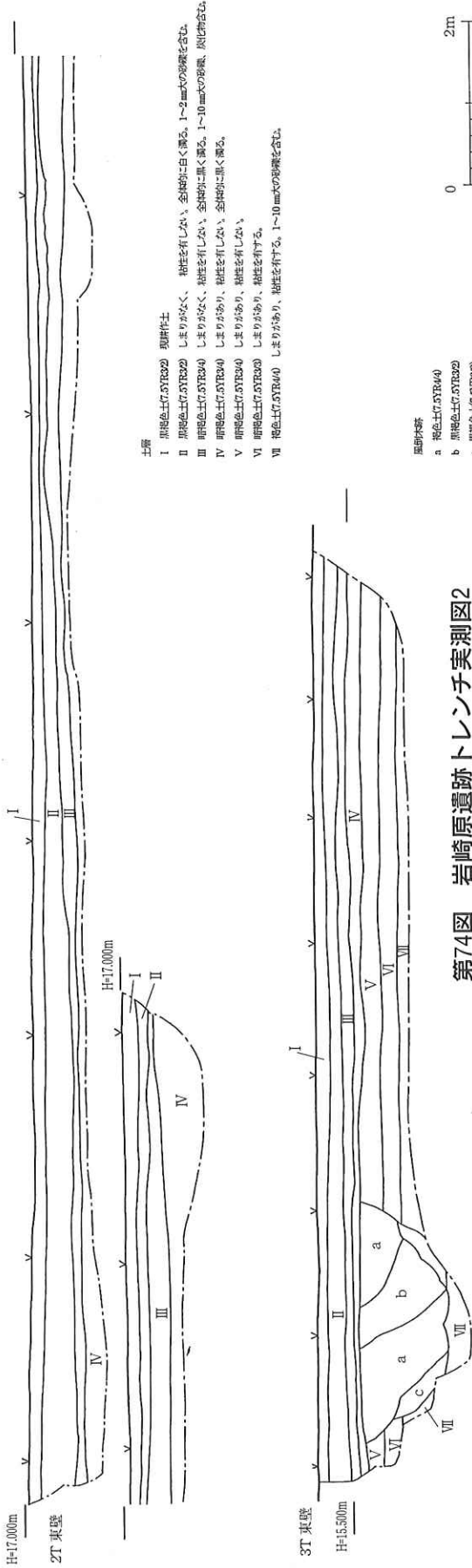


写真27 岩崎原遺跡1T遺構検出状況 西から

II 平成17年度の調査



第73図 岩崎原遺跡トレンチ子実測図1



2 1 山田神社門前遺跡

所在地：山田字上馬場162-1

調査原因：共同住宅建設

対象面積：832㎡

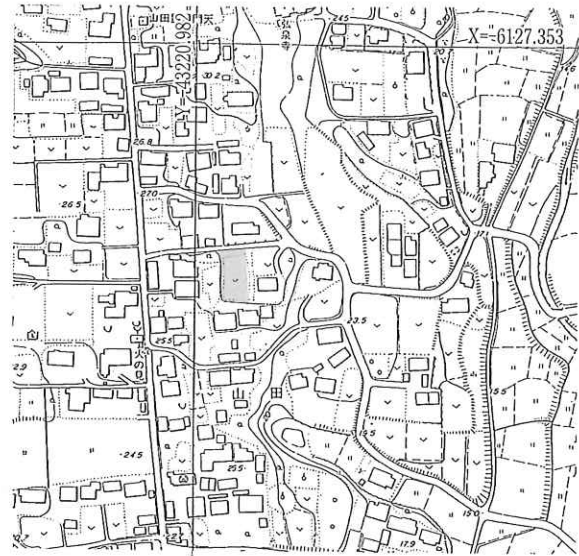
調査期間：18年2月22日～2月23日

担当者：齋父雅史

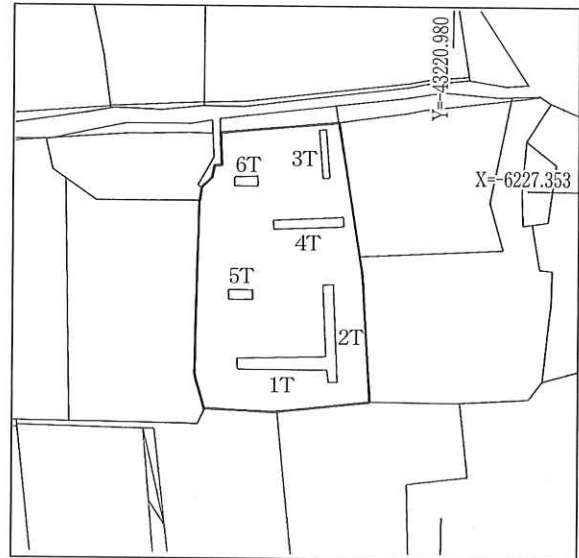
調査地は、境川右岸際の玉名台地北部に位置する標高29m程の地点である。調査時の状況は畑地で、隣接する東側の畑地より1m程低いことから、切土により造成されていることが予想された。

調査では、敷地内に6カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、表土（耕作土）直下でローム層（V、VI、VII層）及び客土（II、III層）が確認されたことから、畑地造成に伴い地形が改変されたと考えられる。1トレンチ及び5トレンチでは、削平されたローム層上面で遺構を4基確認した。このうち、1トレンチで確認した土坑と思われる遺構からは、中世の土師器、瓦器、青磁の小片が出土した。他の遺構についても同時期のものと考えられる。

調査の結果を受け、施主側と協議を行った結果、施工に伴い埋蔵文化財に対する影響が発生することから、発掘調査が必要となったため、事業が中止されることになった。



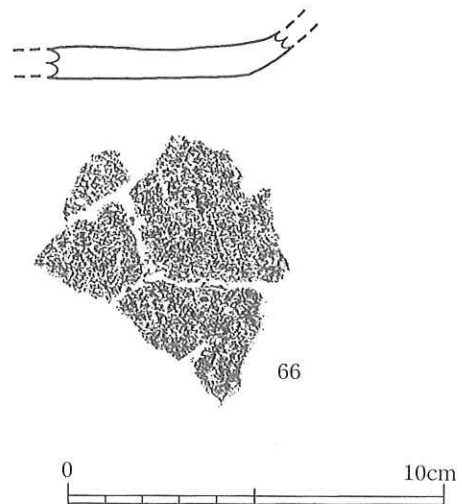
第76図 山田神社門前遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第77図 山田神社門前遺跡トレンチ位置図 S=1/1,000

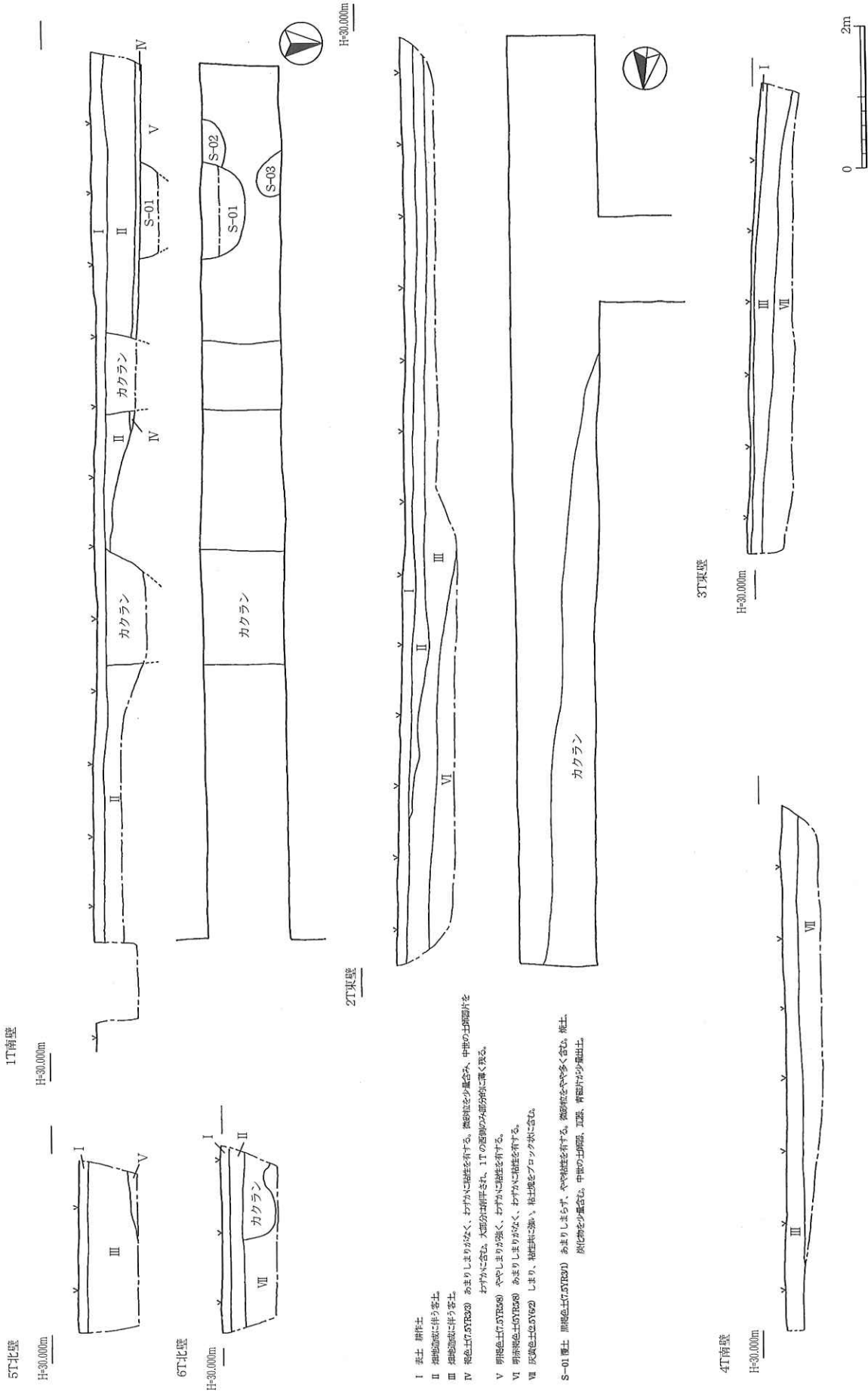


写真28 山田神社門前遺跡調査地全景 北から



第78図 山田神社門前遺跡出土遺物実測図

II 平成17年度の調査



- I 表土 耕作土
- II 埋砂面層に伴う寄土
- III 埋砂面層に伴う寄土
- IV 褐色土(5YR5/3) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。微砂粒を少量含む。中世の土師器片をわずかに含む。大部分は埋砂され、1Tの西側の一部分のみに置く。散る。
- V 明褐色土(5YR5/8) ややしまりが強く、わずかに粘性を有する。
- VI 明赤褐色土(5YR5/8) あまりしまりがなく、わずかに粘性を有する。
- VII 灰褐色土(5Y6/2) しまり、粘土中に細い、粘土塊をブロック状に含む。
- S-01 Ⅰ層土 明褐色土(5YR5/1) あまりしませんが、やや粘性を有する。微砂粒をやや多く含む。赤土。炭化物を少量含む。中世の土師器、瓦器、青磁片が少量出土。

第79図 山田神社前遺跡トレンチ実測図

22 亀甲遺跡

所在地：亀甲200-1外2筆

調査原因：事務所建設

対象面積：269.29㎡

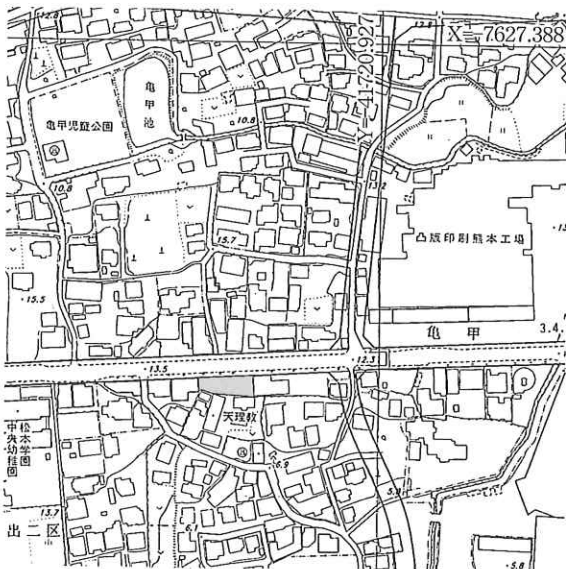
調査期間：18年2月27日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川支流の繁根木川右岸に面した玉名台地南側の標高13m程の地点で、玉名市中心市街地を東西に走る国道208号線の南沿いに位置する。調査時の状況は、既存建物解体後の更地及びアスファルト敷の駐車場であった。

調査では、敷地内に2カ所のトレンチを設定した。I～IV層は旧建物解体後の整地層及び旧建物基礎碎石層であった。V～VII層は、現地の地形、堆積状況及びその内容物から、近代以降の盛土層と判断した。VIII層は黄褐色土で、地山と考えられる。

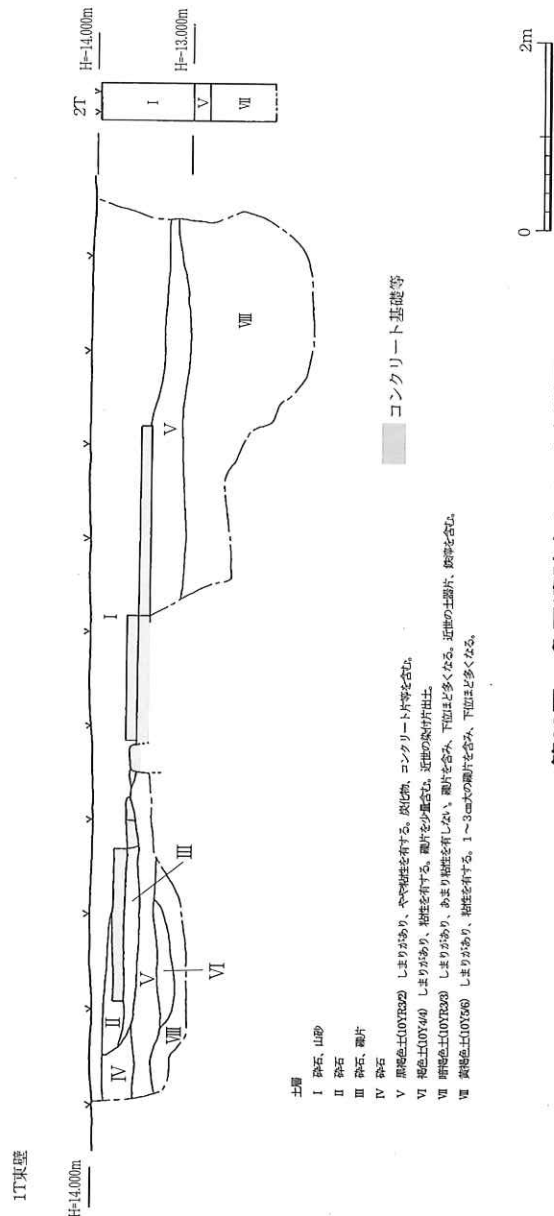
施工においては、基礎等の掘削がI～IV層内で収まるため、調査後の措置は、慎重工事となった。



第80図 亀甲遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第81図 亀甲遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第82図 亀甲遺跡トレンチ実測図

23 中ん城遺跡

所在地：片諏訪22-1

調査原因：農地進入路建設

対象面積：659㎡

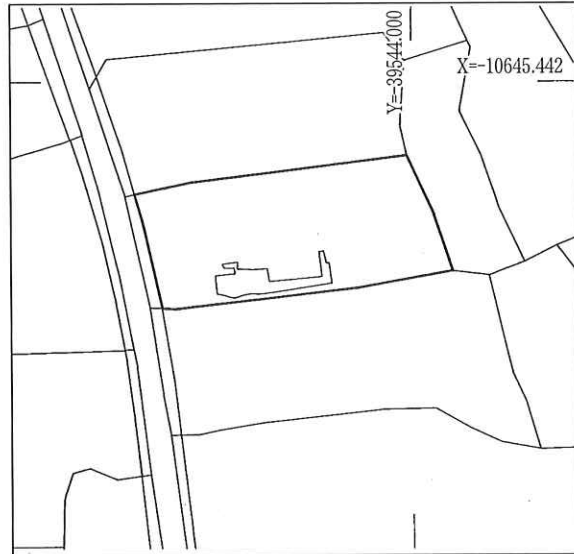
調査期間：18年2月28日～3月8日

担当者：兵谷有利

調査地は、菊池川左岸に面した、伊倉丘陵性台地南西部の標高25m程の地点である。平成10年度に実施された伊倉城範囲確認調査の範囲と一部重複しており、その際には、弥生時代の住居跡や中世のピット、陶磁器類が確認されている。

調査では、進入路建設予定地の内、平成10年度の調査区に含まれていない部分全域を調査区として設定した。I層は表土、II層はにぶい黄褐色土、III層は黒褐色土、IV層は褐色土であった。II・III層は炭化物・土器細片を含み、IV層上面で土坑2基とピット群を検出した。遺構はすべて調査を行い、土師器、青磁小片等が出土した。またピット群の内1基から、備前系甕の小片も出土した。

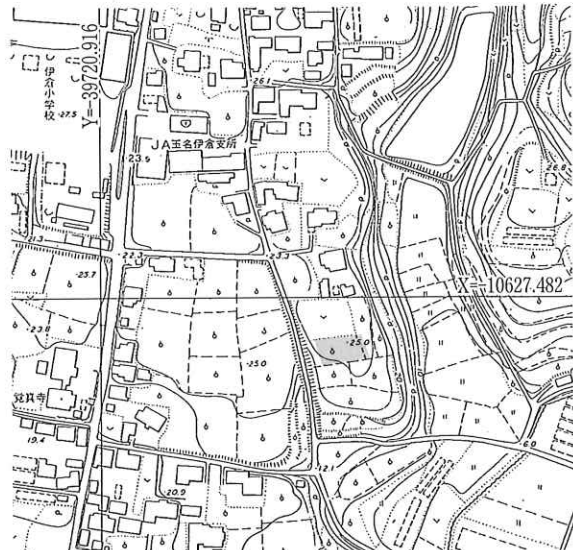
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工対象部については調査を完了したため、調査後の措置は慎重工事となった。



第84図 中ん城遺跡調査区配置図 S=1/1,000



写真29 中ん城遺跡調査地遠景 西から

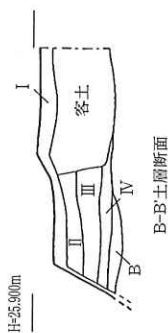
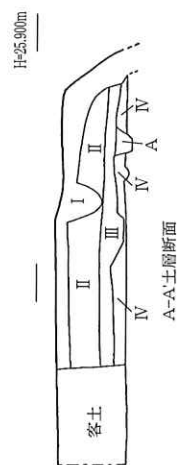
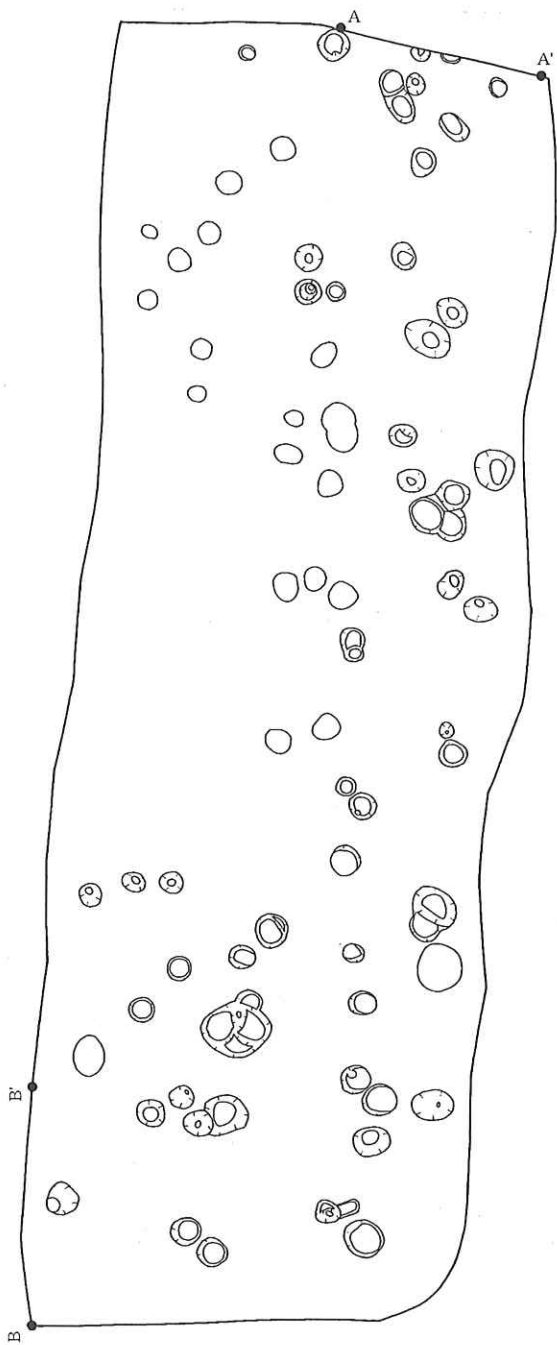


第83図 中ん城遺跡調査位置図 S=1/5,000

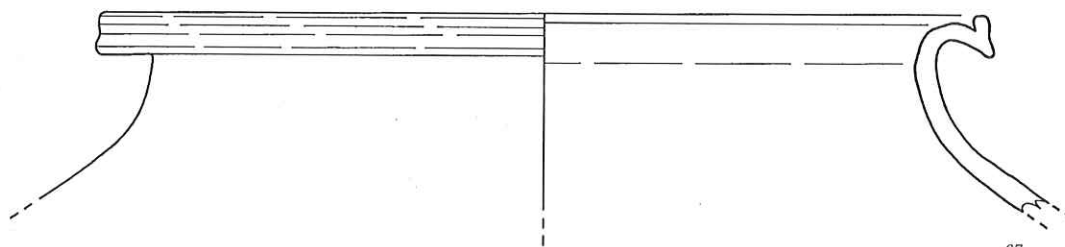


写真30 中ん城遺跡調査地全景 東から

II 平成17年度の調査



- 土層
- I 耕作土
 - II 土壌、硬質粘土(0YR4/0) しまりが有り、あまり腐植を有しない、土質の粗粒と細粒物を多少含む。
 - III 剛硬粘土(0YR2/0) しまりが有り、あまり腐植を有しない、灰化物を含む。
 - IV 脆土(7.5YR4/0) しまりが有り、強い腐植を有する、硬質粘土を多数含む。
 - A 所産粘土(0YR2/0) 強いしまりが有り、あまり腐植を有しない。
 - B 所産粘土(0YR4/0) 強いしまりが有り、強い腐植を有する。



67

第86図 中ん城遺跡出土遺物実測図

第85図 中ん城遺跡遺構配置図・土層断面図

24 中土西遺跡B地点

所在地：岱明町山下字池平14-1

調査原因：車庫建設

対象面積：448.88㎡

調査期間：18年2月28日

担当者：中村安宏

調査地は、玉名市の西部、小代山南部を源流とする境川と行末川の間には北から張り出した玉名台地南側の標高13m程の地点である。岱明中学校北側隣接地で、調査時の状況は畑地であった。

調査では、車庫建設予定箇所に2ヶ所のトレンチを設定した。両トレンチとも、I層は耕作土、II層は暗褐色土、III層は極暗褐色土、IV層は黒色土であった。このうち、IV層中に時期不明の土器細片1点を確認したが、その他に遺構・遺物は確認されなかった。

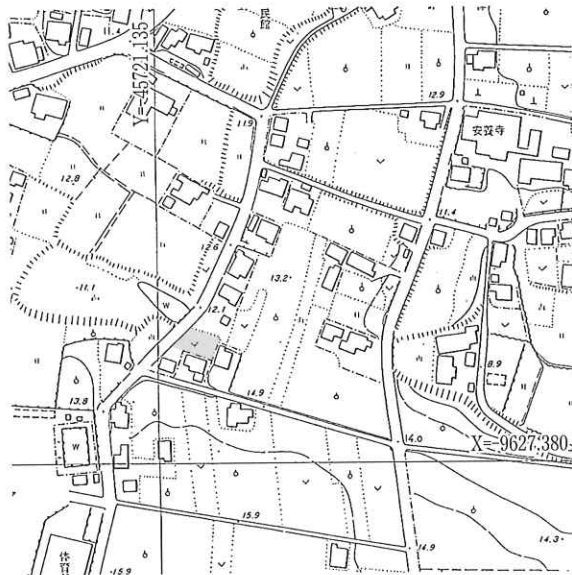
調査後の措置は慎重工事である。



第88図 中土西遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



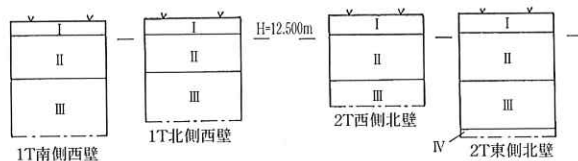
写真31 中土西遺跡B地点全景 西から



第87図 中土西遺跡B地点位置図 S=1/5,000



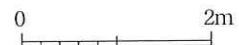
写真32 中土西遺跡B地点2T全景 西から



第89図 中土西遺跡B地点土層断面図

土層

- I 黒褐色土(7.5YR3/2) 耕作土
- II 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。1~2mm大の彩粒、2~10mm大の礫を多く含む。炭化物を含む。
- III 極暗褐色土(7.5YR2/3) しまりがあり、粘性を有する。1~2mm大の彩粒、2~10mm大の礫及び炭化物を含む。
- IV 黒色土(7.5YR2/1) しまりがあり、粘性を有する。土器細片を含む。



25 大塚・惣萩遺跡

所在地：立願寺字大塚1049

調査原因：宅地造成

対象面積：602m²

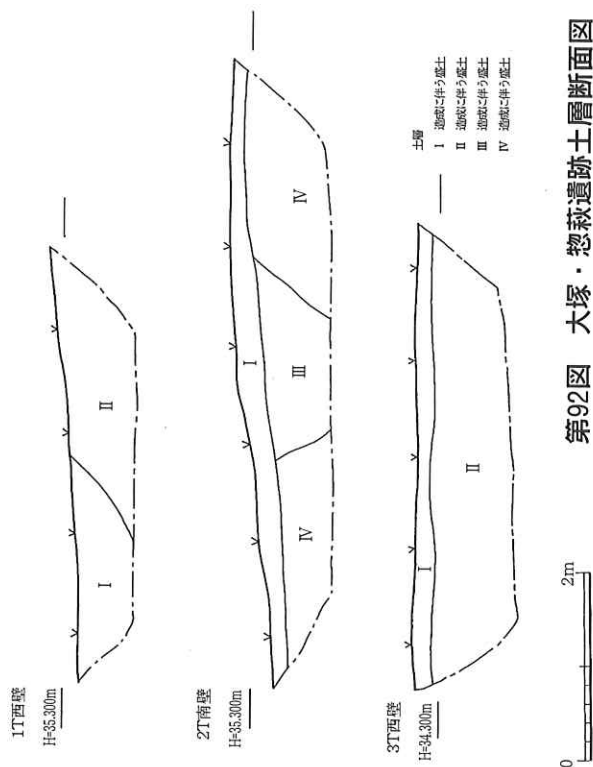
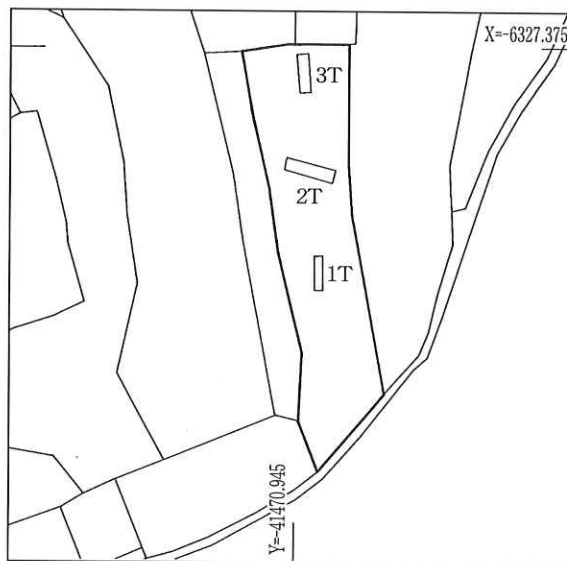
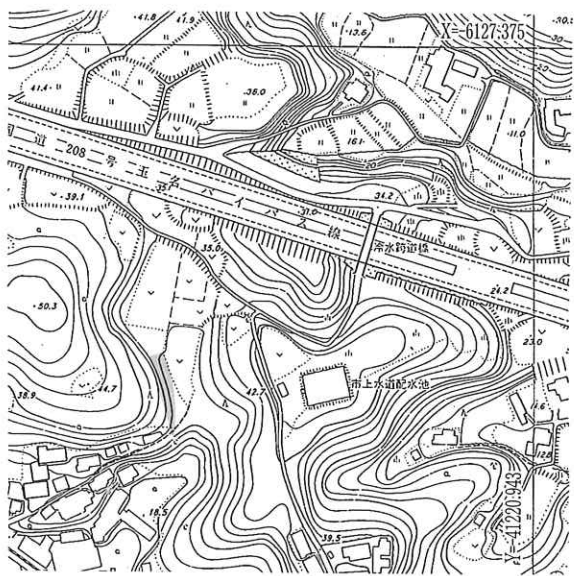
調査期間：18年3月3日

担当者：藪父雅史

調査地は、小代山南側丘陵部の南東裾部に位置する、標高35m程の地点である。調査時の状況は、丘陵裾部の宅地であり、周辺の地形から、丘陵裾の谷を埋め立てて宅地化したものと想像された。

調査では、敷地に3カ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、現況面から1m程掘り下げ確認をおこなったが、すべて埋め立てに伴う客土であり、遺構、遺物は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



26 高岡原遺跡D地点

所在地：山田字高岡原2049-1

調査原因：専用住宅建設

対象面積：430.88㎡

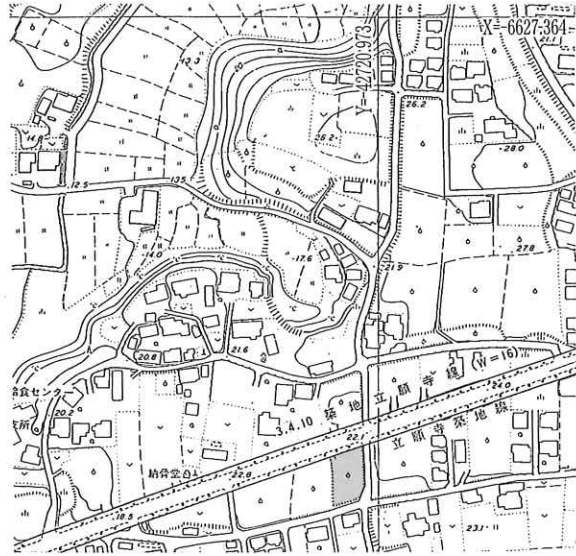
調査期間：18年3月7日～3月10日

担当者：齋父雅史

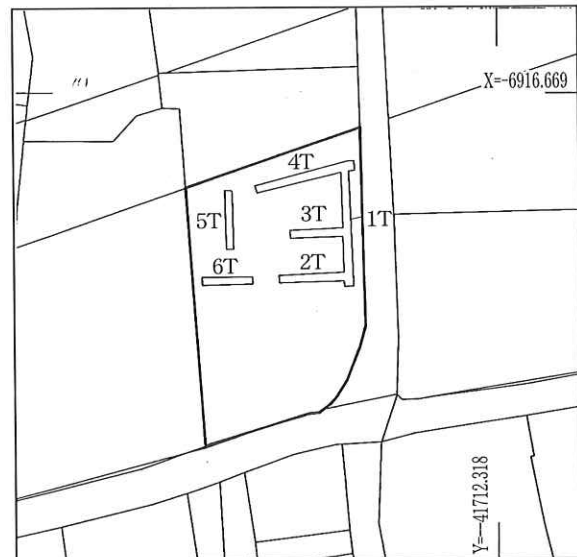
調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高24m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる高岡原遺跡のほぼ中央部に位置する。調査時の状況は、畑地を宅地化したものであった。

調査では、敷地内に6ヶ所のトレンチを設定した。そのうち1～4トレンチで弥生時代後期及び時期不明の遺構と、弥生時代後期・古代・中世の遺物を確認した。

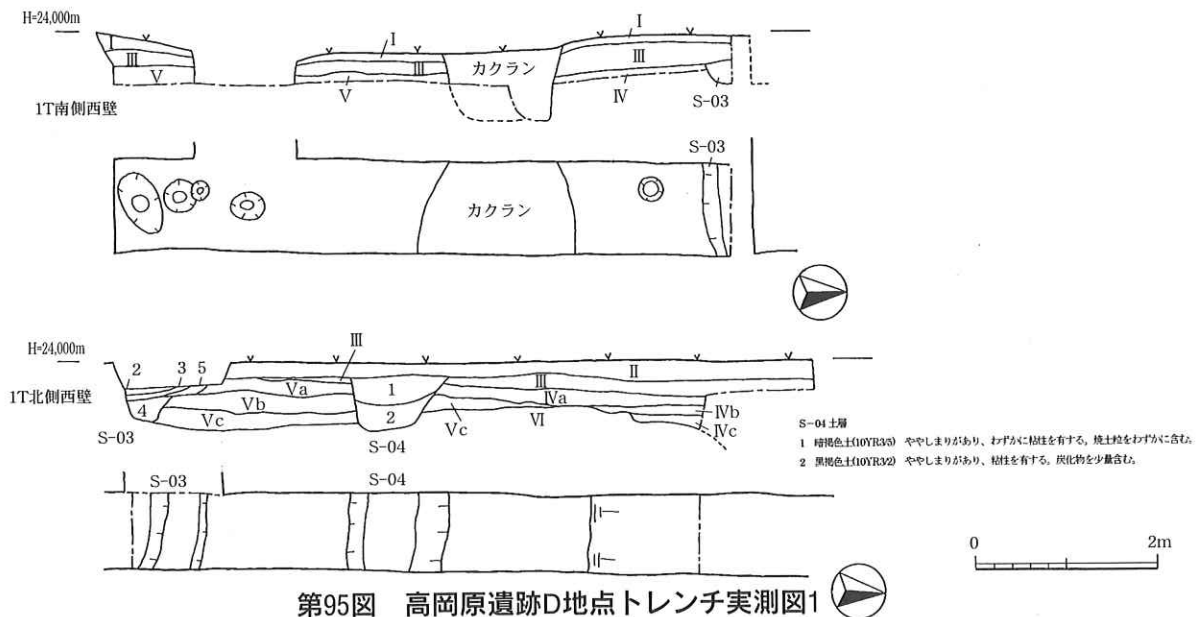
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工の際に影響が生じる擁壁部分については、調査を完了したため、調査後の措置は慎重工事となった。



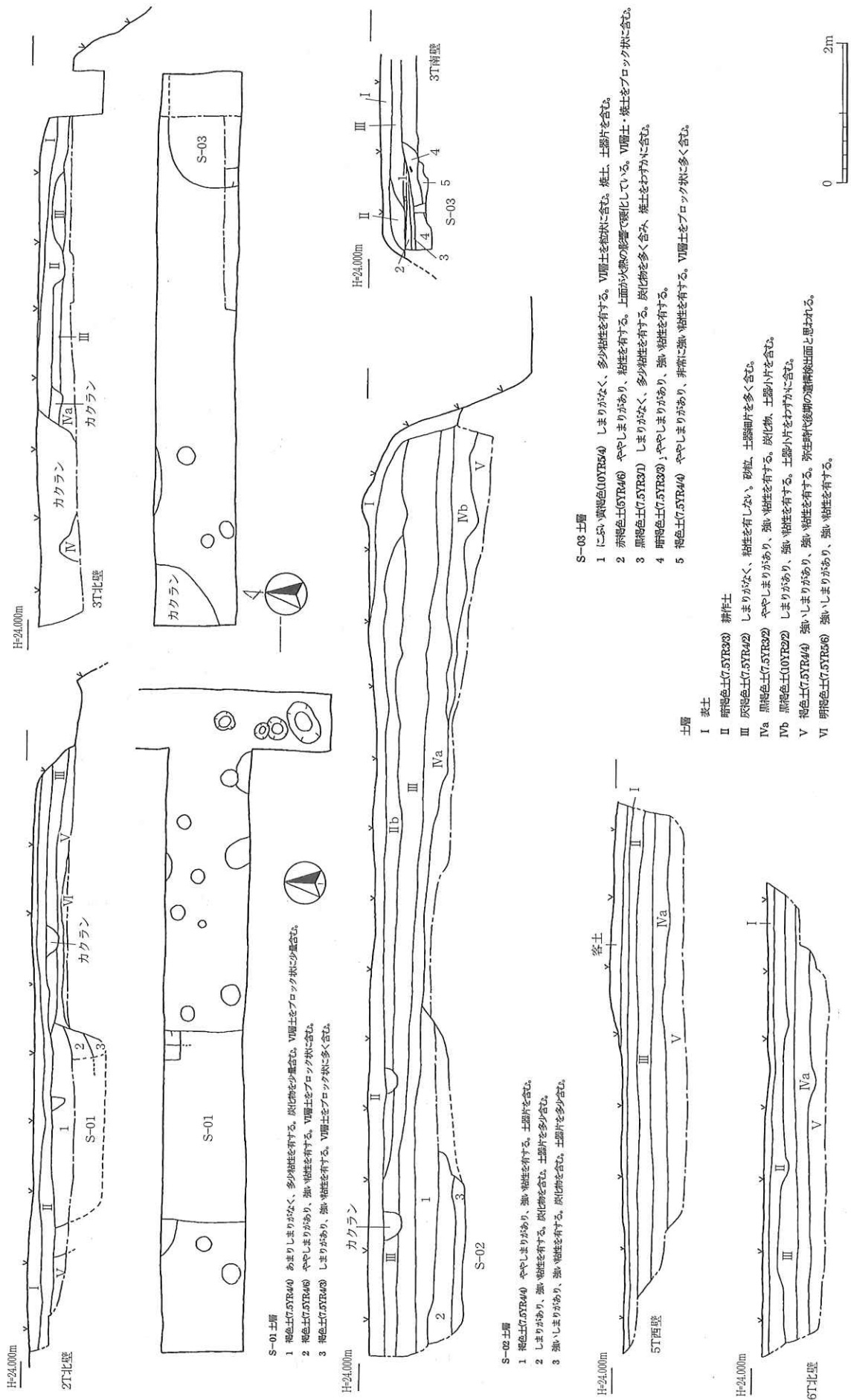
第93図 高岡原遺跡D地点位置図 S=1/5,000



第94図 高岡原遺跡D地点トレンチ配置図 S=1/1,000



II 平成17年度の調査



第96図 高岡原遺跡D地点トレンチ実測図2

27 春出遺跡

所在地：中宇陣内1452-9

調査原因：専用住宅建設

対象面積：247.4m²

調査期間：18年3月8日～3月9日

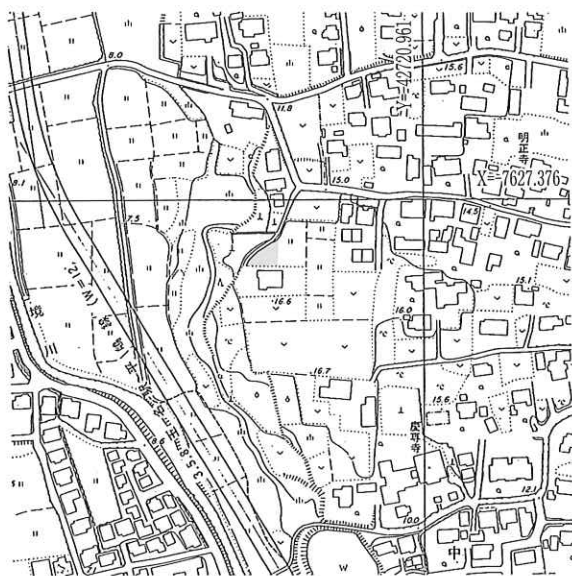
担当者：中村安宏

調査地は、境川左岸に面した、玉名台地南西端部の標高16.7m程の地点である。調査時の状況は、旧畑地を宅地化したものであった。

調査では、敷地に3ヶ所のトレンチを設定した。

I層は宅地化した際の客土、II a・b層は黒褐色土、III層は褐色土、IV層は暗褐色土、V層は黒褐色土、VI層は暗褐色土であった。このうち、IV層中に粒状の土器細片が含まれ、V層中にも土器小片が確認された。また、1トレンチVI層上面で時期不明のピット2基を確認した。

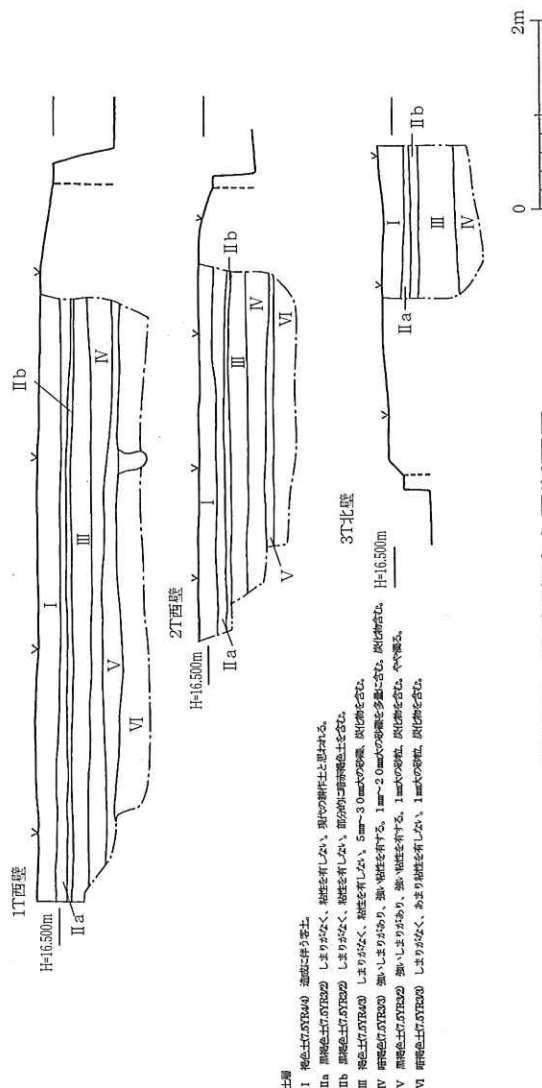
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工内容が埋蔵文化財に影響を与えないため、調査後の措置は慎重工事となった。



第97図 春出遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第98図 春出遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第99図 春出遺跡土層断面図

- 土層
- I 褐色土(砂質) 遺跡に伴う客土。
 - IIa 黒褐色土(砂質) しまりがなく、粘性を有しない。肌や断面に認められる。
 - IIb 黒褐色土(砂質) しまりがなく、粘性を有しない。肌や断面に認められる。
 - III 褐色土(砂質) しまりがなく、粘性を有しない。5mm～3.0mmの炭粒、灰化物を含む。
 - IV 暗褐色土(砂質) しまりがなく、粘性を有する。1mm～2.0mmの炭粒を多量に含む。灰化物を含む。
 - V 黒褐色土(砂質) しまりがなく、粘性を有する。1mm以下の炭粒、灰化物を含む。やや粘る。
 - VI 暗褐色土(砂質) しまりがなく、あまり粘性を有しない。1mm以下の炭粒、灰化物を含む。

28 年の神遺跡

所在地：岱明町野口字早馬2823-3

調査原因：専用住宅建設

対象面積：408.87m²

調査期間：18年3月14日～3月15日

担当者：齋父雅史

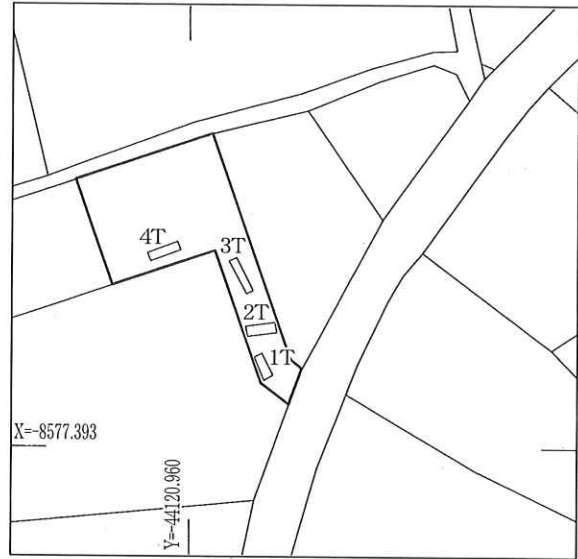
調査地は、玉名市の中西部、境川と友田川に挟まれた台地上に位置する標高15m程の地点である。昭和43年に大規模な開田造成が行われており、調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に4ヶ所のトレンチを設定した。I層は表土、II a・b層は耕作土及び開田造成に伴う客土、III a・b層は開田造成に伴う客土、IV層は黒褐色土、V層は暗褐色土、VI層は褐色の粘性土であった。これらのうち、IV層で古代及び弥生時代の土器片を少量確認し、V層上面で古代あるいは弥生時代の遺構と思われるものを確認した。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、施工の際に影響が発生する進入路部分について、発掘調査を実施することとなった。



第100図 年の神遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第101図 年の神遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

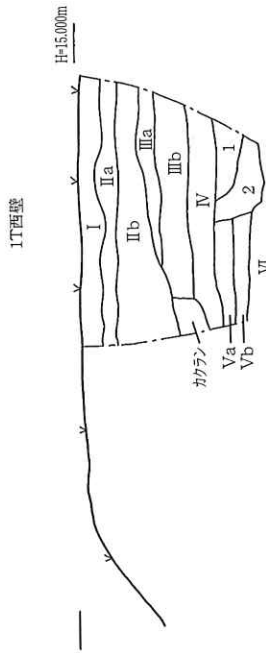


写真33 年の神遺跡調査地全景1 北から

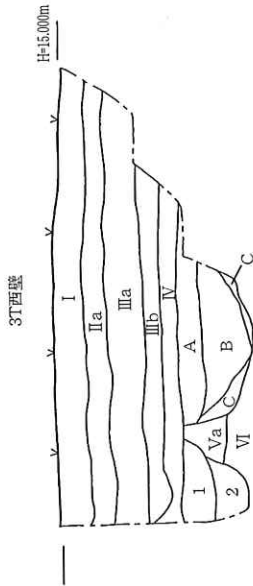


写真34 年の神遺跡調査地全景2 東から

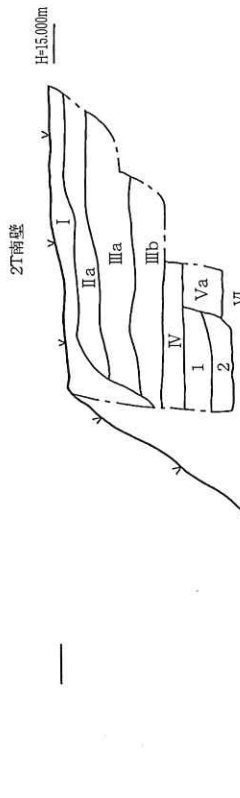
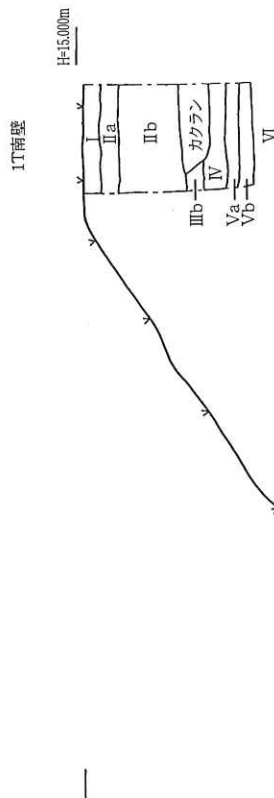
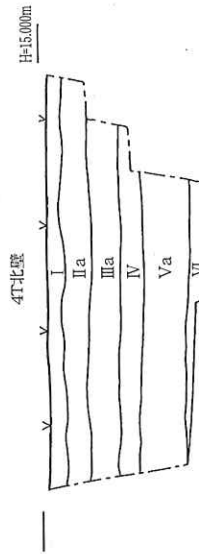
II 平成17年度の調査



1T 土層
 1 黒色土(05TR44) ややしじまりがあり、粘性を有する。V層土をブロック状に含む。
 2 黒褐色土(05TR20) ややしじまりがあり、粘性を有する。



3T 土層
 1 灰褐色土(05TR42) ややしじまりがあり、わずかに粘性を有する。灰化物を少量含む。
 2 には、黒褐色土(05TR40) ややしじまりがあり、強粘性を有する。V層土をブロック状に含む。
 A 黒褐色土(05TR30) あまりじまりがなく、多少粘性を有する。
 B 黒褐色土(05TR20) あまりじまりがなく、粘性を有しない。
 C には、黒褐色土(05TR40) ややしじまりがあり、強粘性を有する。V層土をブロック状に含む。



2T 土層
 1 黒褐色土(05TR32) 強じまりがあり、粘性を有する。土器片を含む。
 2 灰褐色土(05TR42) あまりじまりがなく、粘性を有しない。砂粒を多少含む。

土層
 I 赤土
 IIa 耕作土
 IIb 赤土、小礫、砂粒をやや多く含む。
 IIIa 暗褐色土 (05TR33) 強じまりがあり、やや粘性を有する。小礫、砂粒、土器断片を多く含む。
 IIIb 黒褐色土 (05TR22) 強じまりがあり、IIIaより強い粘性を有する。IIIaより砂粒は少ないが、土器断片は多く含む。
 ※I~IIIbは、BPR43年の開田面(砂吹)及びそれ以前の重土と思われ。
 IV 黒褐色土 (05TR22) 強じまりがあり、強い粘性を有する。古刀或は弥生時代の遺物を含む。
 Va 暗褐色土 (05TR30) 強じまりがあり、強い粘性を有する。弥生時代の遺物除出層。
 Vb 暗褐色土 (05TR34) 強じまりがあり、強い粘性を有する。小礫を含む。Vaよりやや明るい。
 VI 褐色土 (05TR46) 非常に強じまりがあり、非常に強い粘性を有する。

第102図 年の神遺跡トレンチ実測図

29 菊池川水運・水制調査

所在地：菊池川流域一帯

(高瀬大橋～新大浜橋までの区間)

調査期間：17年7月1日～18年3月31日

担当者：兵谷有利

菊池川は、阿蘇外輪山深葉山地（阿蘇市）に発し、熊本県北部の菊池・鹿本・玉名郡和水町を経て、玉名市の大浜・滑石で有明海に注いでおり、熊本県内では、球磨川、緑川につぐ一級河川である。菊池川は、玉名市のほぼ中央部を貫流しているが、その両岸には、近世期の港施設及び加藤清正が行った治水工事により考案された水制施設と伝えられる、脇わき・芻はねが残存している。

脇は、ワキ、ワクノハナ、デブチンとも呼ばれる石積の構造物で、増水時に堤防を守るため、河川が蛇行する外周部分の堤外地（河川側）に設置された。特徴は、石積が高く、先端部は河川の下流側を向き、短い。

芻は、「羽根」とも書き、水流を芻ね、河川中央部に水流を集中させることが主な機能である。特徴は、石積が低く、河川の下流側中央部を向き、長く延びる。

また、脇や芻は、堤防を守る機能以外に、河川堆積を調整し、高瀬・大浜・晒の港施設の水深を確保する役割も果たしていた。

調査では、高瀬大橋から下流側を対象とし、安政二（1855）年の菊池川全図に記載のある水運・水制施設の分布及びその構造・規模について調査を行った。結果、右岸に港2箇所、脇25箇所、芻3箇所、不明石積1箇所、左岸に港2箇所、脇21箇所、芻6箇所を確認した。これらについては位置図を作成し、脇・芻については石積の種類・段数・修復痕の確認及び、長さ、幅、高さを計測し、台帳を作成した。尚、分布図上の欠番については、絵図上に記載があるが確認できなかったものである。

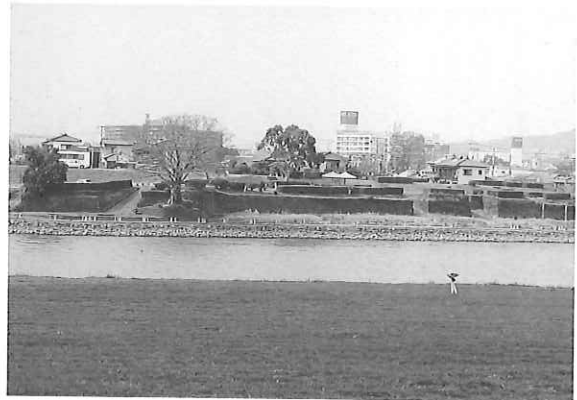


写真35 菊池川流域港施設

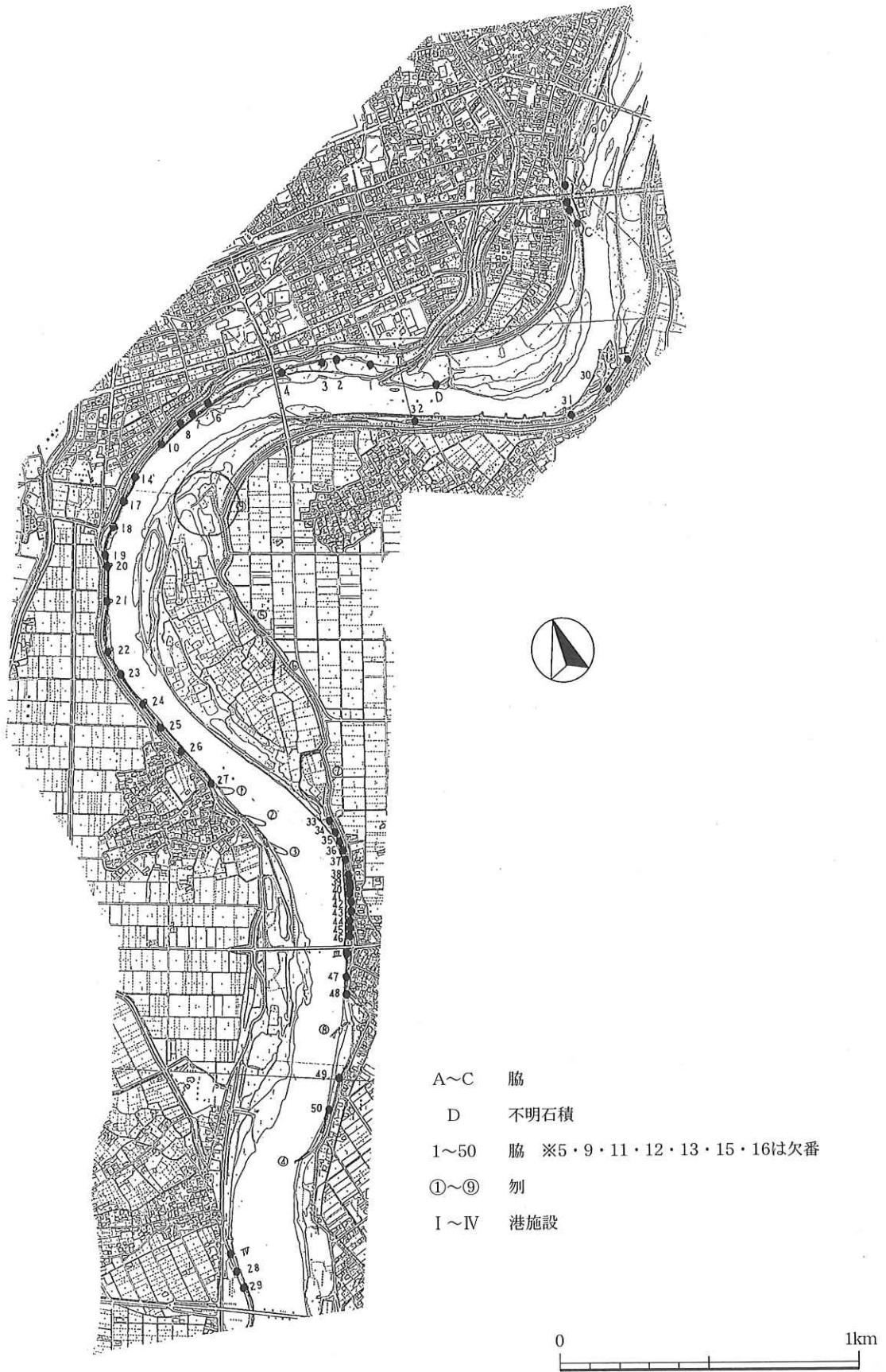


写真36 菊池川流域脇施設



写真37 菊池川流域芻施設

II 平成17年度の調査



第103図 菊池川流域港施設・脇・勿分布図

II 平成17年度の調査

第3表 平成17年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	堆成	備考
1	田島遺跡	S-01	土器(弥生時代後期)	甕	胴部	不明	不明	(3.0)	ヨコナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	黒灰色 10YR6/1 黒色 N2/	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普	
2	田島遺跡	ビット内	中世土師器	皿	底～ 口縁部	8.6	5.4	1.1	ナデ	ロクロナデ	明黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	白色砂粒、石英、雲母片、褐色粒を含む。	普	外底に糸切り痕
3	田島遺跡	ビット内	中世土師器	皿	底～ 口縁部	不明	不明	1.0	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普	外底に糸切り痕
4	田島遺跡	ビット内	中世土師器	皿	底～ 口縁部	9.2	7.4	0.9	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普	外底に糸切り痕
5	田島遺跡	ビット内	中世土師器	皿	底～ 口縁部	8.8	7.4	0.75	ナデ	ロクロナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普	
6	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	甕	口縁部～ 胴部	19.2	不明	(25.8)	ハケメ ナデ	ハケメ	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	微砂粒を含む。	良	
7	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	甕	口縁部	23.6	不明	(4.3)	ヨコナデ	不明	褐色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
8	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	甕	口縁部	17.2	不明	(3.8)	不明	不明	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
9	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(3.6)	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
10	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(3.3)	ハケメ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	微砂粒を含む。	良	
11	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(5.1)	ハケメ	ハケメ	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	微砂粒を含む。	良	
12	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(3.5)	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
13	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(2.2)	ハケメ	ハケメ	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
14	築地館跡	S-01	土器(弥生時代後期)	鉢	口縁部～ 胴部	不明	不明	(5.9)	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
15	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(6.7)	ハケメ	ナデ	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	2mm以下の白色砂粒を含む。	良	
16	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	不明	(6.6)	ハケメ	ナデ	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	4mm以下の白色砂粒、 1mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
17	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	甕(丸底)	底	不明	不明	(7.1)	ハケメ	指ナデ	褐色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	4mm以下の白色砂粒、 1mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
18	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	甕(丸底)	底	不明	不明	(2.4)	ナデ	ナデ	黄褐色 10YR8/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
19	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	小型壺	頸部～ 胴部	不明	不明	(5.8)	不明	不明	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
20	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	壺	頸部～ 胴部	25.2	不明	(4.4)	ナデ	ナデ	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	1mm以下の白色砂粒、 微細な黒色砂粒を含む。	良	
21	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	高坏	口縁部～ 胴部	不明	不明	(3.5)	不明	不明	明黄褐色 10YR7/6 にぶい黄褐色 10YR6/4	明黄褐色 10YR7/6 にぶい黄褐色 10YR6/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
22	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	鉢	口縁部～ 胴部	13.4	不明	(9.3)	不明	不明	褐色 5YR7/8	褐色 5YR7/8	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
23	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	鉢	口縁部～ 胴部	15.6	不明	(5.6)	不明	不明	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
24	高岡原遺跡	B地点	土器(弥生時代後期)	鉢	口縁部～ 胴部	11.2	不明	(6.1)	不明	不明	明赤褐色 5Y5/6	明赤褐色 5Y5/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
25	高岡原遺跡	B地点	須臾器(古代)	坏蓋	1/2穴損	17.8	—	3.8	回転ヘラケズリ ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 2.5Y7/1 黒褐色 2.5Y3/1	灰白色 2.5Y7/1 黒褐色 2.5Y3/1	微細な白色砂粒を含む。	良	
26	高岡原遺跡	B地点	須臾器(古代)	高坏	口縁部～ 胴部	20.2	不明	(8.9)	回転ヘラケズリ ロクロナデ	ナデ	褐色 10YR6/1 灰色 5Y5/1	褐色 10YR6/1 灰黄褐色 10YR5/2	微細な白色砂粒を含む。	良	
27	高岡原遺跡	B地点	須臾器(古代)	坏	胴部	不明	7.0	(2.4)	回転ヘラケズリ ロクロナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	混入物なし。	不良	
28	高岡原遺跡	B地点	須臾器(古代)	壺	口縁部	11.6	不明	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐色 5YR6/4	褐色 5YR7/6	混入物なし。	不良	
29	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	狭端部	長さ(13.1)	幅(11.7)	厚さ2.2～2.4	凹面	凸面	凹面 灰黄褐色 2.5Y5/2 淡褐色 2.5Y8/3 灰白色 2.5Y8/2	凸面 灰黄褐色 2.5Y5/2 淡褐色 10YR8/4	2mmまでの白色・黒色砂粒を含む。	やや良	
30	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(15.0)	(13.5)	2.0	布目圧痕	格子目タタキ	灰白色 2.5Y5/1	暗灰褐色 2.5Y5/2	2mmまでの白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
31	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	広端部	(12.1)	(10.8)	1.5～1.8	布目圧痕	格子目タタキ	灰白色 5Y5/2	灰白色 2.5Y7/1	1mmまでの白色砂粒を少量含む。	良	
32	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(8.1)	(9.4)	2.0	ヘラ調整	細目タタキ	灰白色 2.5Y8/2 灰黄色 2.5Y6/2	褐色 10YR4/1	4mmまでの白色・ 黒色砂粒をわずかに含む。	良	
33	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	広端部	(17.7)	(26.4)	2.1～2.4	布目圧痕	細目タタキ	黄褐色 10YR5/1	黄褐色 10YR5/1	2mm以下の白色砂粒を多く含む。	良	
34	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(10.7)	(6.9)	1.7～2.0	布目圧痕	格子目タタキ	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
35	立願寺焼寺	4+5T	瓦(古代)	平瓦	広端部	(8.9)	(9.5)	1.4	布目圧痕	格子目タタキ	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	()内は残存数値

II 平成17年度の調査

第3表 平成17年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
36	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(18.5)	(16.7)	2.4	布目圧痕	細目タタキ 指頭圧痕	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	1mmまでの白色・ 黒色砂粒を少量含む。	良	
37	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	広端部	(12.9)	(15.7)	2.2~2.8	布目圧痕	細目タタキ	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	細かい白色・ 黒色砂粒をまばらに含む。	良	
38	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	広端部	(12.3)	(18.8)	2.2~2.3	布目圧痕	細目タタキ	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	1mmまでの白色・黒色・ 赤色砂粒を多く含む。	良	
39	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(30.9)	(21.6)	2.3~2.5	布目圧痕	細目タタキ	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	1mmまでの白色・ 黒色砂粒を少量含む。	良	
40	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	狭端部~ 広端部	(6.0)	(5.5)	2.0	布目圧痕	細目タタキ	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	細かい白色・ 黒色砂粒をまばらに含む。	良	
41	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	狭端部~ 広端部	36.6	(23.7)	1.8~2.2	布目圧痕 ヘラ調整	細目タタキ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mmまでの白色・ 黒色砂粒を少量含む。	やや良	
42	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(7.9)	(4.0)	2.0	布目圧痕 ヘラ調整	不明	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	1mmまでの白色・ 黒色砂粒を少量含む。	やや良	
43	立願寺廃寺	3T 3層	瓦(古代)	平瓦	狭端部	(10.5)	(12.6)	1.6~1.8	布目圧痕	細目タタキ	淡黄色 2.5Y8/3	浅黄褐色 10YR8/3	2mmまでの白色・ 黒色砂粒をまばらに含む。	やや良	
44	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	平瓦	側縁部	(22.5)	(12.0)	2.1~2.4	布目圧痕	細目タタキ	黄灰色 10YR5/1	浅黄褐色 10YR8/3	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
45	立願寺廃寺	5T	瓦(古代)	丸瓦	側縁部	(10.3)	(10.1)	1.9~2.3	布目圧痕	ナデ・ヘラ調整	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	細かい白色・黒色砂粒をわずかに含む。	良	
46	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	丸瓦	側縁部	(21.1)	(8.9)	1.8~2.0	布目圧痕	細目タタキ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	細かい白色・黒色砂粒をまばらに含む。	良	
47	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	丸瓦	側縁部	(22.4)	(7.3)	1.8~2.2	布目圧痕	細目タタキ ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	2mmまでの白色・黒色・ 赤色砂粒を少量含む。	良	
48	立願寺廃寺	3T 4層	瓦(古代)	丸瓦	側縁部	(14.3)	(9.0)	1.7~2.0	布目圧痕	細目タタキ ナデ	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	細かい白色・ 黒色砂粒を少量含む。	良	
49	立願寺廃寺	3T	瓦(古代)	丸瓦	側縁部	(8.2)	(7.1)	2.0~2.2	布目圧痕	細目タタキ ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	3mmまでの白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
50	立願寺廃寺	3T	瓦(古代)	丸瓦	側縁部	(9.0)	(6.1)	2.0~2.2	布目圧痕	細目タタキ ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	やや良	
51	立願寺廃寺	5T 1層	瓦(古代)	軒丸瓦	瓦当部	15.4(直径)	-	1.1~4.2	-	ケズリ ナデ	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	細かい白色・黒色砂粒をやや多く含む。	良	
52	立願寺廃寺	5T 2層	瓦(古代)	製斗瓦	端部	(14.3)	(6.2)	1.2~1.6	布目圧痕	平行タタキ	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	細かい白色・黒色砂粒をまばらに含む。	良	
53	立願寺廃寺	5T 2層	瓦(古代)	製斗瓦	側縁部	(11.3)	(9.1)	1.2	布目圧痕 ヘラ調整	ナデ	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y8/2	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
54	立願寺廃寺	5T 2層	須恵器(古代)	蓋	天井部~ 口縁部	19.6	-	(2.5)	ロクロナデ 回転ヘラナデ ロクロナデ	ロクロナデ 不定方向ナデ	灰白色 2.5Y8/1	浅黄褐色 10YR5/4	3mmまでの白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
55	立願寺廃寺	5T 2層	須恵器(古代)	壺	口縁部	-	-	(1.5)	同心円当身痕	ナデ	にぶい黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/2	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
56	立願寺廃寺	5T 2層	土師器(古代)	坏	底部	-	-	(1.6)	回転ヘラナデ	タタキ後ナデ	にぶい黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/2	細かい白色・黒色砂粒をまばらに含む。	良	内外面とも 赤形
57	岩崎原遺跡	IT 4層	土器(縄文早期)	深鉢	底部	不明	不明	(3.8)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR6/4	黄褐色 2.5Y6/6	細かい白色・黒色砂粒をまばらに含む。	良	
58	岩崎原遺跡	IT 7層	須恵器(中世)	甕	口縁部	不明	不明	(4.2)	ナデ	ナデ	黄灰色 2.5Y5/1	黄褐色 10YR6/2	2mmまでの白色・ 黒色砂粒を多く含む。	やや良	
59	岩崎原遺跡	IT 7層	須恵器(中世)	甕	口縁部	不明	不明	(5.3)	ナデ	ナデ	黄灰色 2.5Y5/1	黄褐色 10YR6/2	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	
60	岩崎原遺跡	IT 14層	瓦質土器(中世)	すり鉢	口縁部	不明	不明	(3.1)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR7/3	細かい白色砂粒を少量含む。	良	
61	岩崎原遺跡	IT 7層	瓦質土器(中世)	すり鉢	口縁部	不明	不明	(2.8)	ナデ	ナデ	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	細かい白色砂粒をわずかに含む。	良	
62	岩崎原遺跡	IT	瓦質土器(中世)	鉢	口縁部	不明	不明	(3.7)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	細かい白色・黒色・ 赤色砂粒を多く含む。	良	
63	岩崎原遺跡	IT 7層	瓦質土器(中世)	鉢	口縁部	不明	不明	(4.1)	ナデ	ナデ	黄褐色 2.5YR5/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	細かい白色・黒色・ 赤色砂粒を少量含む。	良	
64	岩崎原遺跡	IT 5層	近世陶器	碗	体部~底部	不明	不明	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	細かい白色砂粒をわずかに含む。	良	内外面とも 外底に 赤形
65	岩崎原遺跡	IT 7層	近世陶器(青磁)	碗	底部	不明	不明	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色 2.5YR8/2	灰色 2.5YR8/2	細かい白色砂粒を多く含む。	良	内外面とも 赤形
66	山田神社門前遺跡	IT	土師器(中世)	坏	底部	不明	不明	(1.3)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	細かい白色砂粒をまばらに含む。	良	赤形
67	中心城遺跡	土坑内	陶器	大甕	口縁部~ 頸部	47.8	不明	(10.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰赤色 10R4/2 にぶい赤褐色 2.5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR5/3	細かい白色・黒色砂粒を少量含む。	良	備前系

()内は残存数値

III 平成18年度の調査

年の神遺跡
玉名平野条里跡A地点
京塚遺跡
玉名平野条里跡B地点
高瀬本町通遺跡
上ノ辻遺跡
繁根木遺跡群
蓮華遺跡
築地東遺跡
今泉遺跡A地点
立願寺廃寺
山田松尾平遺跡
岩崎原遺跡
中北アカハゲ古墳
今泉遺跡B地点
高岡原遺跡
五郎丸遺跡A地点
玉名平野条里跡C地点
備中遺跡
吉丸西遺跡
古閑遺跡
中道遺跡
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡
両迫間日渡遺跡
寺田久保遺跡
五郎丸遺跡B地点
大野下ホームセンター予定地
山田山口遺跡
中土西遺跡
伊倉南方ホームセンター予定地
玉名高校校庭遺跡
石貫ナギノ横穴群
ジュルクン谷製鉄跡

1 年の神遺跡

所在地：岱明町野口字早馬2823-3

調査原因：専用住宅建設

対象面積：409.87㎡

調査期間：18年3月30日～5月12日

担当者：齋父雅史

(1) 調査に至る経緯

当地での専用住宅建設に伴い、平成18年2月28日付けで埋蔵文化財発掘の届出があり、平成19年3月14、15日に確認調査を実施した。その結果、埋蔵文化財が確認されたため、施主、関係者と協議し、敷地409.87㎡のうち、施工の際に埋蔵文化財への影響が発生する90㎡について発掘調査を実施した。

(2) 調査体制

発掘調査（平成18年度）

調査期間 平成18年3月30日～5月12日

調査担当 技師 齋父雅史

発掘作業員 北嶋百合子 古賀武子

佐藤建郎 竹内伴英

田上俊子 平野輝代

福島年春 堀田裕子

吉田ムツ子

整理作業（平成19年度）

整理・報告書担当 主任 田中康雄

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

早川イツエ 権藤 功

(3) 遺跡の概要

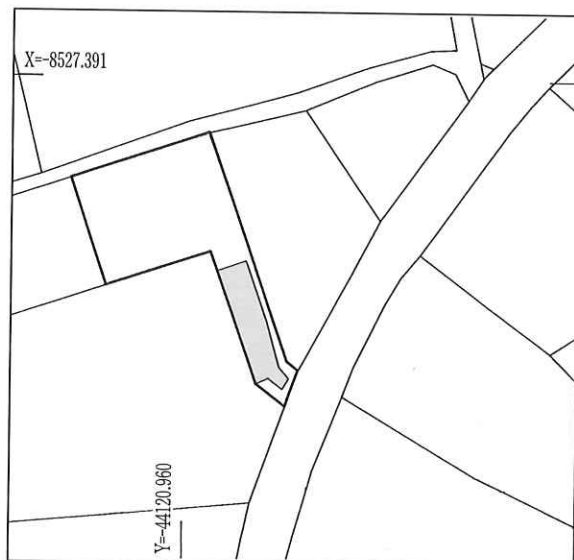
年の神遺跡は、小代山南東部を源流とする、境川と友田川に挟まれた台地の北東部に位置する、弥生時代及び古代の大規模な複合遺跡である。昭和43年の大規模な開田造成に伴い発掘調査が実施され、支石墓、甕棺墓、貝塚等が確認されている。

当台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が多数分布する。旧海岸線である台地南、東端部には、縄文時代の浜田貝塚、古閑原貝塚、

庄司貝塚、尾崎貝塚が所在し、その他縄文時代の遺物包蔵地が散在している。弥生時代の遺跡では、甕棺墓や箱式石棺群が確認されている塚原遺跡、甕棺墓が確認されている岱明町総合グラウンド遺跡、集落跡である山下遺跡、その他多くの包蔵地、集落跡等が所在している。台地南東端部には、籐光寺古墳、弁財天古墳が所在し、その他古墳時代の石蓋土墳墓や遺物包蔵地が散在している。その他、古代の包蔵地や、中世の城館跡、寺院跡も数多く所在し、また台地北側の友田川を挟んだ対岸の台地上にも、縄文時代から中世にかけての遺跡が多数分布している。

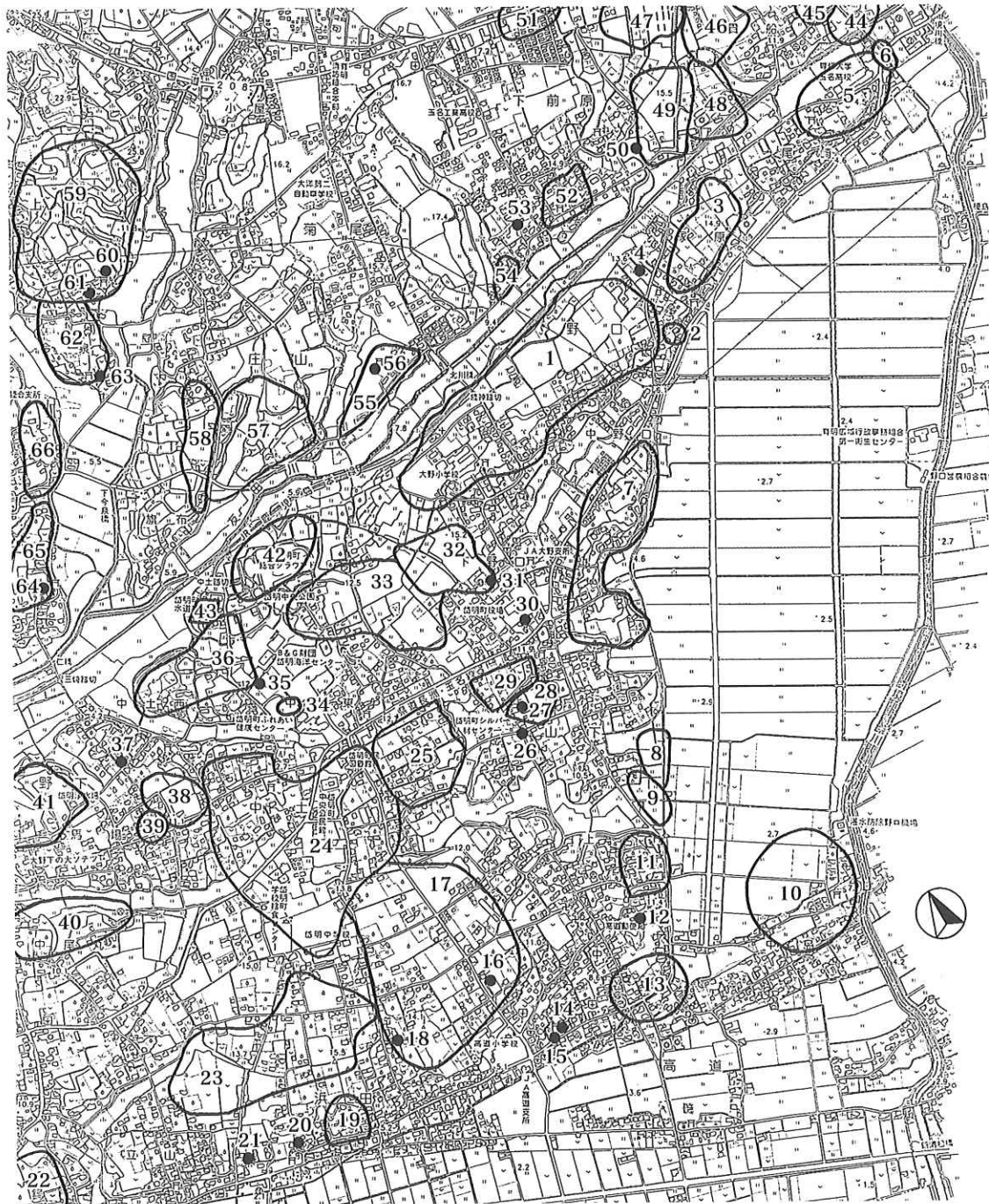


第104図 年の神遺跡調査地位置図 S=1/5,000



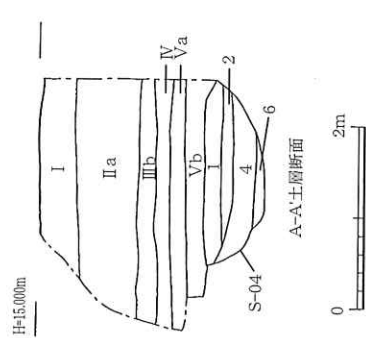
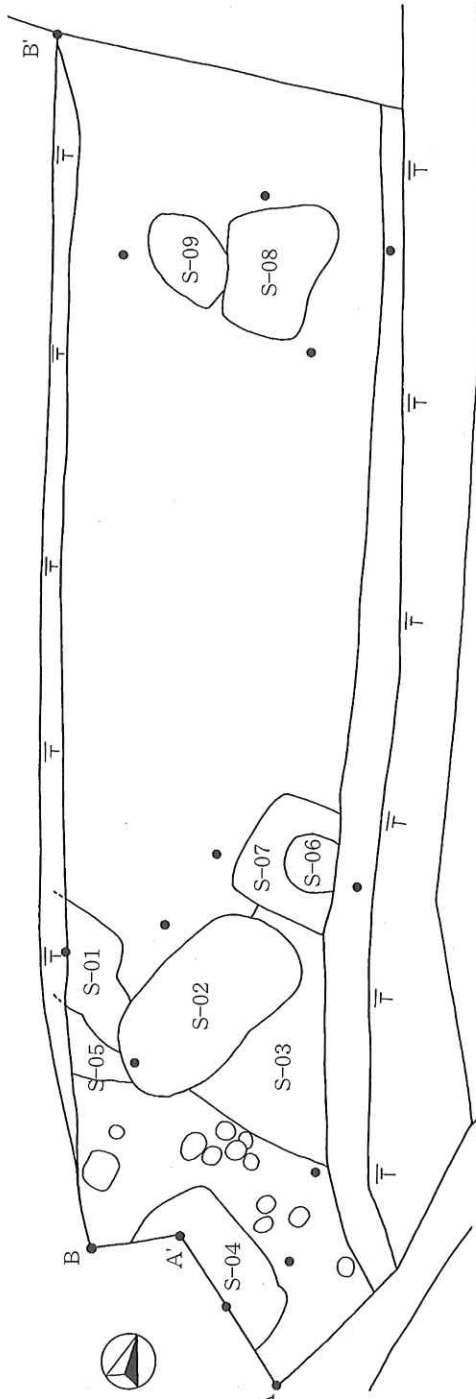
第105図 年の神遺跡調査区配置図 S=1/1,000

Ⅲ 平成18年度の調査



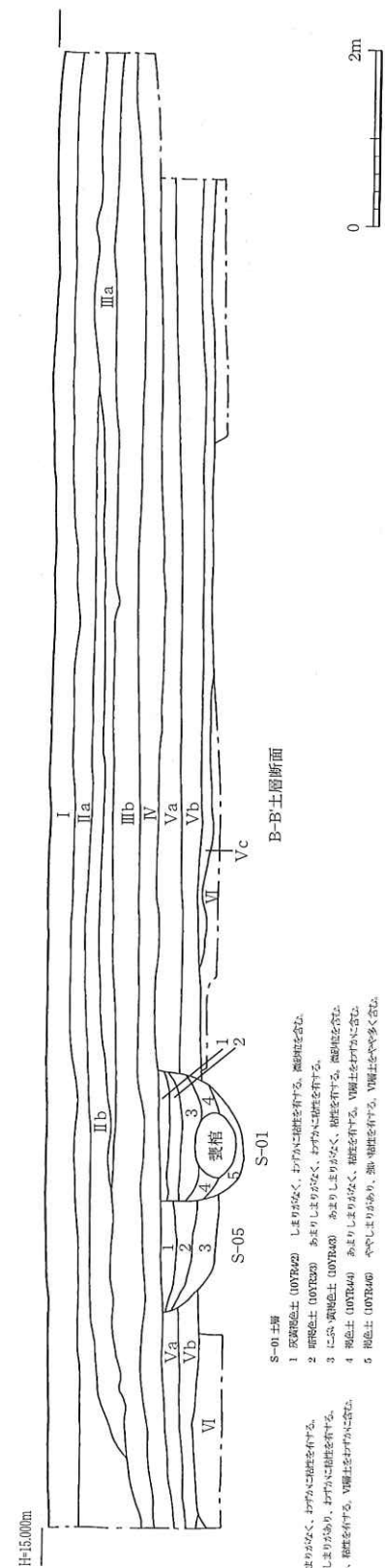
- | | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|-------------|------------|
| 1 年の神遺跡 | 15 藤光寺古墳 | 29 山下前畑遺跡 | 43 中土屋敷跡 | 57 東旗布遺跡 |
| 2 塚原石蓋土壙墓群 | 16 幸長寺跡 | 30 大野小学校石蓋土壙墓 | 44 貴船東遺跡 | 58 旗布遺跡 |
| 3 塚原遺跡 | 17 幸長寺遺跡 | 31 下野口石蓋土壙墓 | 45 貴船遺跡 | 59 今泉遺跡 |
| 4 塚原古墳 | 18 無量山寿福寺跡 | 32 下野口遺跡 | 46 大原遺跡 | 60 今泉古墳 |
| 5 尾崎遺跡 | 19 浜田貝塚 | 33 東中土遺跡 | 47 築地市場遺跡 | 61 吉宝寺跡 |
| 6 尾崎貝塚 | 20 浜田西原古墳参考地 | 34 中土館跡 | 48 貴船西遺跡 | 62 今泉西遺跡 |
| 7 山下遺跡 | 21 浜田吹上古墳 | 35 願正寺跡 | 49 下前原遺跡 | 63 岩倉山平等寺跡 |
| 8 庄司貝塚 | 22 上鍋遺跡 | 36 中土橋ノ尾遺跡 | 50 正覚寺跡 | 64 満福禅寺跡 |
| 9 古閑原貝塚 | 23 浜田西原遺跡 | 37 万福寺跡 | 51 今見堂遺跡 | 65 陣館跡 |
| 10 イッチャンサン遺跡 | 24 中土西遺跡 | 38 中土西宮の前遺跡 | 52 築地次郎国秀館跡 | 66 上村城跡 |
| 11 高道城跡 | 25 山下西遺跡 | 39 下村城跡 | 53 浄幸寺跡 | |
| 12 弁財天古墳 | 26 仏教寺跡 | 40 目倉尾遺跡 | 54 下前原西遺跡 | |
| 13 石橋古墳 | 27 中道石蓋土壙墓 | 41 中尾崎遺跡 | 55 菊ノ尾遺跡 | |
| 14 藤光寺跡 | 28 中道遺跡 | 42 岱明町総合グラウンド遺跡 | 56 天満宮古墳参考地 | |

第106図 年の神遺跡周辺遺跡分布図 S=1/20,000



土層
I 灰土
IIa 耕土
IIb 赤土、小礫、砂粒を多く含む。
IIIa 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。
IIIb 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。
IIIc 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。
IV 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。
Va 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。
Vb 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。
VI 厚砂土 (00YR2/2) 赤く、小礫、砂粒を多く含む。

S-04 土層
1 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、おたけに砂粒を有する。黒褐色をおたけに含む。
2 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、おたけを有する。黒褐色、赤褐色をおたけに含む。
3 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、おたけを有する。黒褐色をおたけに含む。
4 厚砂土 (00YR2/2) あまりしまりがなく、やや細い砂粒を有する。黒褐色を多く含む。V層土を伴う。
5 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、細い砂粒を有する。V層土を多く含む。
6 厚砂土 (00YR2/2) あまりしまりがなく、細い砂粒を有する。V層土を伴う。



S-05 土層
1 厚砂土 (00YR2/2) あまりしまりがなく、おたけに砂粒を有する。黒褐色を有する。
2 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、おたけに砂粒を有する。
3 厚砂土 (00YR2/2) しまりがなく、砂粒を有する。V層土を伴う。
4 厚砂土 (00YR2/2) しまりがなく、砂粒を有する。V層土を伴う。
5 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、細い砂粒を有する。V層土を伴う。

S-01 土層
1 厚砂土 (00YR2/2) しまりがなく、おたけに砂粒を有する。黒褐色を有する。
2 厚砂土 (00YR2/2) あまりしまりがなく、おたけに砂粒を有する。
3 厚砂土 (00YR2/2) あまりしまりがなく、砂粒を有する。黒褐色を有する。
4 厚砂土 (00YR2/2) あまりしまりがなく、砂粒を有する。V層土を伴う。
5 厚砂土 (00YR2/2) ややしまりがあり、細い砂粒を有する。V層土を伴う。

第107図 年の神遺跡遺構配置図土層断面図

Ⅲ 平成18年度の調査

(4) 調査の方法

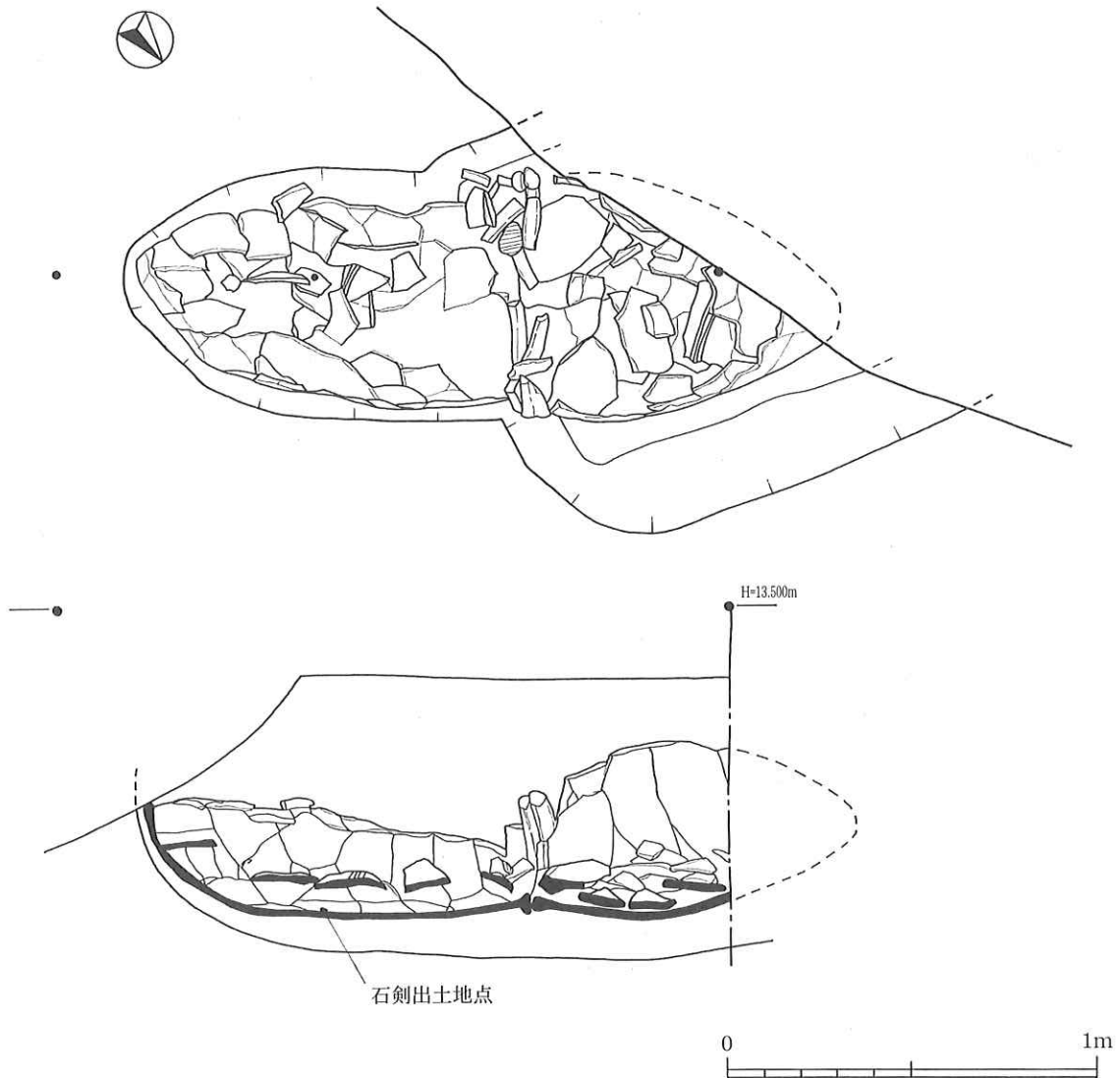
調査では、施工範囲のうち、埋蔵文化財に影響が発生する進入路設置部（90㎡）に調査区を設定した。昭和43年の開田造成に伴う客土と考えられるⅠ～Ⅲb層までを重機で掘削し、それ以下は人力で作業を行った。検出した遺構には、それぞれ番号を付けて掘り下げた。実測は、遺構配置図を1/100、それ以外を1/10及び1/20スケールで行い、撮影は35mmカラーリバーサル及びモノクロフィルムにより行った。

(6) 遺構・遺物

① 弥生時代の遺構・遺物

・ 甕棺墓（S-01）

調査区南東部に位置する。残存状況から、土圧により甕棺上半部が潰れ、それにともない墓壙上半部も陥没したと思われる。おそらく、隅丸形状の1次墓壙東側に2次墓壙が掘られていると考えられが、墓壙西側が調査区外に及んでいるため、全体規模は不明である。甕（上）と甕（下）による合口棺で、主軸方位はN-46°-Wである。



第108図 年の神遺跡 S-01 実測図

III 平成18年度の調査

・土坑

S-02

調査区南側中央部に位置する。長さ2.9m、幅1.5m、深さ0.96mの楕円形を呈する。

S-03

調査区南東部に位置する。数基の遺構に切れ、大部分が調査区外に及んでいるため全体形は不明である。住居跡の可能性も考えられるが、柱穴、炉跡、硬化面等の住居跡に伴う遺構は確認されていない。

S-04

調査区南端部に位置する。遺構が調査区外に及ぶため全体形は不明である。検出部で、長さ2.3m、深さ0.58mを測り、隅丸方形もしくは、隅丸長方形を呈するものと思われる。

S-05

調査区南西部に位置する。S-01・02によ

り切られ、また遺構が調査区外に及んでいるため全体形は不明である。検出部で深さ0.6mを測る。

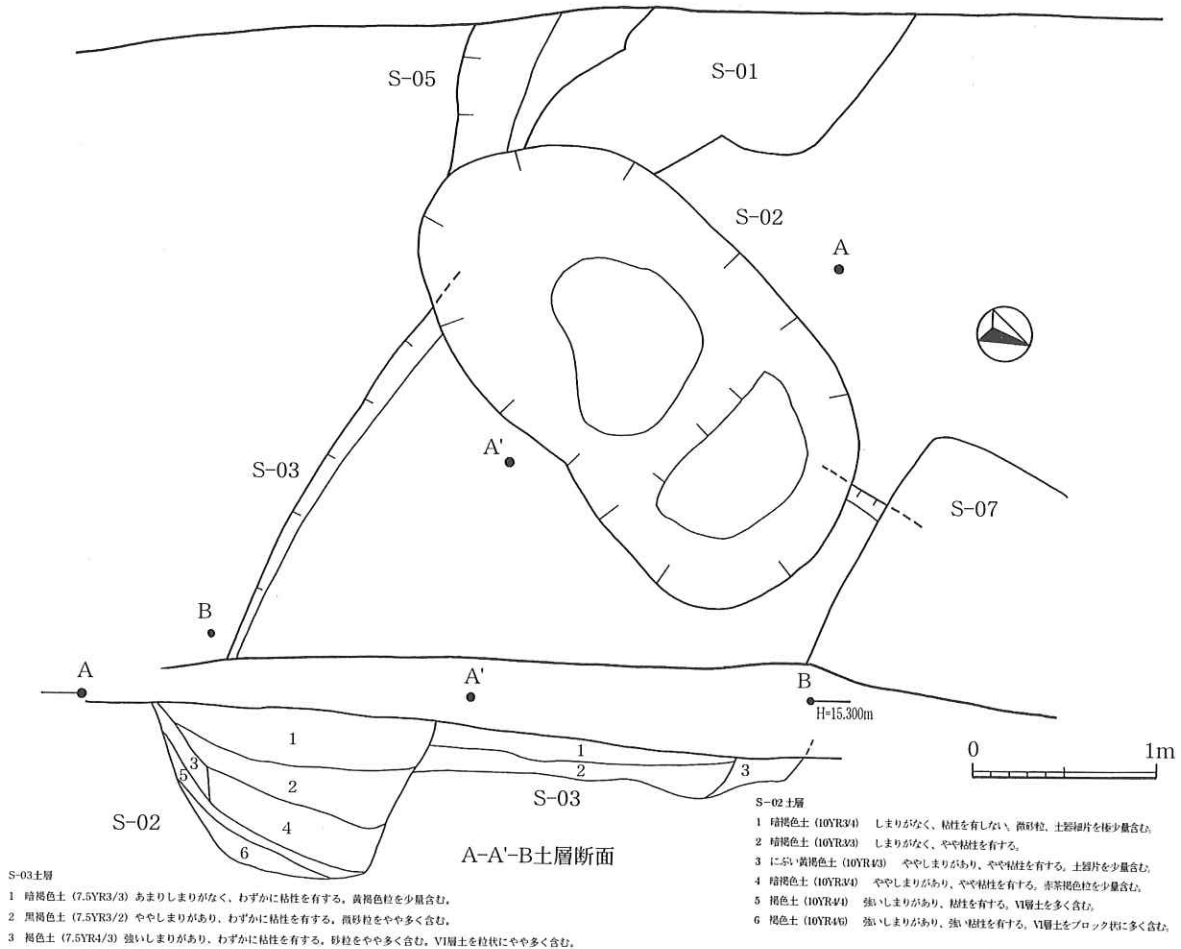
S-06

調査区中央部東側に位置する。遺構上部をS-07に切られているが、ほぼ円形に近い形状を呈するものと思われる。残存部で直径1.6m、深さ0.8mを測る。

②古代の遺構・遺物

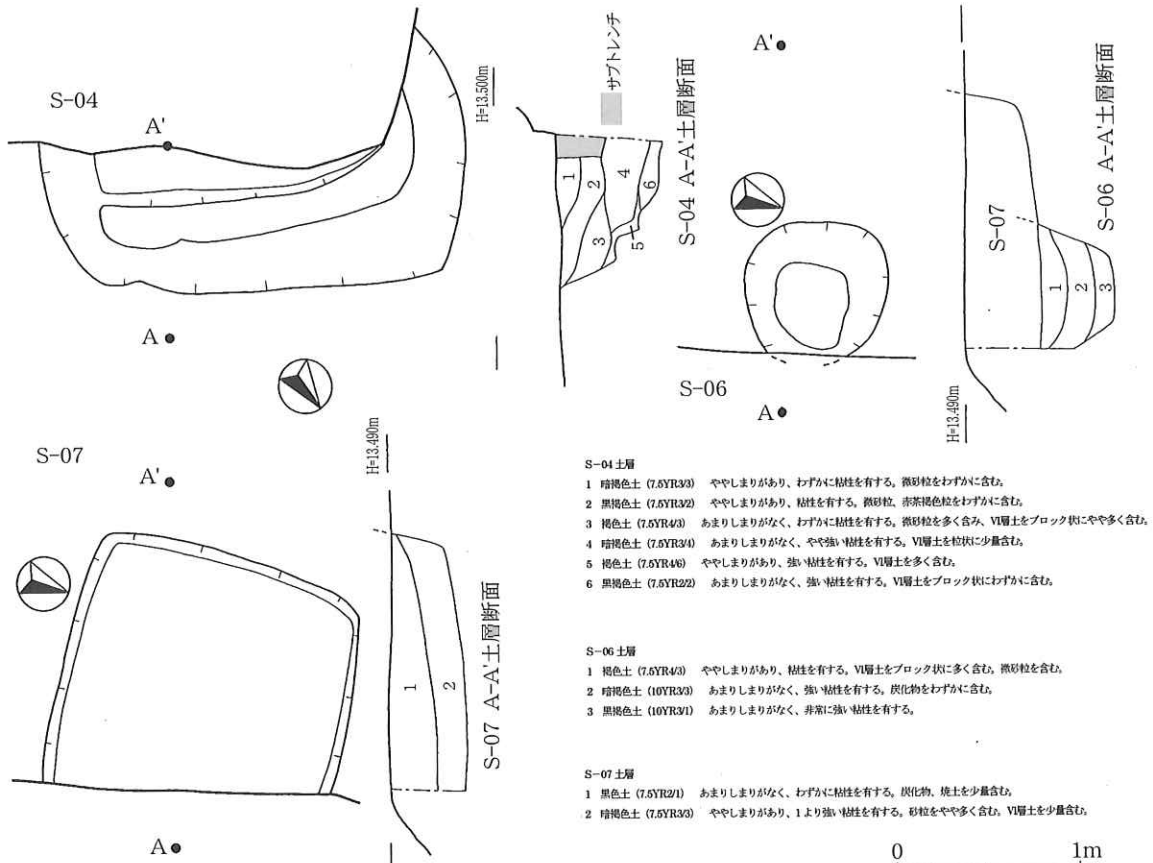
S-07

調査区中央部東側に位置する。遺構東側が調査区外に及んでいるため全体形は不明であるが、隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するものと思われる。検出部で、長さ3.0m、深さ0.85mを測る。奈良時代末期から平安時代初頭にかけてのものと思われる須恵器、土師器が出土している。

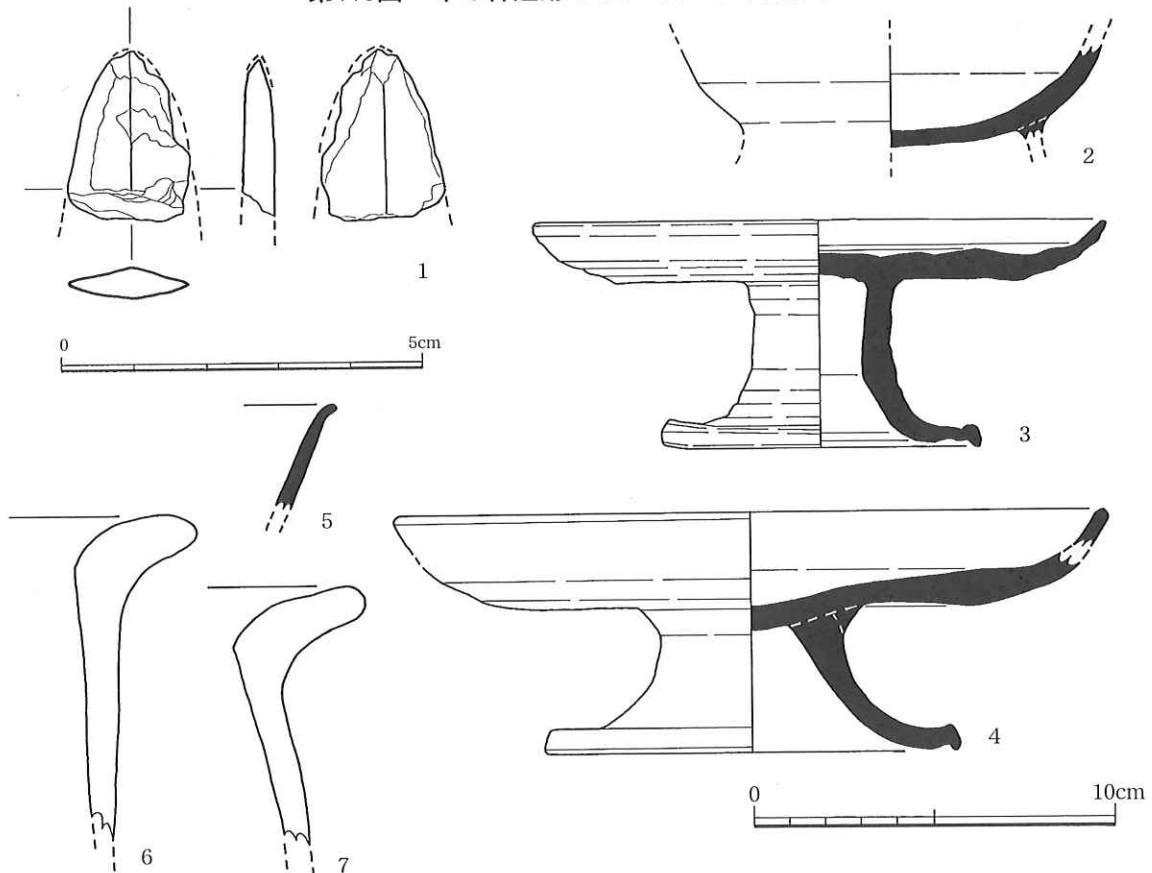


第109図 年の神遺跡 S-02・03・05 実測図

III 平成18年度の調査



第110図 年の神遺跡 S-04・06・07 実測図



第111図 年の神遺跡 S-01・07 出土遺物実測図

III 平成18年度の調査

③時期不明の遺構

S-08

調査区北側中央部に位置する。長さ1.8m、幅1.2m、深さ0.5mの土坑で、隅丸長方形を呈する。

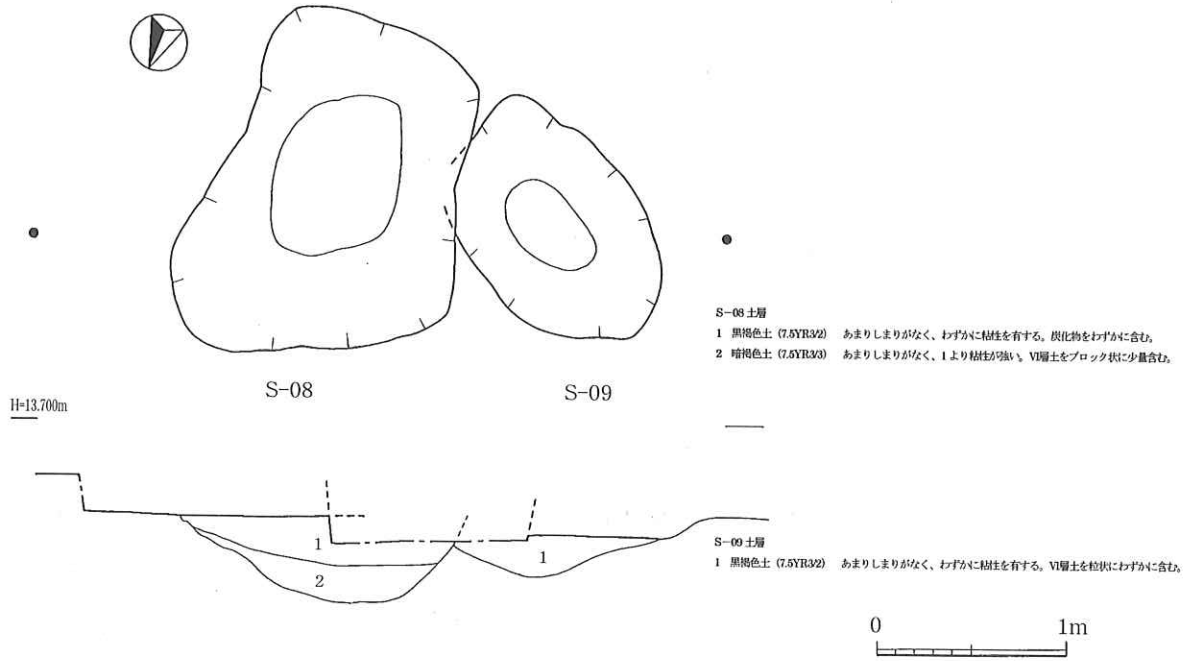
幅0.9m、深さ0.3mの土坑で、楕円形を呈するものと思われる。

その他時期不明のピットを数基確認したが、前述の土坑2基も含め、性格は不明である。

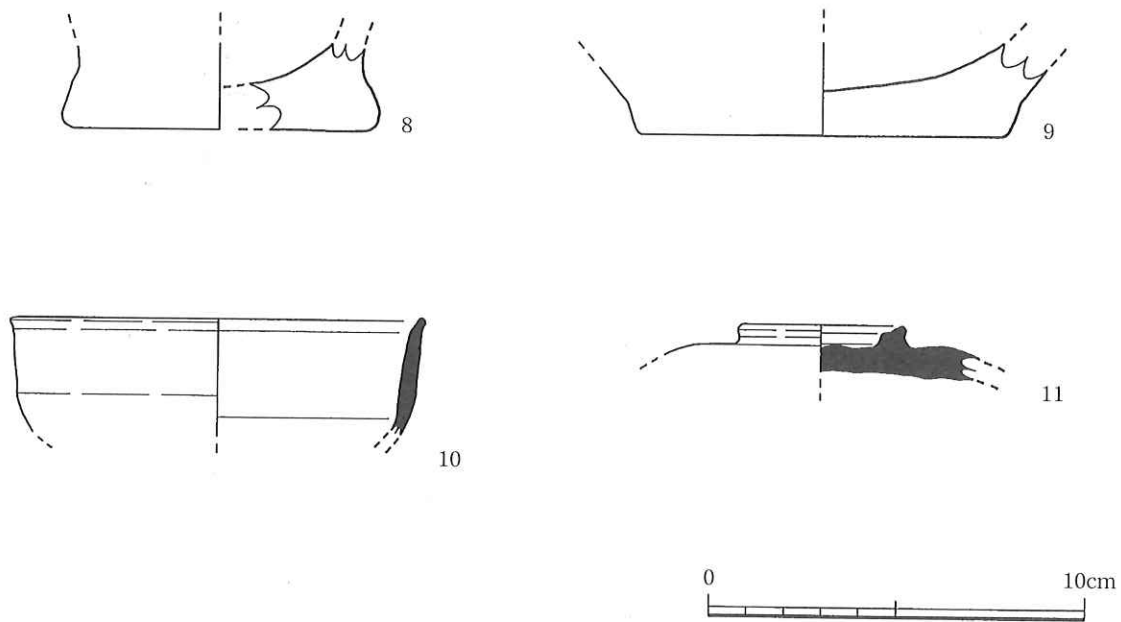
S-09

調査区北側中央部に位置する。長さ1.5m、

土層中からは、IV層から、弥生時代中期の土器片、奈良時代末期～平安時代初頭の須恵器・土師器片が出土している。



第112図 年の神遺跡 S-08・09 実測図



第113図 年の神遺跡出土遺物実測図

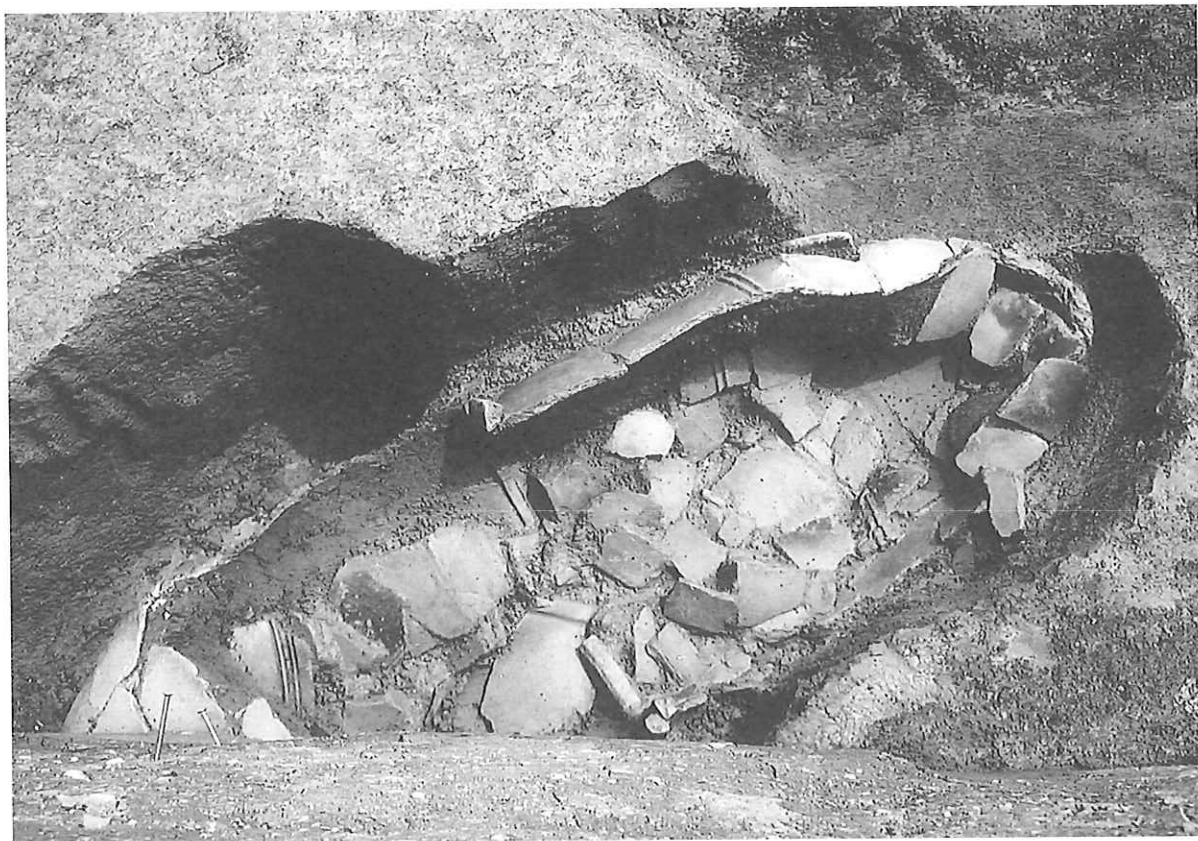


写真38 年の神遺跡S-01検出状況 西から



写真39 年の神遺跡調査区全景 北から

2 玉名平野条里跡A地点

所在地：岩崎140

調査原因：市民会館建設

対象面積：1,875.84㎡

調査期間：18年4月12日

担当者：中村安宏

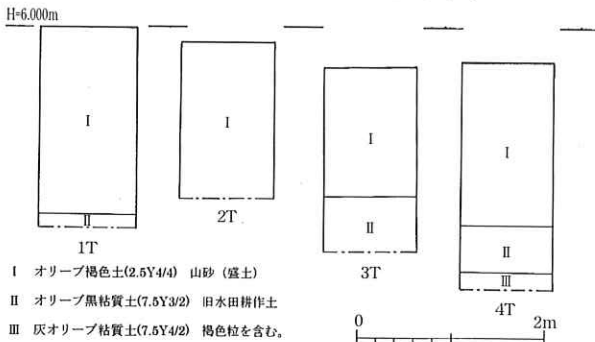
調査地は、菊池川右岸の玉名平野西端部、繁根木川左岸堤防際の標高5.8m程の地点である。調査時の状況は、盛土により造成され、駐車場として利用されていた。

調査では、敷地の4ヶ所にトレンチを設定した。各トレンチとも、1.4~2.0mの真砂土による盛土を確認し、その下に旧水田耕作土を確認した。最大で2.4m程掘り下げたが、現代の水田耕作土及びその床土を確認するに止まり、遺構、遺物は確認されなかった。

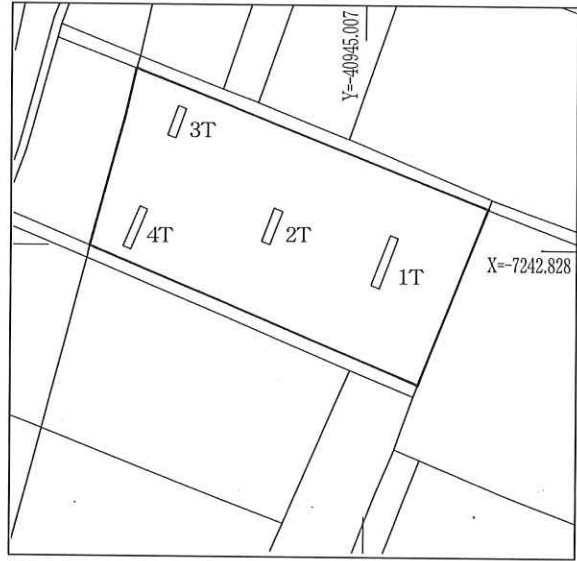
調査後の措置は、慎重工事である。



第114図 玉名平野条里跡A地点位置図 S=1/5,000



第116図 玉名平野条里跡A地点土層断面図



第115図 玉名平野条里跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真40 玉名平野条里跡A地点全景 東から



写真41 玉名平野条里跡A地点1T全景 北から

3 京塚遺跡

所在地：岱明町開田381-1外5筆

調査原因：店舗建設

対象面積：86,504.78㎡

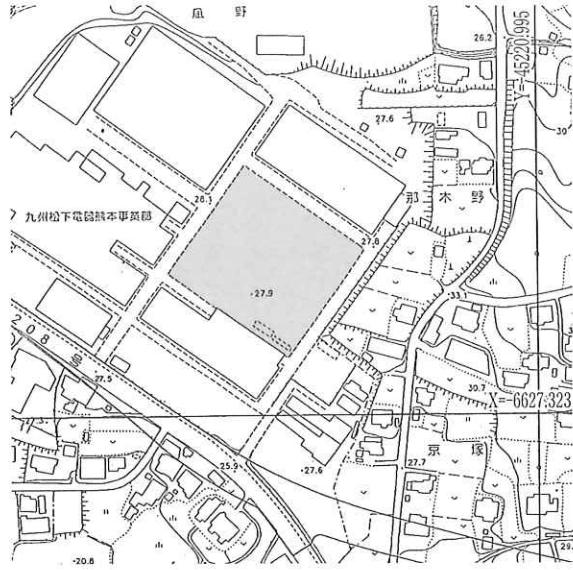
調査期間：18年4月25日～4月28日

担当者：中村安宏

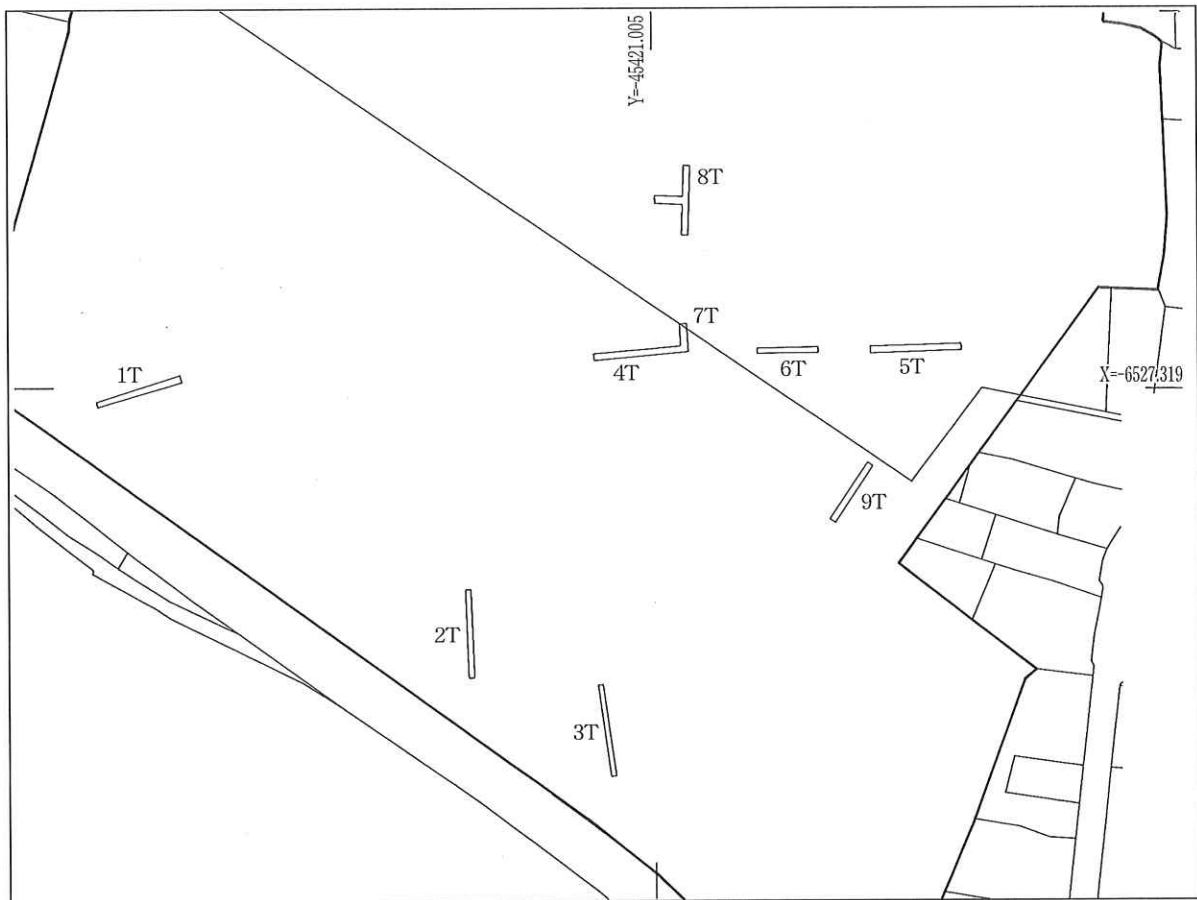
調査地は、玉名市の西端部、行末川と今泉川に挟まれた小代山麓丘陵上の標高28m程の地点である。調査時の状況は工場跡地で、かつて院塚古墳が所在していた箇所にあたる。

調査では、事業予定地内に10ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、表土は工場建設時の造成に伴う客土で、その下層は、大部分が砂礫層（赤田層）であった。このことから、当地においては、工場建設時に大規模な切土がなされ、埋蔵文化財は残存していないものと考えられる。

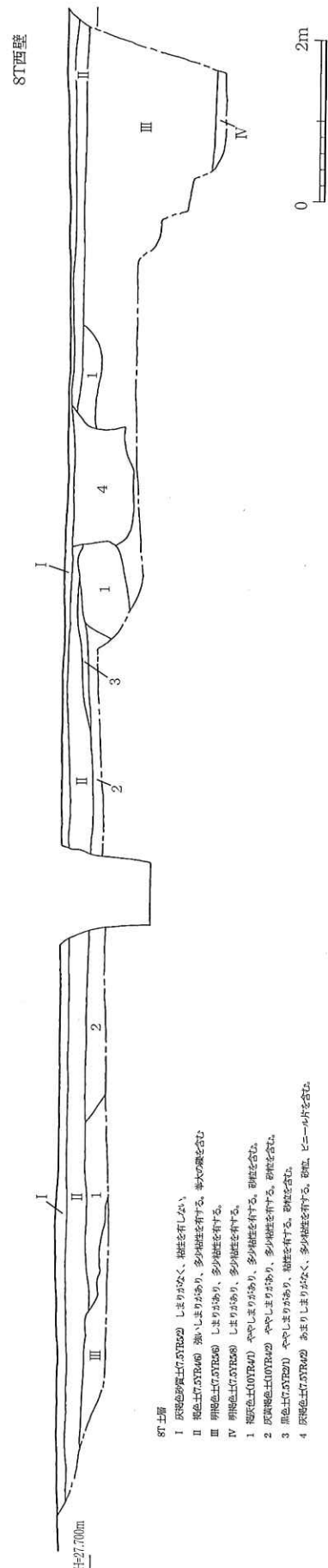
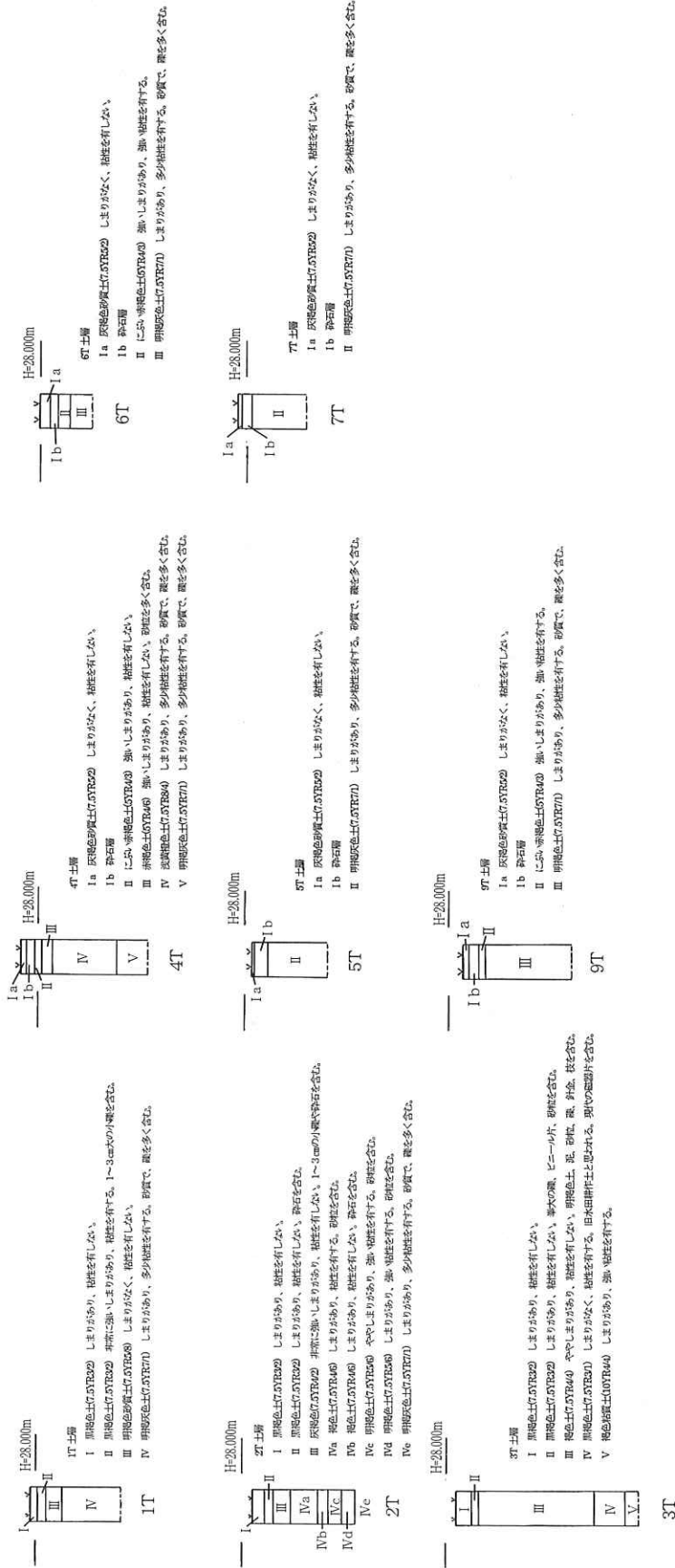
調査後の措置は、慎重工事である。



第117図 京塚遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第118図 京塚遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000



第119図 京塚遺跡土層断面図

4 玉名平野条里跡B地点 両迫間日渡遺跡A地点

所在地：両迫間317外

調査原因：新幹線新玉名駅周辺整備事業

対象面積：40,000m²

調査期間：18年4月27日～12月6日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川右岸の玉名平野中央部に位置する標高6m程の地点である。玉名平野条里跡と両迫間日渡遺跡の重複箇所、調査時の状況は水田及び水路である。

平成17年度からの継続調査で、事業用地内に17ヶ所のトレンチを設定し、弥生時代～古墳時代及び古代～中世にかけての遺物を検出した。詳細については、発掘調査の報告書に掲載予定である。



第120図 玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第121図 玉名平野条里跡B地点・両迫間日渡遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/2,000

5 高瀬本町通遺跡

所在地：高瀬224

調査原因：石積改修

対象面積：280㎡

調査期間：18年4月25日～5月8日

担当者：田中康雄

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置する標高8.5m程の地点である。旧高瀬町中心部の、間口の狭い細長い敷地で、高瀬裏川沿いの石積である。石積は凝灰岩によるもので、はらみが発生し危険な状態であることから、この積み直しを行い、併せて出入り用の階段を設置することになった。

調査では、現況石積の実測を行い、解体時に立会を行った。調査及び立ち会いの結果、近世2時期の石積及び石段、その上部に積まれた近代以降の石積が確認された。前者は手斧による丁寧な加工が施されているが、後者は雑割石であった。調査地横の階段上部に馬門石製のサブタが設けられているが、近世期は、馬門石の使用が藩により制限され、一個人の利用は不可能であったはずで、これが後者の石積と一体をなしていることから、後者の石積が近代以降のものであると判断した。また、石積解体時の立ち会の際、解体石積の裏に凝灰岩製の石段を確認した。高瀬裏川は、中世期には既に形成されていたと考えられるが、現在のような石積、石段等を備えるようになったのは近世以降と思われる。この石段もその時期のものと考えられる。よって当該地では、少なくとも近世期に2回、近代以降に1回石積等の築造、改修が行われていると考えられる。

施工では、現状石積をすべて撤去するが、再利用可能な石材はそのまま利用し、確認した石段については、そのまま埋め戻すことになった。



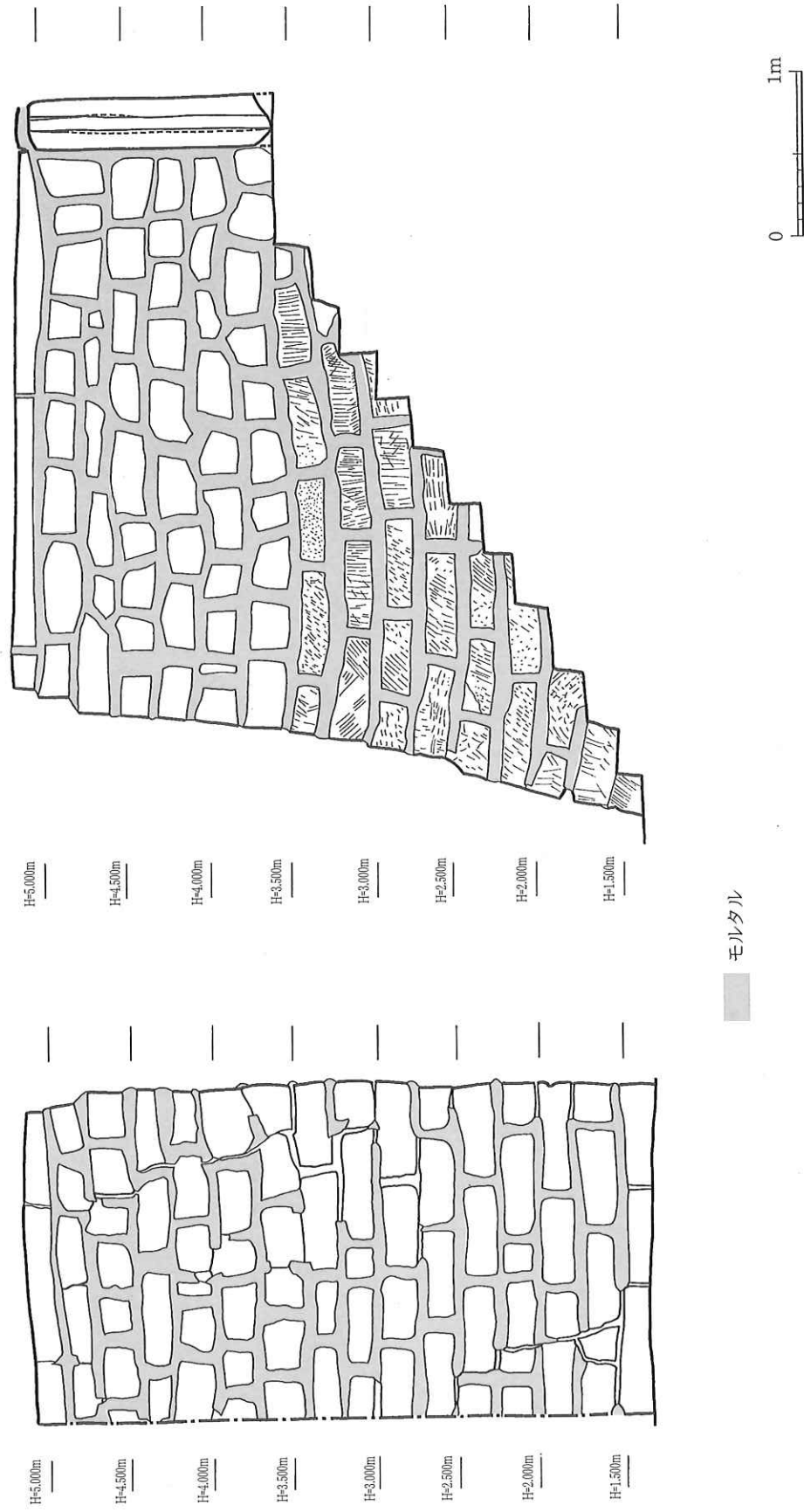
第122図 高瀬本町通遺跡調査地位置図 S=1/5,000



写真42 高瀬本町通遺跡遺構検出状況1 東から



写真43 高瀬本町通遺跡遺構検出状況2 東から



第123図 高瀬本町通遺跡石積実測図

6 上ノ辻遺跡

所在地：玉名字上ノ辻3613外5筆

調査原因：山砂採取

対象面積：761m²

調査期間：18年5月22日～6月6日

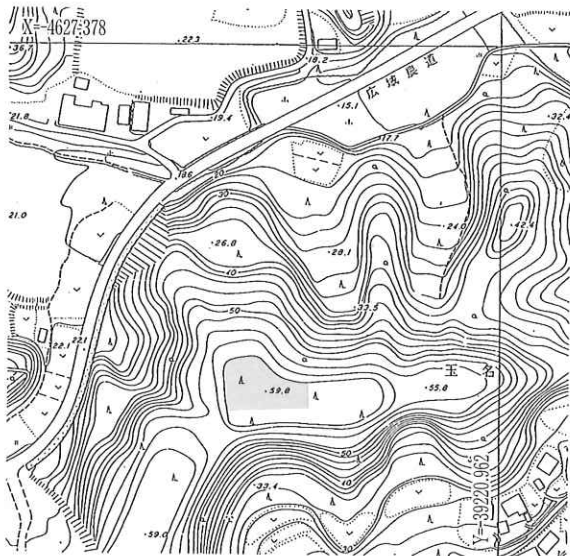
担当者：兵谷有利

調査地は、菊池川右岸の玉名平野北端に接する丘陵部上の、標高約60mの地点である。

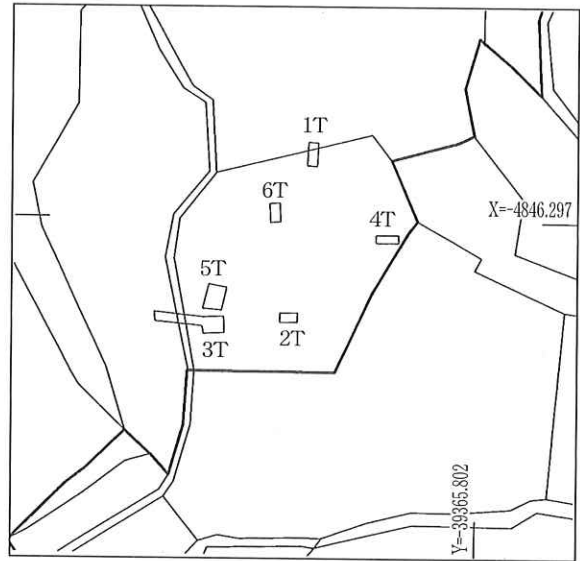
山砂の採取に伴い、現地踏査を行ったところ、遺物の散布が認められたため、開発者との協議後、調査依頼を受け、確認調査を実施した。

調査では、山砂採取予定地最頂部の平坦地に6箇所の特レンチを設定し、また周辺部も含めた地形から、中世山城の所在が想定されたため、縄張図の作成をおこなった。設定した特レンチのうち、2・3・4・5特レンチで土坑、ピットが確認され、6特レンチでは、弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、開発者側と協議を行い、山砂採取範囲の変更を行い、埋蔵文化財に影響が及ばないように採取を行うこととなった。



第124図 上ノ辻遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第125図 上ノ辻遺跡特レンチ配置図 S=1/1,000

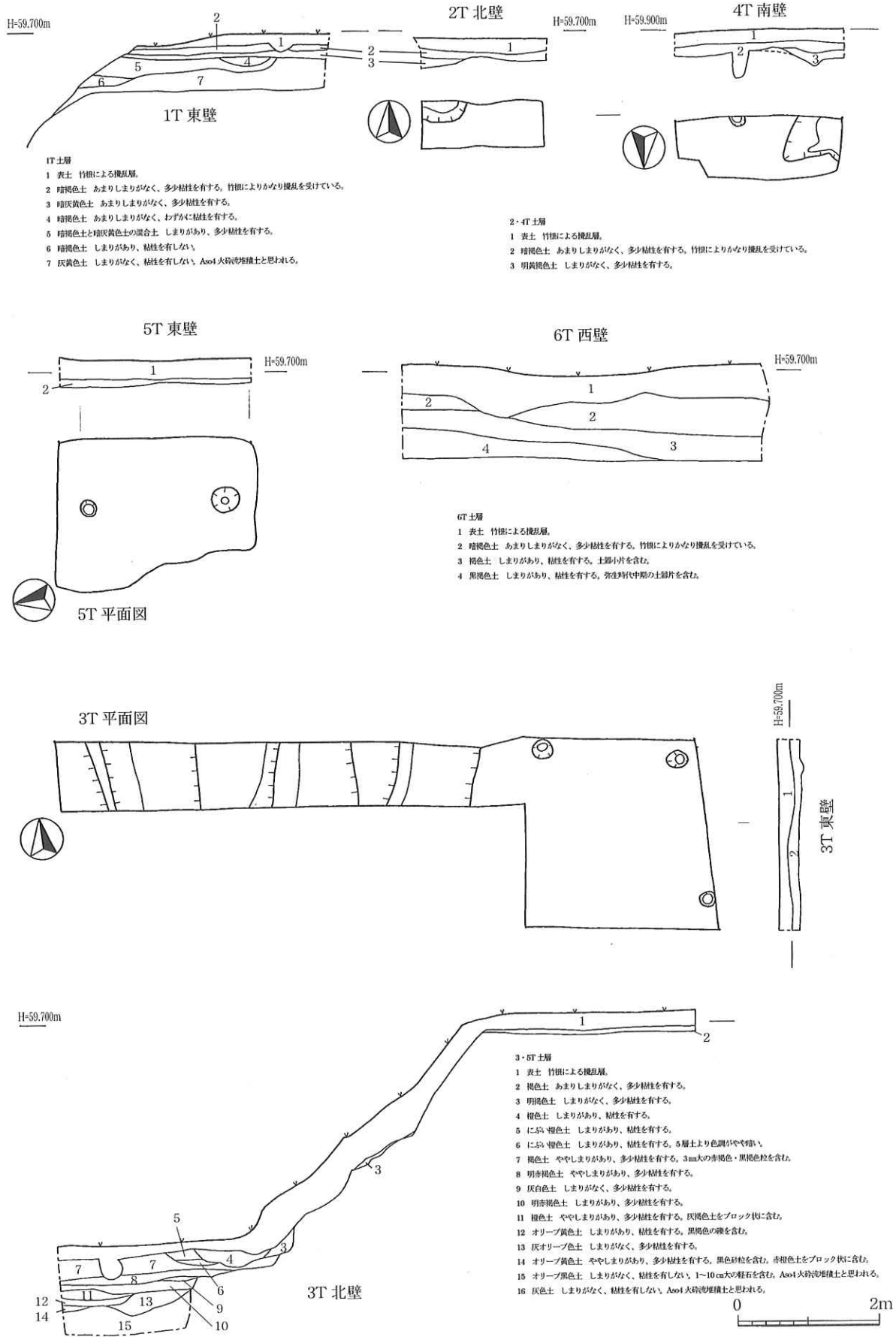


写真44 上ノ辻遺跡調査地全景1 北から



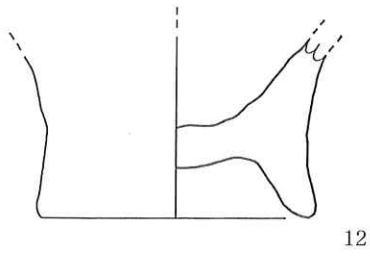
写真45 上ノ辻遺跡調査地全景2 北から

III 平成18年度の調査



第126図 上ノ辻遺跡トレンチ実測図

Ⅲ 平成18年度の調査



12

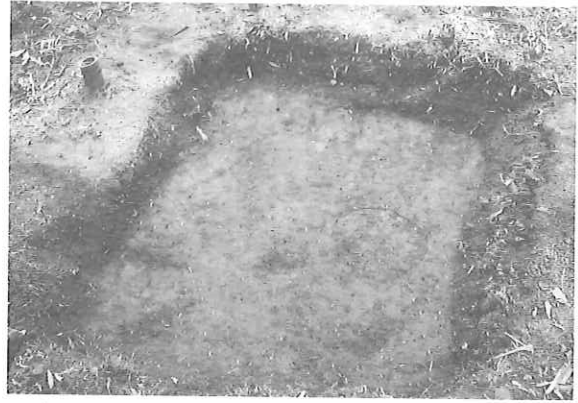


写真46 上ノ辻遺跡5T遺構検出状況 西から

第127図 上ノ辻遺跡出土遺物実測図

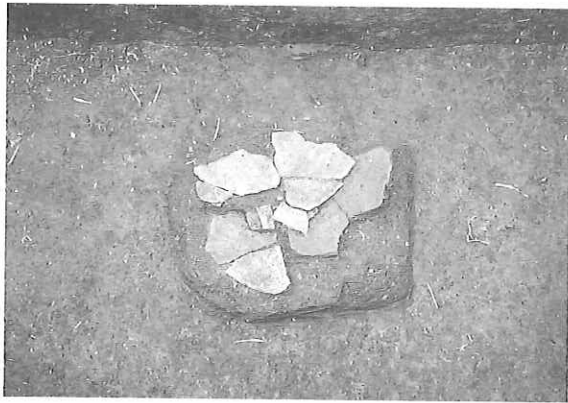
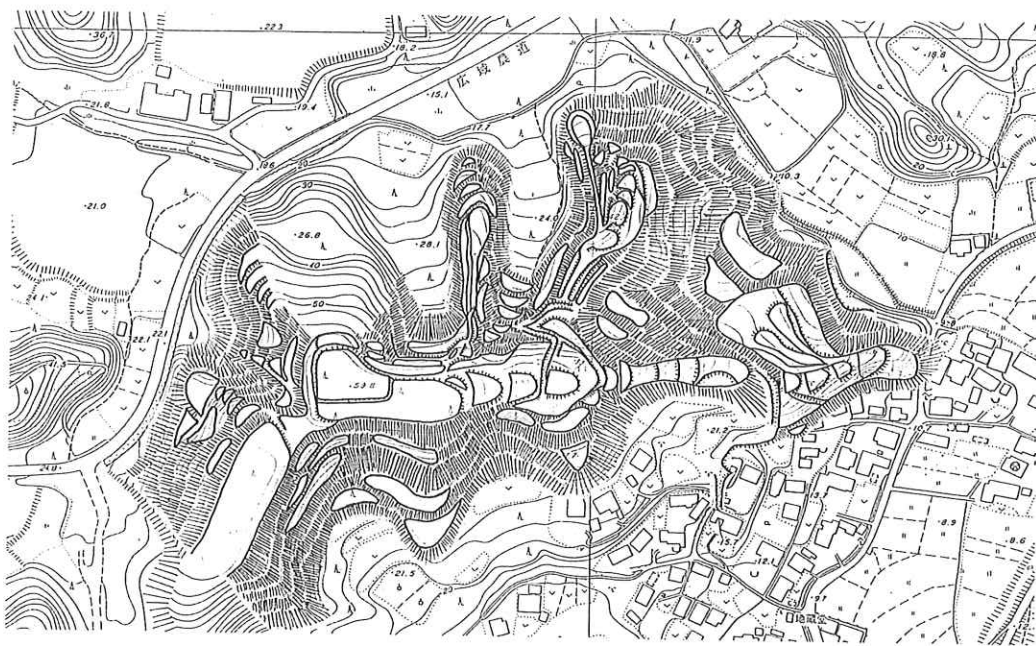


写真47 上ノ辻遺跡6T遺物出土状況1 東から



写真48 上ノ辻遺跡6T遺物出土状況2 東から



第128図 上ノ辻遺跡周辺縄張図 S=1/5,000

7 繁根木遺跡群

所在地：繁根木195-9

調査原因：専用住宅建設

対象面積：148.34m²

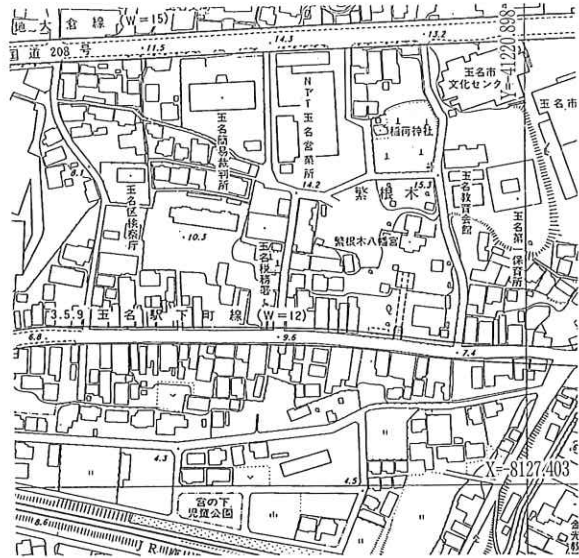
調査期間：18年5月22日～5月29日

担当者：中村安宏

調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地中央南端部の傾斜地で、標高12m程の地点である。調査時の状況は、旧建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内の建物基礎予定部に9ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、I層は建物解体後の客土、II・III層は灰褐色土、IV層は暗褐色土、V層は暗褐色土でIV層土をブロック状に含む層、VI層は明褐色土、VII層は明褐色土で人頭大の礫を多量に含む層であった。このうち、II、III層中には近現代の瓦片、磁器片等が含まれ、その堆積状況から、近現代における整地層であると判断した。IV、V層は近現代以前の整地層、VI、VII層は無遺物層と判断した。また、2、7、8トレンチVI層上面で溝状遺構、9トレンチVI層上面で土坑状の遺構を検出した。このうち、8トレンチの溝状遺構中から中世の土師器、瓦器の小片及び近世の陶器小片が出土している。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工の際に影響が発生する部分については、確認調査時に完掘したため、調査後の措置は慎重工事となった。



第129図 繁根木遺跡群調査地位置図 S=1/5,000

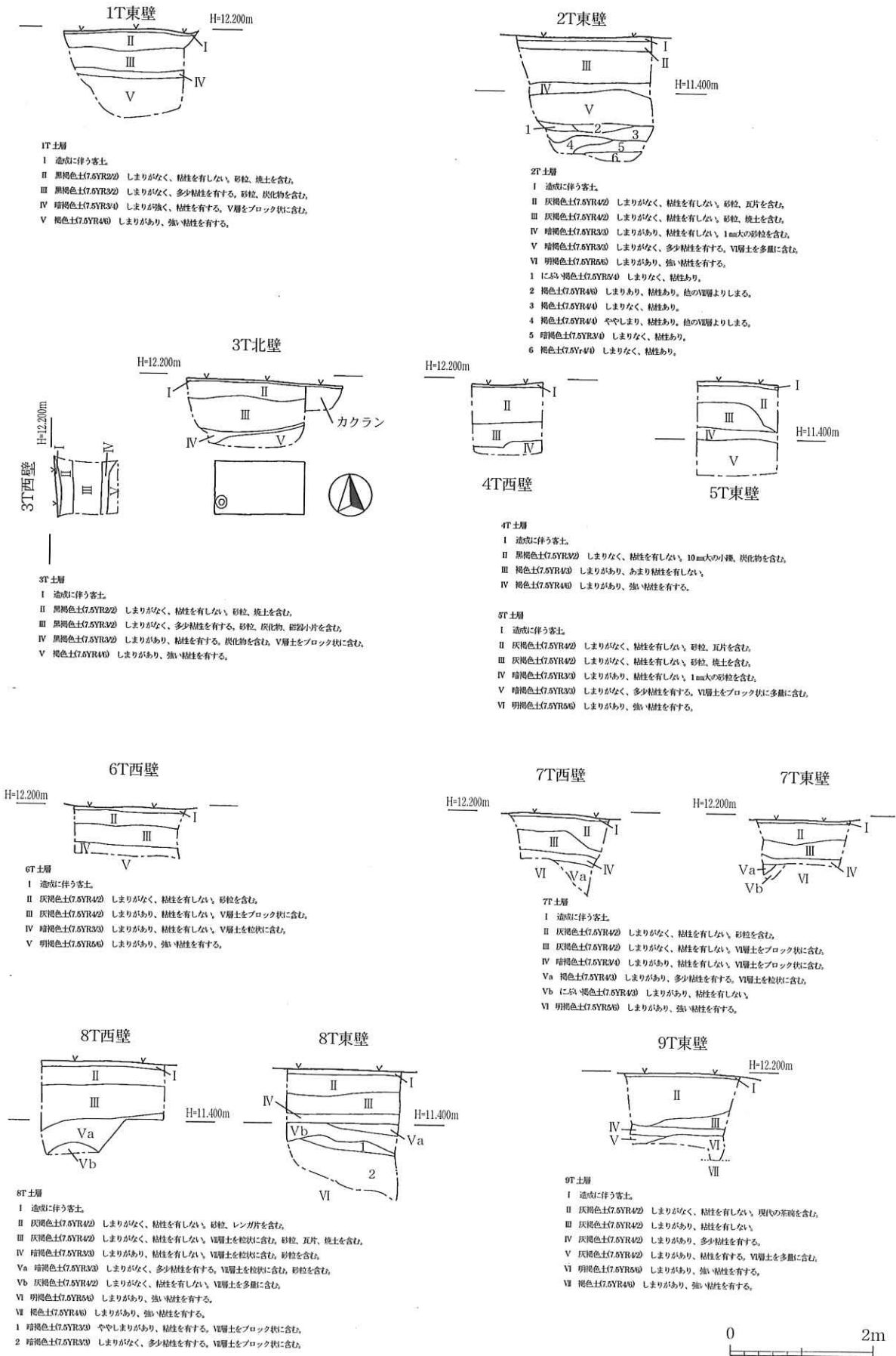


第130図 繁根木遺跡群トレンチ配置図 S=1/1,000



写真49 繁根木遺跡群調査地全景 西から

III 平成18年度の調査



第131図 繁根木遺跡群トレンチ実測図

8 蓮華遺跡

所在地：築地南大門2059-6外4筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：683.73㎡

調査期間：18年6月6日～6月9日

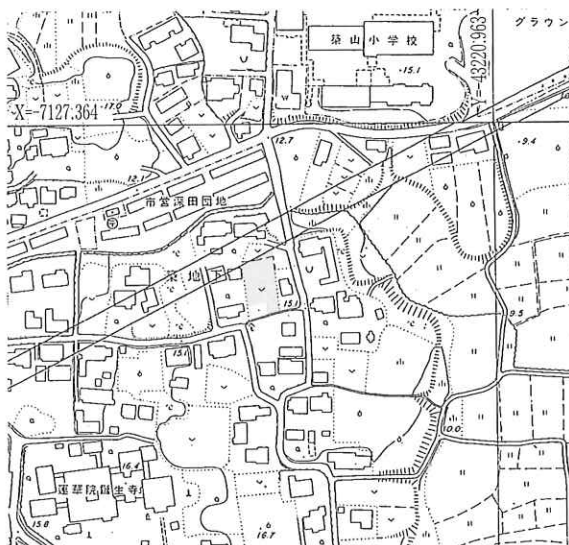
担当者：末永 崇

調査地は、境川右岸に面した玉名台地東端部の低位段丘上に位置する、標高15m程の地点である。調査時の状況は、耕作が行われている畑地であった。

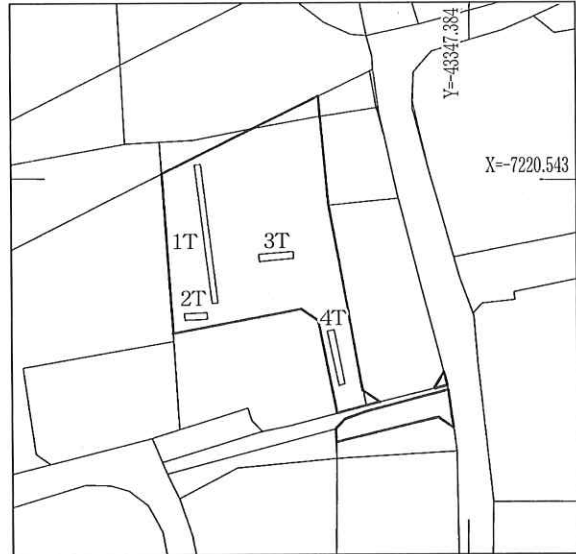
調査では、敷地内に4ヶ所のトレンチを設定した。Ⅰ・Ⅱ層は耕作土、Ⅲ層は暗褐色土、Ⅳ層は黒褐色土、Ⅴ層は極暗褐色土、Ⅵ層は褐色の砂礫層であった。このうち、Ⅴ層は1トレンチでのみ確認されており、敷地中央から北側へのみ堆積しているものと考えられる。

Ⅲ、Ⅳ層で土器細片を僅かに確認し、Ⅴ・Ⅵ層上面で住居跡、土坑、ピット等の遺構を確認した。周辺の調査状況より、弥生時代から中世にかけてのものとして想定される。

調査の結果を受け、施主側と協議を行った結果、建物部分については、埋蔵文化財に影響を与えないよう設計変更が行われたが、進入路については、狭小であるが切土が行われるため、工事立会を行うこととなった。



第132図 蓮華遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第133図 蓮華遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

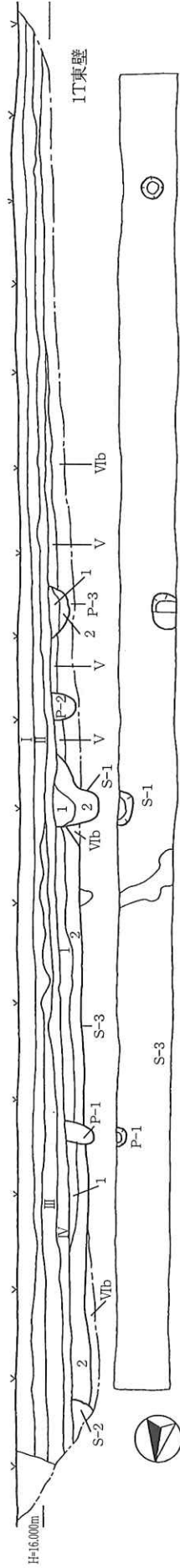


写真50 蓮華遺跡調査地全景 南から



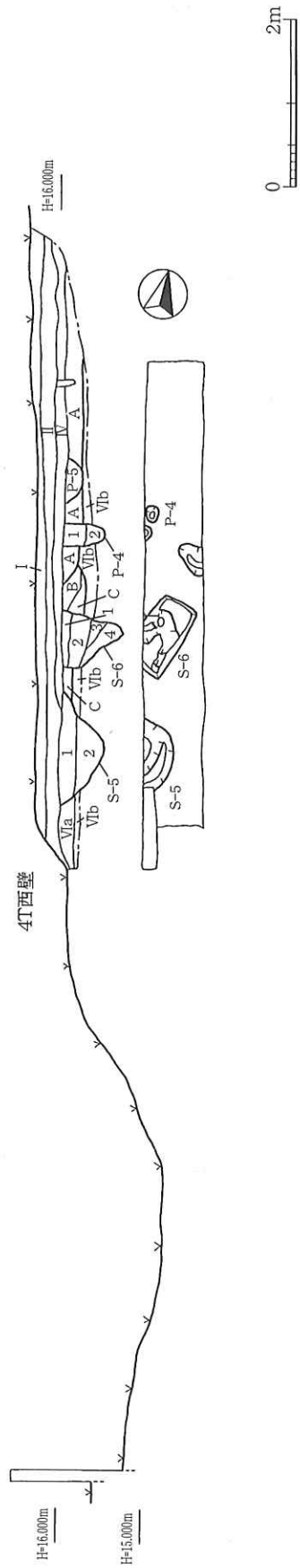
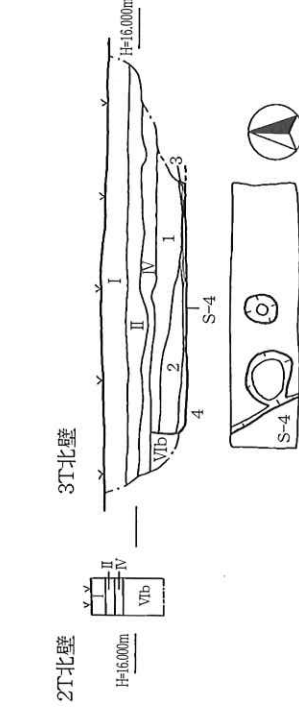
写真51 蓮華遺跡4T遺構検出状況 南から

III 平成18年度の調査



- S-1
 1 黒褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。肌、砂粒を少量含む。
 2 暗褐色土(57R340) しまりがあり、粘性を有する。肌片を含む。
- S-2
 1 黒褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。土器片を含む。
- S-3
 1 黒褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。粘土、灰化物を少量含む。
 2 暗褐色土(57R320) しまりがあり、砂粒を有する。砂粒を含む。
- S-4
 1 暗褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。1~2cmの肌片を含む。粘土、灰化物をわずかに含む。
 2 暗褐色土(57R320) しまりがあり、粘性を有する。1~2cmの肌片を少量含む。
 3 暗褐色土(57R320) 粘砂がやや強く、肌片を含む。
 4 褐色土(57R40) しまりがあり、あまり粘性を有しない。肌片、肌、砂粒を含む。
- S-5
 1 暗褐色土(57R340) しまりがあり、やや粘性を有する。肌片を含む。
 2 暗褐色土(57R220) しまりがあり、やや粘性を有する。肌片を含まない。1より粘砂が強い。
- S-6
 1 暗褐色土(57R340) しまりがあり、やや粘性を有する。粘土、灰化物を少量含む。
 2 褐色土(57R40) しまりがあり、粘性を有する。肌片を多く含む。
 3 暗褐色土(57R340) しまりがあり、やや粘性を有する。
 4 暗褐色土(57R220) しまりがあり、やや粘性を有する。肌、砂粒を少量含む。
- A 暗褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。砂粒、肌片を少量含む。
 B 暗褐色土(57R320) しまりがあり、粘性を有する。砂粒、肌片を少量含む。Aよりやや粘砂が強い。
 C 暗褐色土(57R320) しまりがあり、粘性を有する。粘土、灰化物を少量含む。
 ※ A~Cは遺構跡土の可能性が高い。

- 土層
 I 耕作土
 II 褐色土(57R40) しまりがあり、粘性を有しない。
 III 暗褐色土(57R340) しまりがあり、粘性を有しない。肌、砂粒、1cm以下の肌片を全体的に含む。粘土、灰化物を少量含む。土器面片を含む。
 IV 暗褐色土(57R220) しまりがあり、やや粘性を有する。肌、砂粒、1cm以下の肌片を全体的に含む。粘土、灰化物を少量含む。土器面片を含む。
 V 暗褐色土(57R220) しまりがあり、やや粘性を有する。
 VIa 褐色土(57R40) しまりがあり、やや粘性を有する。下面にたるまり部が多く、粘砂が少なく、肌、砂粒が強い。
 VIb 褐色土(57R40) IVと同じ土層であるが、やや粘砂が強い。
- P-1
 1 暗褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。肌片を少量含む。
 2 暗褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。砂粒を含む。
- P-2
 1 暗褐色土(57R220) しまりがあり、やや粘性を有する。砂粒を含む。
 2 暗褐色土(57R340) しまりがあり、やや粘性を有する。砂粒を含む。
- P-3
 1 暗褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。砂粒を含む。
 2 暗褐色土(57R40) しまりがあり、あまり粘性を有しない。肌、砂粒を含む。
- P-4
 1 暗褐色土(57R220) しまりがあり、粘性を有する。粘土、灰化物を少量含む。
 2 褐色土(57R40) しまりがあり、あまり粘性を有しない。肌、砂粒を含む。
 暗褐色土(57R340) しまりがあり、粘性を有する。砂粒を少量含む。



第134図 蓮華遺跡トレンチ実測図

9 築地東遺跡

所在地：築地2351-2外4筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,833.84m²

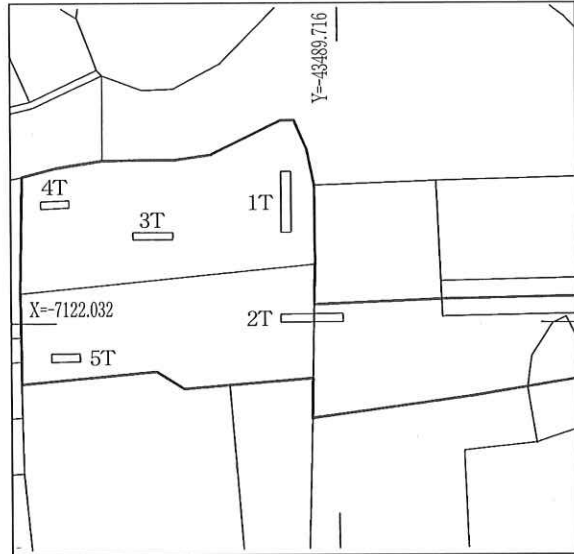
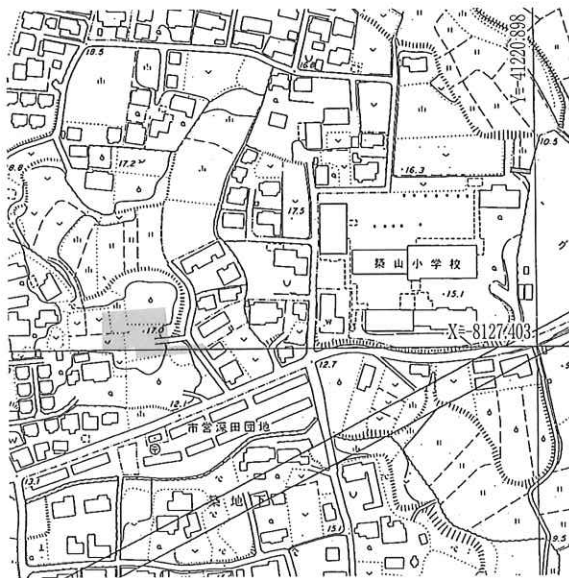
調査期間：18年6月7日～6月8日

担当者：齋父雅史

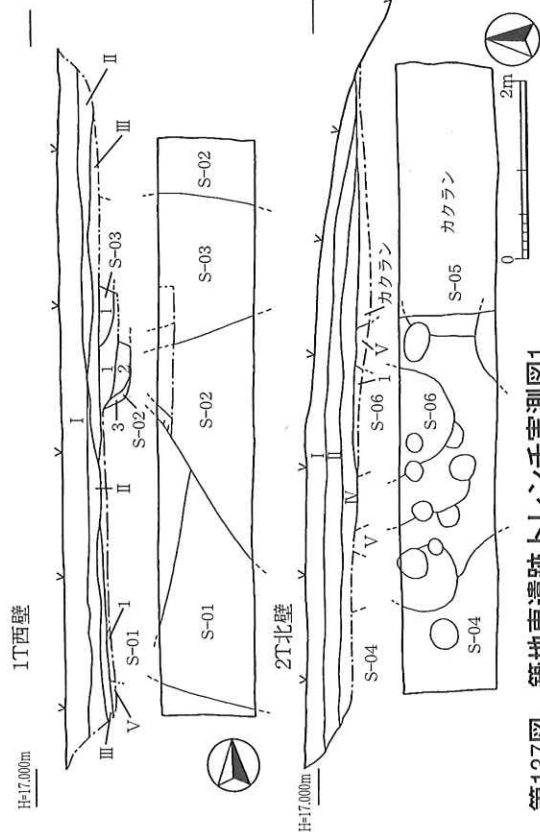
調査地は、境川右岸に面した玉名台地北西部に位置する、標高17m程の地点である。周辺一帯は、弥生時代の包蔵地であり、中世城館の推定範囲とも重複している。調査時の状況は、畑地をならした程度の更地であった。

調査では、敷地内に5ヶ所のトレンチを設定した。I層は表土、II・III層は耕作土、IV層は黒褐色土、V層は褐色土、VI層はにぶい黄褐色土であった。設定した5ヶ所のトレンチのうち、1～3トレンチのV層上面で、弥生時代及び中世期の遺構を検出し、2トレンチで弥生時代から中世にかけての遺物包含層（IV層）を確認した。弥生時代の遺構は、住居跡、土坑、ピットで、中世期の遺構は、土坑、ピットであった。

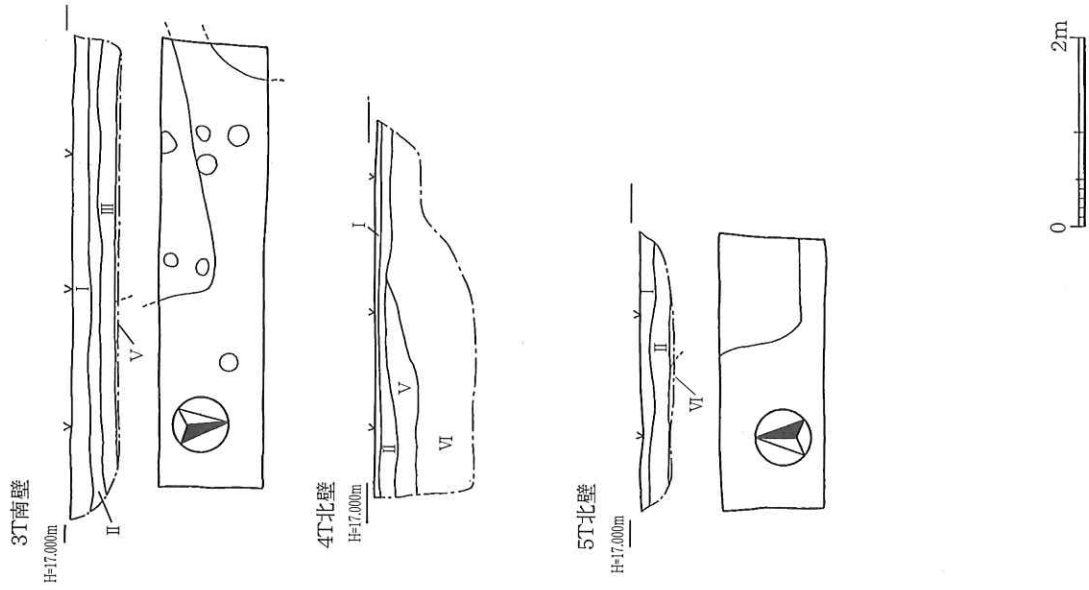
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、埋蔵文化財に対して影響が発生しないため、調査後の措置は、慎重工事となった。



- 土層
- I 表土 築地2351-2外4筆、掘削時に表土有り。
 - II 耕作土 現地の農耕地を含む。
 - III 耕作土 近世～近代の農耕地を含む。
 - IV 黒褐色土(017R20) ややしまりが強く、おがくぼれを有する。黒褐色土を多く含む。弥生～中世までの土層を含む。2Tでの確認したため、大部分は掘削されていないと思われる。
 - V 褐色土(017R40) しまりが強く、おがくぼれを有する。
 - VI にぶい黄褐色土(017R60) あまりしまりがなく、粒を有しない。黒褐色土を多く含む。
- S-01
- 1 黒褐色土(017R40) ややしまりが強く、おがくぼれを有する。黒褐色を多く含む。
- S-02
- 1 褐色土(017R40) ややしまりが強く、おがくぼれを有する。黒褐色を多く含む。
 - 2 黒褐色土(017R20) 1よりしまりが強く、やや粒を有する。黒褐色を多く含む。弥生土層片を認められる。下層にV層土を認められる。多く含む。
 - 3 褐色土(017R40) あまりしまりがなく、粒を有しない。V層土をブロック状に多く含む。弥生土層片を認める。
- S-03
- 1 黒褐色土(017R20) しまりがなく、強い粒を有する。黒褐色を多く含む。近世層、土層片を含む。中世の遺構と思われる。
- S-04 覆土
- 1 黒褐色土(017R20) あまりしまりがなく、やや強い粒を有する。黒褐色をわずかに認める。弥生土層片を含む。
- S-06 覆土
- 1 黒褐色土(017R60) しまりがなく、やや粒を有する。V層土をブロック状に多く含む。



III 平成18年度の調査



第138図 築地東遺跡トレンチ実測図2



写真52 築地東遺跡調査地全景 東から



写真53 築地東遺跡2T遺構検出状況 南から

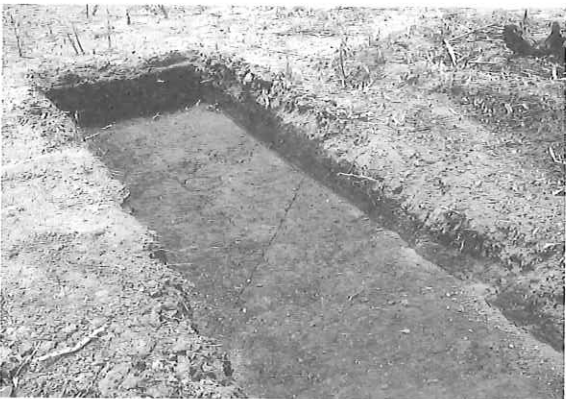


写真54 築地東遺跡3T遺構検出状況 東から

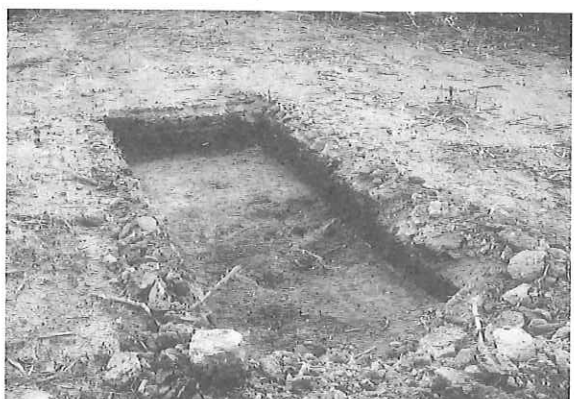


写真55 築地東遺跡5T遺構検出状況 東から

10 今泉遺跡A地点

所在地：岱明町上字塚浦

調査原因：道路拡幅工事

対象面積：2,988.4m²

調査期間：18年6月21日

担当者：齋父雅史

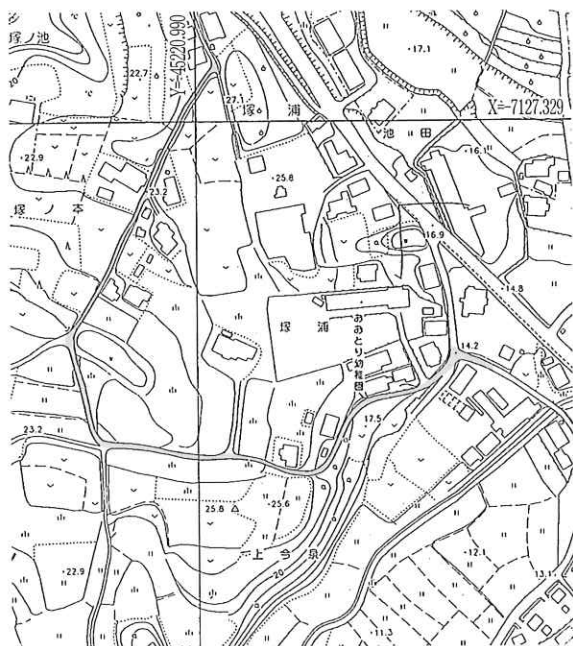
調査地は、玉名市の西部、行末川と今泉川に挟まれた小代山麓丘陵南東端部の標高14~23m程の地点である。これまで当遺跡での本格的な調査事例はないが、地元の河北毅氏による表採資料が「肥後考古」第4号（1983）に掲載されており、弥生時代中期から後期にかけた集落跡の可能性が指摘されている。

調査では、道路拡幅予定の畑地に9ヶ所のトレンチを設定した。結果、現状の市道部及び畑地は、切盛土によるもので、旧地形が大きく改変されており、6トレンチでのみ、削平を免れた柱穴と思われる遺構2基を確認した。このように、施工予定地内は削平が著しいことから、埋蔵文化財が残存している可能性は低いと判断した。

調査後の措置は、慎重工事である。



第140図 今泉遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/2,000



第139図 今泉遺跡A地点位置図 S=1/5,000

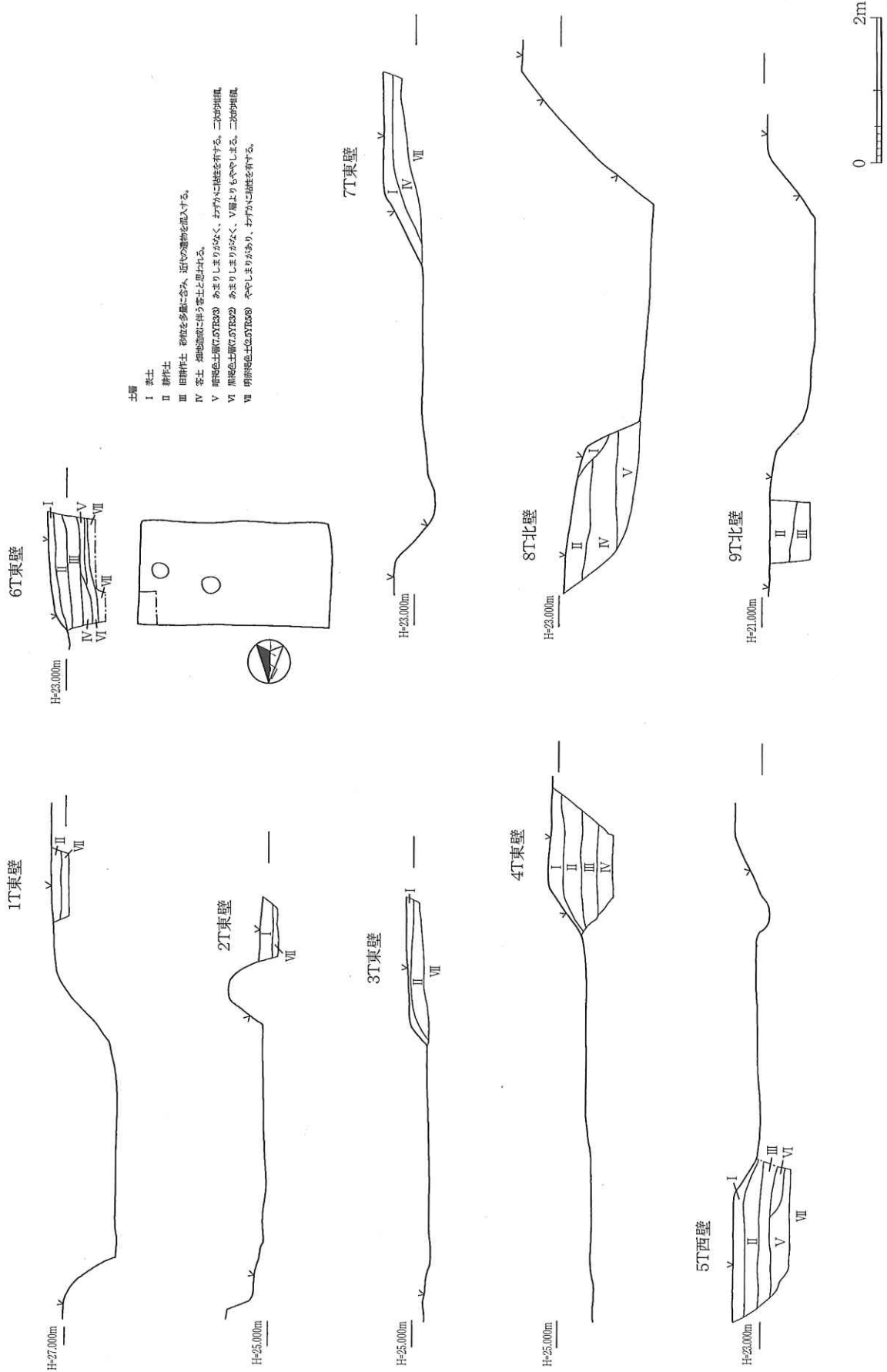


写真56 今泉遺跡A地点全景1 西から



写真57 今泉遺跡A地点全景2 南から

III 平成18年度の調査



第141図 今泉遺跡A地点トレンチ実測図

1 1 立願寺廃寺

所在地：立願寺塔の尾1169

調査原因：専用住宅建設

対象面積：853m²

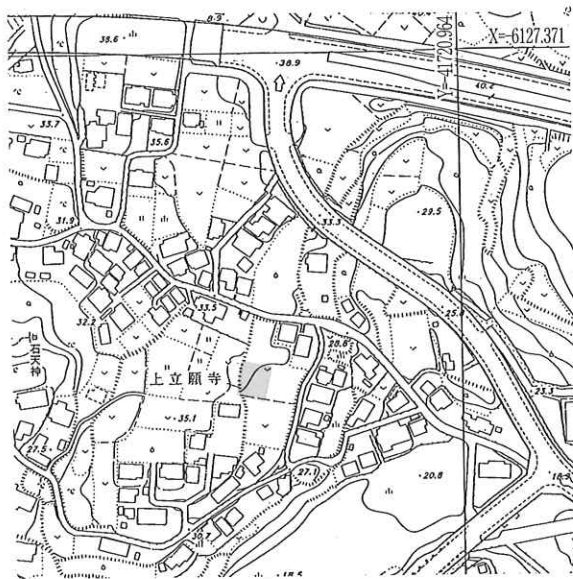
調査期間：18年7月4日～7月14日

担当者：齋父雅史

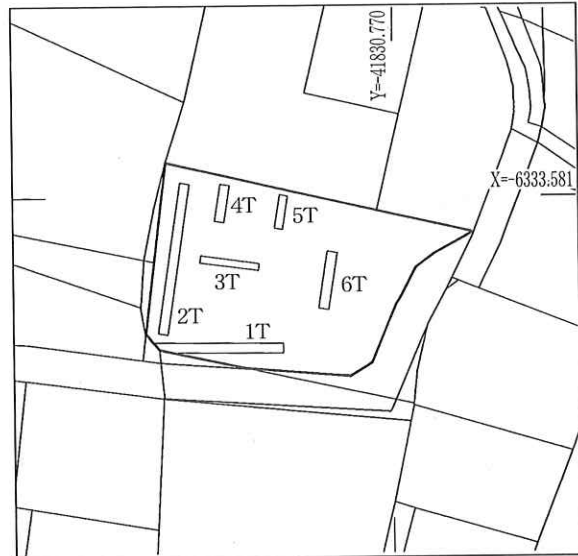
調査地は、玉名市の中西部、小代山南側丘陵部に接する玉名台地北端部に位置する、標高35m程の地点である。調査時の状況は、畑地をならした程度の更地であった。

調査では、敷地内に6ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチのうち、1～4トレンチで古代から中世にかけての遺構を確認した。遺構は、土坑、ピット、溝状遺構で、このうち溝状遺構は、東西方向に延び、多量の古代瓦が出土した。寺院を区画する溝の可能性も考えられるが詳細は不明である。土坑は、焼土を含み、周辺の調査例から中世期の廃棄土坑の可能性が考えられる。

調査の結果を受け協議を行い、埋蔵文化財に影響を与えないよう設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。



第142図 立願寺廃寺調査地位置図 S=1/5,000



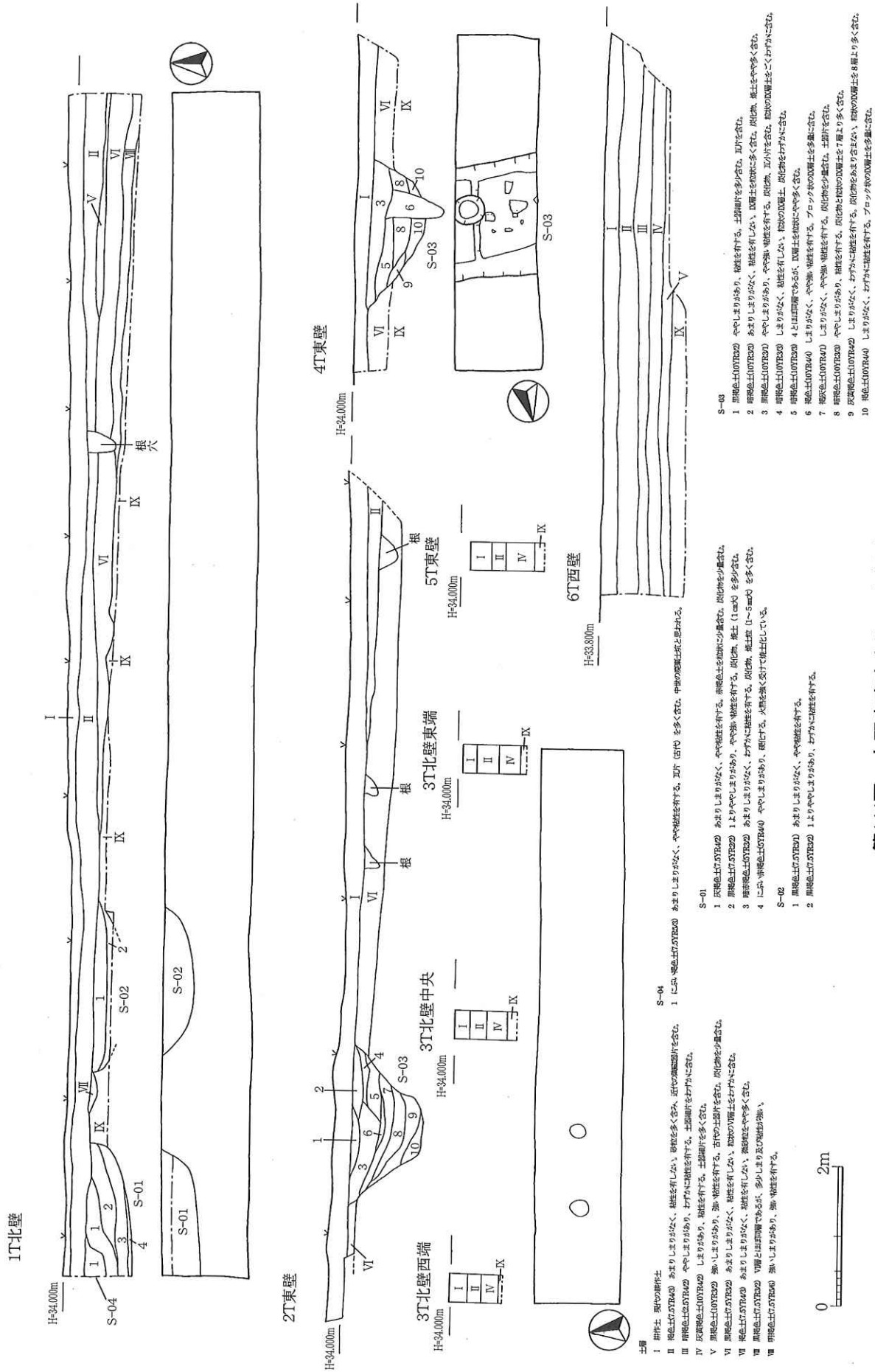
第143図 立願寺廃寺トレンチ配置図 S=1/1,000



写真58 立願寺廃寺調査地全景 南から



写真59 立願寺廃寺4T遺構検出状況 南から



第144図 立願寺廃寺トレンチ実測図

12 山田松尾平遺跡

所在地：山田字松尾原1351-1外

調査原因：宅地造成

対象面積：1,111m²

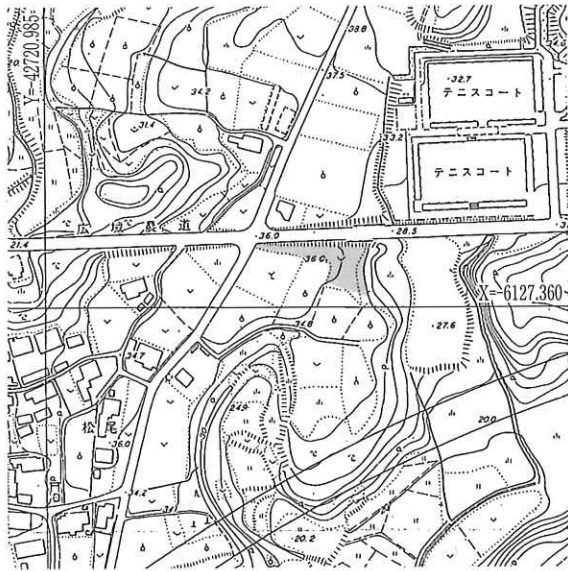
調査期間：18年8月29日～8月30日

担当者：中村安宏

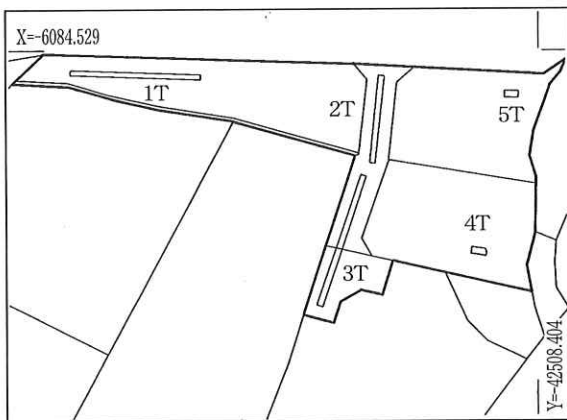
調査地は、小代山南側丘陵部の南部に位置する、標高36m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に5カ所のトレンチを設定した。各層から遺構、遺物は確認されなかった。

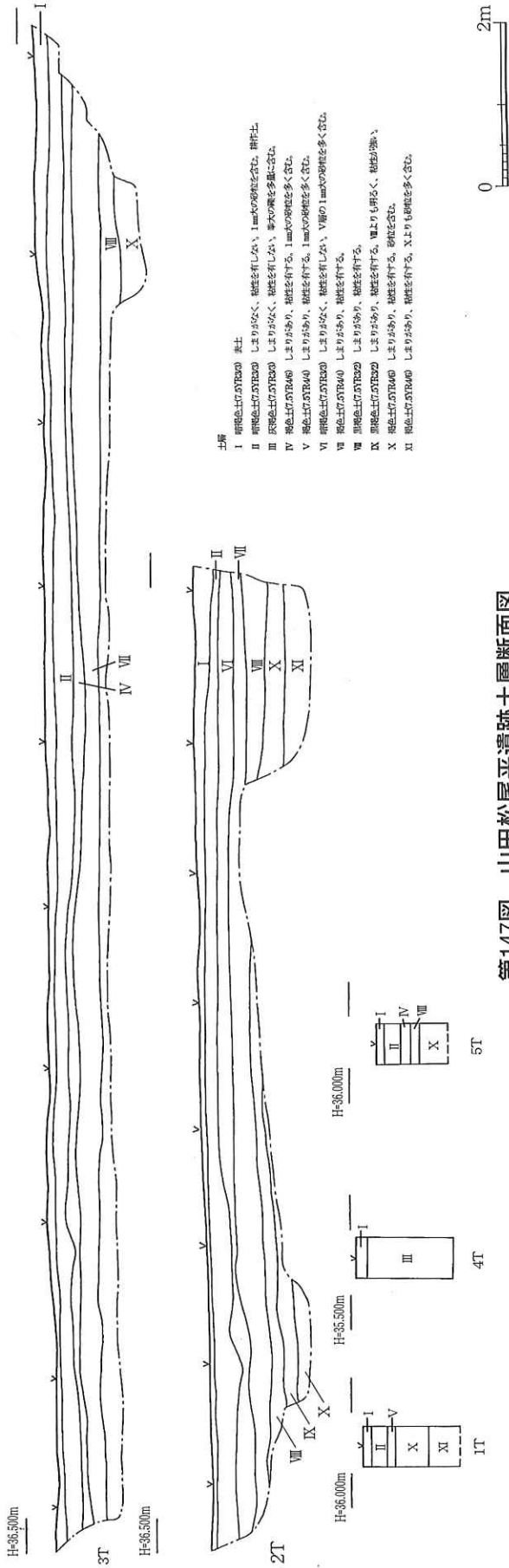
調査後の措置は、慎重工事である。



第145図 山田松尾平遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第146図 山田松尾平遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第147図 山田松尾平遺跡土層断面図

13 岩崎原遺跡

所在地：岩崎字南岩原1135-3

調査原因：専用住宅建設

対象面積：270.02㎡

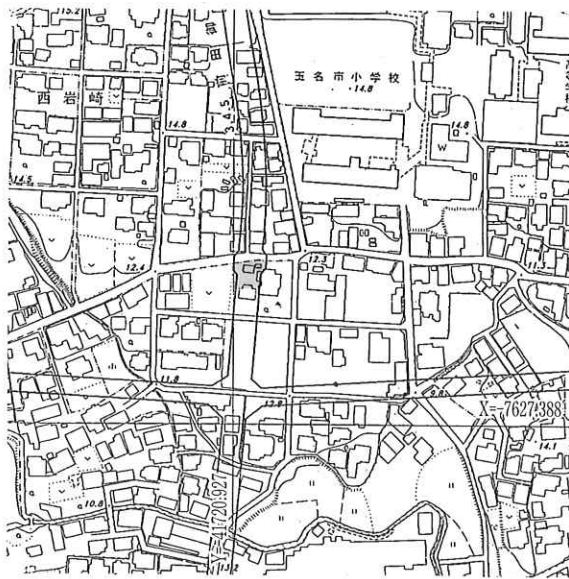
調査期間：18年9月22日

担当者：齋父雅史

調査地は、繁根木川右岸に面した玉名台地のほぼ中央部に位置する、標高12m程の地点である。調査時の状況は、旧建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内に3カ所のトレンチを設定した。I層は建物解体時の整地層、II層は解体建物建設時の整地層、III層は近代の整地層、IV層は褐色を呈したローム層であった。このうちIII層上面で土坑を1基確認した。この土坑内からは、明治初期の陶磁器類やキセル片等が確認された。この一帯は、高瀬藩時代の家臣団屋敷であることから、これに伴う廃棄土坑と思われる。なお本調査地については、残存する絵図に「戸川次郎」の記載がなされている。

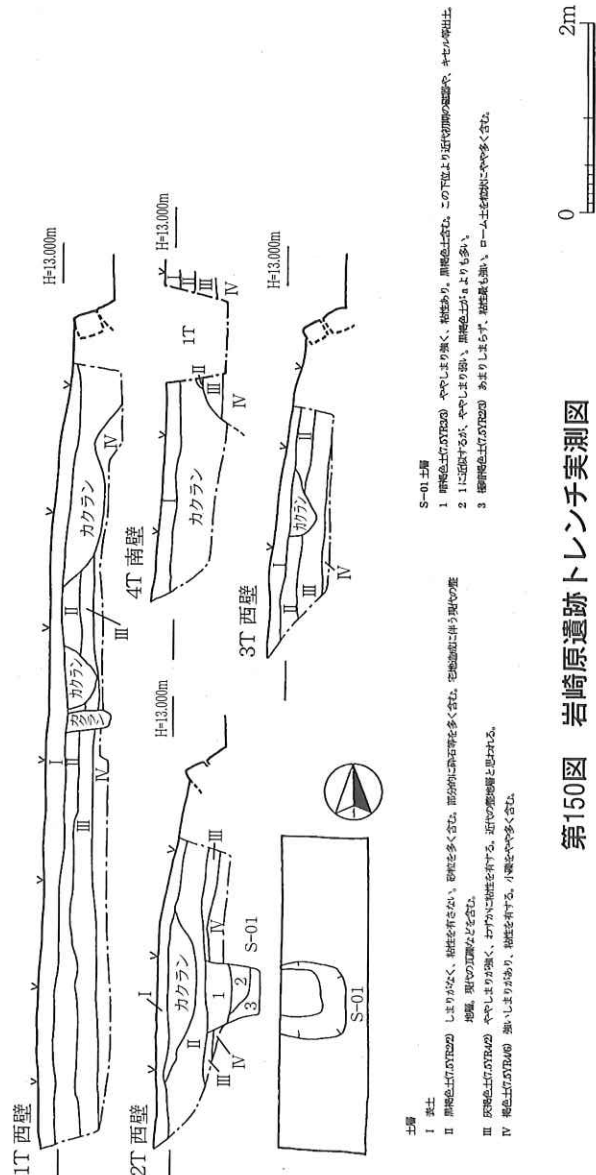
調査後の措置は、慎重工事である。



第148図 岩崎原遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第149図 岩崎原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第150図 岩崎原遺跡トレンチ実測図

- S-01 土層
- 1 階層色土(07B20) ややしまり強く、粘性を有する。礫を多く含む。形跡が認められる。近郊の遺跡を有する。近郊の遺跡層と見られる。
 - 2 1に近接するが、ややしまり強し、階層色土がより多い。
 - 3 階層色土(07B20) あまりしまりせず、粘性も強い。ローム土を賦存しやや多く含む。
- 土層
- I 表土
 - II 階層色土(07B20) しまりがなく、粘性を有する。礫を多く含む。形跡が認められる。近郊の遺跡を有する。近郊の遺跡層と見られる。
 - III 灰褐色土(07B20) ややしまり強く、粘性を有する。近郊の遺跡を有する。近郊の遺跡層と見られる。
 - IV 褐色土(07B40) しまりが強し、粘性を有する。小礫をやや多く含む。

14 中北アカハゲ古墳

所在地：伊倉北方549-1

調査原因：宅地造成

対象面積：1,900.5m²

調査期間：18年11月1日～11月22日

担当者：齋父雅史

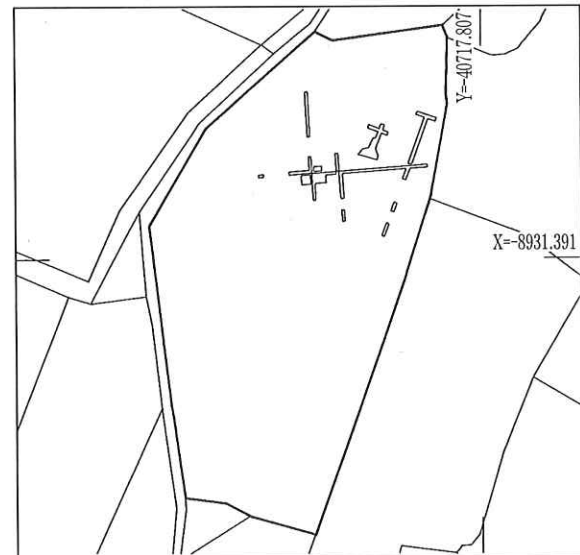
調査地は、菊池川左岸堤防際の伊倉丘陵性台地北西裾部に位置する、標高5～11m程の地点である。台地突出部の周辺が開削され、古墳墳丘状の高まりとなっていた。

調査では、この高まりが古墳であるかどうかの確認を目的としてトレンチを設定した。大部分のトレンチで、表土下20cm程度で凝灰岩の岩盤が確認された。岩盤上層には近世～現代にかけての陶磁器片が混入し、古墳に伴う遺構・遺物は確認されなかった。また北東側の崖面で、横穴墓の奥壁らしき部分を確認したが、後世の掘削や自然崩落により残存状態が悪く、床面も攪乱を受けていたため、横穴墓と断定するには至らなかった。

調査の結果、当地が古墳であるとの根拠は得られなかった。一部横穴墓らしき部分を確認したが、施工の際に影響が発生しないため、調査後の措置は慎重工事となった。



第151図 中北アカハゲ古墳位置図 S=1/5,000



第152図 中北アカハゲ古墳トレンチ配置図 S=1/1,000

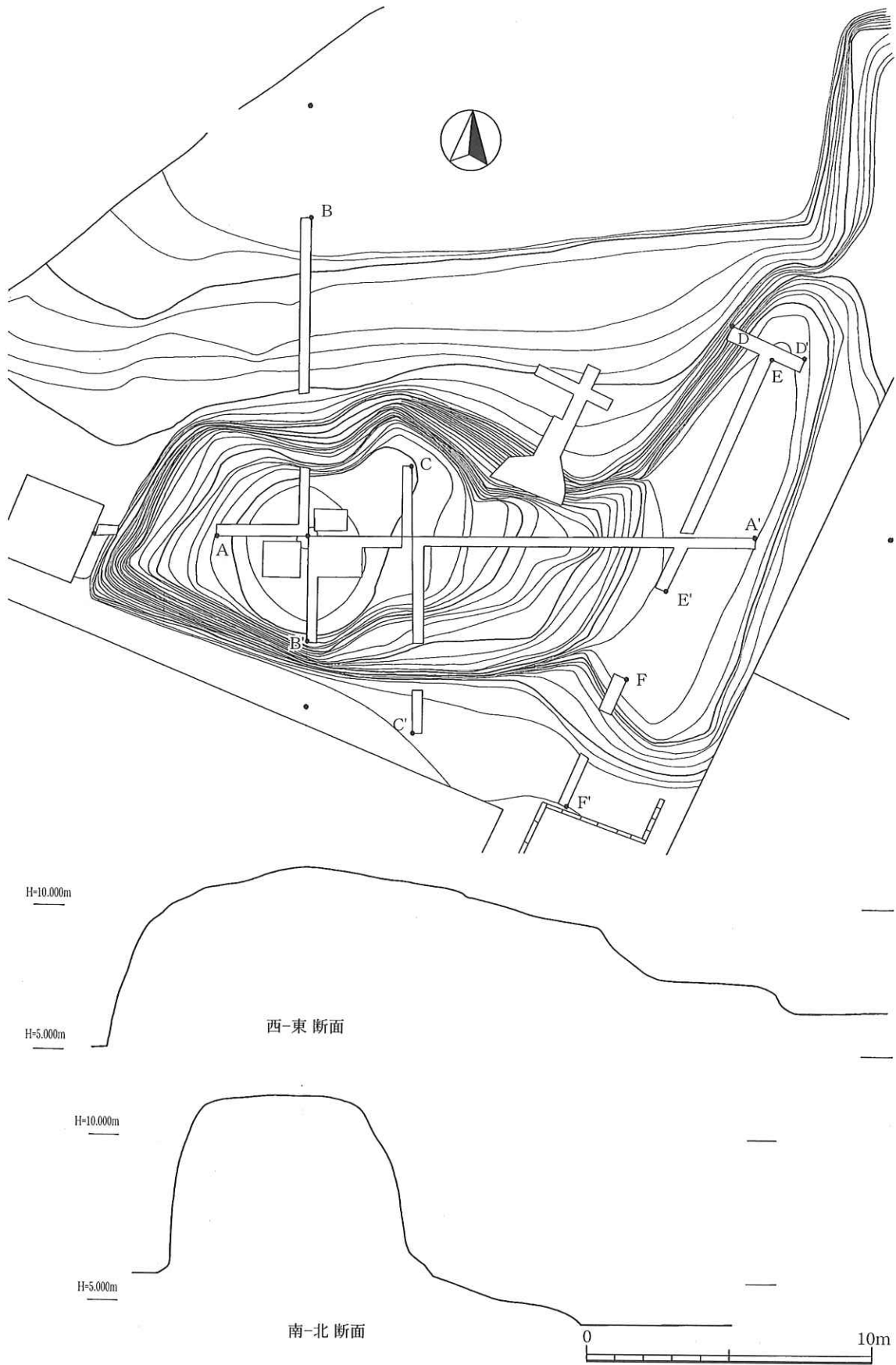


写真60 中北アカハゲ古墳全景1 北から



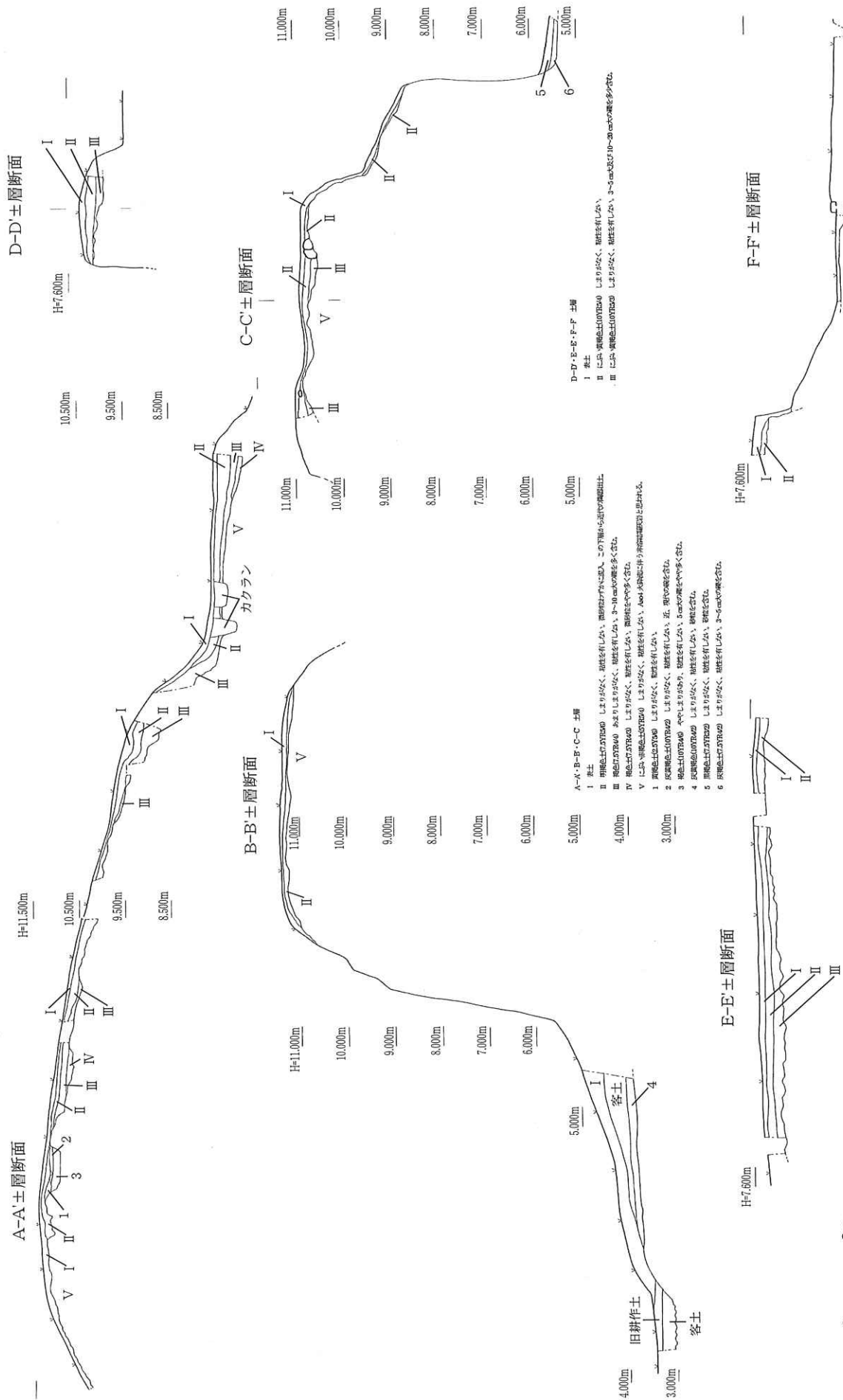
写真61 中北アカハゲ古墳全景2 西から

Ⅲ 平成18年度の調査



第153図 中北アカハゲ古墳測量図

Ⅲ 平成18年度の調査



第154図 中北アカハゲ古墳土層断面図

15 今泉遺跡B地点

所在地：岱明町上433-2外34筆

調査原因：牛舎建設

対象面積：19,383.39㎡

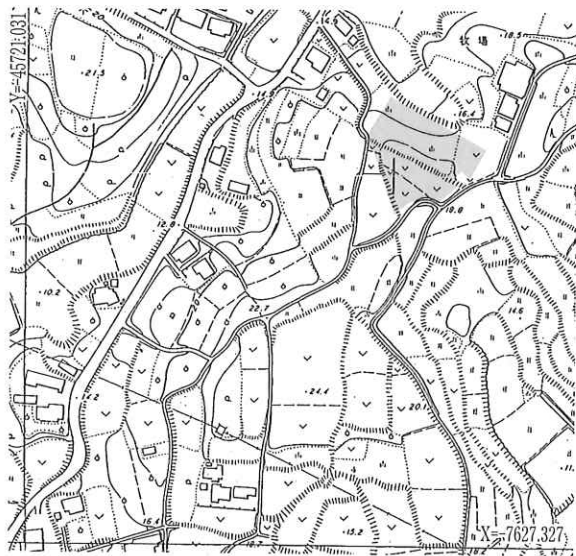
調査期間：18年12月4日～12月5日

担当者：中村安宏

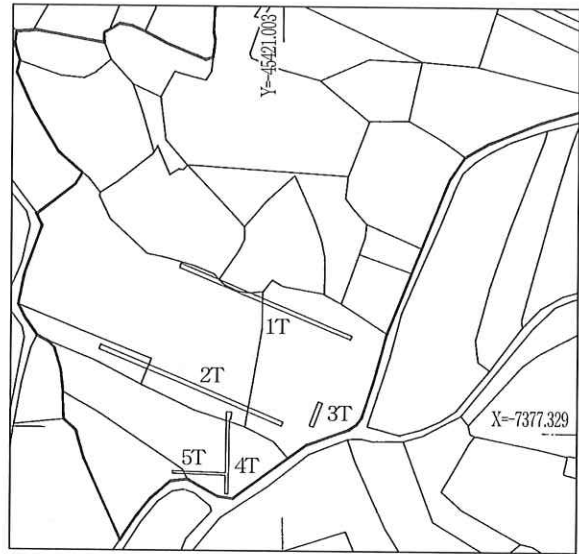
調査地は、玉名市の西部、行末川と今泉川に挟まれた小代山麓丘陵南東端部の標高16～18m程の地点である。この一帯には、耕作地及び牧場が広がっており、調査地も旧水田及び畑地と思われる更地であった。

調査では、牛舎建設予定地及び施工の際切土が行われる部分に5ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、耕作地造成に伴う大規模な削平を受けているようであり、遺構は確認されなかった。また、一部耕作土中に多量のローリングを受けた土器細片が確認されたが、明確な遺物包含層は確認されなかった。このことから、この一帯には、当初何らかの遺跡が存在していたが、耕作地造成に伴う削平により、大部分で遺跡が消滅しているものと想定される。

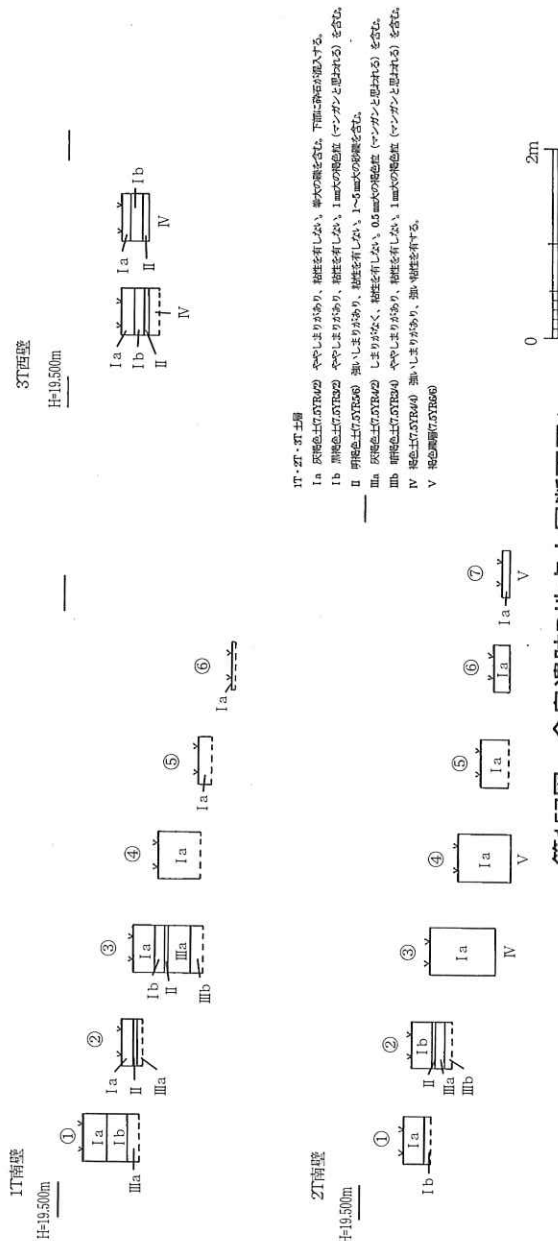
調査後の措置は、慎重工事である。



第155図 今泉遺跡B地点位置図 S=1/5,000

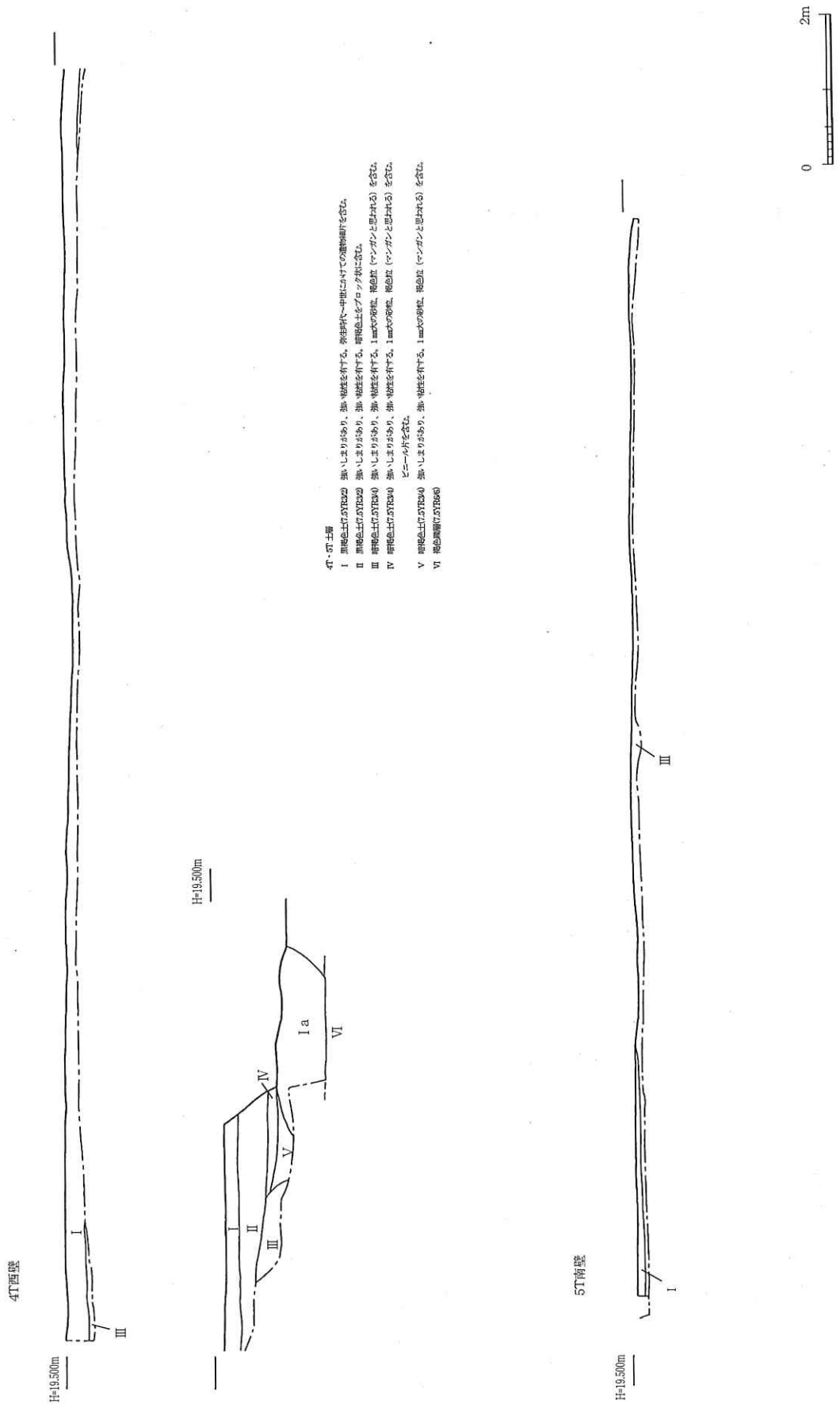


第156図 今泉遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/2,000



第157図 今泉遺跡B地点土層断面図1

III 平成18年度の調査



第158図 今泉遺跡B地点土層断面図2

16 高岡原遺跡

所在地：中尾字西原53外1筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：882.71㎡

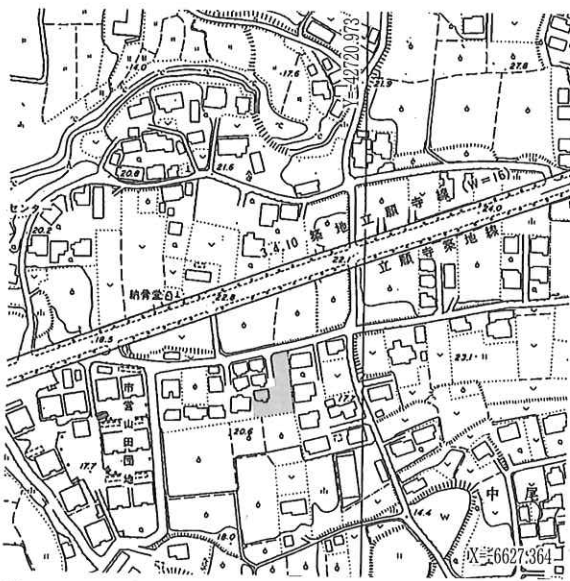
調査期間：18年12月20日～12月21日

担当者：齋父雅史

調査地は、境川左岸に面した玉名台地西側の標高20m程の地点で、弥生時代後期の大規模な集落跡と考えられる高岡原遺跡の中央部やや南西側に位置する。調査時の状況は、旧畑地と思われる更地であった。

調査では、敷地内に5ヶ所のトレンチを設定した。調査の結果、調査地の旧地形は、北側から南側に向かって傾斜しており、敷地中央部から南側に設定した1～4トレンチでは、流れ込みの土層堆積や土器小片が少量確認されたのみで、敷地北側に設定した5トレンチでのみ、弥生時代の住居跡及び土坑らしき遺構を検出した。

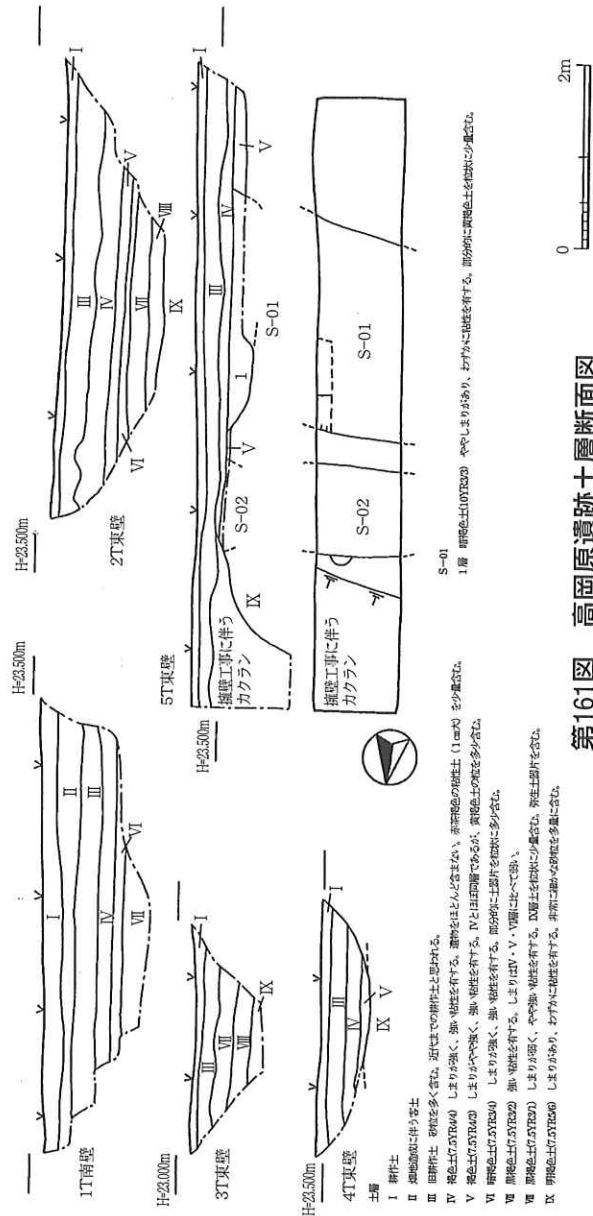
調査の結果、敷地内の一部で埋蔵文化財が確認されたが、施工の際に影響が発生しないため、調査後の措置は慎重工事となった。



第159図 高岡原遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第160図 高岡原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第161図 高岡原遺跡土層断面図

17 五郎丸遺跡A地点

所在地：山田538-1

調査原因：宅地造成

対象面積：497m²

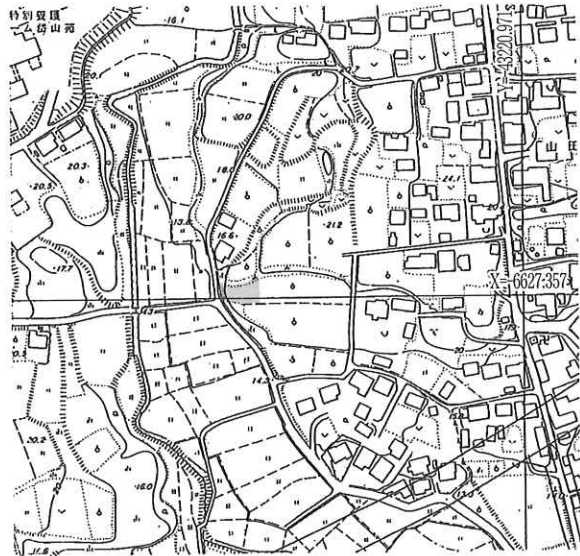
調査期間：19年1月16日

担当者：末永 崇

調査地は、境川とその支流山田川に挟まれた、小代山南側丘陵南東端部に位置する、標高25m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定したが、各トレンチとも、Ⅰ・Ⅱ層は耕作土及び畑地造成に伴う盛土であった。以下Ⅲ層は旧耕作土、Ⅳ層は暗褐色土、Ⅴ層は褐色土、Ⅵ層はにぶい黄褐色土、Ⅶ層は黄褐色土、Ⅷ層はにぶい黄褐色土であった。各トレンチのうち、2トレンチのⅡ層上面及びⅢ層上面で遺構を確認した。内1基は弥生時代後期の住居跡の可能性が考えられる。1トレンチでは表土直下にⅢ、Ⅴ、Ⅵ層が、3トレンチでは表土直下にⅢ層が確認されたことから、既にかなり削平を受けていると考えられる。

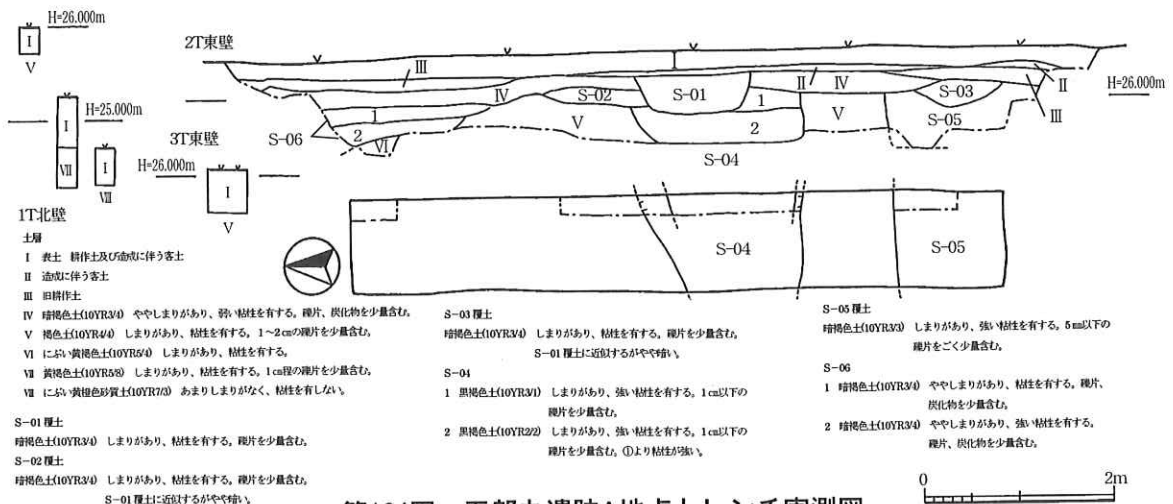
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、施工に際しては、埋蔵文化財に対して影響が発生しないことから、調査後の措置は、慎重工事となった。



第162図 五郎丸遺跡A地点位置図 S=1/5,000



第163図 五郎丸遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第164図 五郎丸遺跡A地点トレンチ実測図

18 玉名平野条里跡C地点

所在地：岩崎344-10外20筆

調査原因：道路建設

対象面積：5,427.4m²

調査期間：19年1月18日～2月28日

担当者：齋父雅史 田中康雄

調査地は、菊池川右岸の玉名平野西端部、繁根木川左岸堤防際に位置する、標高5m程の地点である。調査時の状況は、水田及び駐車場であった。

調査では、道路建設予定地内に20ヶ所のトレンチを設定した。これらのうち、1・2・4トレンチで遺構・遺物を確認した。しかし、トレンチのみでは、遺構の拡がり及び性格を特定するに至らなかったため、この3ヶ所については、調査区（Ⅰ～Ⅲ区）を設定して調査を行った。その結果、Ⅰ区では、近世末頃のものと思われる畑の畝を確認し、Ⅲ区では、明確な時期は不明であるが、層的に近世の水田に伴う畦畔及び、それに付随する溝と思われる遺構を確認した。Ⅲ区では、弥生時代終末期～古墳時代初頭にかけての遺物が集中する窪地状の遺構を確認した。遺物の内容としては、甕、壺、高坏、鉢、小型丸底壺、ミニチュア土器等があり、遺構内に炭化物の集中部も確認された。これらのことから、この遺構は、祭祀的な意味合いを持つ遺構ではないかと想定される。調査Ⅰ～Ⅲ区については、それぞれ遺構を完掘し、調査を完了した。その他のトレンチについては、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、部分的に埋蔵文化財が確認されたが、それらについては、調査を完了したため、調査後の措置は慎重工事となった。



写真62 玉名平野条里跡C地点全景 南から

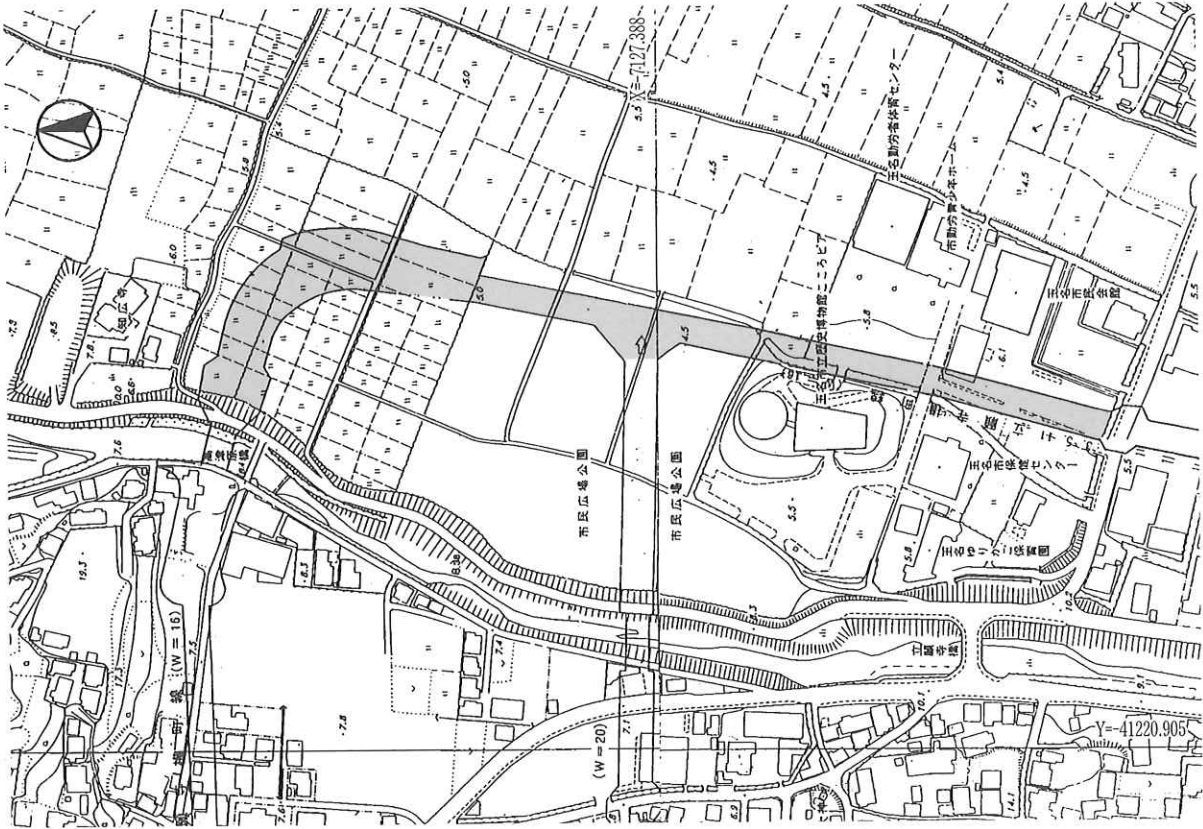


写真63 玉名平野条里跡C地点調査Ⅰ区全景 南から

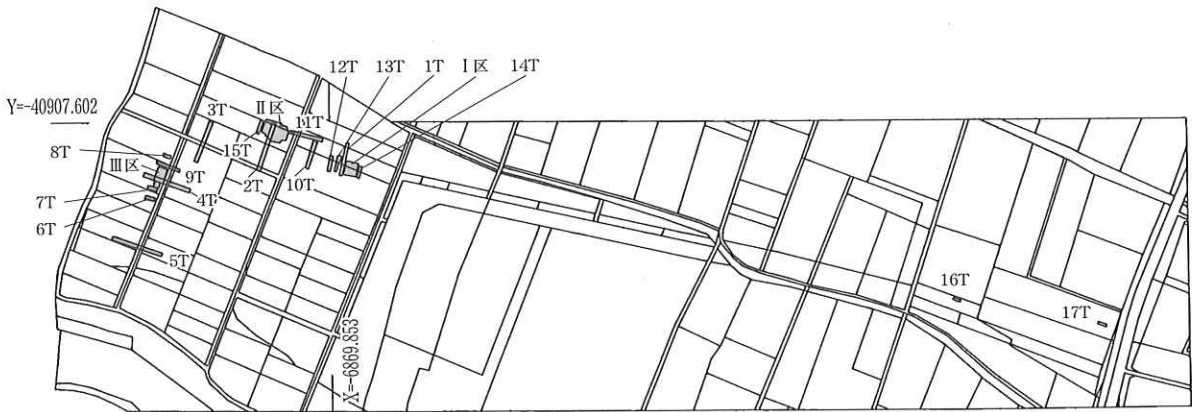


写真64 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区全景 南から

Ⅲ 平成18年度の調査

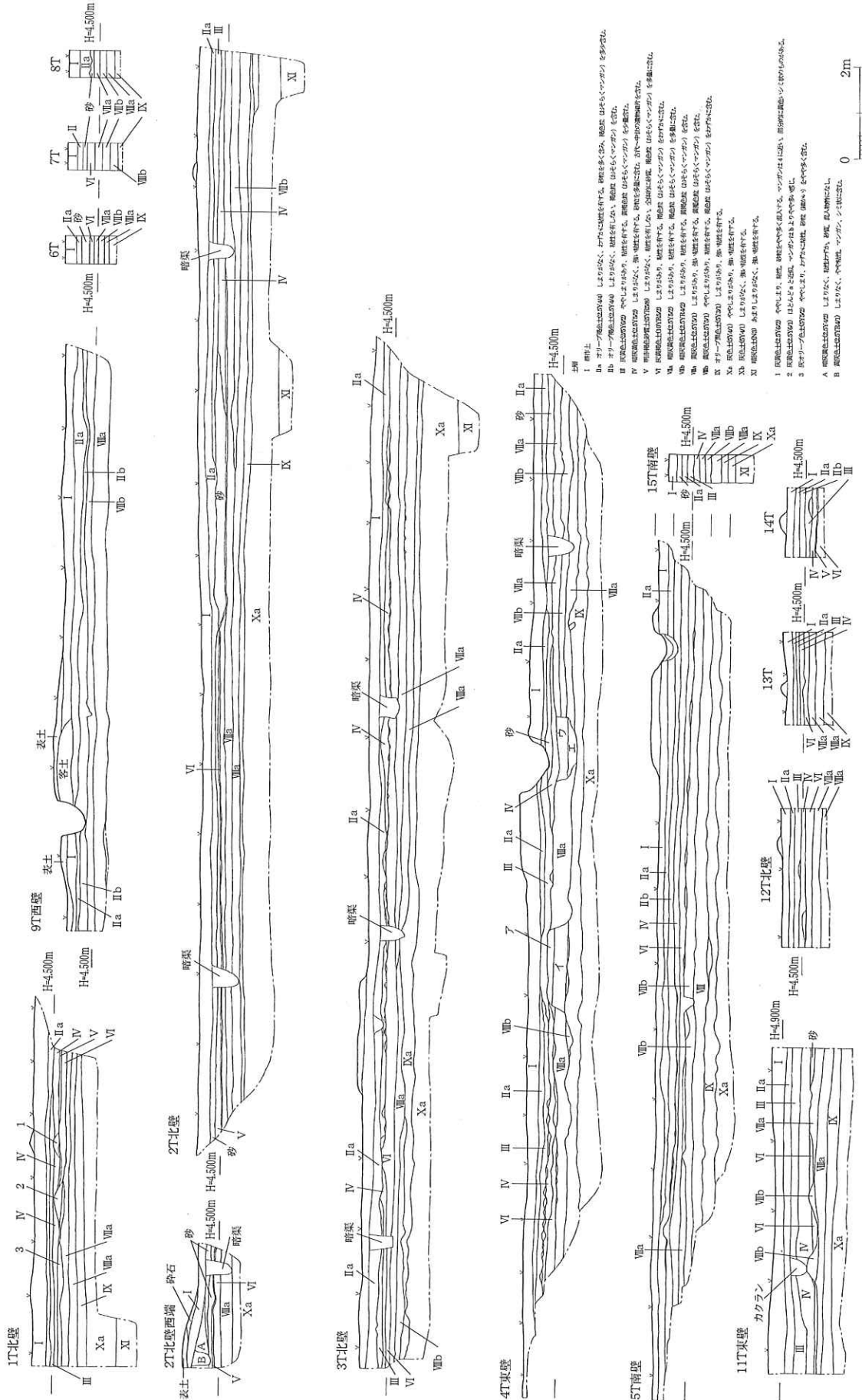


第165図 玉名平野条里跡C地点位置図 S=1/5,000



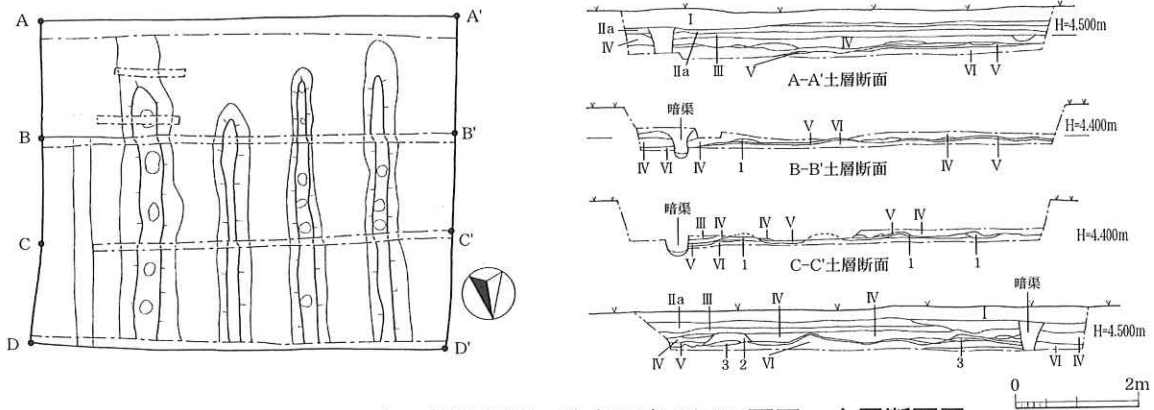
第166図 玉名平野条里跡C地点トレンチ配置図 S=1/4,000

III 平成18年度の調査

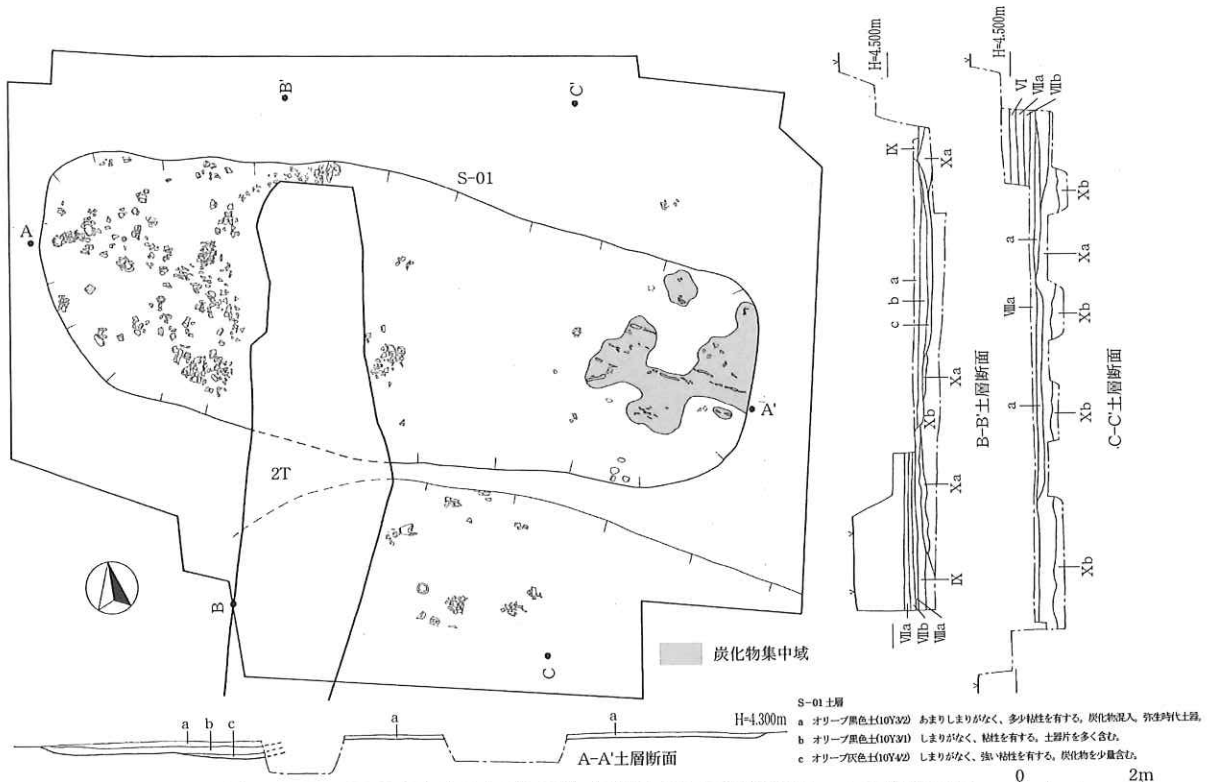


第167図 玉名平野条里跡C地点トレンチ土層断面図

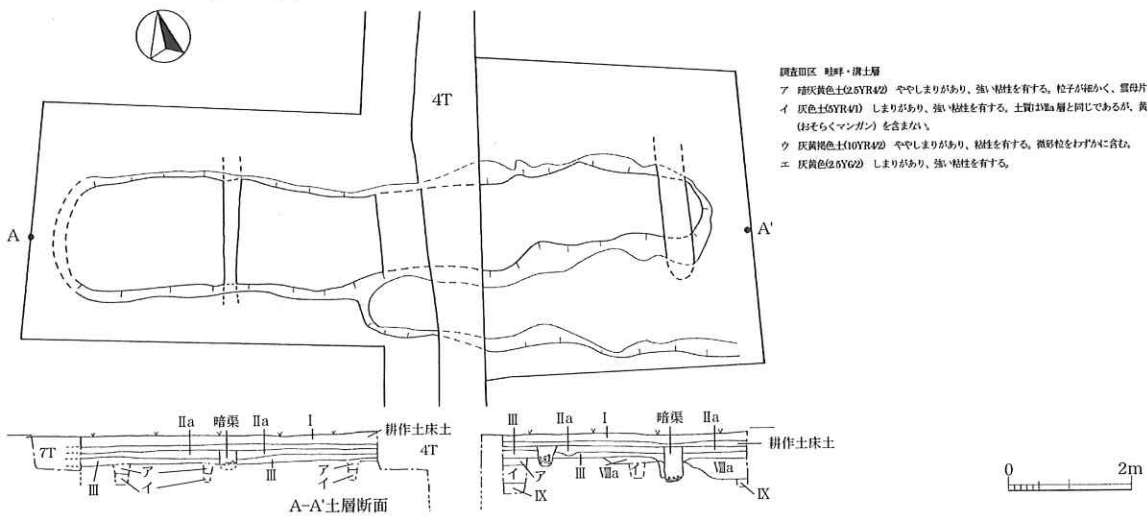
III 平成18年度の調査



第168図 玉名平野条里跡C地点調査 I 区平面図・土層断面図

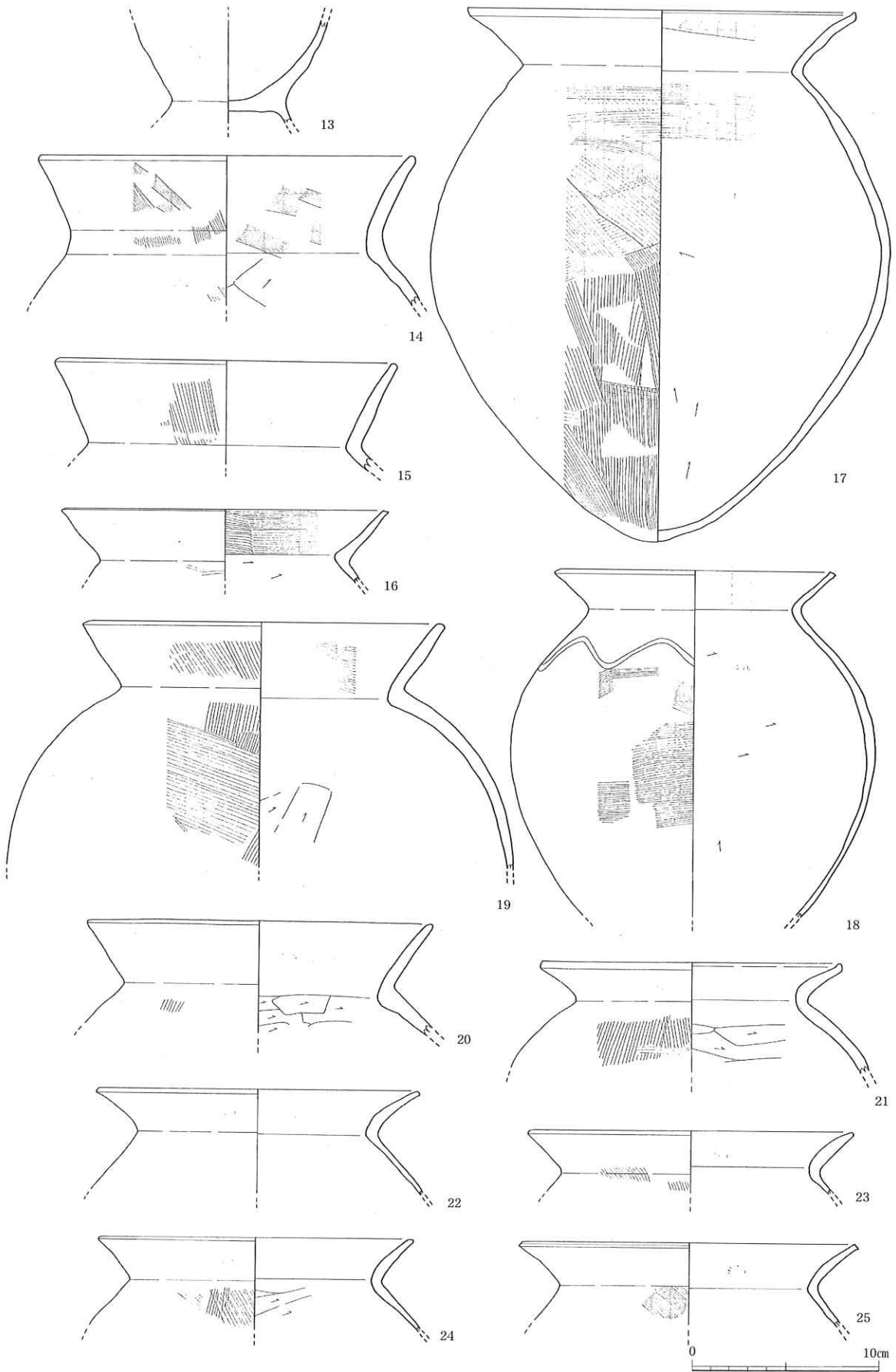


第169図 玉名平野条里跡C地点調査 II 区平面図・土層断面図



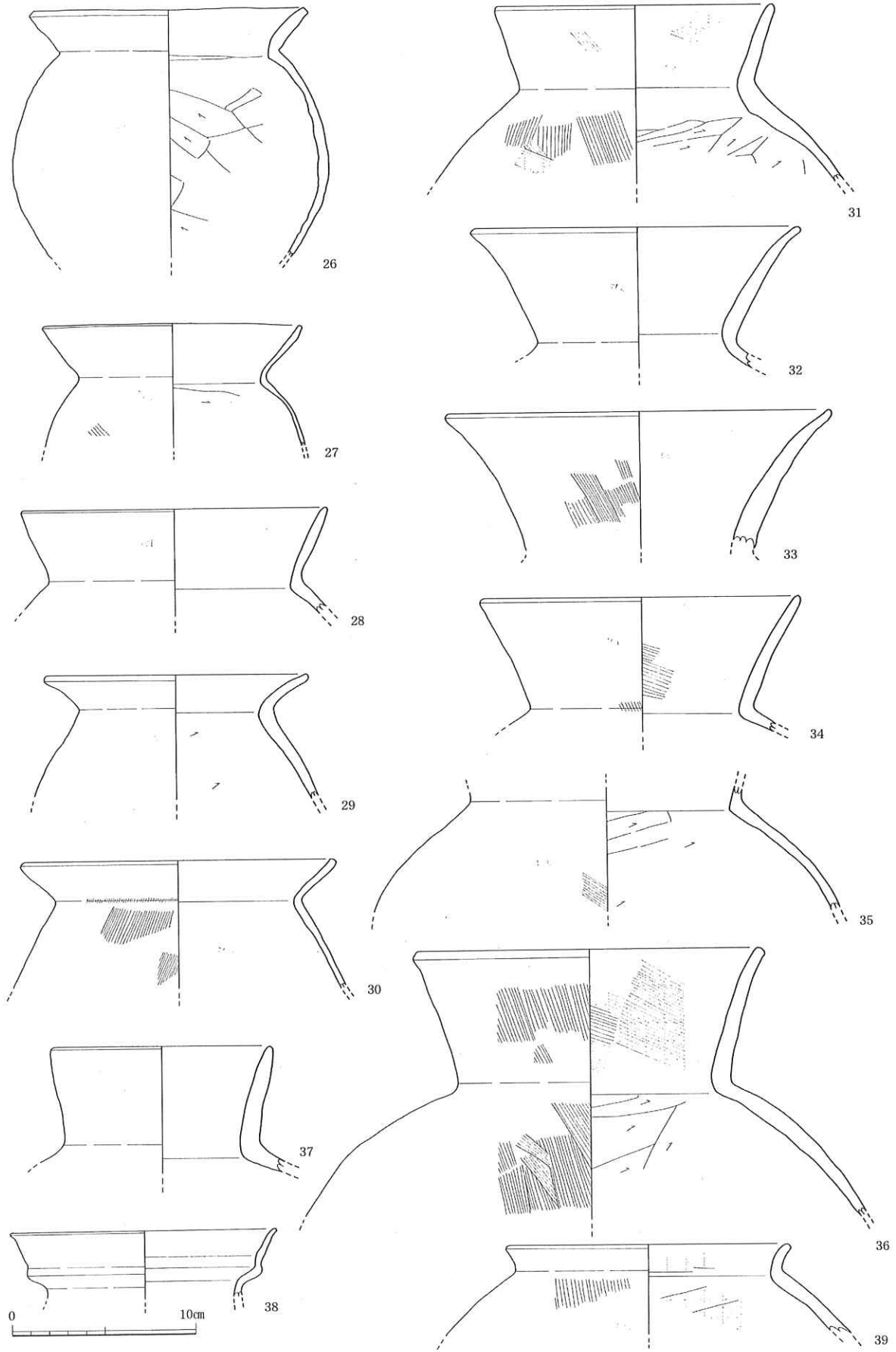
第170図 玉名平野条里跡C地点調査 III 区平面図・土層断面図

III 平成18年度の調査



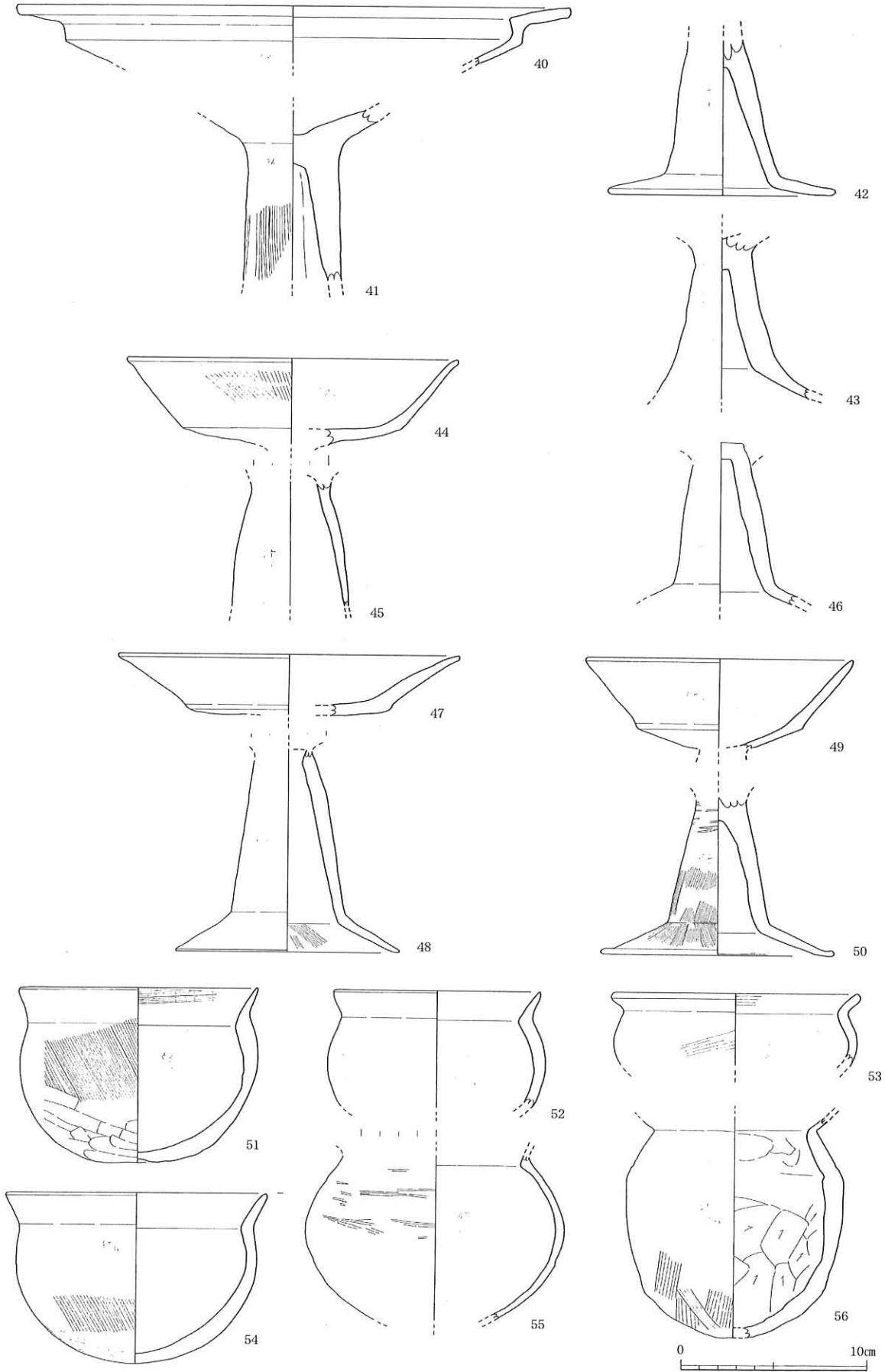
第171図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図1

Ⅲ 平成18年度の調査



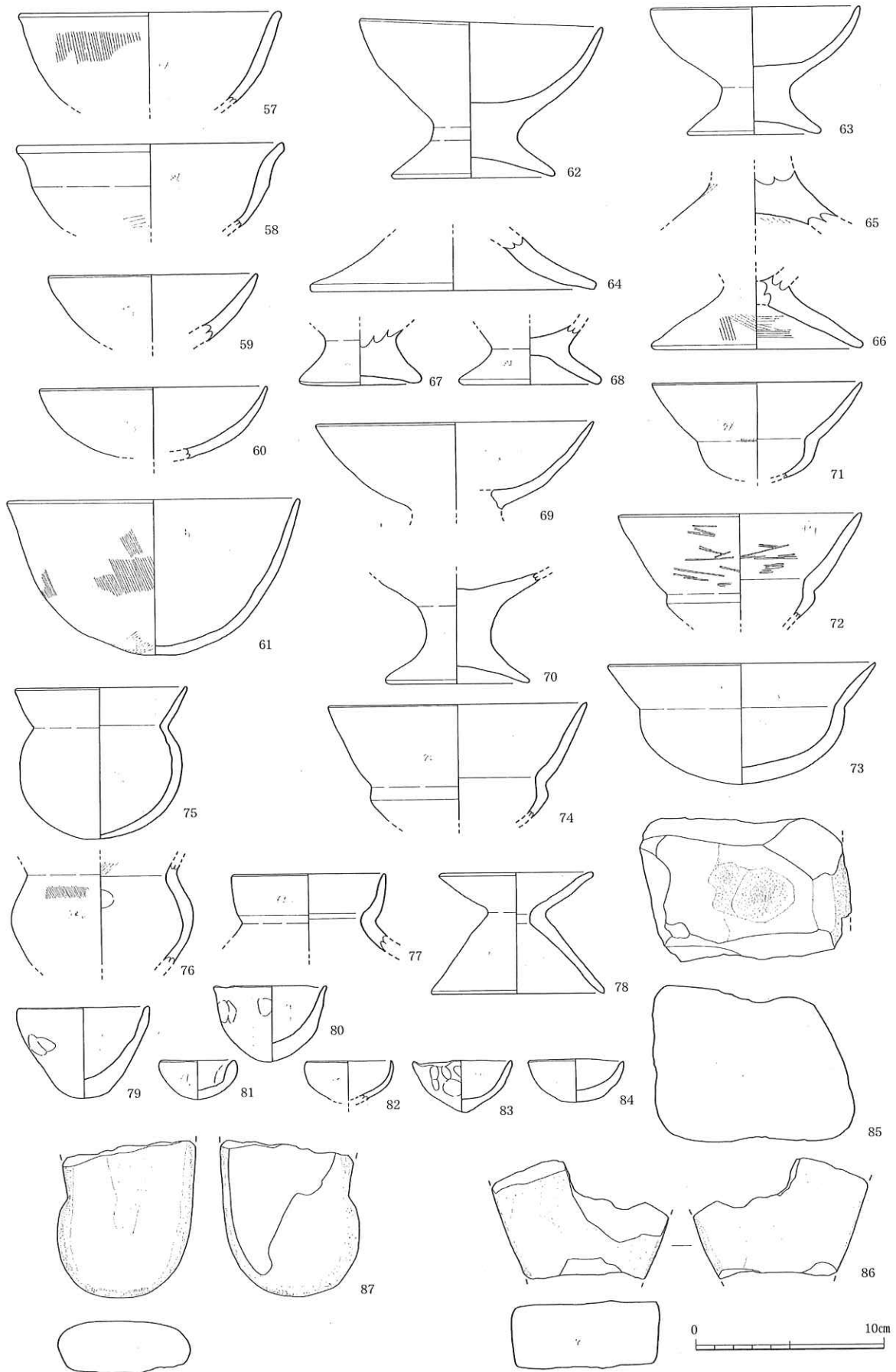
第172図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図2

III 平成18年度の調査



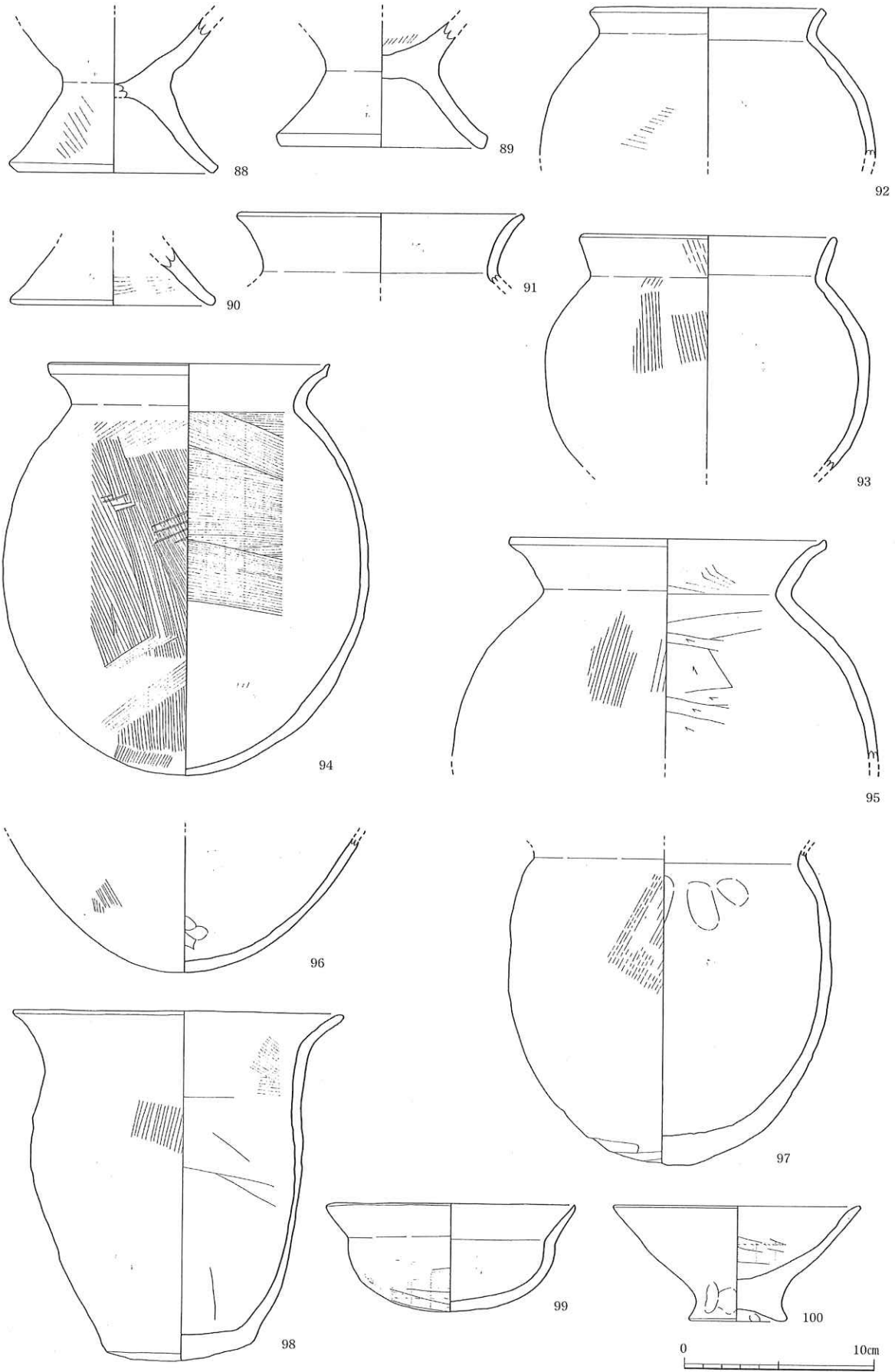
第173図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図3

Ⅲ 平成18年度の調査



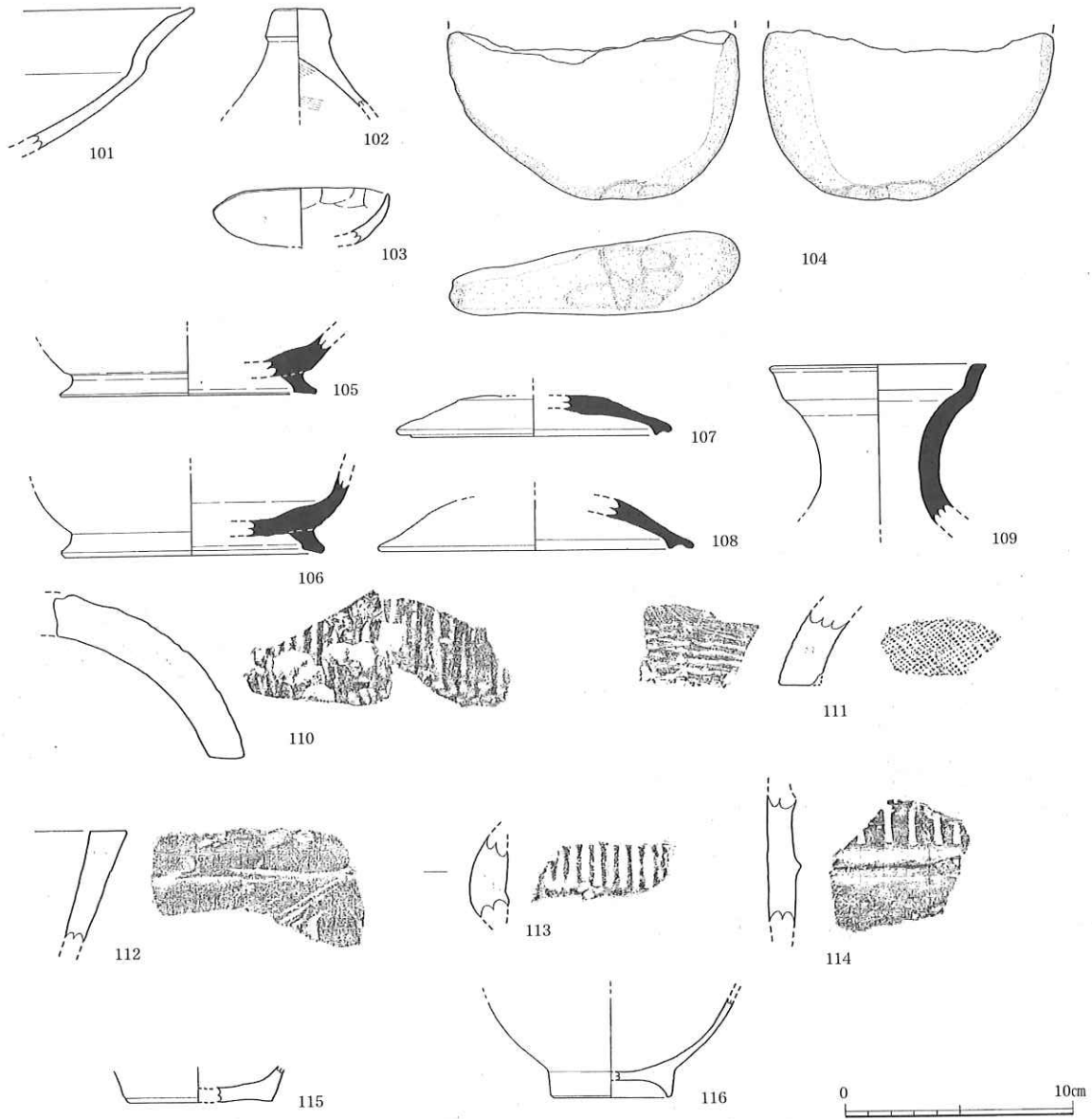
第174図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図4

III 平成18年度の調査



第175図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図5

Ⅲ 平成18年度の調査



第176図 玉名平野条里跡C地点出土遺物実測図6

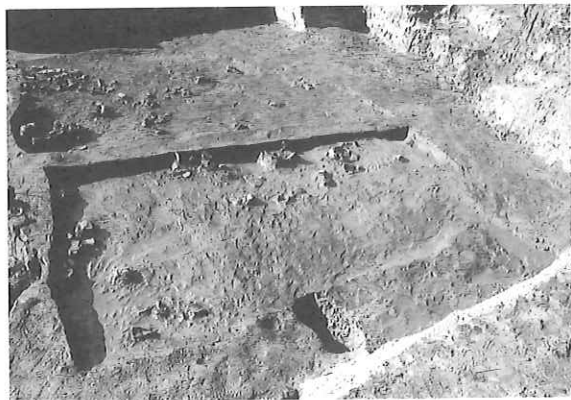


写真65 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01北側遺物出土状況1 東から



写真66 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01北側遺物出土状況2 東から

III 平成18年度の調査



写真67 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
北側遺物出土状況近影 東から

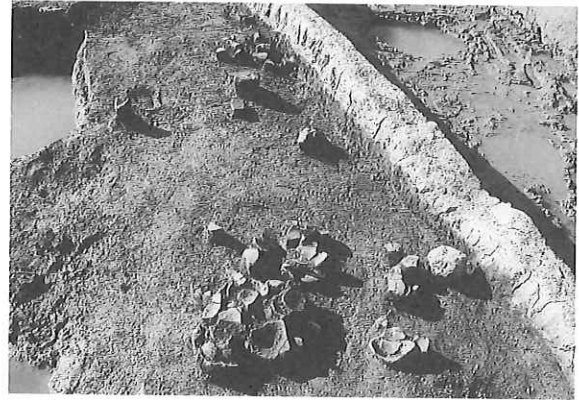


写真68 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
南側遺物出土状況 東から

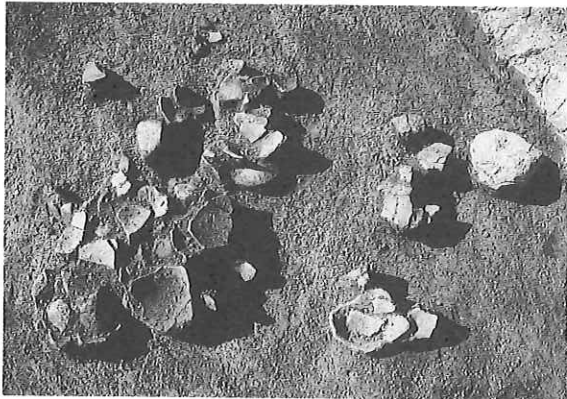


写真69 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
南側遺物出土状況近影 東から



写真70 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
南側炭化物検出状況 南から



写真71 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
完掘状況1 北から

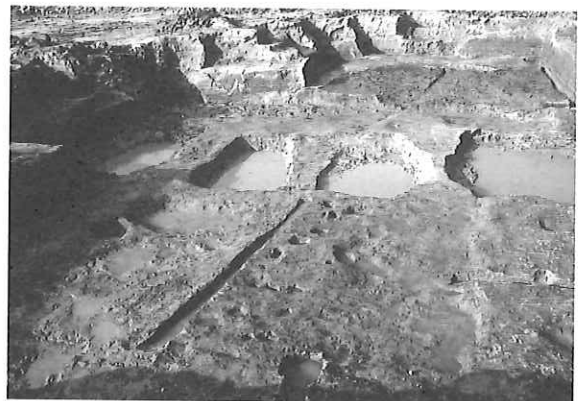


写真72 玉名平野条里跡C地点調査Ⅱ区S-01
完掘状況2 南から

19 備中遺跡

所在地：岱明町西照寺259-8

調査原因：専用住宅建設

対象面積：348.06㎡

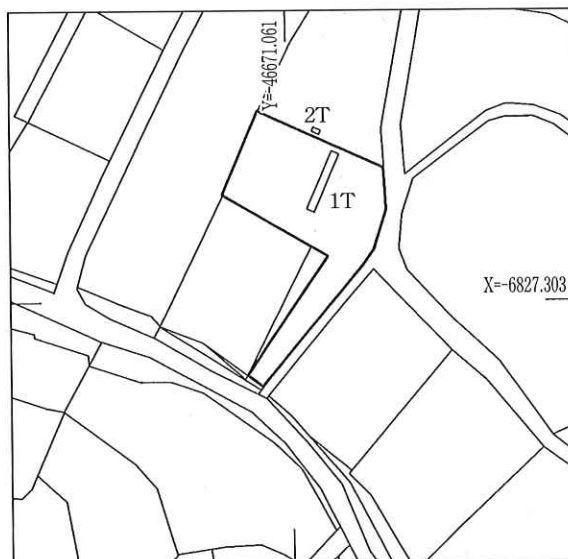
調査期間：19年1月19日

担当者：竹田宏司

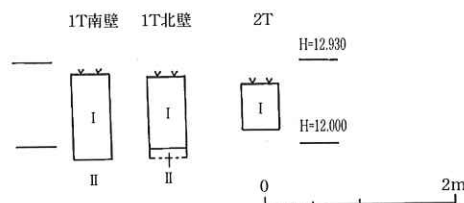
調査地は、玉名市の西端部、荒尾市及び長洲町境際の、行末川右岸に面した荒尾丘陵性台地東端部に位置する、標高13m程の地点である。調査時の状況は更地であった。

調査では、敷地内の建設予定地及びその隣接部にトレンチを2ヶ所設定した。I層は暗褐色土、II層は黄褐色土であった。土地所有者の話では、40年程前に天地返しを行ったとのことで、I層がそれに相当し、深いところで約1mにも及んでいた。両層から遺構、遺物は確認されなかったことから、天地返しの際に大きく削平され、埋蔵文化財は残存していないと考えられる。

調査後の措置は、慎重工事である。

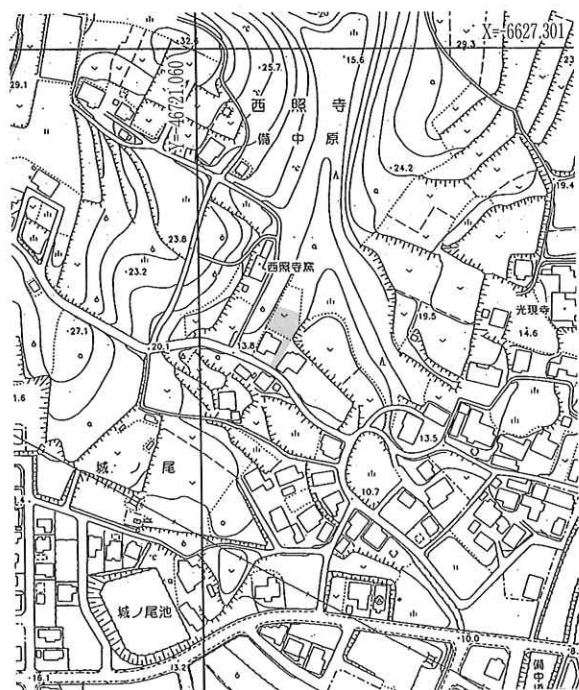


第178図 備中遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



土層
 I 暗褐色土(10YR3/0) ややしまりが弱く、やや弱く粘性を有する。黄褐色土の大ブロックを多く含む。小礫、炭化物粒を多少含む。
 ※土地所有者の話では、40年程前に天地返しが行われており、その際に形成された層と考えられる。他の土地のブロック土を含まないことから、天地返しの特長で、暗褐色土と黄褐色土の2層しか存在していなかったものと考えられる。
 II 黄褐色土(10YR5/0) 強くしまり、強い粘性を有する。5mm以下の砂粒を多く含む。

第179図 備中遺跡土層断面図



第177図 備中遺跡調査地位置図 S=1/5,000



写真73 備中遺跡調査地全景 東から

20 吉丸西遺跡

所在地：寺田字大堂7外4筆

調査原因：店舗建設

対象面積：6,367.31m²

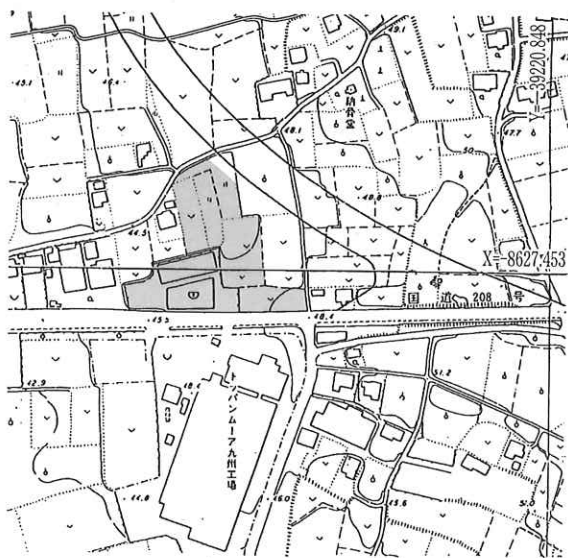
調査期間：19年1月23日～1月25日

担当者：竹田宏司

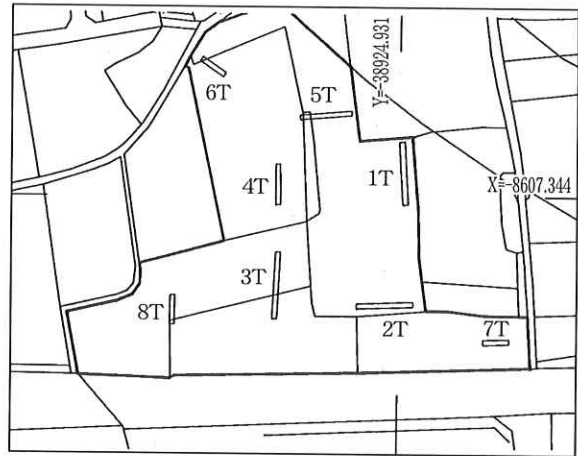
調査地は、菊池川左岸に面した伊倉丘陵性台地北側の標高44m程の地点である。国道208号線北側沿いの敷地で、調査時の状況は、倉庫解体後の更地及び畑地であった。

調査では、建物建設予定地及び防火水槽予定地に8ヶ所のトレンチを設定した。そのうち、1・6トレンチで古代～中世にかけてのものと考えられる溝状遺構、2・3・8トレンチで近世以降のものと考えられる溝状遺構、7トレンチで、時期不明であるが道路状遺構の可能性が考えられる硬化面を検出した。また、4・5トレンチでは、古代以降の遺物を若干検出し、7トレンチでは、縄文晩期の土器を検出し、焼土・炭化物の集中を確認した。

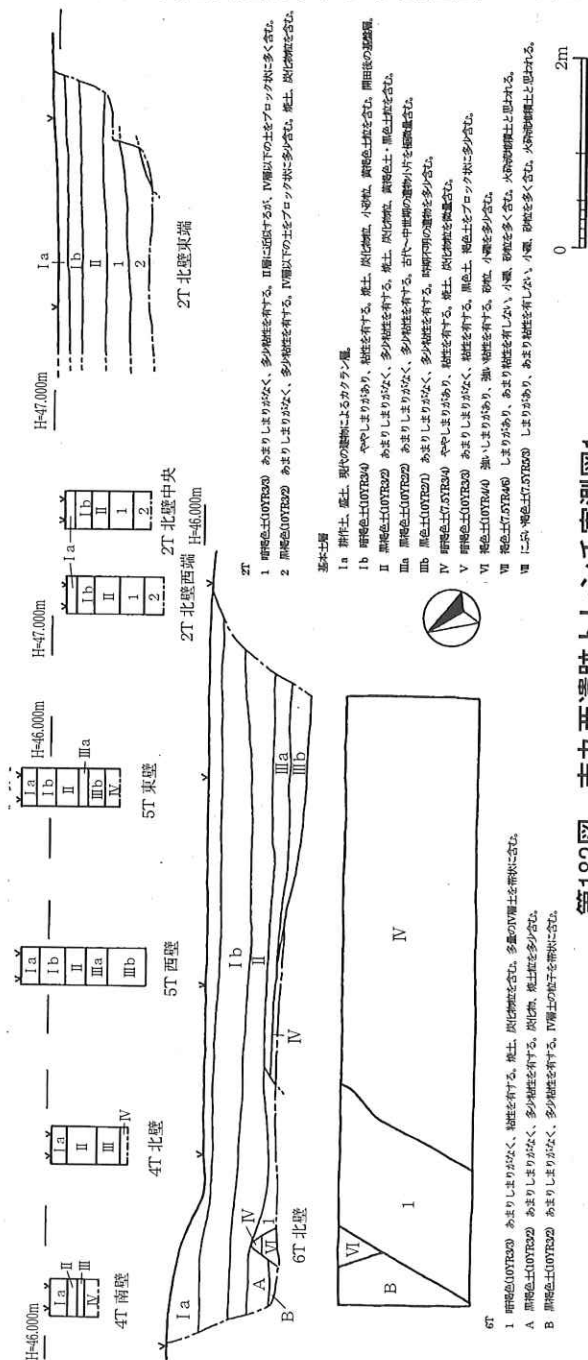
調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、その後計画が変更され、敷地全域に盛土が行われることとなり、埋蔵文化財に影響が及ばないため、調査後の措置は慎重工事となった。



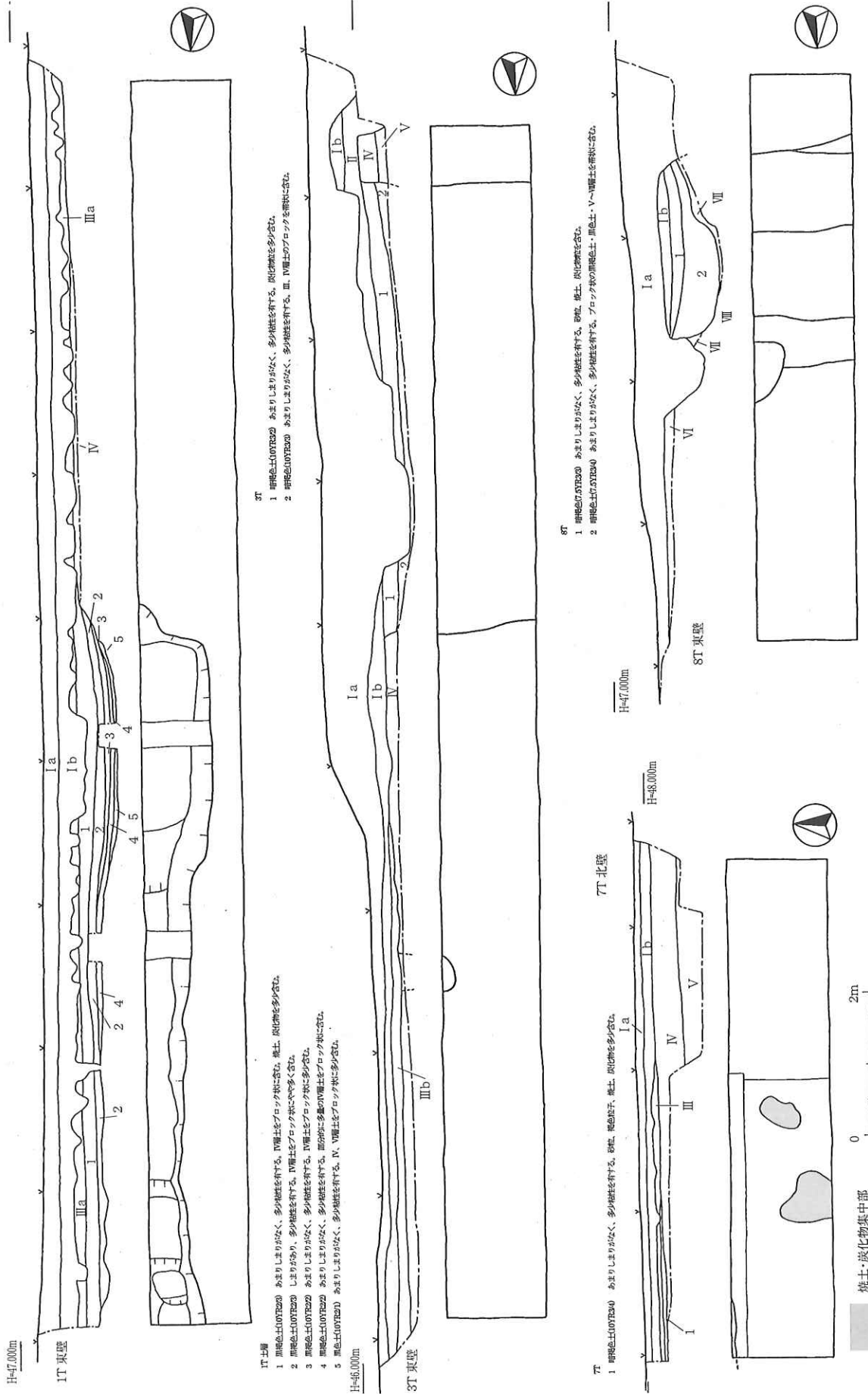
第180図 吉丸西遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第181図 吉丸西遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000



第182図 吉丸西遺跡トレンチ実測図



3T
1 暗褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。炭化物を多少含む。
2 暗褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。III、IV層土のブロックを散在に含む。

1T 土層
1 黒褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。IV層土をブロック状に含む。焼土、炭化物を多少含む。
2 黒褐色土(007B20) しまりがあり、多少根柱を有する。IV層土をブロック状にやや多く含む。
3 黒褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。IV層土をブロック状に多少含む。
4 黒褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。箇所が多量のIV層土をブロック状に含む。
5 黒褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。IV、V層土をブロック状に多少含む。

8T
1 暗褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。砂粒、焼土、炭化物を含む。
2 暗褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。ブロック状の黒褐色土、黒色土、V~IV層土を散在に含む。

7T
1 暗褐色土(007B20) あまりしまりがなく、多少根柱を有する。砂粒、褐色粘土、焼土、炭化物を多少含む。

第183図 吉丸西遺跡トレンチ実測図2

2.1 古閑遺跡

所在地：築地字古閑1904

調査原因：専用住宅建設

対象面積：1,518.75㎡

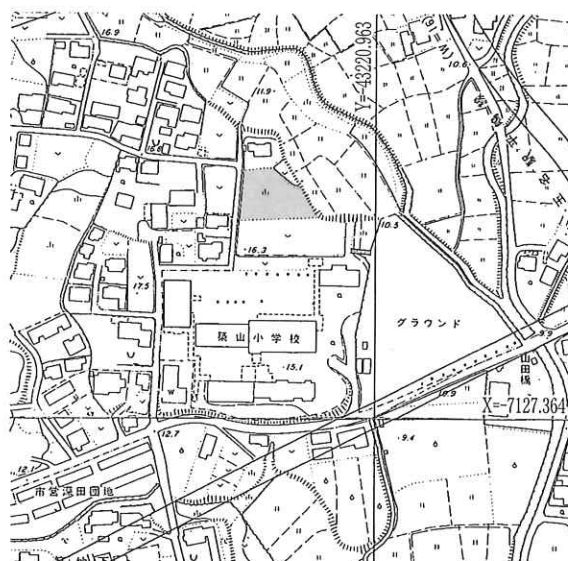
調査期間：19年2月1日～2月23日

担当者：末永 崇

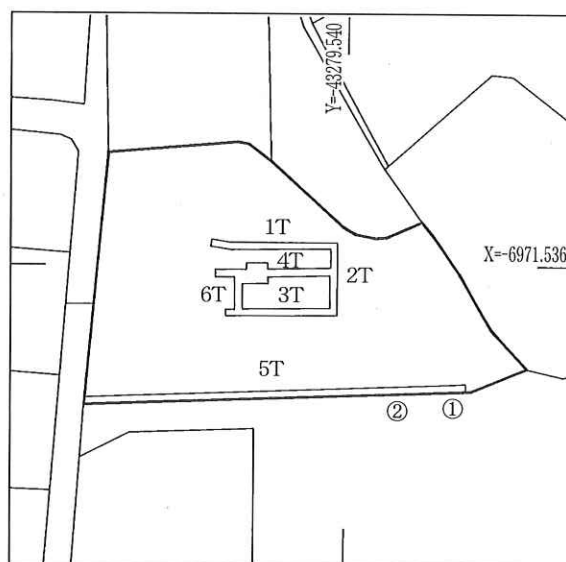
調査地は、境川右岸上流域に面した台地東端部に位置する、標高16m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。南西約250mの地点では、平成12年度に都市計画街路建設に伴う発掘調査が実施され、弥生時代・古墳時代の住居跡や中世期の土坑等が確認されている。

調査では、敷地内の建物基礎掘削部に1～4及び6トレンチ、南側隣地境界のフェンス設置部に5トレンチを設定した。このうち、4トレンチ西側で住居跡と思われる遺構を検出したため、その部分のみトレンチを拡張して調査を実施した。攪乱などの影響で、全体規模は不明であるが、検出部から想定して、一辺5m程度の方形の住居跡と思われる。残存していた床面部で、炉跡及び土坑3基を検出したが、柱穴は確認されていない。おそらくトレンチ外側に所在するものと思われる。遺物は、埋土上位を中心に、弥生時代中期の土器片が多量に確認された。しかし、甕棺の破砕片と思われるものが多量に含まれており、また大部分が土層上位からの出土であることから、この住居跡に伴う遺物かどうか疑問が残る。また、5トレンチでも、住居跡と想定される遺構を検出した。

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたが、主な基礎掘削部における遺構については調査を完了し、それ以外の部分については、面積が狭小であることから、施工の際に工事立会を行うこととなった。



第184図 古閑遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第185図 古閑遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

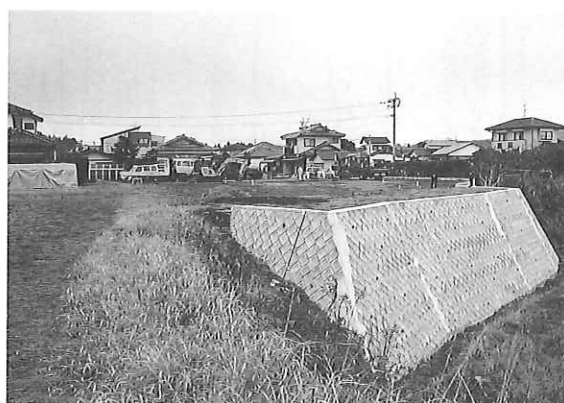
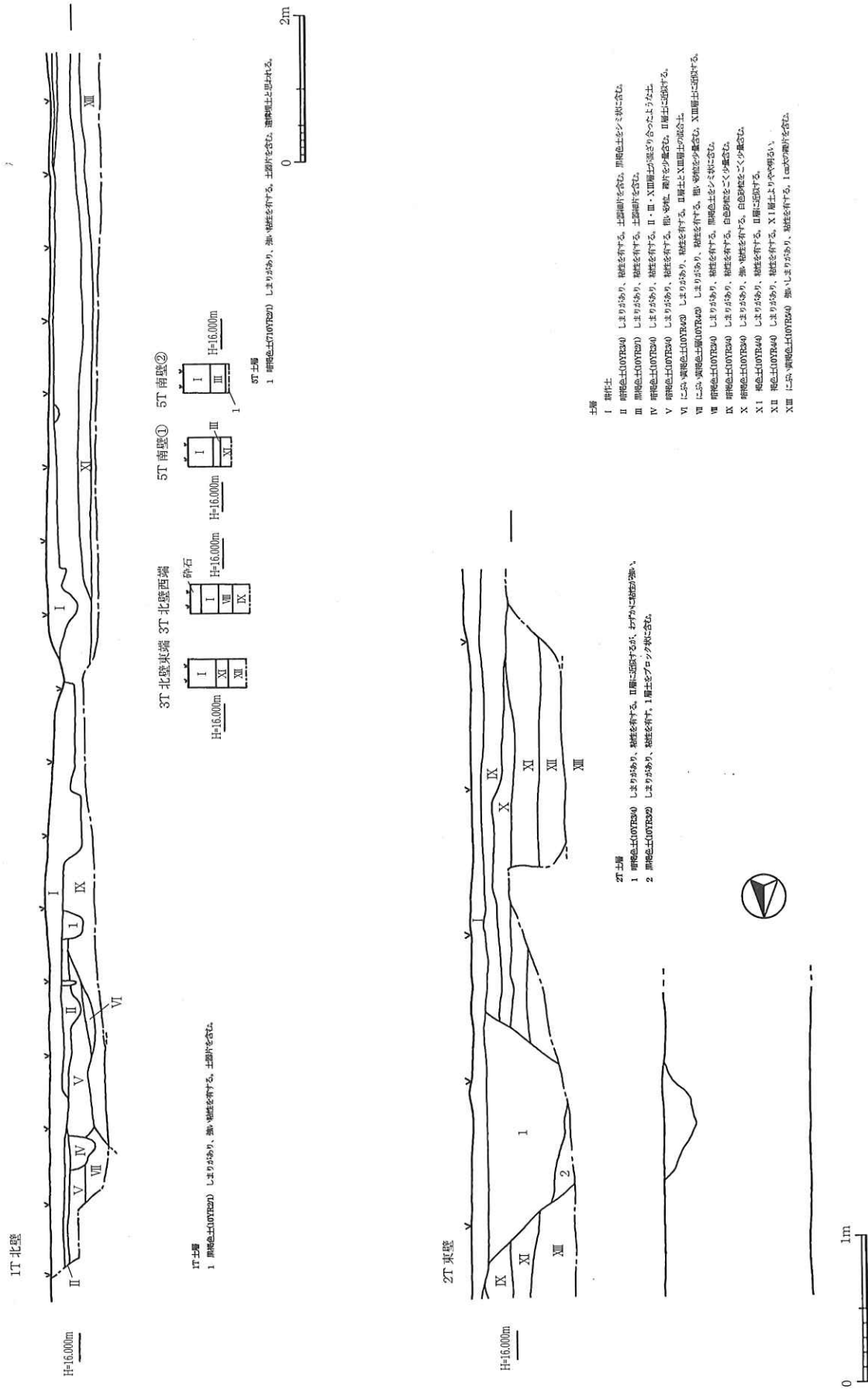
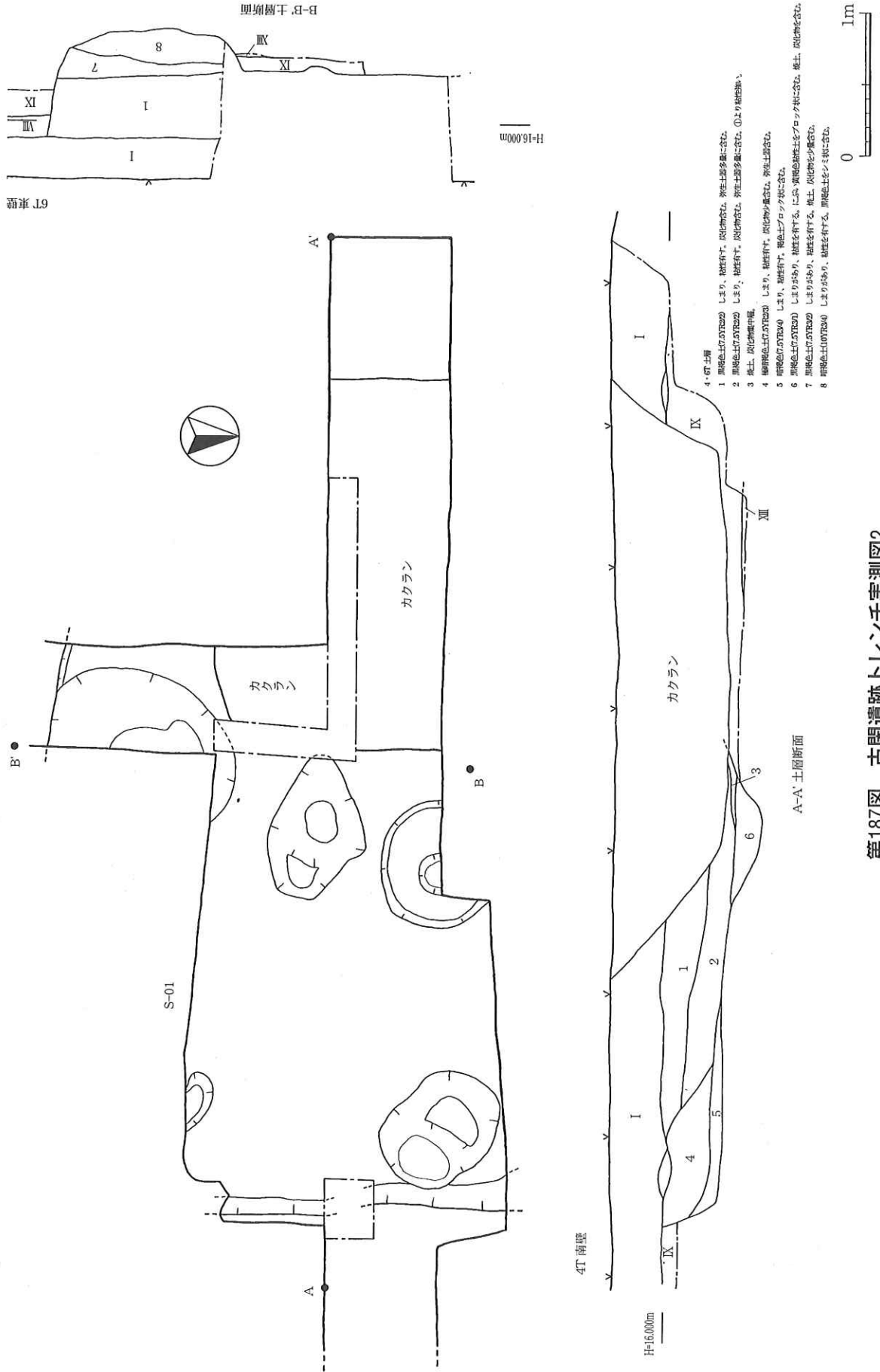


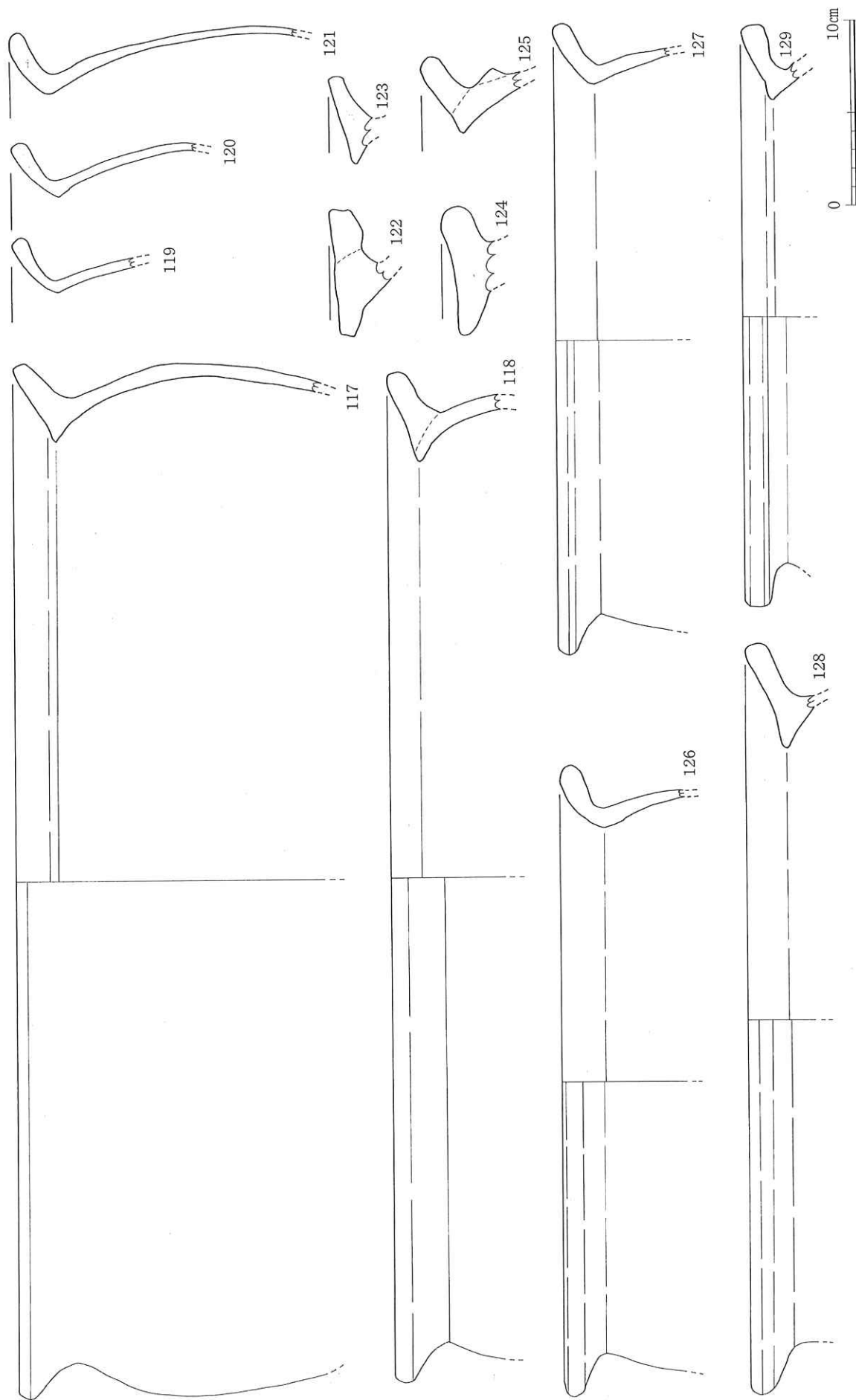
写真74 古閑遺跡調査地全景 東から



第186図 古閑遺跡トレンチ実測図1

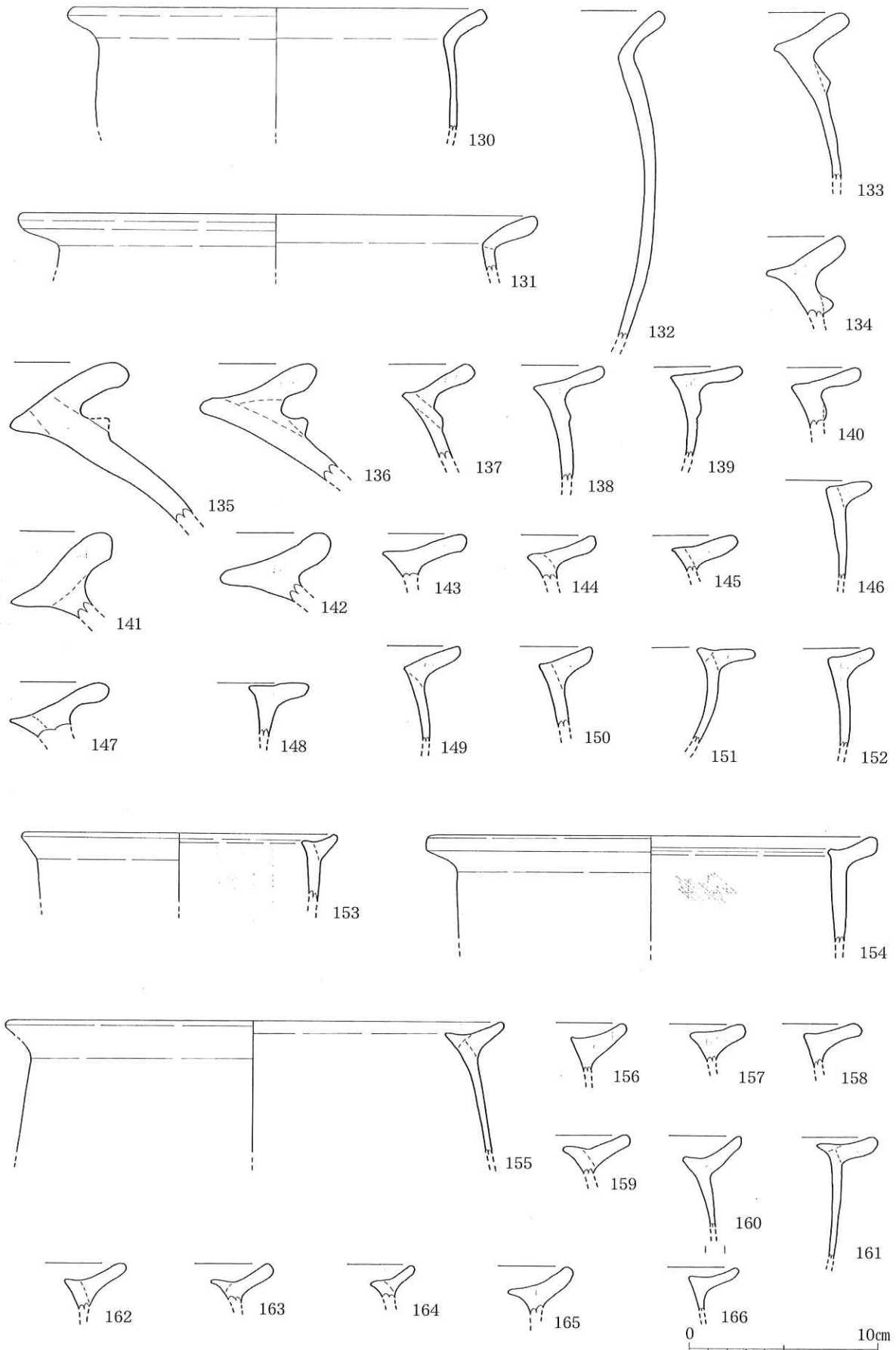
III 平成18年度の調査





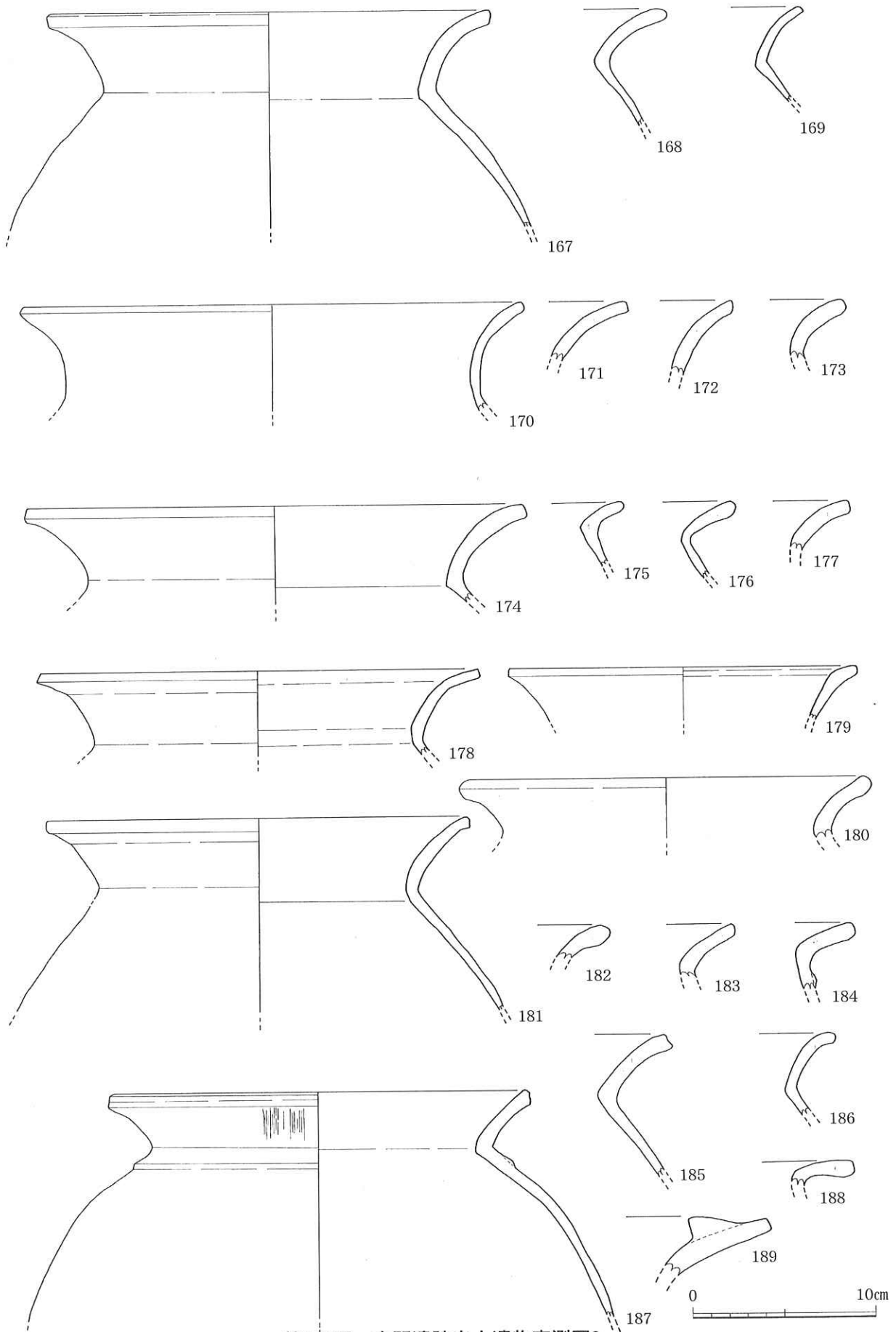
第188図 古閑遺跡出土遺物実測図1

III 平成18年度の調査



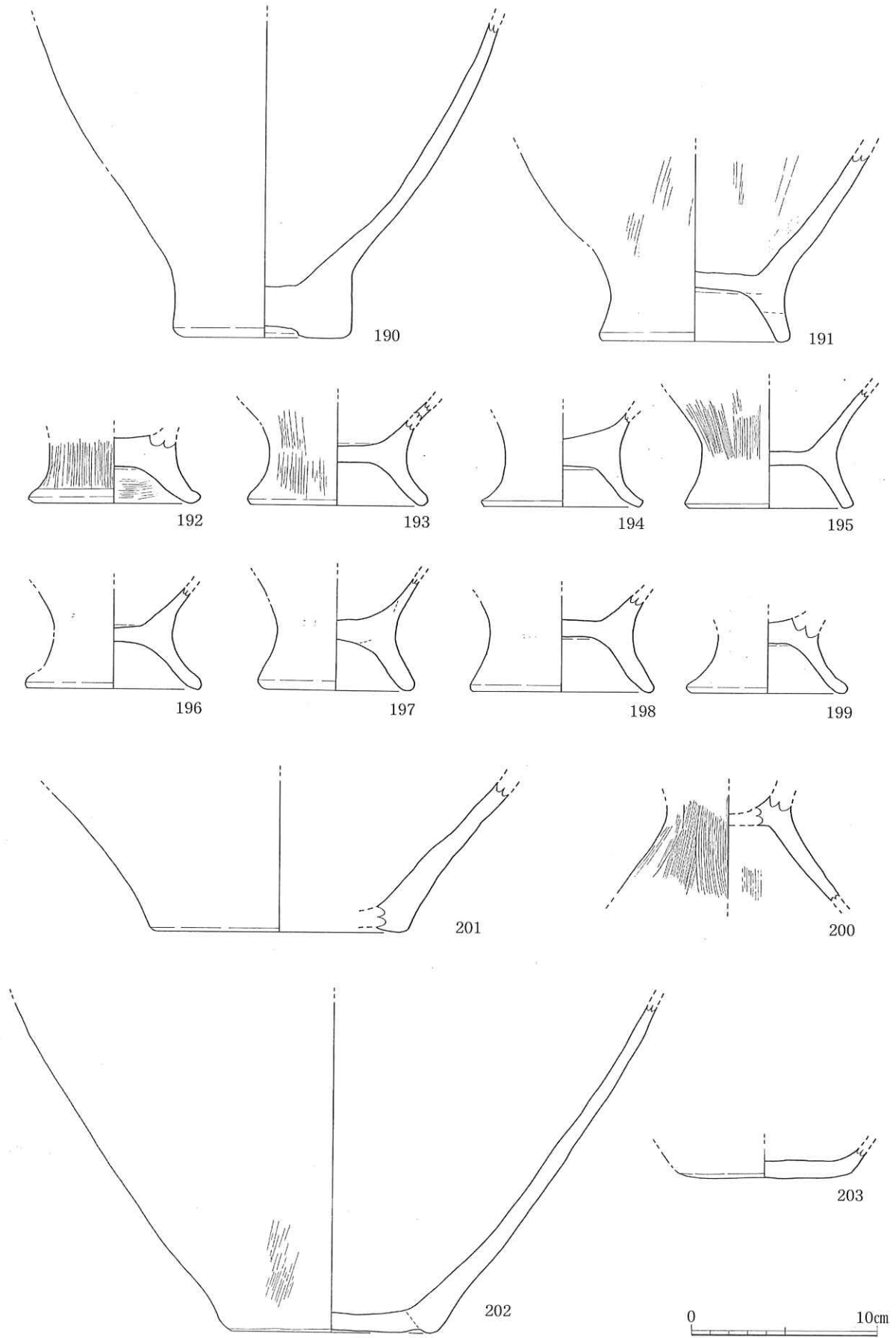
第189図 古閑遺跡出土遺物実測図2

Ⅲ 平成18年度の調査



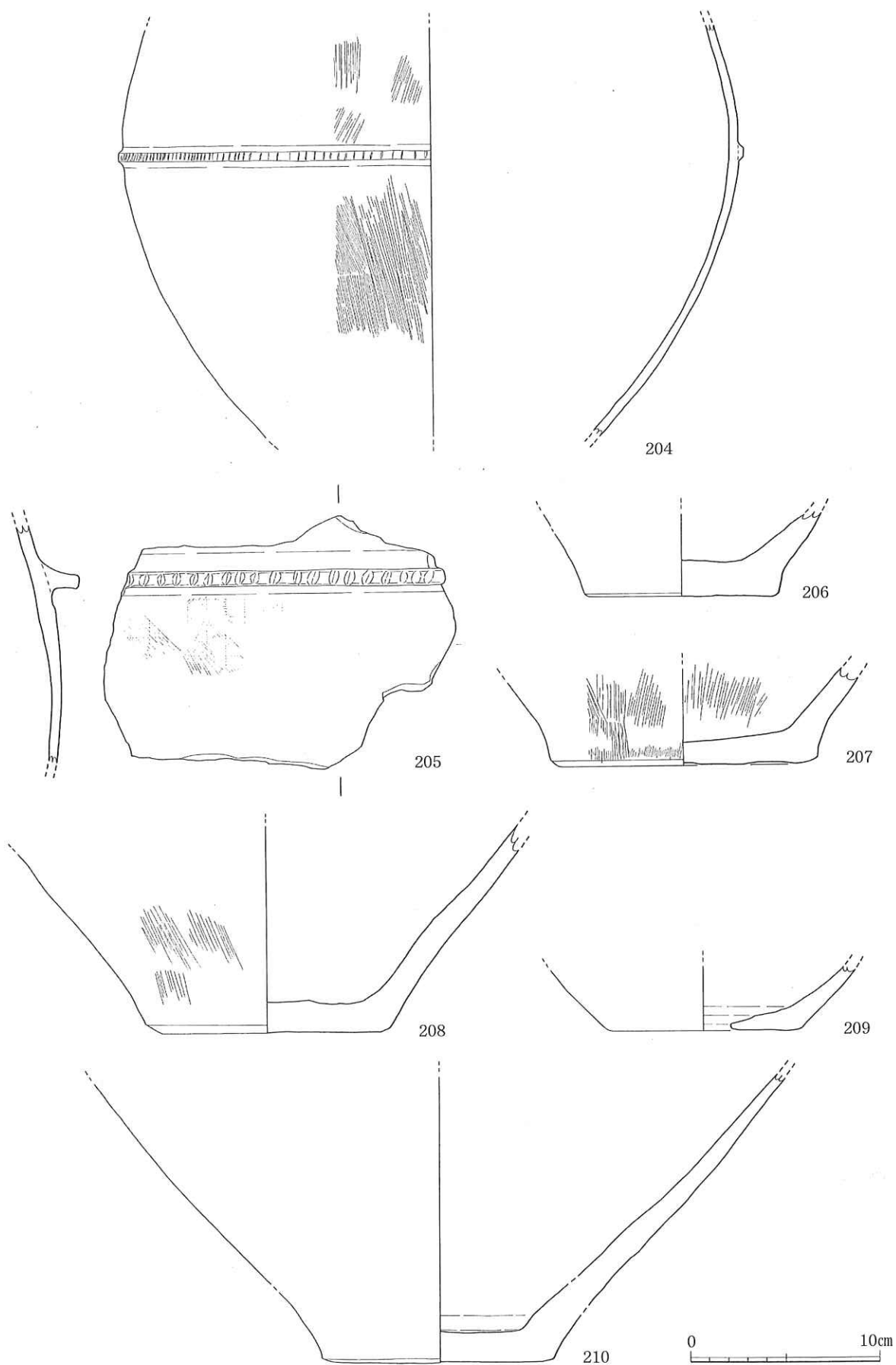
第190図 古閑遺跡出土遺物実測図3

III 平成18年度の調査



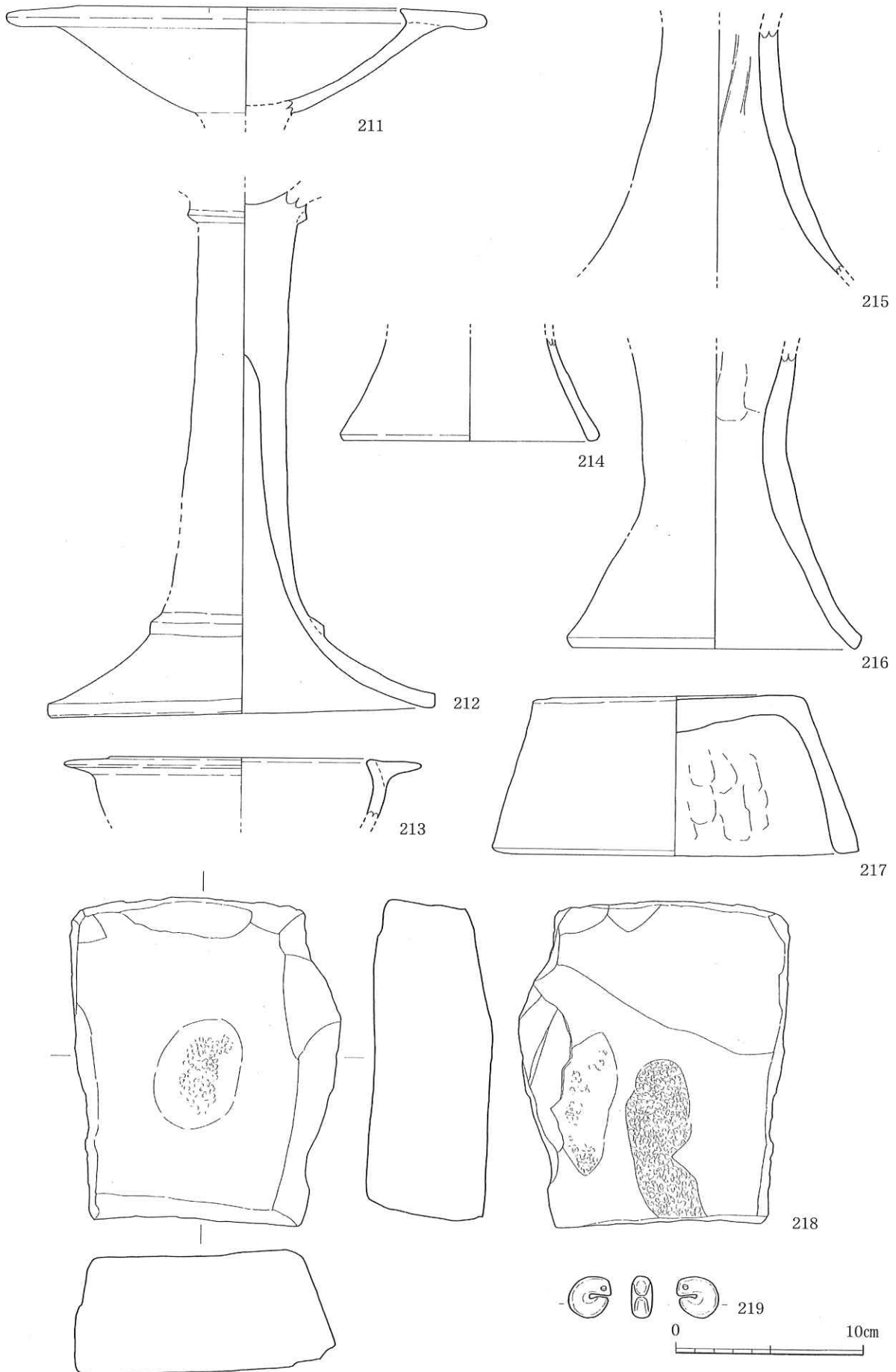
第191図 古閑遺跡出土遺物実測図4

III 平成18年度の調査



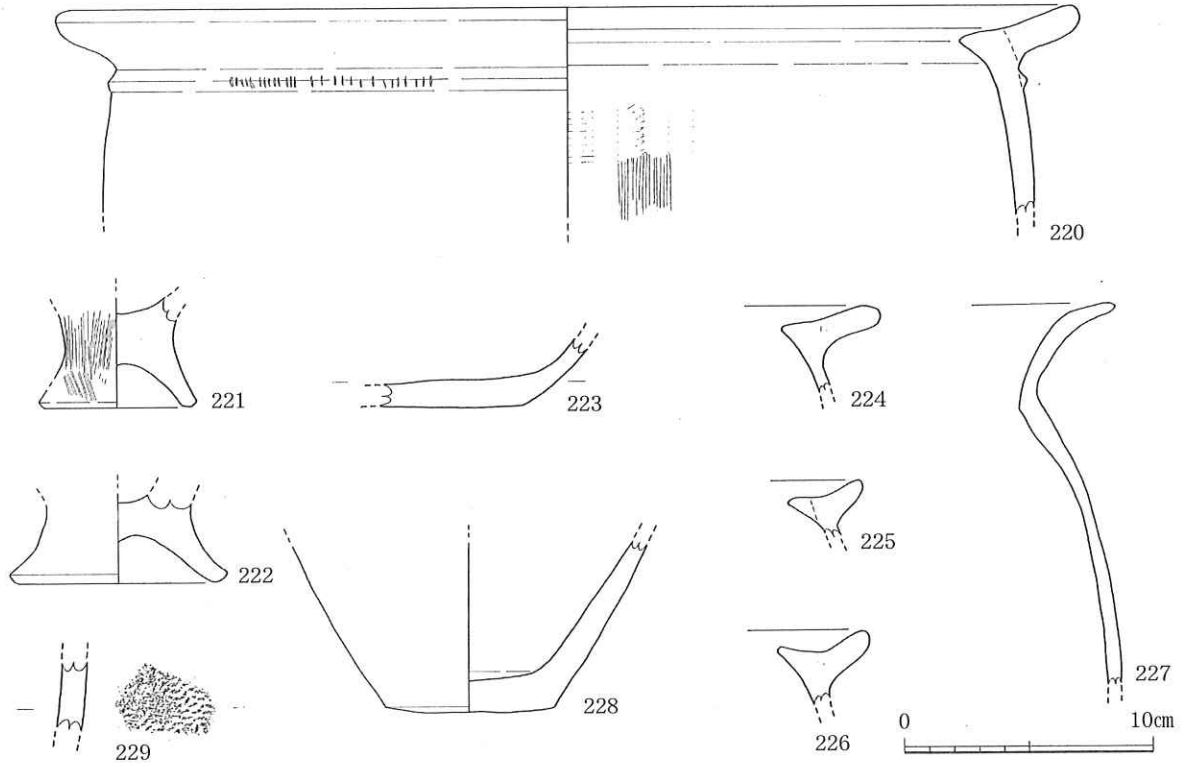
第192図 古閑遺跡出土遺物実測図5

III 平成18年度の調査



第193図 古閑遺跡出土遺物実測図6

III 平成18年度の調査



第194図 古閑遺跡出土遺物実測図7



写真75 古閑遺跡住居跡検出状況 西から



写真76 古閑遺跡住居跡炉跡検出状況 南から



写真77 古閑遺跡住居跡遺物出土状況1 西から



写真78 古閑遺跡住居跡遺物出土状況2 南から

2.2 中道遺跡

所在地：岱明町山下235-1

調査原因：宅地造成

対象面積：1,940㎡

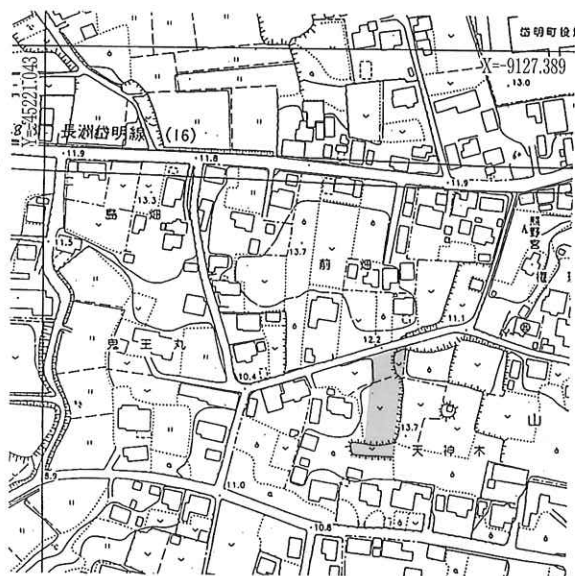
調査期間：19年2月6日～2月8日

担当者：兵谷有利

調査地は、玉名市の南西部、北の友田川、西の境川、東の行末川に囲まれた台地東端部に位置する、標高10m程の地点である。調査時の状況は、畑地を更地化したものであった。

調査では、敷地内にトレンチを7ヶ所設定した。調査の結果、旧地形は敷地中央部が窪地状に落ち込んでおり、それを近世以降及び現代の造成により平坦地としたことが判明した。遺構は確認されず、遺物は窪地状の落ち込み最下面より近世陶磁器片が確認されたのみであった。

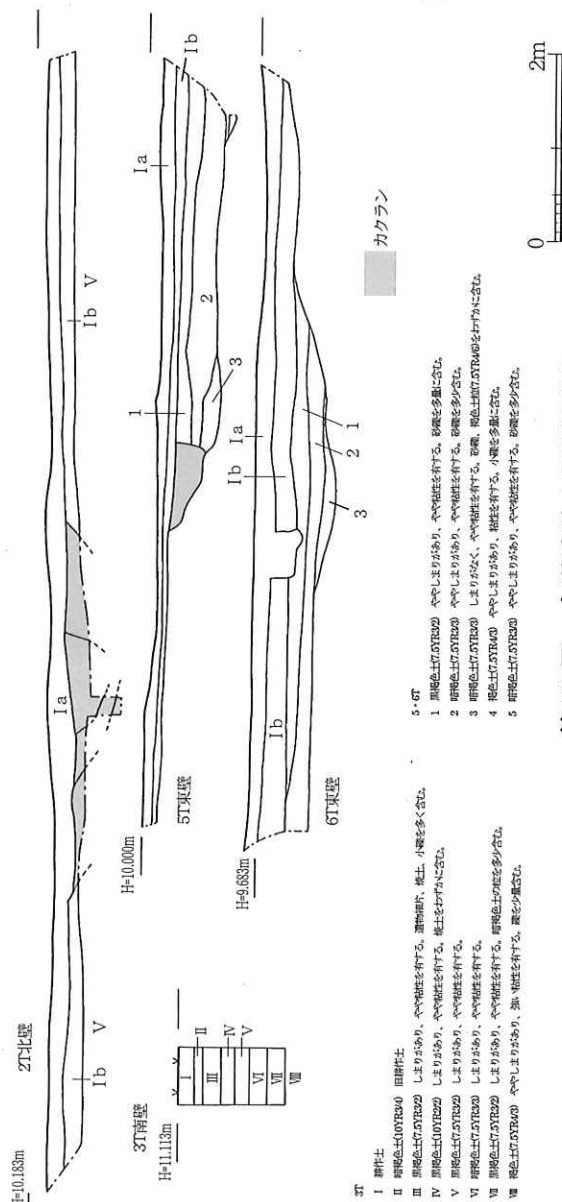
調査後の措置は、慎重工事である。



第195図 中道遺跡調査地位置図 S=1/5,000

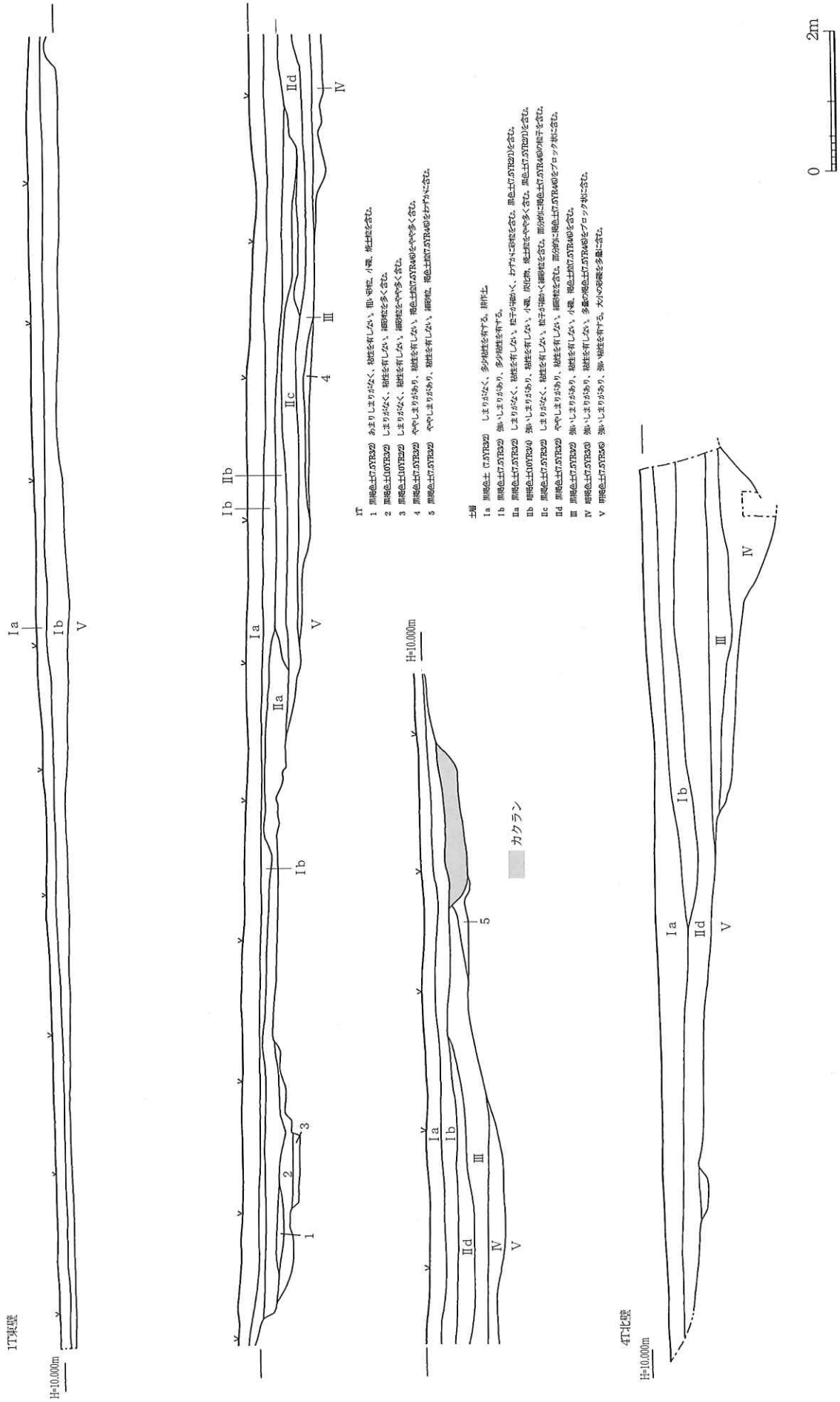


第196図 中道遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第197図 中道遺跡土層断面図1

III 平成18年度の調査



- IT
- 1 黒褐色土(IVTR20) あまりしまりがなく、粘性を有しない、細い砂粒、小塊、雑土混を含む。
 - 2 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、細砂粒を多く含む。
 - 3 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、細砂粒を多く含む。
 - 4 黒褐色土(IVTR20) ややしまりがあり、粘性を有しない、細砂粒、褐色土(IVTR40)を多く含む。
 - 5 黒褐色土(IVTR20) ややしまりがあり、粘性を有しない、細砂粒、褐色土(IVTR40)を多く含む。

- 土層
- I a 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、多少粘性を有する、耕作土。
 - I b 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、多少粘性を有する、耕作土。
 - II a 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、細子が細かく、雑土が細かく、雑土(IVTR20)を含む。
 - II b 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、小塊、砂粒、雑土を多く含む、黒色土(IVTR20)を含む。
 - II c 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、細子が細かく、細砂粒を含む、部分的に褐色土(IVTR40)の堆積を含む。
 - II d 黒褐色土(IVTR20) ややしまりがあり、粘性を有しない、細砂粒を含む、部分的に褐色土(IVTR40)を多く含む。
 - III 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、小塊、雑土(IVTR40)を多く含む。
 - IV 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、粘性を有しない、多数の褐色土(IVTR40)を多く含む。
 - V 黒褐色土(IVTR20) しまりがなく、強い粘性を有する、大小の砂礫を多く含む。

第198図 中道遺跡土層断面図2

23 上小田宮の前遺跡 上小田古屋敷遺跡

所在地：上小田708-1外

調査原因：事業用地造成

対象面積：216,345㎡

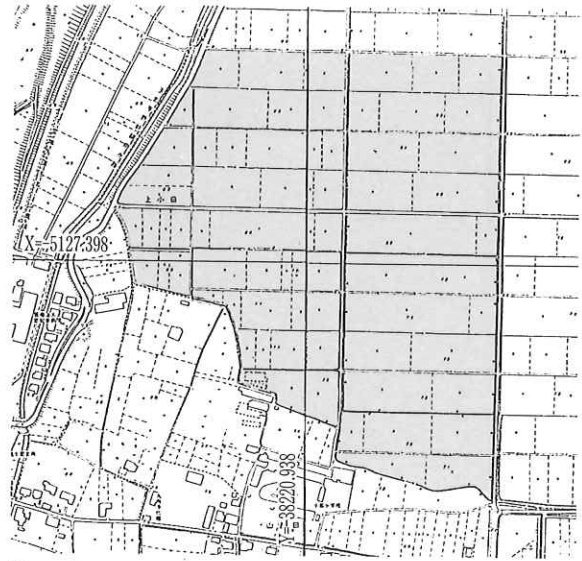
調査期間：19年2月8日～3月30日

担当者：荒木隆宏

調査地は、玉名市北東部、菊池川左岸の玉名平野北東端部に位置する、水田約22haである。調査範囲の大部分は、上小田宮の前遺跡及び上小田古屋敷遺跡の範囲に含まれている。調査地北端及び東端に接する県道路線部は、平成11年に熊本県教育庁文化課が試掘確認調査を実施し、その一部について、平成12年度～16年度にかけて発掘調査を行った。また、平成14年3月には、調査地中央部を南北に走る市道の拡幅工事に伴い、試掘確認調査を実施した。

今回は、耕作物がなく調査同意を得られた29筆について、周辺の調査成果を勘案してトレンチを設定した。その結果、調査地の北東部2筆において、弥生時代及び古代に属する遺構が確認された。隣接する県道における発掘調査により確認された生活領域に続くものと考えられる。その他殆どのトレンチで、縄文時代から近世にかけての遺物が出土したが、耕作土及び昭和37・38年度に実施された圃場整備に伴う整地層からの出土である。

今回の調査は、対象面積が約22haと広大であること、また耕作物の収穫時期等の関係から、平成18年度及び平成19年度の2ヵ年度にかけて行うものである。よって詳細な調査結果については、調査完了後に平成19年度調査分と併せて報告を行う予定である。



第199図
上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡調査地位置図 S=1/1,000



写真79
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡調査地全景 西から

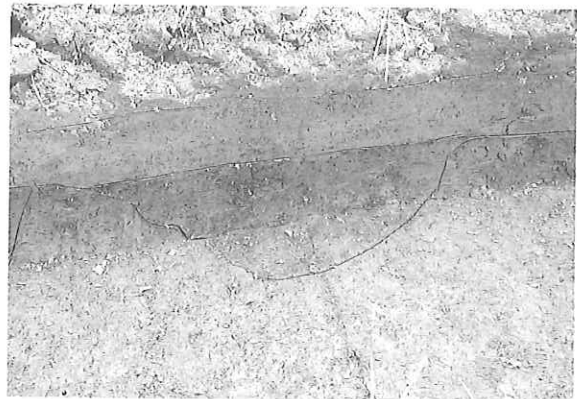


写真80
上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡遺構検出状況

24 両迫間日渡遺跡B地点

所在地：玉名字御琴1186外2筆

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,089m²

調査期間：19年2月21日

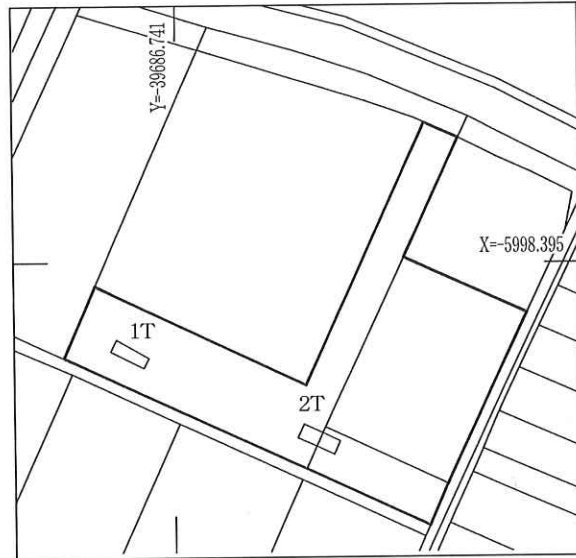
担当者：兵谷有利

調査地は、菊池川右岸の玉名平野中央やや北よりに位置する、標高5m程の地点である。

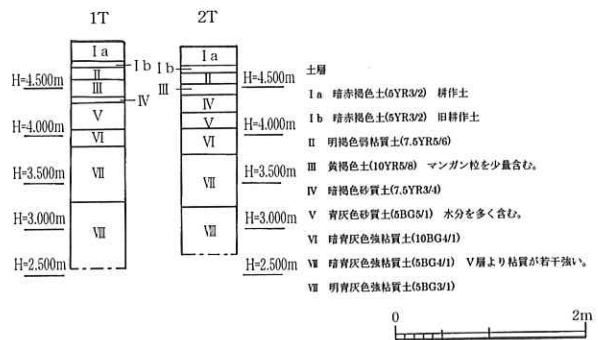
調査時の状況は水田であった。

調査では、建築予定地に2ヶ所のトレンチを設定した。I層は耕作土、II層は明褐色弱粘質土、III層はマンガン粒を少量含む黄褐色土、IV層は暗褐色砂質土、V層は青灰色砂質土、VI、VII層は暗青灰色強粘質土、VIII層は明青灰色強粘質土であった。南側隣接地での、新幹線新玉名駅周辺整備事業に伴う確認調査では、VI層の上面で遺構、遺物が確認されたが、当地では、各層から遺構、遺物は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



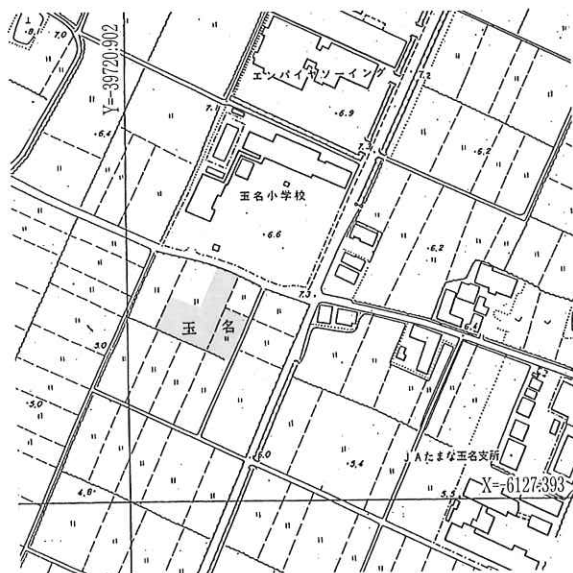
第201図 両迫間日渡遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第202図 両迫間日渡遺跡B地点土層断面図



写真81 両迫間日渡遺跡B地点1T土層断面 南から



第200図 両迫間日渡遺跡B地点位置図 S=1/5,000

25 寺田久保遺跡

所在地：寺田409-1

調査原因：事業用地造成

対象面積：378m²

調査期間：19年2月28日

担当者：田中康雄

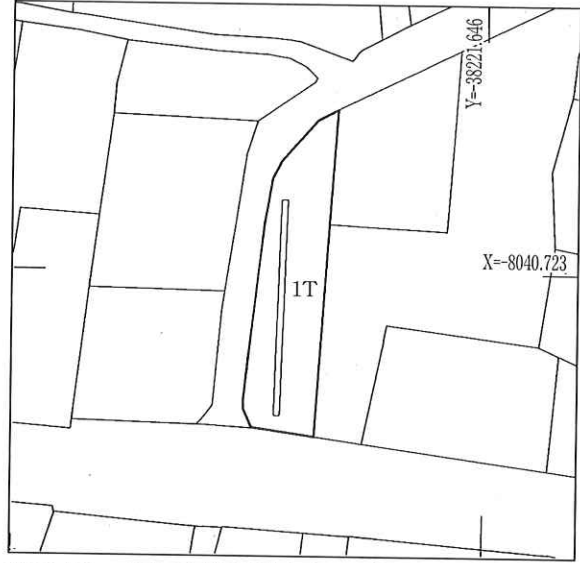
調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地北西部に位置する、標高50m程の地点である。国道208号線沿いで、玉名バイパス建設に伴い発掘調査が行われた吉丸西遺跡からは、直線距離で東へ約500m程である。調査時の状況は、旧畑地と思われる更地であった。

調査では、南北方向に細長い敷地の中央部に、南北約29mのトレンチを設定した。調査の結果、当地は北から南へ傾斜する地形で、敷地中央部で阿蘇4火砕流に伴う火山灰堆積土と考えられる土層を表土直下に確認したことから、全体的に大きく削平されていると考えられ、遺構、遺物ともに確認されなかった。

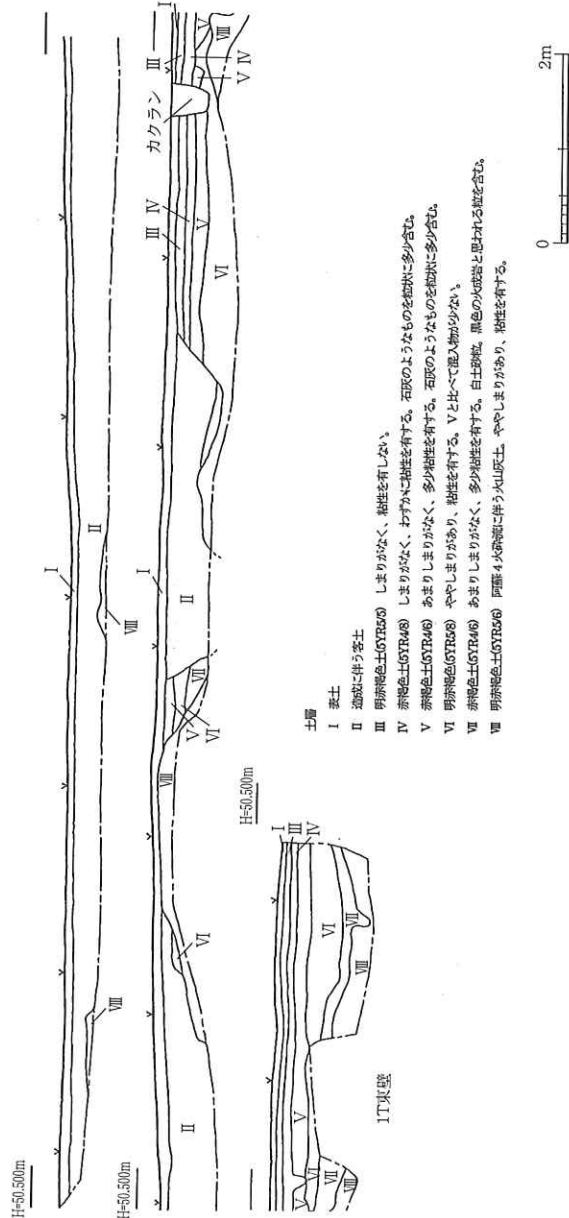
調査後の措置は、慎重工事である。



第203図 寺田久保遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第204図 寺田久保遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第205図 寺田久保遺跡土層断面図

土層
 I 表土
 II 遊砂に伴う客土
 III 明礬褐色土(STR50) しまりがなく、粘性を有しない。
 IV 赤褐色土(STR40) しまりがなく、わずかに粘性を有する。石灰のようなものを粗粒に多少含む。
 V 赤褐色土(STR40) あまりしまりがなく、多少粘性を有する。石灰のようなものを粗粒に多少含む。
 VI 明礬褐色土(STR50) ややしまりがなく、粘性を有する。Vと比べて混入物が多い。
 VII 赤褐色土(STR40) あまりしまりがなく、多少粘性を有する。白土砂粒、黒色の火砕岩と思われる粒を含む。
 VIII 明礬褐色土(STR50) 阿蘇4火砕流に伴う火山灰土。ややしまりがあり、粘性を有する。

26 五郎丸遺跡B地点

所在地：山田416

調査原因：宅地造成

対象面積：881㎡

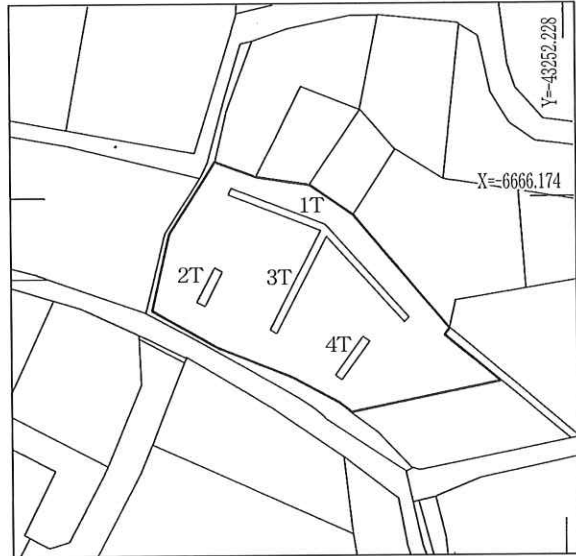
調査期間：19年2月28日

担当者：兵谷有利

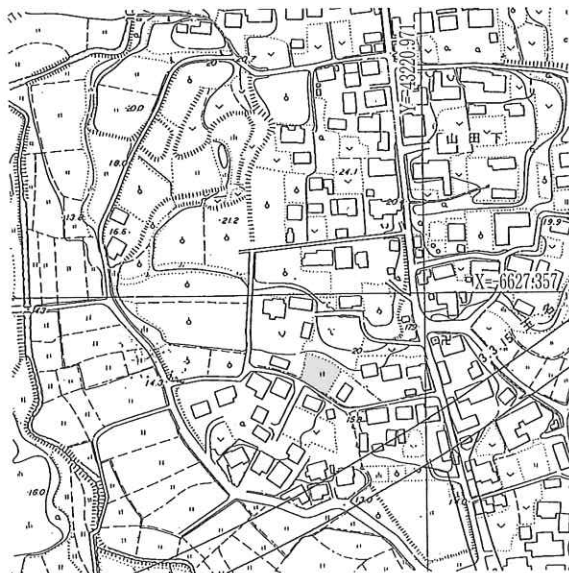
調査地は、境川とその支流山田川に挟まれた、小代山南側丘陵南端部に位置する、標高16.8m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に4ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチとも、I層は耕作土、II層は旧耕作土、III層は黄褐色土であり、遺構、遺物は確認されなかった。

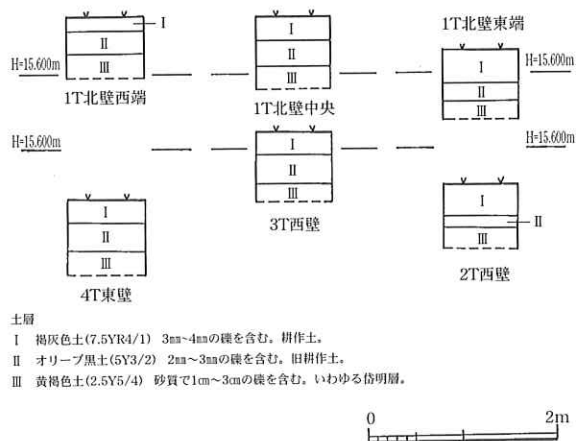
調査後の措置は慎重工事である。



第207図 五郎丸遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第206図 五郎丸遺跡B地点位置図 S=1/5,000



第208図 五郎丸遺跡B地点土層断面図



写真82 五郎丸遺跡B地点3T全景 南から



写真83 五郎丸遺跡B地点3T土層断面 東から

27 大野下ホームセンター予定地

所在地：岱明町大野下1088外2筆

調査原因：店舗建設

対象面積：4,318㎡

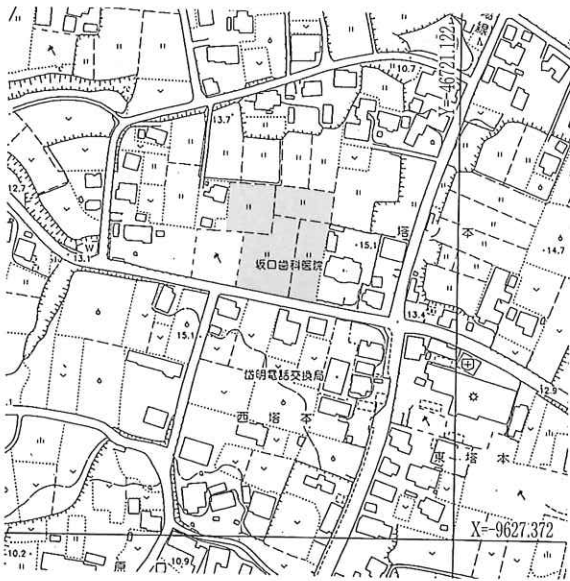
調査期間：19年3月1日～3月2日

担当者：田中康雄

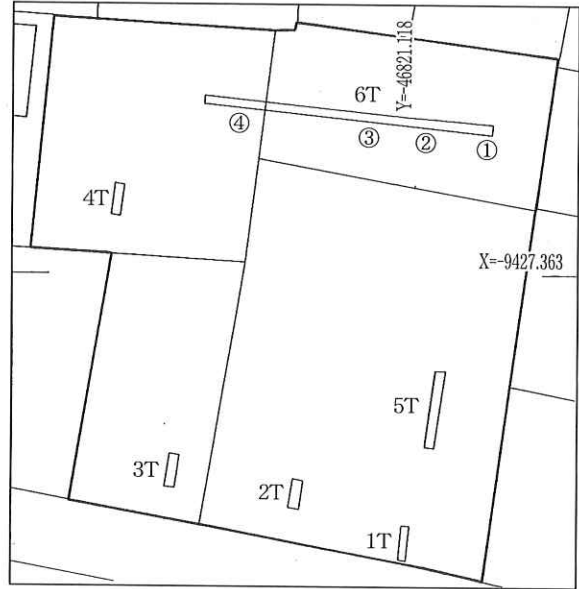
調査地は、小代山南麓部に接する玉名台地南端部に位置し、東の境川、西の行末川に挟まれた、低段位丘上の標高10.5m程の地点である。調査時の状況は水田及び畑地であった。

調査では、施工予定の内、特に大規模な掘削等が計画されている進入路部1ヵ所、雨水浸透柵部3ヵ所、灯油タンク部1ヵ所、店舗部1ヵ所の計6ヵ所にトレンチを設定した。調査の結果、各トレンチで少量の土器細片が出土し、店舗部のトレンチ（6トレンチ）でピット状の遺構を4基確認した。土器はローリングを受けた細片で、その量もごく少量であり、遺構についても、出土遺物や、土層の堆積状況から、近世以降のものと思定され、その形状から、明確な建物の柱穴ではないと判断した。

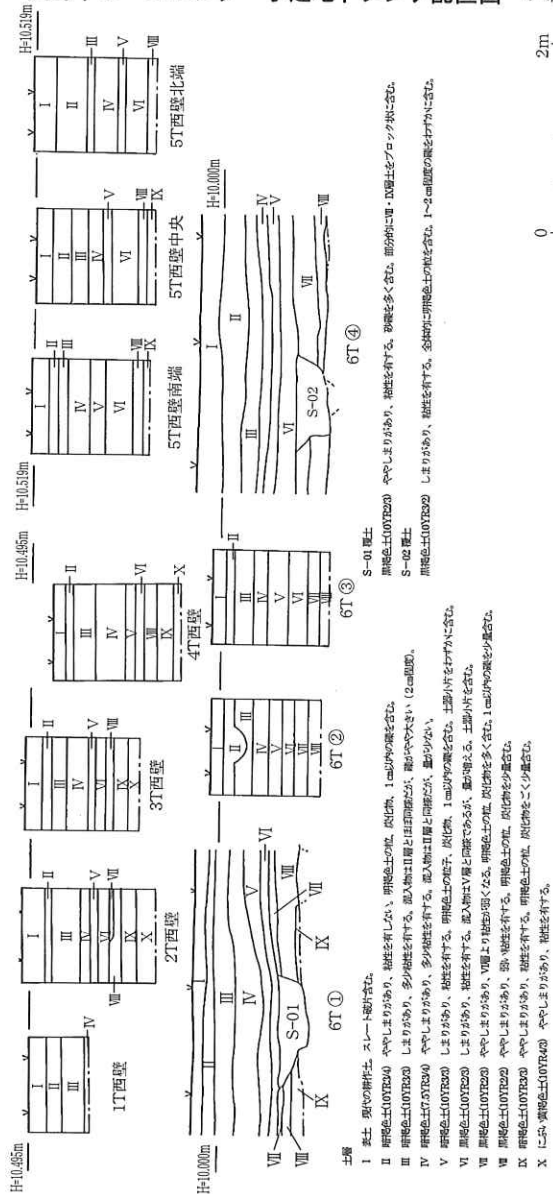
調査後の措置は、慎重工事である。



第209図 大野下ホームセンター予定地位置図 S=1/5,000



第210図 大野下ホームセンター予定地トレンチ配置図 S=1/1,000



第211図 大野下ホームセンター予定地土層断面図

28 山田山口遺跡

所在地：山田1048-1外1筆

調査原因：宅地造成

対象面積：1,062㎡

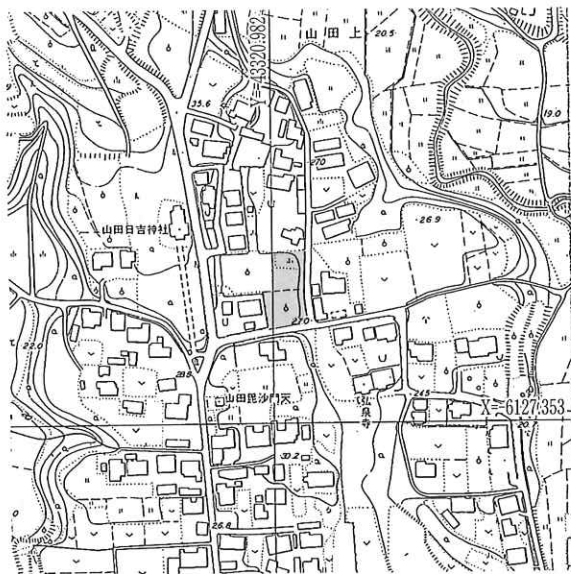
調査期間：19年3月1日～3月2日

担当者：末永 崇

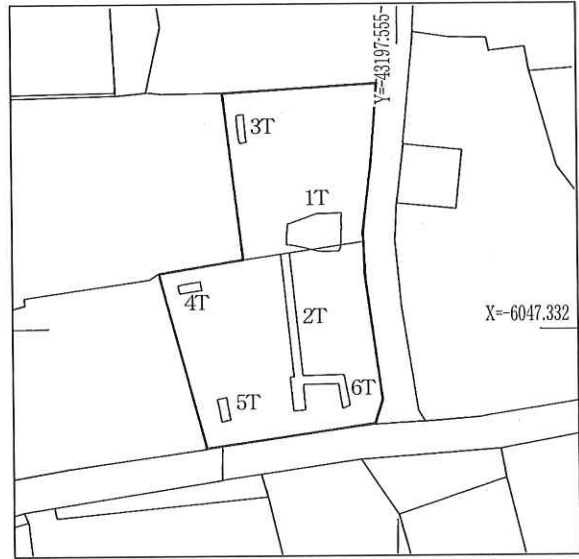
調査地は、境川右岸の扇状地に面した、小代山南側丘陵部から緩やかに延びる台地上に位置する、標高29m程の地点である。調査時の状況は畑地であった。

調査では、敷地内に6ヶ所のトレンチを設定した。耕作土であるⅠ～Ⅳ層下に、無遺物層であるⅤ～Ⅷ層が確認された。遺物は、Ⅰ～Ⅳ層で近世から近代の土器片少量を確認したのみで、遺構は確認されなかった。このことから、当地は畑地化する際に大きく削平されており、埋蔵文化財は残存していないと判断した。

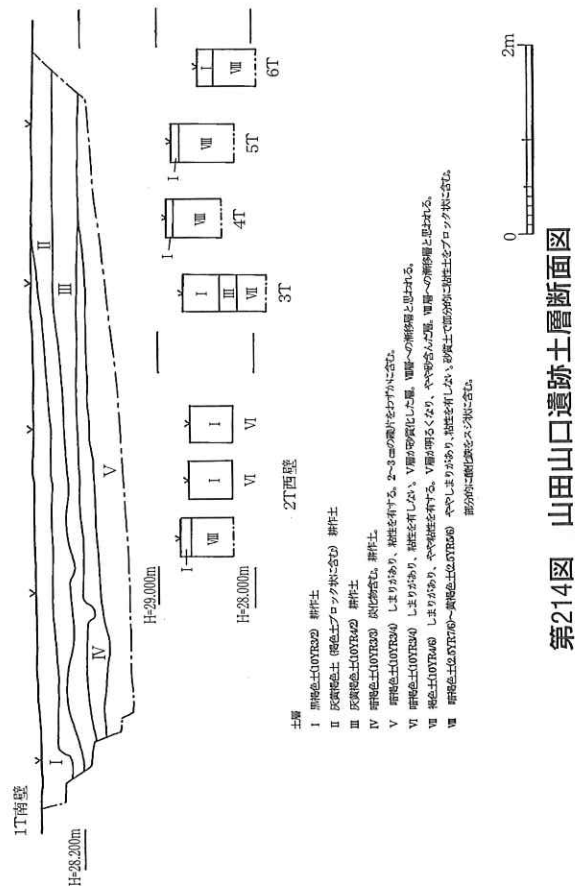
調査後の措置は、慎重工事である。



第212図 山田山口遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第213図 山田山口遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第214図 山田山口遺跡土層断面図

29 中土西遺跡

所在地：岱明町浜田120

調査原因：学校施設建設（屋内運動場）

対象面積：1,272m²

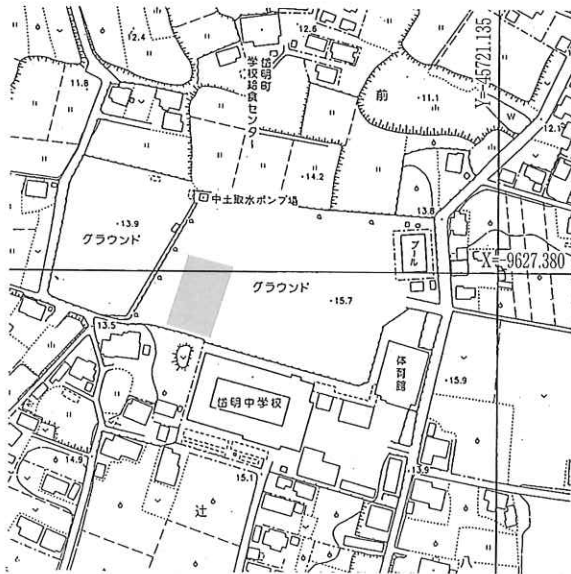
調査期間：19年3月14日～3月15日

担当者：齋父雅史

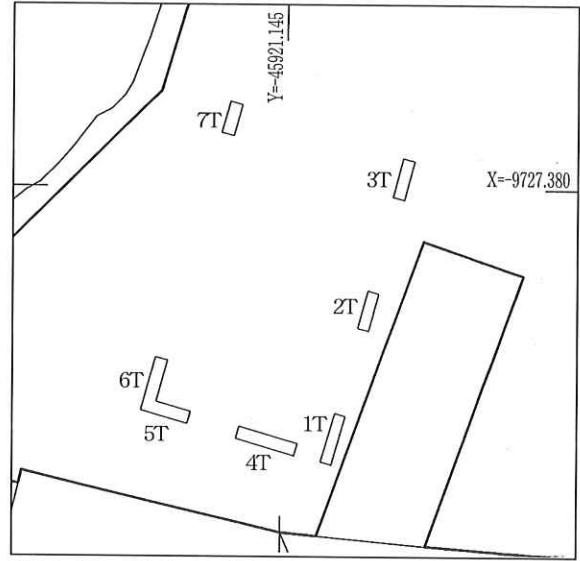
調査地は、玉名市の南西部、境川と友田川に挟まれた玉名台地南側の標高13m程の地点である。調査時の状況は、中学校のグラウンドであった。

調査では、屋内運動場建設予定地に7ヶ所のトレンチを設定した。Ⅰ～Ⅲ層は、グラウンド造成に伴う客土及び整地層、Ⅳ、Ⅴ層は黒褐色土、Ⅵ層は灰褐色土、Ⅶ層は褐色土、Ⅷ層は灰黄褐色土、Ⅸ層はにぶい黄褐色土、Ⅹ層は褐色のローム層であった。このうち、Ⅳ層で縄文時代及び弥生時代の土器細片を少量確認したが、その他に遺構、遺物は確認されなかった。

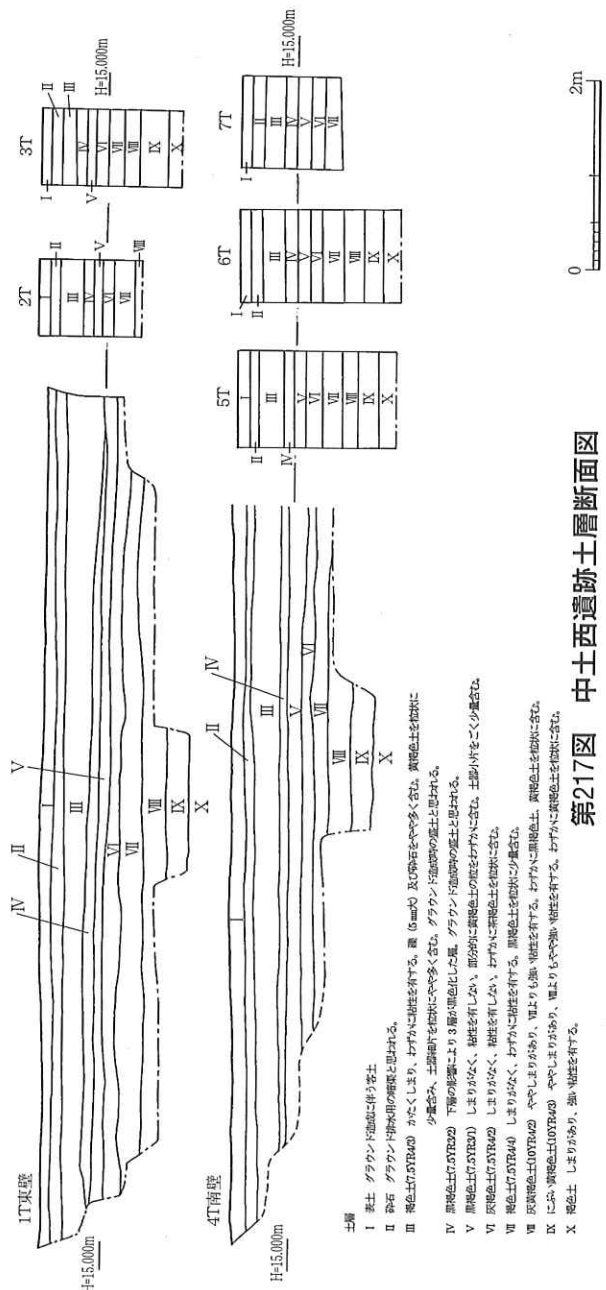
調査後の措置は、慎重工事である。



第215図 中土西遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第216図 中土西遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第217図 中土西遺跡土層断面図

30 伊倉南方ホームセンター予定地

所在地：伊倉南方247-1外1筆

調査原因：店舗建設

対象面積：4,913.44㎡

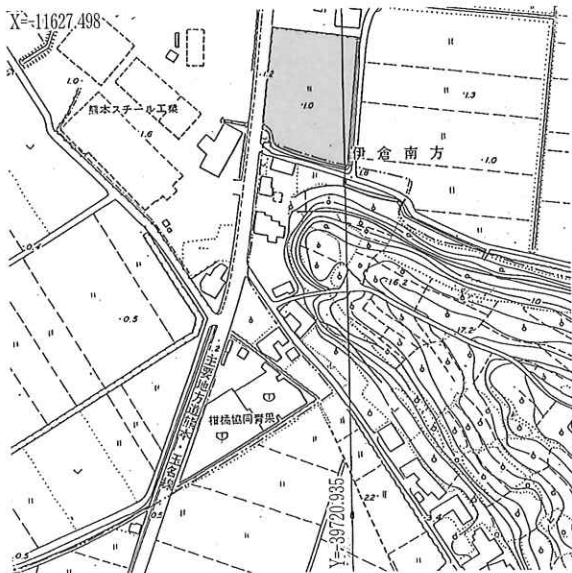
調査期間：19年3月22日

担当者：齋父雅史

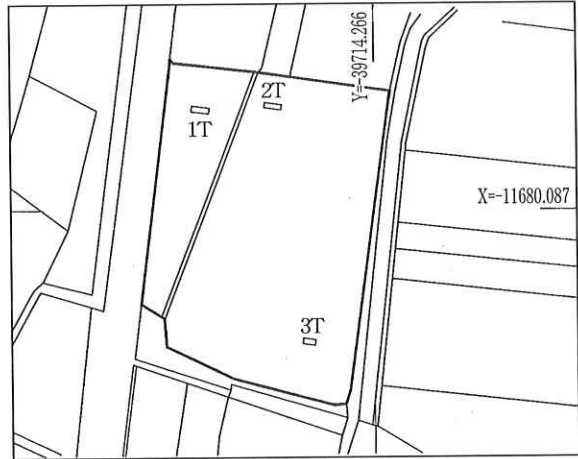
調査地は、唐人川と尾田川合流部北東側の、伊倉丘陵性台地西端裾部に接する平野部に位置する、標高1m程の地点である。調査時の状況は、水田及び客土による造成地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定した。内2、3トレンチ設定部は約70cmの盛土が行われていた。各トレンチとも、I層は水田耕作土、II、III層は水田床土であろう褐灰色土、IV層は暗灰色土、V、VI層は暗オリーブ灰色土、VII、VIII層はオリーブ灰色土、IX層は貝殻を多量に混入するオリーブ黒色土であった。各層から遺構、遺物は確認されなかった。IX層に貝殻が多量に混入するが、干拓以前の旧海岸部であった頃の堆積層と考えられる。

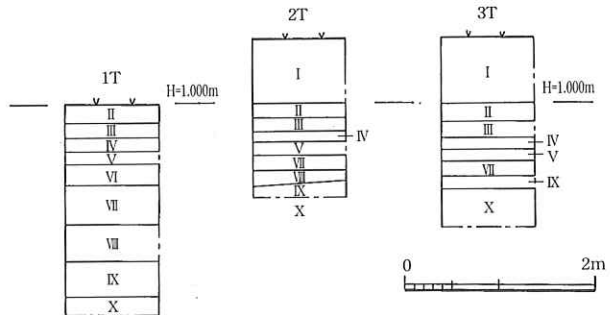
調査後の措置は、慎重工事である。



第218図 伊倉南方ホームセンター予定地位置図 S=1/5,000



第219図 伊倉南方ホームセンター予定地トレンチ配置図 S=1/2,000



- 土層
- I 透氣に伴う盛土
 - II 水田耕作土
 - III 褐灰色土(7.6YR6/1) しまりがなく、粘性を有する。茶褐色土を粒状に少量含む。水田床土と思われる。
 - IV 暗灰色土(7.6YR6/1) ややしまりがあり、粘性を有する。部分的に鉄化鉄を含む。
 - V 暗灰色土(8.0) ややしまりがあり、粘性を有する。砂を少量含む。
 - VI 暗オリーブ灰色粘土(6.5GY4/1) しまりがあり、強い粘性を有する。
 - VII 暗オリーブ灰色粘土(6.5GY4/1) しまりがあり、非常に強い粘性を有する。砂を少量含む。
 - VIII オリーブ灰色粘土(6.5GY5/1) VIIよりもややしまりがあり、強い粘性を有する。VIIよりも砂をやや多く含む。
 - IX オリーブ灰色粘土(6.5GY5/1) VIIよりもしまりが弱く、粘性を有する。
 - X オリーブ黒色粘土(7.6Y3/1) ややしまりがあり、強い粘性を有する。砂粒をわずかに含み、貝殻片を多量に含む。縄文海進期の海成堆積層(有明粘土層)と考えられる。

第220図 伊倉南方ホームセンター予定地土層断面図



写真84 伊倉南方ホームセンター予定地全景 西から

3.1 玉名高校校庭遺跡

所在地：中1908-8外2筆

調査原因：店舗兼住宅建設

対象面積：224m²

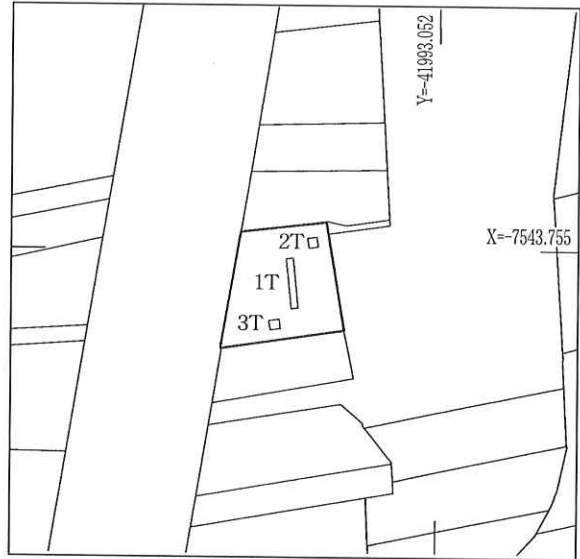
調査期間：19年3月29日～3月30日

担当者：中村安宏

調査地は、玉名市のほぼ中央部、菊池川右岸の玉名平野西側に面した玉名台地上の標高16m程の地点である。調査時の状況は、既存建物解体後の更地であった。

調査では、敷地内に3ヶ所のトレンチを設定した。I層からV層までは、現代の客土及び攪乱層、VI層はしまりのある黒褐色土、VII層はしまりのある暗褐色土、VIII層はしまりがあり粘性の強い褐色土であった。各トレンチから遺構、遺物は確認されなかった。

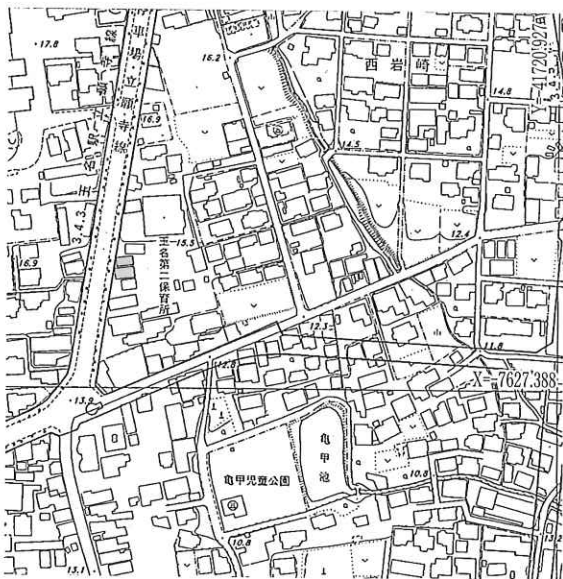
調査後の措置は、慎重工事である。



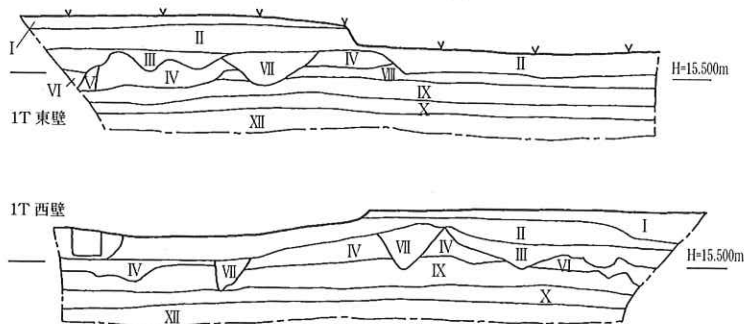
第222図 玉名高校校庭遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



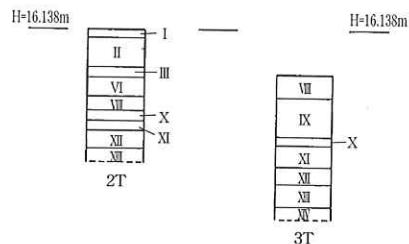
写真85 玉名高校校庭遺跡調査地全景 西から



第221図 玉名高校校庭遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第223図 玉名高校校庭遺跡土層断面図



土層

- I 砂利層の埋め戻し
- II 建物解体後の埋め戻し土
- III 黒褐色土(7.5YR2/2) しまりがあり、粘性を有しない。ビニール片、小石、3mm大の砂粒を含む。
- IV 極暗褐色土(7.5YR2/3) しまりが強く、強い粘性を有する。ビニール片を含む。
- V 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、やや強い粘性を有する。
- VI 黒褐色土(7.5YR2/2) しまりが強く、強い粘性を有する。1mm-1cm大の小礫を含む。
- VII 黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまりがあり、粘性を有する。1mm大の砂粒を含む。
- VIII 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、やや粘性を有する。
- IX 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、やや粘性を有する。
- X 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりがあり、やや粘性を有する。1mm大の砂粒を含む。
- XI 黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまりがあり、やや粘性を有する。Xよりも砂粒を多く含む。
- XII 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、強い粘性を有する。1-2mm大の砂粒を含む。
- XIII 褐色土(7.5YR4/4) しまりが強く、やや粘性を有する。1-2mm大の砂粒を多く含む。
- XIV 褐色土(7.5YR4/6) しまりが強く、強い粘性を有する。XIIIよりも砂粒を含まない。

3.2 石貫ナギノ横穴群

所在地：石貫2951外

調査原因：整備に伴う測量調査

対象面積：1,500㎡

調査期間：19年3月8日～3月30日

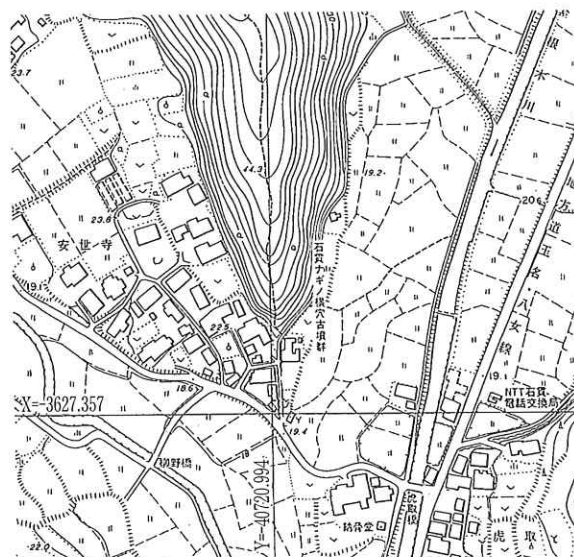
担当者：末永 崇

調査地は、繁根木川右岸の凝灰岩崖面に位置している。現在48基の横穴墓が確認されており、今回は、その中の3号墓～12号墓前庭部に相当する範囲の地形測量を行った。平成15年度には、今後の保護と活用を目的とした確認調査を実施した。調査では、前庭部の9ヶ所にトレンチを設定し、須恵器片などの遺物を確認したが、部分的な調査のため、全体の状況を十分に把握するには至っていない。

測量図原図は、10cm単位の等高線により、1/100スケールで作成した。測量に使用した基準点及び水準点は、昭和60年度玉名市地籍調査事業で設置された三角点K1・K2の座標値を使用した。今回の測量では、平成15年の確認調査時に、光波測距儀を用い、放射法によりそれぞれの点を後視点として設置したK1-1～K1-9、K2-1～K2-5のうち、K2-3・K2-4を使用し、さらに測量範囲に補助点を設置した。オートレベルにより標高を測った点を光波測距儀で計測して地形図を作成した。座標値は、日本測地系第2系に基づいており、方角は座標北を示す。測量図中の3～12号墓は、飾縁のカドの座標を計測し、『石貫ナギノ・石貫穴観音横穴群—熊本県菊池川流域における横穴墓研究(1)—』の平面図を測量図中に挿入した。

横穴墓が築かれている凝灰岩の崖面は崩落が激しく、特に10号墓は奥壁が残るのみで前部はすでに崩落している。平成15年度の確認調査時に、9～12号墓の前に設定した第4トレンチでは、崖面から崩落したとみられる凝灰岩片が多量に検出された。また、昭和63年に3～4

号墓にかけての崖面上部が崩れ、前庭部に多くの土砂が堆積した。以上の状況から、横穴墓築造当時の地形は、今回測量した範囲においては、大部分が埋没しており、発掘調査も含め、今後継続して調査を行う必要があると考えられる。

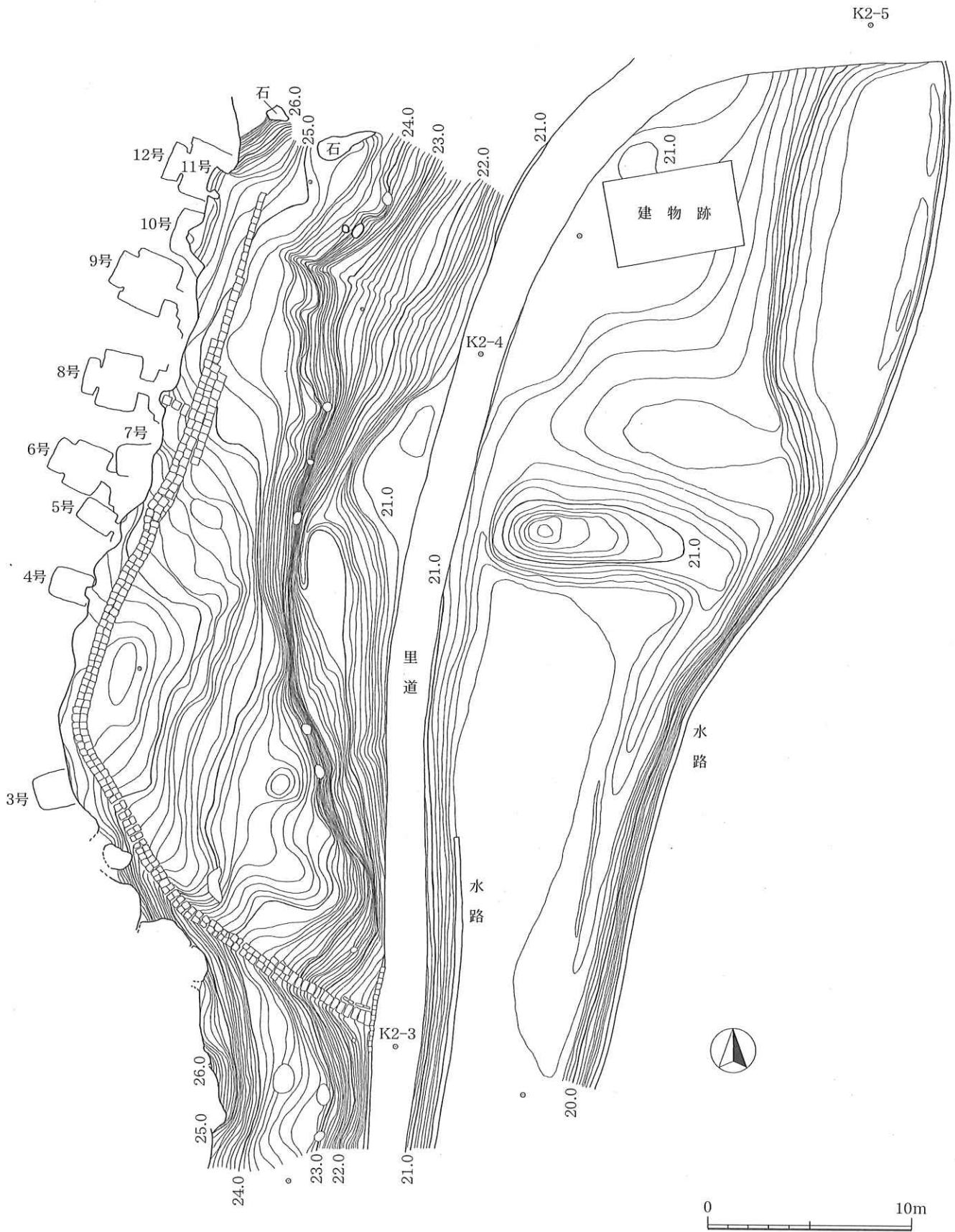


第224図 石貫ナギノ横穴群位置図 S=1/5,000



写真86 石貫ナギノ横穴群所在地遠景 東から

III 平成18年度の調査



第225図 石貫ナギノ横穴群測量図

33 ジュルクン谷製鉄跡

所在地：三ツ川字宮田4323

調査原因：測量調査

対象面積：2,100㎡

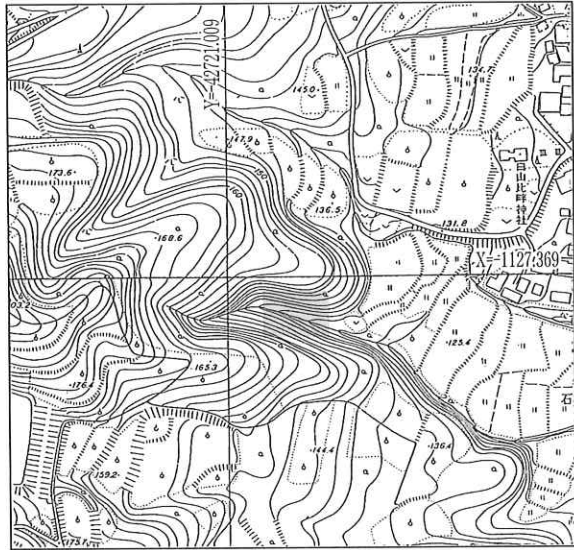
調査期間：18年9月1日～10月11日

担当者：荒木隆宏

調査地は、小代山の最高峰筒ヶ岳（501m）東方の山腹に位置する、標高140m程の小さな谷間である。平成18年4月4日に、土地所有者から埋蔵文化財らしきものを発見したとの連絡を受け、4月7日に現地確認及び周辺の踏査を行った。この谷は、常時水が流れており、地元では「ジュルクン谷」と呼ばれている。この谷では、昭和30年代まで階段状の小規模な水田が営まれていたらしく、現状でも数枚の平坦部を確認することができる。その旧水田の一部（5m×8m程の範囲）に鉄滓、土器片、炉壁片、炭化物等の散布が認められた。旧状は平坦であったものが、現状では流水による浸食で中央部分が高く残り、周囲が低く削り取られている。北側斜面の一部が崩落し、中央部に流れ堆積した可能性も考えられるが、未発掘のため明らかでない。遺物の散布は、谷の北側斜面から中央部の高まりにかけて見られるが、流路となっている高まり北側部分は、より深く削り取られ、遺物の散布範囲が分断されている。また現時点では、この谷間の他の地点における遺物の散布は確認していない。

なお、ジュルクン谷北側の尾根を挟んだ谷間には「カナクソ原」と呼ばれる場所があり、かつて耕作されていた頃には、多量の鉄滓が散布していたらしいが、今回の現地確認では、鉄滓の散布は確認できなかった。そこには、刀鍛冶がいたとの伝承があり、付近には五輪塔の地輪など石塔残欠が存在している。

この遺跡は新発見の遺跡であり、また現在荒蕪地となっており、流水等による地形変化が予



第226図
ジュルクン谷製鉄跡調査地位置図 S=1/5,000



写真87 ジュルクン谷製鉄跡近影 東から

想されたため、現状の地形測量を行った。今後引き続き周辺の測量調査を行い、炉の残存状態など内容把握のための発掘調査も行う予定である。

表面採集した遺物には、鉄分が溶着した炉壁片のほか、精錬滓等がある。中でも、ほぼ完形のフィゴ羽口が流路部分から採集されている。残存長20cm、外径約10cm、孔径約4.5cmで、上部が僅かに内湾し、表面には砂粒がこびり付いている。また、高熱により黒化した範囲から、装着状況の推定が可能である。

III 平成18年度の調査



写真88 ジュルクン谷製鉄跡遠景 東から



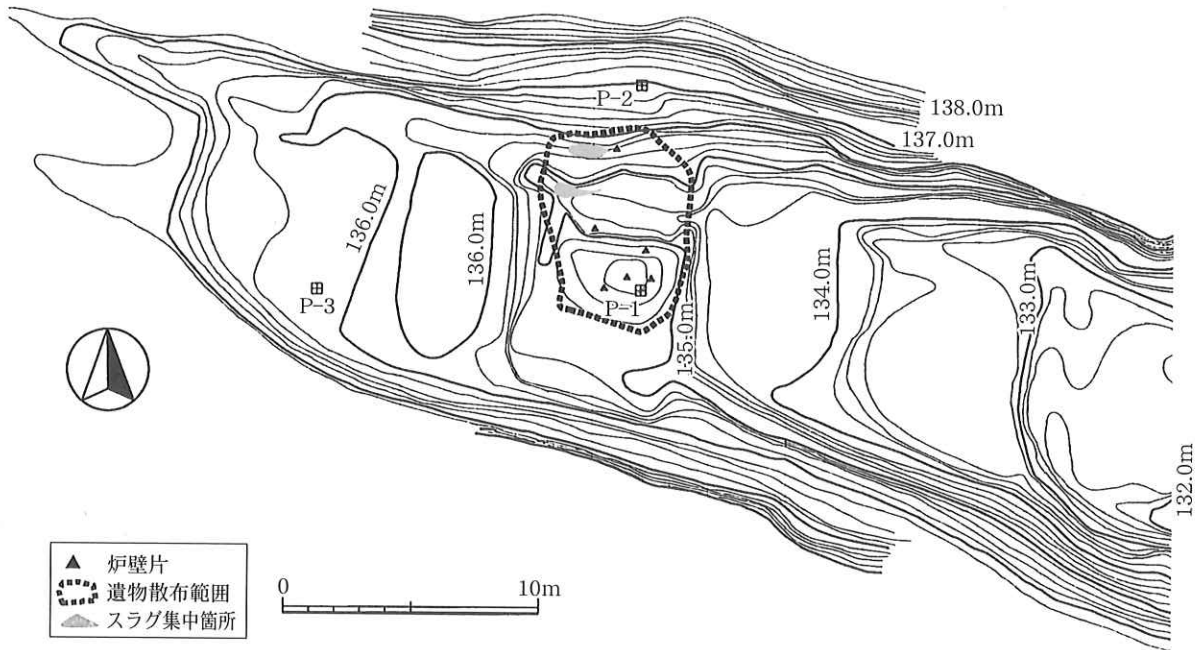
写真89 ジュルクン谷製鉄跡遺物散布状況



写真90 ジュルクン谷製鉄跡表採遺物



写真91 ジュルクン谷製鉄跡表採フィゴ羽口



P-1座標 (X=-1153.869 Y=-42673.627)

第227図 ジュルクン谷製鉄跡測量図

Ⅲ 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
1	年の神遺跡	S-01 下裏内	石器	磨製石剣	先端部	長さ(2.25)	幅(1.7)	厚さ(0.45)	—	—	—	—	—	—	安房 安山岩
2	年の神遺跡	S-07	須恵器(古代)	須恵器(古代)	体部~底部	不明	不明	(2.8)	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ 不定方向ナデ	黄灰色 2.5Y4/1	浅黄色 2.5Y7/3	細かい白色砂粒をまばらに含む。	良	
3	年の神遺跡	S-07	須恵器(古代)	須恵器(古代)	口縁~脚部	15.8	8.8	6.25	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰オリーブ色 5Y6/2 灰色 5Y8/2	灰オリーブ色 5Y6/2 灰色 5Y8/2	細かい白色砂粒をまばらに含む。	良	
4	年の神遺跡	S-07	須恵器(古代)	須恵器(古代)	口縁~脚部	19.8	11.4	6.6	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ 不定方向ナデ	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	細かい白色・黒色砂粒をわずかに含む。	良	
5	年の神遺跡	S-07	須恵器(古代)	須恵器(古代)	口縁部	不明	不明	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	細かい白色・黒色砂粒をまばらに含む。	不良	
6	年の神遺跡	S-07	土師器(古代)	土師器(古代)	口縁部	不明	不明	(9.0)	ナデ	ナデ	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	2mmまでの白色砂粒を多く含む。	良	
7	年の神遺跡	S-07	土師器(古代)	土師器(古代)	口縁部	不明	不明	(7.2)	ナデ	ナデ	にぶい橙褐色 7.5YR6/3	にぶい橙褐色 7.5YR6/3	2~4mm次の白色砂粒をまばらに含む。細かい白色砂粒を多く含む。	良	
8	年の神遺跡	IV層	土器(弥生時代中期)	甕か壺	底部(平底)	不明	不明	(2.3)	不明	不明	明褐色 5YR5/6	橙色 7.5YR6/6	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	不良	
9	年の神遺跡	IV層	土器(弥生時代中期)	甕か壺	底部(平底)	不明	不明	(2.4)	不明	不明	明褐色 10YR7/6	にぶい黄褐色 10YR5/4	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普	
10	年の神遺跡	IV層	須恵器(古代)	甕	口縁部	11.0	不明	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 5Y7/2	細かい白色砂粒を含む。	良	
11	年の神遺跡	IV層	須恵器(古代)	甕	口縁部	不明	不明	(1.4)	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ナデ	黄褐色 2.5YR6/6 黒色 10Y2/1	黄褐色 2.5Y6/1	細かい白色砂粒をわずかに含む。	不良	
12	上ノ辻遺跡	6T 4層	土器(弥生時代中期)	脚付甕	脚部	不明	7.2	(2.3)	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	明黄褐色 10YR7/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
13	玉名平野 条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	甕	底部	不明	不明	(5.7)	不明	不明	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5Y7/2	2mm以下の白色砂粒を含む。	良	
14	玉名平野 条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	20.0	不明	(8.0)	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5YR8/2	2mm以下の白色砂粒を含む。	良	
15	玉名平野 条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	18.2	不明	(5.8)	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y7/2	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
16	玉名平野 条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	17.4	不明	(3.9)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	1mm以下の白色砂粒、 微細な雲母を含む。	良	
17	玉名平野 条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	20.6	不明	(18.5)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	淡黄褐色 10YR8/3 褐色 10YR4/1	灰白色 10YR8/2	2mm以下の白色砂粒、 雲母を含む。	良	
18	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	14.9	不明	(13.1)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	2mm以下の白色砂粒、 雲母を含む。	良	
19	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	19.2	不明	(6.0)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	褐色 5YR6/6 褐色 7.5YR4/1	相灰色 10YR4/1	1mm以下の白色砂粒	良	
20	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	18.4	不明	(5.9)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰黄褐色 10YR5/2	相灰色 10YR4/1	1mm以下の白色砂粒	良	
21	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	16.0	不明	(5.5)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰白色 10YR8/2	相灰色 10YR4/1	1mm以下の白色砂粒	良	
22	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	17.2	不明	(3.4)	不明	不明	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	にぶい橙褐色 7.5YR6/4	2mm以下の白色砂粒、 雲母を含む。	良	
23	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	15.2	不明	(5.0)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	褐色 7.5YR6/6	褐色 5YR7/6	1mm以下の白色砂粒	良	
24	玉名平野 条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	16.8	不明	(4.4)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	褐色 7.5YR6/6	褐色 5YR7/6	2mm以下の白色砂粒	良	
25	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	18.0	不明	(13.5)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	2mm以下の白色砂粒	良	
26	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	15.0	不明	(6.65)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	相灰色 10YR4/1 にぶい黄褐色 10YR7/2	相灰色 10YR5/1	微細な雲母を含む。	良	
27	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	14.0	不明	(5.8)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	1~2mm次の白色砂粒を含む。	良	
28	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	16.5	不明	(6.7)	不明	不明	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	2mm以下の白色砂粒、 雲母を含む。	良	
29	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	14.2	不明	(6.9)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	2mm以下の白色砂粒	良	
30	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	17.0	不明	(7.4)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	1mm以下の白色砂粒	良	
31	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	15.0	不明	(7.65)	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰白色 5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	1mm以下の白色砂粒	良	
32	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	17.7	不明	(7.3)	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	4mm以下の白色砂粒、 1mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
33	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	20.7	不明	(6.7)	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰白色 2.5Y8/2	灰黄色 2.5Y7/2	1mm以下の白色砂粒、 雲母を含む。	良	
34	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	17.2	不明	(6.7)	ヨコナデ ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	灰黄褐色 10YR6/2	灰白色 10YR8/2	1mm以下の白色砂粒	良	
35	玉名平野 条里跡	調査II区 c層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部	不明	不明	(6.7)	ハケ目	ハケ目 ハケ目後ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙褐色 7.5YR7/4	3mm以下の白色砂粒、 1mm以上の黒色砂粒を含む。	良	

()内は残存数値

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
36	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	壺	口縁部~ 脚部上位	18.8	不明	(14.6)	ハケ目 ハケ目後ナデ	ハケ目 ハケ目後ナデ	灰黄褐色 10YR6/2 にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3 褐色 10YR5/1	5mm以下の白色砂粒を含む。	良	
37	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	壺	口縁部	12.0	不明	(6.8)	ハケ目後ナデ	ハケ目 ハケ目後ナデ	灰白色 5Y7/1		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
38	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	壺	口縁部	14.4	不明	(3.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
39	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	壺	口縁部	15.4	不明	(4.9)	ヨコナデ	ハケ目	にぶい橙色 7.5YR7/4		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
40	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(古墳時代初期)	高坏	坏部	29.6	不明	(3.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR6/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
41	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(古墳時代初期)	高坏	坏部	不明	不明	(9.2)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/6		1mm以下の白色砂粒、雲母を含む。	良	
42	玉名平野条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	高坏	脚部	不明	不明	(8.4)	不明	不明	褐色 2.5Y6/8		2mm以下の白色砂粒、雲母を含む。	良	
43	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	脚部	不明	不明	(8.7)	ナデ	ハラクズリ、ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/2		3mm以下の白色砂粒、 1mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
44	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	坏部	17.7	不明	(4.6)	ハケ目後ナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 7.5YR7/4		3mm以下の白色砂粒、 1mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
45	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	脚部	不明	不明	(6.7)	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR8/6		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
46	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	脚部	不明	不明	(4.6)	ハラクズリ	ハラクズリ	灰白色 10YR8/2		2mm以下の白色砂粒を含む。	良	
47	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	坏部	18.2	不明	(3.2)	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR8/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
48	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	脚部	不明	12.0	(10.8)	ナデ	ハラクズリ、ハケ目	にぶい橙色 7.5YR7/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
49	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	坏部	14.3	不明	(4.8)	ヨコナデ	不明	灰白色 10YR8/2		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
50	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	高坏	脚部	不明	12.5	(8.4)	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
51	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部上位	12.8	-	8.6	ハケ目	ハケ目	灰白色 2.5Y8/2 褐色 10YR8/4		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
52	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部	11.0	-	(6.3)	ハケ目	ハケ目	にぶい黄褐色 10YR7/2		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
53	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部	13.4	-	(3.9)	ヨコナデ	ハケ目	浅黄褐色 10YR8/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
54	玉名平野条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 底部	14.1	-	9.2	ヨコナデ	ナデ	褐色 5YR6/6 にぶい橙色 7.5YR7/3		2mm以下の白色砂粒を含む。	良	
55	玉名平野条里跡	調査II区 b層	土師器(古墳時代初期)	小型壺	脚部	不明	-	(8.9)	ハケ目後ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
56	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	小型壺	頸部~ 脚部下位	不明	-	(11.8)	ナデ	指頭凹部 ハラクズリ	にぶい黄褐色 10YR7/2		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
57	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部	14.0	不明	(4.9)	不明	不明	にぶい黄褐色 10YR7/2		1~3mm大の白色砂粒を含む。	良	
58	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部	14.2	不明	(4.5)	ヨコナデ	ハケ目	灰黄色 2.5Y7/2		3mm以下の白色砂粒を含む。	良	
59	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部	11.1	不明	(3.6)	不明	不明	灰黄色 2.5Y7/2		3mm以下の白色砂粒を含む。	良	
60	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部	12.1	不明	(3.8)	ヨコナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
61	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~ 脚部	15.6	-	8.3	ハケ目	ハケ目	浅黄褐色 10YR8/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
62	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢	脚部	12.8	8.6	8.5	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3		微砂粒を含む、 綿に2mm大の白色砂粒を含む。	良	
63	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢	脚部	11.2	7.1	6.8	不明	不明	灰黄色 2.5Y7/2		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
64	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢小	脚部	不明	不明	(2.8)	不明	不明	淡黄色 2.5Y8/3		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
65	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢小	脚部	不明	不明	(2.8)	ナデ	ハケ目	褐色 5YR6/6 にぶい黄褐色 10YR7/4		1mm以下の白色砂粒、雲母を含む。	良	
66	玉名平野条里跡	調査II区 b層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢小	脚部	不明	11.2	(3.9)	ハケ目	ハケ目	にぶい褐色 7.5YR7/4		3mm以下の白色砂粒を含む。	良	
67	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢小	脚部	不明	3.0	(6.4)	ナデ	ナデ	褐色 10YR6/1		4mm以下の白色砂粒を含む。	良	
68	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢小	脚部	不明	7.4	(3.1)	ヨコナデ	ナデ	褐色 10YR5/1 にぶい赤褐色 5YR5/4		1mm以下の白色砂粒、雲母を含む。	やや良	
69	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢	脚部	14.6	不明	(4.6)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR6/4		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
70	玉名平野条里跡	調査II区 a層	土器(弥生時代後期)	脚付鉢	脚部	不明	7.6	(5.8)	不明	不明	浅黄褐色 7.5YR7/4		1mm以下の白色砂粒を含む。	良	

()内は残存数値

Ⅲ 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器類	部位	口径cm	底径cm	器高・厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
71	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	小型丸底甕	口縁部~体部	11.1	—	(5.1)	ヨコナデ ハケ目 ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	1mm以下の白色砂粒、雲母を含む。	良	
72	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 b層	土師器(古墳時代初期)	小型丸底甕	口縁部~体部	12.8	—	(5.6)	ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ナデ	灰白色 2.5YR8/2	灰白色 2.5YR8/2	1mm以下の白色、黒色砂粒を含む。	良	
73	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	小型丸底甕	口縁部~体部	14.2	—	(6.1)	ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	3mm以下の白色砂粒、1mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
74	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	小型丸底甕	口縁部~体部	13.6	—	(8.0)	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 2.5Y8/2 黄褐色 2.5Y5/1	灰黄色 2.5Y7/2	2mm以下の白色砂粒、1mm以下の黒色砂粒、雲母を含む。	良	
75	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	小型丸底甕	口縁部~体部	9.2	—	(5.4)	ナデ ハケ目 指頭圧痕	ヨコナデ ハケ目 指頭圧痕	黄褐色 2.5Y5/1	黄褐色 2.5Y5/1	微細な砂粒を含む。	良	
76	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	小型甕	口縁部	8.1	不明	(4.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	微細な砂粒を含む。	良	
77	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	器台	口縁部~底部	8.2	9.2	6.4	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
78	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	ほぼ完形	7.0	—	4.8	ナデ 指頭圧痕	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/3	4mm以下の白色砂粒を含む。	良	
79	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~底部	6.0	—	4.1	ナデ 指頭圧痕	ナデ	灰白色 2.5Y8/2	灰黄色 2.5Y7/2	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
80	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	完形	4.0	—	2.1	ナデ	指頭圧痕	灰黄色 2.5Y7/2	明黄褐色 10YR7/6	微細な砂粒をわずかに含む。	良	
81	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	完形	4.4	—	(2.05)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	微細な砂粒を含む。	良	
82	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	完形	5.3	—	2.8	ナデ 指頭圧痕	ナデ 指頭圧痕	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5YR8/2	1mm以下の砂粒を含む。	良	
83	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 b層	土師器(古墳時代初期)	鉢	完形	5.0	—	2.3	ナデ 指頭圧痕	ナデ 指頭圧痕	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	微細な砂粒を含む。	良	
84	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 b層	石器	石皿か	—	長さ(7.7)	幅11.1	厚さ8.4	—	—	—	—	—	—	石材 安山岩
85	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	石器	不明	—	長さ6.5	幅9.2	厚さ3.6	—	—	—	—	—	—	石材 安山岩
86	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	石器	磨石 破石	—	長さ(8.8)	幅7.3	厚さ2.8	—	—	—	—	—	—	石材 安山岩
87	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	10.9	(8.1)	ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ ヨコナデ	褐色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	1mm以下の白色、黒色砂粒を含む。	良	
88	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	10.9	(6.6)	ヨコナデ	ハケ目	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	1mm大の白色、黒色砂粒を含む。	良	
89	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(弥生時代後期)	脚付甕	脚部	不明	10.7	(3.1)	ヨコナデ	ハケ目	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい褐色 5YR6/4	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
90	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(弥生時代後期)	脚付甕	口縁部	15.0	不明	(3.7)	ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 7.5YR7/8	褐色 5YR6/6	1mm以下の白色砂粒、雲母を含む。	良	
91	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部~脚部	12.3	不明	(7.8)	ヨコナデ ハケ目	ヨコナデ ナデ	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	1~2mm大の白色砂粒を含む。	良	
92	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部~脚部	13.5	不明	(12.2)	ハケ目	ヨコナデ ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰黄褐色 10YR5/2	1mm以下の白色、黒色砂粒、雲母を含む。	不良	
93	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	ほぼ完形	14.8	—	21.6	ヨコナデ ハケ目 タタキ後ハケ目	ヨコナデ ハケ目 ナデ	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 2.5Y8/2	1mm以下の白色、黒色砂粒、雲母を含む。	良	
94	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部~脚部上位	16.6	不明	(11.5)	ヨコナデ ハケ目	ヨコナデ ハケ目	褐色 10YR7/2	褐色 5YR6/6	1mm以下の白色、黒色砂粒、雲母を含む。	良	
95	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	口縁部~脚部	不明	不明	(7.1)	ハケ目 ナデ	指頭圧痕	灰白色 10YR8/1	灰白色 10YR8/1 褐灰色 10YR5/1	微細~3mm大の白色、黒色砂粒を含む。	良	
96	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	甕	脚部	不明	不明	(16.7)	ハケ目後ナデ	ナデ 指頭圧痕	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	4mm以下の白色砂粒を含む。	良	
97	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(弥生時代後期)	鉢	口縁部~底部	17.2	7.5	18.4	ハケ目後ナデ	ナデ ハケ目	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/2	3mm以下の白色砂粒を 2mm以下の黒色砂粒を含む。	良	
98	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	完形	12.9	—	5.7	ナデ	ナデ	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	2mm大の白色砂粒を含む。	良	
99	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~底部	12.9	5.2	6.0	ナデ 指頭圧痕	ナデ ハケ目 指頭圧痕	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	2mm以下の白色砂粒を含む。	良	
100	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(弥生時代後期)	高杯	不明	不明	不明	(6.1)	ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	1mm大の白色、黒色砂粒を含む。	良	
101	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	器種不明	不明	不明	不明	(4.3)	ナデ	ハケ目	褐色 7.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	1mm以下の白色、黒色砂粒を含む。	良	
102	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	鉢	口縁部~体部下位	7.65	—	(2.6)	指ナデ	指頭圧痕 指ナデ	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄色 2.5YR7/2	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
103	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	土師器(古墳時代初期)	磨石 破石	—	長さ(7.4)	幅(12.6)	厚さ(3.7)	—	—	—	—	—	—	()内は残存数値
104	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	石器	須恵器(古代)	底部	不明	11.2	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色 N5/	灰色 N6/	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
105	玉名平野条里跡	調査Ⅱ区 a層	須恵器(古代)	坏	底部	不明	11.2	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色 N5/	灰色 N6/	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	

Ⅲ 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高・厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
106	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅲa層	須恵器(古代)	坏	底部	不明	11.5	(3.6)	口クロナデ	口クロナデ 不定方向ナデ	灰色 N6/	灰色 N6/	1mm以下の白色砂粒を含む。	良	
107	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅲa層	須恵器(古代)	蓋	天井部~ 口縁部	11.8	-	(17.5)	口クロナデ	口クロナデ	灰色 N5/	灰色 N5/	1mm大の白色砂粒を含む。	良	
108	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅲa層	須恵器(古代)	蓋	口縁部	13.6	-	(2.2)	口クロナデ	口クロナデ	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	微細な白色砂粒を含む。	良	
109	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅲa層	須恵器(古代)	長頸壺	口縁部~ 頸部	9.4	不明	(7.0)	口クロナデ	口クロナデ	褐色 7.5YR5/1	褐色 7.5YR5/2 浅黄褐色 7.5YR8/4	微細な白色砂粒を含む。 混入物なし。	不良	
110	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅲa層	瓦(古代)	丸瓦	不明	長さ(5.7)	幅(8.2)	不明	凹面 布目圧痕	凸面 網目タタキ	凹面 灰白色 10YR8/1	凸面 灰白色 2.5Y8/2	混入物なし。	良	
111	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅲa層	瓦(古代)	丸瓦	不明	不明	不明	不明	凹面 布目圧痕	凸面 網目タタキ	凹面 灰色(N6/)	凸面 灰色(5Y6/)	精錬される。	良	
112	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅳ層	瓦質土器	鉢か	口縁部	不明	不明	不明	ハケム後ナデ	ナデ	灰黄褐色 10YR5/1	灰黄褐色 10YR5/2	微砂粒を含む。	良	
113	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅳ層	瓦質土器	火舎か	不明	不明	不明	不明	ナデ スタンプ有	ナデ	灰白色 2.5Y8/2	黄褐色 2.5Y6/1	微細な砂粒を含む。	やや良	
114	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅳ層	瓦質土器	火舎	体部	不明	不明	不明	ナデ スタンプ有	ナデ	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	微細な砂粒を含む。	良	
115	玉名平野桑里跡	調査Ⅱ区Ⅳb層	土師器(中世)	皿	底部	不明	6.4	(1.5)	不明	口クロナデ	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	微細な砂粒を含む。	良	
116	玉名平野桑里跡	3TⅣ層	磁器(近世)	碗	体部~底部	不明	5.2	(4.3)	-	-	(釉)灰白色 5Y8/2	(釉土)灰白色 5Y8/1	精錬される。	良	
117	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(袋箱か)	口縁~体部	55.8	不明	(16.5)	ナデか	ナデか	にぶい黄褐色 10YR7/4 褐色 10YR4/1	浅黄褐色 10YR8/3	2~5mm大の赤色砂粒をわずかに、 細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
118	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(袋箱か)	口縁部	54.4	不明	(6.1)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	2~3mm大の白色砂粒をまばらに、 細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
119	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部~ 体部	不明	不明	(6.6)	ナデか	ナデか	褐色 2.5YR6/8	褐色 7.5YR7/6	細い~1mm大の白色、赤色、 黒色砂粒を多く含む。	やや良	
120	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部~ 体部	不明	不明	(9.9)	ナデか	ナデか	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	1~2mm大の白色砂粒を少量、 細かい白色、黒色砂粒を多く含む。	やや良	
121	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁~体部	不明	不明	(15.5)	ハケム後ナデか ナデか	ナデか	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	2mm大の白色砂粒をわずかに、 細かい白色、黒色、赤色砂粒を多く含む。	やや良	
122	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(袋箱か)	口縁部	不明	不明	(3.3)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐色 7.5YR7/6 灰黄褐色 10YR5/2	細い~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
123	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.3)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 7.5YR8/6	褐色 5YR7/6	1~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
124	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(袋箱か)	口縁部	不明	不明	(2.8)	ナデか	ナデか	褐色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	細い~3mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
125	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.3)	ナデか	ナデか	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	1~2mm大の白色砂粒をまばらに、 細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
126	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	33.8	不明	(6.7)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	細かい白色、黒色砂粒をまばらに含む。	やや良	
127	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	33.8	不明	(6.3)	ナデか	ハケ目か	褐色 2.5YR7/6	褐色 10YR8/6	細かい白色、赤色砂粒をまばらに含む。	やや良	
128	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	40.2	不明	(3.7)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	細かい白色砂粒をわずかに、 細かい白色、黒色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
129	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	31.2	不明	(3.2)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 10YR8/6	浅黄褐色 10YR8/4	1~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
130	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	22.2	不明	(6.5)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 10YR8/6	1~2mm大の白色砂粒をわずかに、 細かい白色、黒色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
131	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	27.4	不明	(2.9)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	1~2mm大の白色砂粒をまばらに含む。	良	
132	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(17.5)	不明	不明	褐色 2.5YR6/6 浅黄褐色 7.5YR6/6	褐色 2.5YR6/6 にぶい褐色 7.5YR6/3	2mm大の白色砂粒をわずかに、 細かい白色、赤色砂粒をまばらに含む。	やや良	
133	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(8.9)	ナデか	ナデか	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 7.5YR6/6	細い~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
134	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部~ 頸部	不明	不明	(4.3)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	2mm大の白色砂粒をわずかに、 細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
135	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(袋箱か)	口縁部	不明	不明	(8.5)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	細い~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
136	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(袋箱か)	口縁部	不明	不明	(6.2)	ナデか	ナデか	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	細い~1mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
137	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.0)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	褐色 7.5YR7/6	1~2mm大の白色、赤色砂粒をまばらに、 細かい白色砂粒を少量含む。	やや良	
138	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(6.1)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	細い~2mm大の白色、黒色砂粒を やや多く含む。	やや良	
139	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(4.8)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	2mm大の白色砂粒をわずかに、 細かい白色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
140	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(3.2)	ナデか	ナデか	褐色 7.5YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	

()内は残存数値

Ⅲ 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図版 番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高 厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
141	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(甕棺か)	口縁部	不明	不明	(4.6)	ナデか	ナデか	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	1~2mm大の白色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
142	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(甕棺か)	口縁部	不明	不明	(3.7)	ナデか丹塗	ナデか丹塗	丹塗にぶい赤褐色 2.5YR4/4	丹塗にぶい赤褐色 2.5YR4/4	細かい白色砂粒をやや多く含む。	やや良	
143	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.3)	ナデか	ナデか	褐色 7.5YR7/6	黄褐色 10YR8/6 黄褐色 2.5YR7/6	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
144	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.3)	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	細粒~1mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
145	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(1.9)	ナデか	ナデか	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 7.5YR6/4	2mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒をやや多く含む。	やや良	
146	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.3)	ナデか	ナデか	褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR5/3	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
147	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕(甕棺か)	口縁部	不明	不明	(2.9)	ナデ	ナデ	明黄褐色 10YR7/6	褐色 7.5YR7/6	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
148	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.9)	ナデか	ナデか	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 7.5YR7/6	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
149	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.0)	ナデか	ナデか	褐色 7.5YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	1~2mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、赤色砂粒を多く含む。	やや良	
150	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(4.3)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	黄褐色 7.5YR8/8	1~2mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒をまばらに含む。	やや良	
151	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.1)	ナデか	ナデか	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	2~3mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
152	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.2)	ナデか	ナデか	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	1mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒をやや多く含む。	やや良	
153	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(3.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	細粒~1mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
154	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.6)	ナデ	ナデか	にぶい褐色 5YR7/4	褐色 7.5YR7/6	2mm大の白色砂粒をわずかに含む。	やや良	
155	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(7.0)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	1~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
156	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.6)	ナデか	ナデか	にぶい赤褐色 5YR4/4	赤褐色 5YR4/6	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
157	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.0)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/4 黒褐色 2.5Y3/1	細かい白色砂粒をやや多く含む。	やや良	
158	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.4)	ナデか	ナデ	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	2mm大の白色砂粒をわずかに、細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
159	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.1)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	細かい白色砂粒を少量含む。	やや良	
160	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(4.8)	ナデか	ナデか	黄褐色 10YR8/6	黄褐色 10YR8/6	細粒~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
161	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(6.5)	不明	不明	にぶい褐色 2.5YR6/4	褐色 5YR6/6	細かい白色砂粒を多く含む。	不良	
162	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.5)	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	良	
163	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.1)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/4	細粒~1mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
164	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(1.8)	ナデか	ナデか	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4 灰黄褐色 10YR5/2	細粒~1mm大の白色、黒色、赤色砂粒を多く含む。	やや良	
165	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.6)	ナデ	ナデ	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	細粒~1mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
166	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.3)	ナデか	ナデか	褐色 2.5YR6/6	にぶい褐色 2.5YR6/4	1mm大の白色砂粒をわずかに、細かい白色砂粒を少量含む。	やや良	
167	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	壺	口縁部	不明	不明	24.0	ナデか	ナデか	黄褐色 10YR8/6	にぶい褐色 10YR7/6	2~5mm大の白色砂粒をわずかに、細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
168	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(6.4)	ナデか	ナデか	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	細粒~2mm大の白色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
169	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(5.2)	ナデか	ナデか	褐色 2.5YR6/6 浅黄褐色 7.5YR8/6	にぶい褐色 2.5YR6/4	細粒~3mm大の白色砂粒を少量含む。	不良	
170	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	壺	口縁部	不明	不明	(5.8)	ナデか(丹塗り?)	ナデか	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
171	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	壺	口縁部	不明	不明	(3.2)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	1mm大の白色砂粒をわずかに、細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
172	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	壺か	口縁部	不明	不明	(4.1)	ナデか	ナデか	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	2~4mm大の白色砂粒をわずかに、細かい白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
173	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(3.3)	ナデか	ナデか	にぶい黄褐色 10YR7/3	明黄褐色 10YR7/6	細粒~1mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
174	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	壺	口縁部	不明	不明	(5.4)	ナデか	ナデか	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	2~3mm大の白色砂粒をこくわずかに、細かい白色、黒色、赤色砂粒をやや多く含む。	やや良	
175	古閑遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	壺	口縁部	不明	不明	(3.4)	ナデか	ナデか	黒褐色 10YR3/2	褐灰色 10YR4/1	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	

()内は残存数値

III 平成18年度の調査

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図録番号	遺跡名	出土地点	種類	部位	口径cm	底径cm	器高寸さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
176	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁~頸部	不明	不明	(4.2)	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	細かい白色、黒色、赤色砂粒を少量含む。	不良	
177	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	19.0	不明	(2.9)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 5YR6/4	褐色 7.5YR7/6	1~2mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒を多く含む。	やや良	
178	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁~頸部	24.0	不明	(4.6)	ナデ	ナデ	黄褐色 10YR8/6	黄褐色 10YR8/6	細粒~2mm大の白色、赤色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
179	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	19.0	不明	(2.9)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 5YR6/4	褐色 7.5YR7/6	1~2mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒を多く含む。	やや良	
180	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	22.4	不明	(3.3)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/6	黄褐色 10YR8/6	3~5mm大の白色砂粒をまばらに、赤色砂粒を多く含む。	やや良	
181	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部~ 体部	22.9	不明	(10.6)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	細粒~1mm大の白色、赤色砂粒をまばらに含む。	やや良	
182	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	(1.8)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR4/3	灰黄褐色 10YR4/2	細粒~2mm大の白色、赤色、黒色砂粒をまばらに含む。	やや良	
183	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	(2.9)	ナデ	ナデ	暗灰黄色 2.5YR4/2	黄褐色 10YR8/6	細かい白色砂粒を多く含む。	やや良	
184	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	(3.6)	丹塗	丹塗	丹塗	丹塗	1~2mm大の白色砂粒をまばらに、細かい白色、黒色砂粒を多く含む。	やや良	
185	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁~肩部	不明	不明	(7.8)	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	細粒~1mm大の白色、赤色、黒色砂粒を多く含む。	やや良	
186	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁~肩部	不明	不明	(4.5)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 2.5YR6/4	にぶい褐色 5YR6/4	細粒~3mm大の白色砂粒をまばらに含む。	不良	
187	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁~体部	22.8	不明	(12.4)	ハケ目	ハケ目	明黄褐色 10YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	細粒~3mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
188	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	(1.3)	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
189	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	口縁部	不明	不明	(3.2)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
190	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~底部	不明	9.6	(17.1)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	1~2mm大の白色、赤色、黒色砂粒をまばらに含む。	やや良	
191	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~脚部	不明	10.2	(10.1)	ハケ目	ハケ目	褐色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	2~3mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
192	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	9.2	(3.6)	ハケ目	ハケ目	にぶい褐色 7.5YR7/4	明黄褐色 2.5YR5/6	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
193	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	9.6	(5.6)	ハケ目	ナデ	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	褐色 7.5YR5/2	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
194	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	8.6	(5.1)	ナデ	ナデ	褐色 2.5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	細粒~1mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
195	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	9.0	(6.4)	ハケ目	ナデ	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	細粒~2mm大の白色砂粒を多く含む。	やや良	
196	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	9.4	(5.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	細粒~1mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
197	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	8.3	(6.0)	ナデ	ナデ	褐色 2.5YR6/8	褐色 2.5YR6/8	2~3mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
198	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~脚部	不明	8.3	(6.0)	ナデ	ナデ	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	1mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
199	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	9.8	(5.2)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰黄褐色 10YR4/2	細かい白色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
200	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	脚部	不明	8.6	(4.0)	ナデ	ナデ	褐色 5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	細粒~2mm大の白色砂粒を少量含む。	良	
201	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~底部	不明	13.8	(8.1)	ハケ目	ハケ目	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	細粒~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
202	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~底部	不明	10.8	(17.8)	ハケ目	ハケ目	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	2~3mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
203	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	底部	不明	9.2	(1.6)	ナデ	ナデ	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	1~3mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
204	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部	不明	不明	(21.7)	ハケ目	ハケ目	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR4/2	3~5mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
205	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部	不明	不明	(12.5)	ハケ目	ハケ目	褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	細粒~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
206	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	底部	不明	10.2	(4.4)	ナデ	ナデ	丹塗	黄褐色 10YR8/8	細粒~2mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
207	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	底部	不明	14.0	(5.0)	ハケ目	ハケ目	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	細粒~2mm大の白色、赤色砂粒をまばらに含む。	やや良	
208	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~底部	不明	12.8	(11.0)	ハケ目	ハケ目	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	細粒~3mm大の白色砂粒を少量含む。	やや良	
209	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	底部	不明	9.8	(3.4)	ハケ目	ハケ目	淡黄色 2.5Y8/4	黄褐色 10YR8/6	細粒~2mm大の白色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
210	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	体部~底部	不明	不明	(11.8)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	1~2mm大の白色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	

()内は取付位置

第4表 平成18年度出土遺物観察表

図版番号	遺跡名	出土地点	種類	器種	部位	口径cm	底径cm	器高・厚さcm	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	備考
211	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	杯口縁~杯底部	25.4	不明	(5.8)	不明	丹塗	黄褐色 10YR8/6	丹塗 赤褐色 2.5YR4/6	1mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
212	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	甕	胴部	不明	20.6	(27.7)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	1~2mm大の白色砂粒をまばらに含む。	やや良	
213	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	鉢	口縁~底部	19.0	不明	(3.2)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR4/3	細粒~1mm大の白色、赤色、黒色砂粒をやや多く含む。	やや良	
214	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	器台	底部	不明	13.8	(6.4)	ナデ	ナデ	褐色 5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	細粒~2mm大の白色砂粒をやや多く含む。	やや良	
215	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	器台	底部	不明	不明	(13.1)	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/6	細粒~3mm大の白色砂粒をやや多く含む。	やや良	
216	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	器台	体部	不明	15.6	(15.8)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 7.5YR8/6	にぶい褐色 2.5YR6/4	細粒~2mm大の白色砂粒をやや多く含む。	やや良	
217	古岡遺跡	4T S-01	土器(弥生時代中期)	不明(蓋?)	天井部~底部	14.4	19.5	8.6	ナデ	ナデ	黄褐色 10YR8/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	細粒~3mm大の白色、黒色砂粒を少量含む。	やや良	
218	古岡遺跡	4T S-01	石器(弥生時代中期)	台石	完形	長さ17.1	幅13.8	厚さ6.2	敲打痕	—	—	—	—	—	石材 安山岩
219	古岡遺跡	4T S-01	土製器(弥生時代中期)	勾玉	完形	長さ2.2	幅2.2	厚さ1.1	ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/4	—	細粒~1mm大の白色、黒色砂粒をまばらに含む。	良	
220	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	口縁~体部	40.6	不明	(8.4)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐色 7.5YR7/6	細かい白色砂粒を多く含む。	良	
221	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	脚部	不明	6.2	(4.4)	ハケ目 外底 ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい黄色 2.5Y6/3	細かい白色砂粒を多く含む。	良	
222	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	脚部	不明	(8.6)	(3.5)	ハケ目 外底 ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	細粒~1mm大の白色、黒色砂粒をまばらに含む。	やや良	
223	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	鉢	底部	不明	不明	(2.7)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	細粒~1mm大の白色、黒色砂粒を少量含む。	良	
224	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(3.5)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR5/4	褐色 7.5YR7/6	2~3mm大の白色砂粒をわずかに含む。	良	
225	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(2.2)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR4/2	細かい白色砂粒を少量含む。	良	
226	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	口縁部	不明	不明	(3.0)	ナデ	ナデ	黄褐色 10YR8/6	黄褐色 10YR8/6	細かい白色砂粒を少量含む。	やや良	
227	古岡遺跡	6T	土器(弥生時代中期)	甕	天井部~底部	不明	不明	(15.3)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	細粒~2mm大の白色、黒色、赤色砂粒をまばらに含む。	やや良	
228	古岡遺跡	5T	土器(弥生時代中期)	甕	体部~底部	不明	6.8	(6.8)	ナデ	ナデ	褐色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	細かい白色、黒色、赤色砂粒を少量含む。	やや良	
229	古岡遺跡	5T	縄文早期	深鉢	体部	不明	不明	(2.8)	押型(山形)文	ナデ	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR6/6	細かい白色、黒色、赤色砂粒を少量含む。	良	()内は残存数値

報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちょうさほうこくしょ							
書名	玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ							
副書名	平成17・18年度調査							
巻次								
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	田中康雄							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒869-0292 熊本県玉名市岱明町野口2129							
発行年月日	平成20年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平成17年度 たまなへいやじょうりあと ちてん 玉名平野条里跡A地点	玉名市 玉名	43206	483	32° 56' 40"	130° 34' 41"	平成17年 4月 1日 } 平成18年 3月31日		個人住宅・ 共同住宅・ 道路・店舗 等 各種開発
たかおかばるいせき ちてん 高岡原遺跡A地点	玉名市 山田	43206	174	32° 56' 01"	130° 32' 42"			
れんげいせき 蓮華遺跡	玉名市 築地	43206	161	32° 56' 00"	130° 32' 12"			
かみおだふるやしきいせき 上小田古屋敷遺跡	玉名市 山部田	43206	126	32° 57' 01"	130° 35' 21"			
たじまいせき 田島遺跡	玉名市 中	43206	181	32° 55' 41"	130° 32' 40"			
ついでやかたあと 築地館跡	玉名市 築地	43206	168	32° 56' 03"	130° 31' 53"			
たかおかばるいせき ちてん 高岡原遺跡B地点	玉名市 山田	43206	174	32° 56' 13"	130° 32' 35"			
はねぎいせきぐん ちてん 繁根木遺跡群A地点	玉名市 繁根木	43206	201	32° 55' 31"	130° 33' 33"			
たかせおちやあと 高瀬御茶屋跡	玉名市 永徳寺	43206	208	32° 55' 30"	130° 33' 40"			
りゅうがんじはいし 立願寺廃寺	玉名市 立願寺	43206	094	32° 56' 28"	130° 33' 06"			
りゅうがんじおつこふん 立願寺大塚古墳	玉名市 立願寺	43206	095	32° 56' 23"	130° 33' 25"			
いくらみやのあといせき 伊倉宮の後遺跡	玉名市 伊倉北方	43206	334	32° 54' 28"	130° 34' 40"			
はねぎいせきぐん ちてん 繁根木遺跡群B地点	玉名市 繁根木	43206	201	32° 55' 40"	130° 33' 26"			
とつぱんいんさつこうじょうよていち 凸版印刷工場予定地	玉名市 大倉	43206	—	32° 55' 13"	130° 34' 58"			
かわべたいせき 川部田遺跡	玉名市 川部田	43206	415	32° 56' 34"	130° 35' 17"			
なかどにしいせき ちてん 中土西遺跡A地点	玉名市 岱明町中土	43361	088	32° 54' 43"	130° 30' 52"			
たかおかばるいせき ちてん 高岡原遺跡C地点	玉名市 山田	43206	174	32° 56' 14"	130° 32' 39"			
たまなへいやじょうりあと ちてん 玉名平野条里跡B地点	玉名市 両迫間	43206	483	32° 56' 31"	130° 34' 25"			
たまなへいやじょうりあと ちてん 玉名平野条里跡C地点	玉名市 六田	43206	486	32° 55' 16"	130° 32' 57"			
いわききぼるいせき 岩崎原遺跡	玉名市 岩崎	43206	219	32° 56' 00"	130° 33' 19"			
やまだじんじやもんぜんいせき 山田神社門前遺跡	玉名市 山田	43206	408	32° 56' 25"	130° 57' 13"			
かめのこういせき 亀甲遺跡	玉名市 亀甲	43206	190	32° 55' 41"	130° 33' 09"			
なかんじょういせき 中ん城遺跡	玉名市 片諏訪	43206	324	32° 54' 11"	130° 34' 38"			
なかどにしいせき ちてん 中土西遺跡B地点	玉名市 岱明町山下	43361	088	32° 54' 46"	130° 30' 41"			
おおつか そうはぎいせき 大塚・惣萩遺跡	玉名市 立願寺	43206	100	32° 56' 18"	130° 33' 31"			
たかおかばるいせき ちてん 高岡原遺跡D地点	玉名市 山田	43206	219	32° 56' 11"	130° 32' 34"			
はるでいせき 春出遺跡	玉名市 中	43206	182	32° 55' 48"	130° 32' 30"			
としのかみいせき 年の神遺跡	玉名市 岱明町野口	43361	039	32° 55' 07"	130° 31' 50"			
きくちがわすいろうん すいせいちょうさ 菊池川水運・水制調査	玉名市 菊池川兩岸	43206	—	—	—			

報告書抄録

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
としのかみいせき 年の神遺跡	玉名市 岱明町野口	43361	039	32° 55' 07"	130° 31' 50"	平成18年 4月1日 、 平成19年 3月31日	個人住宅・ 共同住宅・ 道路・店舗 等 各種開発	
たなまへいやじょうりあと ちてん 玉名平野条里跡A地点	玉名市 岩崎	43206	483	32° 56' 02"	130° 33' 43"			
きょうづかいせき 京塚遺跡	玉名市 岱明町開田	43361	122	32° 56' 12"	130° 30' 59"			
たなまへいやじょうりあと ちてん 玉名平野条里跡B地点	玉名市 両迫間	43206	483	32° 56' 31"	130° 34' 25"			
たかせほんまちどおりいせき 高瀬本町通遺跡	玉名市 高瀬	43206	211	32° 55' 37"	130° 34' 00"			
しょうのつじいせき 上ノ辻遺跡	玉名市 玉名	43206	499	32° 57' 20"	130° 36' 38"			
はねぎいせきぐん 繁根木遺跡群	玉名市 繁根木	43206	201	32° 55' 38"	130° 33' 27"			
れんげいせき 蓮華遺跡	玉名市 築地	43206	161	32° 56' 02"	130° 32' 09"			
ついじひがしいせき 築地東遺跡	玉名市 築地	43206	164	32° 56' 05"	130° 32' 05"			
いまいずみいせき ちてん 今泉遺跡A地点	玉名市 岱明町上	43361	020	32° 55' 48"	130° 31' 07"			
りゅうがんじほいじ 立願寺廃寺	玉名市 立願寺	43206	094	32° 56' 31"	130° 33' 09"			
やまだまつおだいらいせき 山田松尾平遺跡	玉名市 山田	43206	084	32° 56' 39"	130° 32' 42"			
いわさきばいせき 岩崎原遺跡	玉名市 岩崎	43206	219	32° 55' 52"	130° 33' 14"			
なかきたあかほけこふん 中北アカハゲ古墳	玉名市 伊倉北方	43206	339	32° 55' 07"	130° 33' 51"			
いまいずみいせき ちてん 今泉遺跡B地点	玉名市 岱明町上	43361	020	32° 55' 45"	130° 30' 59"			
たかおかぼるいせき 高岡原遺跡	玉名市 中尾	43206	174	32° 56' 10"	130° 32' 32"			
ごろうまるいせき ちてん 五郎丸遺跡A地点	玉名市 山田	43206	063	32° 56' 21"	130° 32' 08"			
たなまへいやじょうりあと ちてん 玉名平野条里跡C地点	玉名市 岩崎	43206	483	32° 56' 14"	130° 33' 44"			
びつちゅういせき 備中遺跡	玉名市 岱明町西照寺	43361	011	32° 56' 02"	130° 30' 11"			
よしまるにしいせき 吉丸西遺跡	玉名市 寺田	43206	251	32° 55' 18"	130° 35' 01"			
こがいせき 古閑遺跡	玉名市 築地	43206	163	32° 56' 10"	130° 32' 13"			
なかにみちいせき 中道遺跡	玉名市 岱明町山下	43361	103	32° 54' 40"	130° 31' 15"			
かみおだみやのまえいせき 上小田宮の前遺跡	玉名市 上小田	43206	050	32° 56' 59"	130° 35' 36"			
りょうはざまひわたいいせき 両迫間日渡遺跡	玉名市 玉名	43206	138	32° 56' 42"	130° 34' 31"			
てらくほいせき 寺田久保遺跡	玉名市 寺田	43206	253	32° 55' 36"	130° 35' 23"			
ごろうまるいせき ちてん 五郎丸遺跡B地点	玉名市 山田	43206	063	32° 56' 20"	130° 32' 13"			
おおのしも よていち 大野下ホームセンター予定地	玉名市 岱明町大野下	43361	—	32° 54' 38"	130° 30' 06"			
やまだやまくちいせき 山田山口遺跡	玉名市 山田	43206	064	32° 56' 40"	130° 32' 16"			
なかにしいせき 中土西遺跡	玉名市 岱明町浜田	43361	088	32° 54' 28"	130° 30' 40"			
いくらみなみかた よていち 伊倉南方ホームセンター予定地	玉名市 伊倉南方	43206	—	32° 53' 38"	130° 34' 31"			
たまなこうこうていせいせき 玉名高校校庭遺跡	玉名市 中	43206	178	32° 55' 52"	130° 33' 02"			
いしぬきなきのよこあなぐん 石貫ナギノ横穴群	玉名市 石貫	43206	014	32° 57' 47"	130° 34' 00"			
じゅるくんだにせいてつあと ジュルクン谷製鉄跡	玉名市 三ツ川	43206	500	32° 59' 08"	130° 32' 42"			
田島遺跡	集落	弥生時代後期 中世		住居跡		弥生土器 中世土師器		
高岡原遺跡	集落	弥生時代後期 古代		住居跡 土坑 ピット		弥生土器 須恵器		
立願寺廃寺	寺院跡	古代		溝状遺構		古代瓦 須恵器 土師器		
年の神遺跡	墓地	弥生時代中期 古代		甕棺墓 土坑		弥生土器 須恵器 土師器		
古閑遺跡	集落	弥生時代中期		住居跡		弥生土器		

玉名市文化財調査報告 第17集
玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ
平成17・18年度の調査

平成20年3月30日印刷

平成20年3月31日発行

編集発行 玉名市教育委員会
〒862-0292 玉名市岱明町野口2129

印刷 岱明印刷
〒869-0222 玉名市岱明町野口2281-2
TEL 0968-57-0141